全国の“道の駅”完全制覇の旅

[中国編]

よしだやすお

シリーズの紹介

★☆★　シリーズのご紹介　★☆★

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [東北編]　2011/01/23出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [四国編]　2011/02/07出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [北海道編]　2011/03/03出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [中国編]　2011/03/25出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [近畿編]　2011/06/14出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [北陸編]　2011/11/29出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [九州編]　2011/9/27出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅［中部・前編］　2013/9/9出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅［中部・後編］　2013/9/9出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅［関東前編］　2014/1/7出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅［関東後編］　2014/8/26出版

※中部と関東は、アップできる容量を越えた為、前編、後編の２冊に分割しました。

【ブログ】

「全国の“道の駅”完全制覇の夢！」　http://ameblo.jp/rs-trip/

【ホームページ】

～新しい旅のスタイル～

「全国の“道の駅”完全制覇を目指す旅！」　http://www.rs-trip.com

中国のスタンプラリー

中国地方の道の駅スタンプラリーは、製本されていないばらばらなスタンプシートがセットで２００円で売っています。ほとんどの道の駅で、１枚もののスタンプ台紙が置いてあるので、それを集めても良いのですが、買った方が無難です。

他の地域と同じく「期間」が設定されていますから、それを確認して回り始めたが安全と思います。

全部の道の駅を回り終えたら最後の道の駅でチェックしていただき、ハガキに認め印を押してもらって「中国道の駅連絡会」へ郵送します。
私の経験では中国地方がもっとも対応が早く、投函して１週間もたたず認定証が送ってきました。

登録NO. 00885

認定証

吉田　泰生　様

あなたは、２００８～９中国「道の駅」スタンプラリーにおいて中国地区の「道の駅」全７９駅を制覇されたことを証明し、ここに認定致します。

平成21年6月
中国「道の駅」連絡会会長
田　中　祥　隆

このほかに、花の種２種類がプレゼントで入っていましたよ！

本州最西端 “きくがわ”

先週の日曜日、山口県を４か所日帰りで回ってきたのでそのご紹介をします。

最初の目的地は
道の駅きくがわ　です。

山口県に出かけた目的は先日お伝えしましたね。

こいつを使う為です。（笑）

私の住んでいるところから “関門海峡” までが約１時間半、そして関門橋を渡って本州に入り、
下関の次のＩＣ、“小月” で高速を下りてわずか６ｋｍ程の所に “道の駅きくかわ” はあります。

ですから、本州で一番西側にある道の駅ですし、九州から一番近い道の駅とも言えます。

“１０００円の引換券” を使うだけだったらここで済むのですが、他にも行きたい道の駅があるので

、ここはその “ついで” ってところですね！

ここには、大型観光バスが何台もとめられる広い駐車場があります。

このルートで山口県の温泉地 “川棚温泉” や、日本海側の観光地 “角島” “青海島” そして 幕末の志士たちが活躍した “萩・長門” へ行くことができるので、結構多くの客が立ち寄ります。

国道を挟んだ向かい側には “ふるさと市” もあって、ここ菊川町のショッピングの中心地になっています。

道の駅は大きな庄屋風の建物です。

道の駅の前のスペースには、色んな業者が仮設店舗で商品を並べています。

ソフトクリームを背に、河童のお姐さんがお出迎え！

両側のお店を覗きながら進むと“菊川町総合交流ターミナル”と書いた道の駅の入口です。

ここに来るのは２年ぶりです。
私にとって本州の最初の道の駅でした。

中もほとんど変わっていないですね。

菊川町は “手延べそうめん、手延べうどん” が特産です。
良質の小麦を使い、丹念に手間をかけた手造りで、こしの強いのが特徴です。

こんな伝統民芸品もあります。

そしてもう一つ気になったのが　・・・・・・

ぼけ防止に効果がある　・・・　！？
まあ、まだ当分必要ないので買いませんでしたけど　・・・　(;^_^A

さあ、次に行くところが特に私の気に入っている道の駅です。

１０００円の特産品引換券はそこで使うことにします。

ホタルと温泉の里 “蛍街道西の市”

日帰りの旅２ヶ所目は、
道の駅蛍街道西の市　で、わずか１５分ほどしか離れていません。

私が特に来たかったお気に入りは、この “蛍街道西の市”、それともう１ヶ所あります。

この “蛍街道西の市” のある下関市豊田町は、元々ホタルの里として有名で、６月には “ホタル舟” が運航し、川に浮かべた船上からホタルを鑑賞するという風流な催しがあります。

日本初の試みだそうで、予約無しには乗れません。

そして、この道の駅のすぐそばには、“豊田ホタルの里ミュージアム” があります。

まるででっかい体育館のような施設で、無料ゾーンと有料ゾーンに分かれており、人工水路、芝生広場なども備えています。

さて道の駅ですが、ここはとにかく人が多いので、駐車場も数人のガードマンが交通整理を行っています。

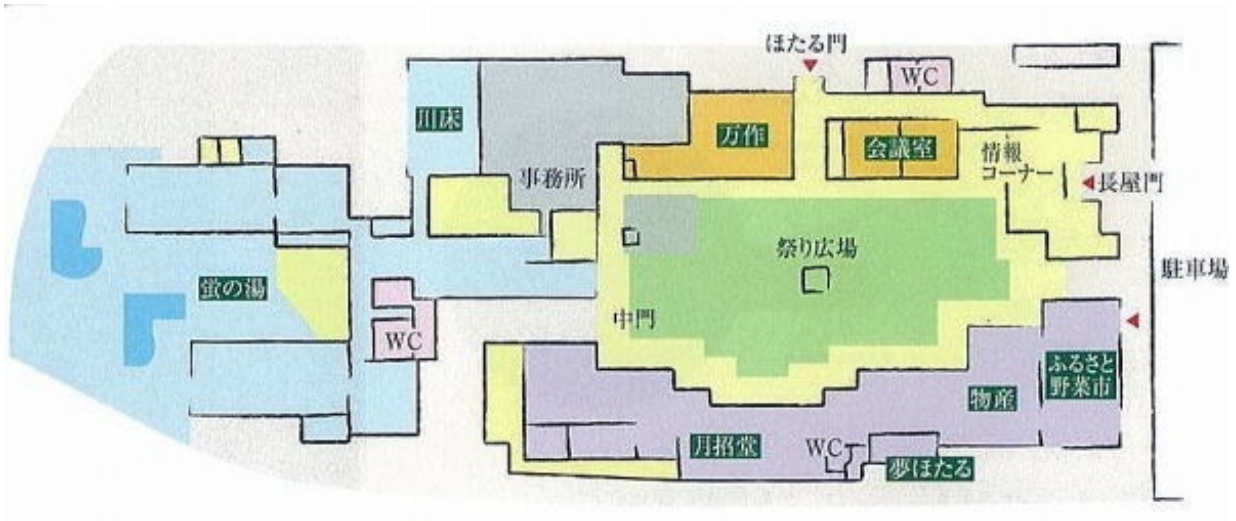
これが建物の正面ですが、純和風、というか、江戸時代の庄屋さんの雰囲気です。

正面入り口には “長屋門” という名前がついています。

ここを入ると “情報コーナー” になっており、結構広いその部屋には、ちょうどひな祭りを前にして幼稚園児の作ったお雛様の作品がたくさん飾ってありました。

それを過ぎると、建物群の真ん中は “お祭り広場” になっています。

真ん中に櫓があり、広場の左の建物が物産館、右側はレストランや会議室、そして正面には “蛍の湯” という温泉があります。



上の図のような配置になっていて、全体としてはすごく広いですね。

“蛍の湯” のほかに、“夢ほたる” とか “ほたる門” などと蛍にちなんだネーミングが多いですが、レストランの名前 “万作” というのは、この地方に伝わる “お通と万作の恋物語” という伝説から取ったものです。

百姓の娘お通と、若侍万作の悲しい恋の物語なのだそうで、結局かなわぬ恋に世をはかなみ渓谷に身を投げてしまうのですが、今でも “お通岩” というのが残っているのだそうです。

このレストラン、バイキング料理に人気があり、まだ１１時半にもならないというのに、ぎっしり客が入っていました。

そして今回私が楽しみにしてきたのがここの物産館です。

売り場の中にも提灯や幟があって、すごく雰囲気がいいのです。
商品もいろんなものが豊富に揃っていて、つい 衝動買いモード に切り替わってしまいました。

ふるさと野菜市でも、嫁は “安い！安い！” と興奮しながら買いあさっていました。

そして、精算！

数千円の支払に、“これ使えますか？”って聞いてみました。

レジのおねえさん（おばさん？）は、ちょっと迷った風でしたが、後ろにいた男性が“使えますよ！”と、ちゃんと１，０００円値引いてくれました。

これで目的は達成！
ちょっぴり嬉しいですね。 ☆v(^-^)vﾔｯﾀｰ！

ここには、レストランのほか、パン工房やあんころ餅工房もあり、前回来た時はここでパンを買って喫茶コーナーで食べた記憶があります。

今回はもう一つ目的があり、食事はそこですることにして次へ出発しました。

無料の足湯！“おふく”

今回の日帰り旅は “萩” まで行くつもりですが、山陰側の海岸線に出る前にもう一か所
道の駅おふく　に立ち寄りました。

ここは山陰の長門市に抜ける国道316号線沿いにあり、交通量の多いところです。

駐車場から建物までの両側には果物、野菜、雑貨などのお店が並んでいます。

そして途中にあった看板がこれです。

「若き童謡詩人の中の巨星」と賞されながら、26歳の若さでなくなった「金子みすゞ」のふるさとがこの先の長門市であり、そこに続く道を“みすゞゆめ街道”と名付けられて整備されてきました。

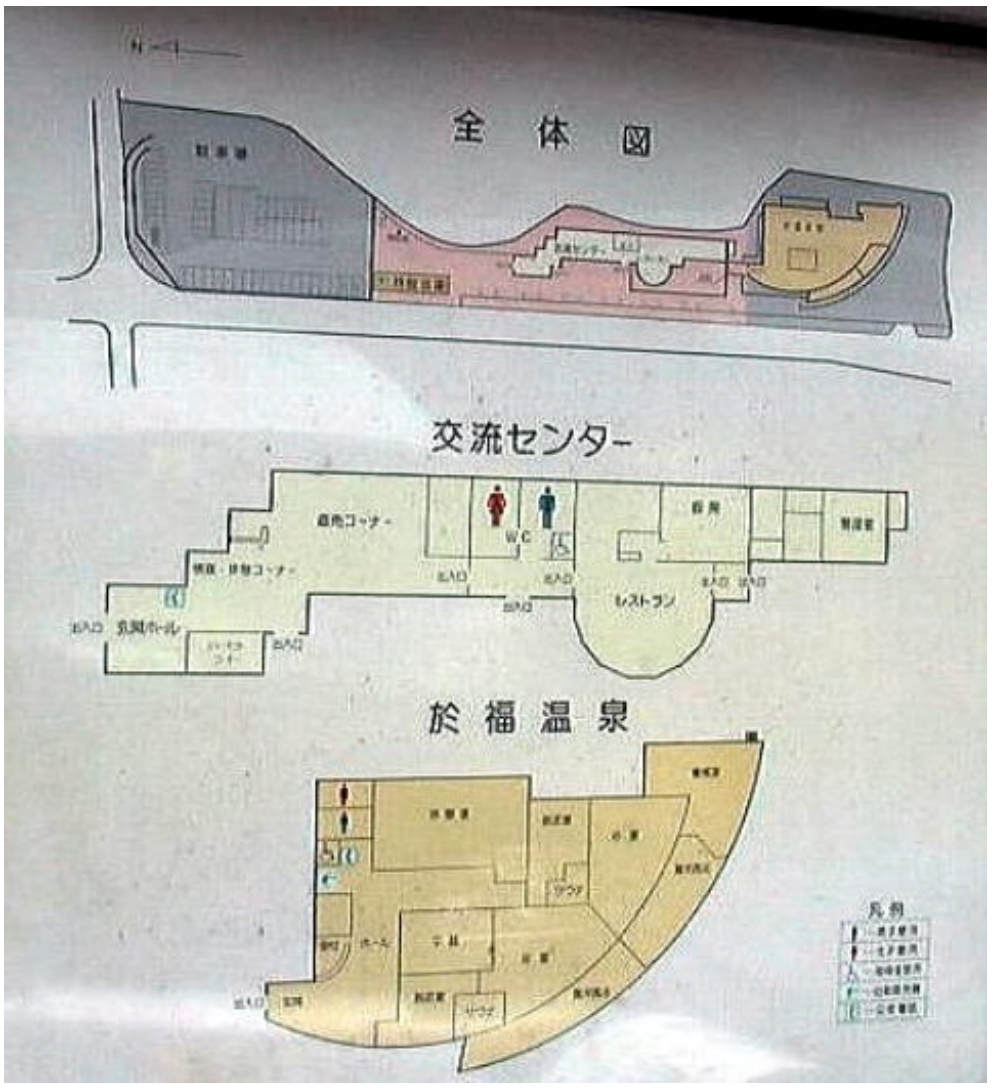
「金子みすゞ」という人は、才能に恵まれながら私生活では苦労を重ねた方で、映画やドラマでは“田中美里”や“松たか子”が、「金子みすゞ」を演じています。

玄関先にいるのがこのカラオケを歌っているカエルで、福を呼ぶのだそうな！

店内にある大型テレビでは、ちょうどチリの大地震による “津波警報” をひっきりなしに流していました。
車の中ではほとんどラジオを聞かないので、北海道や東北での２ｍを超すような予測にびっくり！

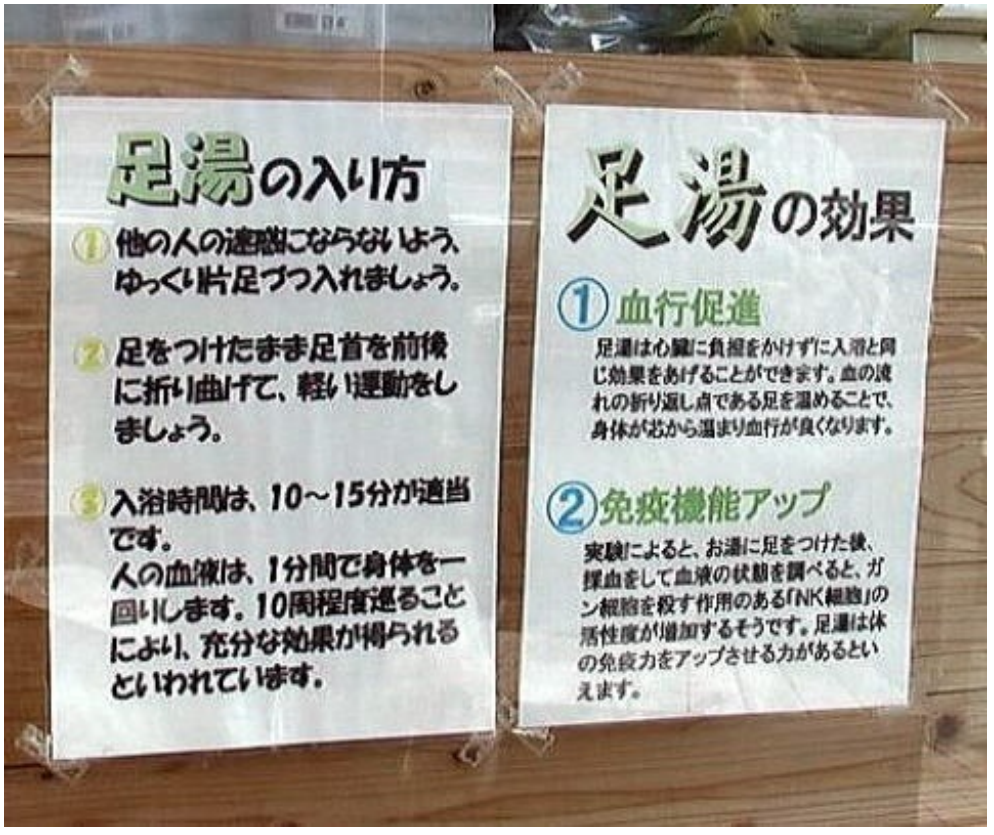
実際には大したことにならず良かったですね！

この建物は物産コーナーの先にあるレストランです。
更にその先に、“於福温泉”の建物があります。



温泉側にも広い駐車場があって、温泉が目的の客も大勢訪れているようです。

そして、レストランの前にこれがありました。



無料の足湯ですが、誰もいませんね。
う～ん！はいってゆきたいんだけど、先を急ぐので今日はパス！

そして入口にはこんなものが貼ってありました！

山口県の日帰り温泉ランキングの第一位だそうで　・・・・・　！
道の駅としてなら、私的には前回の “蛍街道西の市” がはるかに上だとと思うけどな～！？

さて、これから山陰側の観光スポット “青海島（おうみしま）” に立ち寄ったあと、“萩” を目指します。

花とお湯に出会えるやすらぎの郷
道の駅
おふく
HOT ROAD STATION

漁師料理を食す！“萩しーまーと”

今回は、山口の日帰り旅最終回で、
道の駅萩しーまーと　の紹介です。

萩しーまーとに行く前に、ちょうど山陰の海岸線に出たところの「青海島（おうみしま）」に立ち寄りましたので、ちょっとだけ紹介しておきます。

青海島は青海大橋で繋がった「島」なんですが、日本海の荒海で浸食された奇岩が聳え立ち、「海上のアルプス」と賞される、山陰の有名な観光地の一つです。

今回は島までは行かず、手前の漁港なんですが、ここから青海島観光の船が出ています。

くじらの形をした観光船が、ちょうど出港するところでした。

ここの楽しみは海産物の買い物で、広い「海産物市場」の他にたくさんの個人商店が立ち並んでいます。

ここには時々“買い出し”に来ることがあり、身が厚くてでっかいアジの開きがすごく安い値段で売ってたのでまとめ買いしていました。

値切りの駆け引きやら、おまけをつけて貰ったり結構個人商店での買い物も楽しかったのですが、今日はあまり良い品物がありませんでした。

海産物市場の方は観光バスで乗り付ける団体客が多いのですが、試食品がふんだんに置いてあるのが嬉しいですね。
試食品だけ食べて回って、今回は何も買いませんでした。
市場のみなさん、ごめんなさい！m(_ _)m

さて、青海島を後にして４０分弱走ると目的地 “萩しーまーと” です。

今回私が是非とも来たかった２か所目が、この “萩しーまーと” なのです。

ここの外観は、でっかい倉庫が並んでいる、といった感じですね。

この日は日曜日ということもあって、中は人でごった返しています。
広い駐車場も、やっと停めるところを確保した程です。

実はここは、隣が “漁協” であり、この中に１８店舗のも生鮮食料品店が並ぶ大きな “市場” なのです。

非常口
地元食品提供施設
(レストラン)
1
浜料理がんがん
お手洗いは
身障者用もあります
お手洗い
自販機
コーナー
ATM
コーナー
製菓
3
現在地
情報ターミナル
鮮魚
4
海産物
5
鮮魚
6
鮮魚
海鮮そうざい
7
7
漬物
15
海産物
16
練製品
17
練製品
18
野菜・果物
14
鮮魚
8
地酒
13
一般食品
12
精肉
11
ベーカリー
10
海鮮丼
お食事処
地元食品提供施設
(レストラン)
2
来萩レストラン
エントランス
海鮮丼
非常口
非常口
1 浜料理がんがん
2 来萩レストラン
3 久光製菓所
4 萩魚
5 井町海産
6 さかな屋 三共
7 えびすや
8 内八
9 維新亭
11 和肉のあんどう
12 地元良品
13 ほろよい亭
14 地採れ野菜と果物
16 大つち
17 村田蒲鉾店
18
営業時間
●●レストラン施設
11：00 ～ 22：00
3～18 物販施設
9：30～18：00

萩
はぎうみ

こんな風に、たくさんのお店がテナントで入っていて、いわゆる“おさかな市場”を形成しています。

そして店内には３つのレストランがあり、この市場で買った魚や魚介類を持ち込んで料理してもらうことができるのです。

“勝手ご膳”といって、調理料金５００円を払えばいいのです。

でも今回はお腹が空いていたこともあり、普通の料理を注文しました。

３か所のレストランのうち、私たちが入ったのは“浜料理がんがん”というお店です。

ちょっと時間がづれていたこともあり、すぐに席に座ることができました。

そして私が注文したものは　・・・・・・

“漁師のまかない飯” で、１０００円です。

刺身とあら汁と、アジのみりん干し、そしてそのみりん干しの下にある黒い謎の物体は　・・・でっかいおにぎりです！（笑）

おにぎりもあら汁もさすが海の男の豪快さがあります。。。

そして嫁は　・・・・・

“店長のおすすめ” です。

１５００円と私の１．５倍の値段ですが、かなり私が食べましたけどね　・・・・　！

まだ色んな珍しい料理があるので、近いなら時々来たいものです。

そして、部屋の壁にはぎっしりと有名人の色紙やらこのお店での写真が貼ってあります。
え～と～、誰だったか忘れたけど私が知っているくらいだからかなりの有名人ばかりですよ。
（汗）

こうして念願の “萩しーまーと” での食事もできたし、満足して帰途につきました。

Hagi seaside market
萩しーまーと
Yamaguchi

山口県日帰り旅：新しい道の駅“萩・さんさん三見”

昨日、山口県の萩方面を回ってきたので飛び入り記事です。

目的地は今年４月にオープンした
道の駅萩・さんさん三見　です。

そして、その帰りに下関市の海上に浮かぶ“角島（つのしま）”と、通り道にあった“道の駅きくがわ”に立ち寄りました。

中国地方には私がまだ行っていない新しい道の駅が５カ所もできており、今回の“萩・さんさん三見”はその中で最も近い場所にあります。

といっても、我が家から関門海峡を渡り、中国自動車道の“美祢ＩＣ”を下りて目的地まで、途中ちょっと休憩したとはいえ、３時間かかりました。

この道の駅、観光地としても有名な長門市の “青海島” 方面から、国道１９１号線のバイパスである “萩・三角道路” を走り、終点の明石パーキングエリアにあります。

国道１９１号線は新旧あるので、旧１９１号線に間違って入ると全然違う方面に行くので注意が必要です。

この道の駅、施設としては小ぶりなんですが、道路を挟んだ目の前には日本海の海原が広がっており、景観はすばらしい場所にあります。

特にこの日は “曇りのち雨” の予報にも拘わらず、真っ青な青空が広がっていましたから最高の気分です。

中にはいってみると、手前が店舗、奥がレストランになっています。
レストランは窓に向かって席が並んでいて、海をみながら食事ができるように工夫されています。

結構旨そうな食材などがあって眺めていると、いちいち寄ってきて説明してくれるおばさんがいました。

この道の駅については、“道の駅制覇軍　もるもるさん”（リンクしています） の記事で予備知識があったのですが、その記事にでてきた親切なオバチャンがこの人だな、とすぐに分りました。

食事にはちょっと早いのですが、気になったのがこのノボリ！

三見は“アジ”が特産のひとつらしく、アジの南蛮漬けや煮物も土産に買いましたが、あじバーガーも食べてみたくなりました。

ということで外のベンチで海を眺めながらいただくことに！
お肉ではなく、魚のバーバーもなかなかいけるものです。

さて、ここからもうちょっと先へ進むと萩の町に入ります。
萩は幕末の志士を数多く輩出した歴史ある街です。

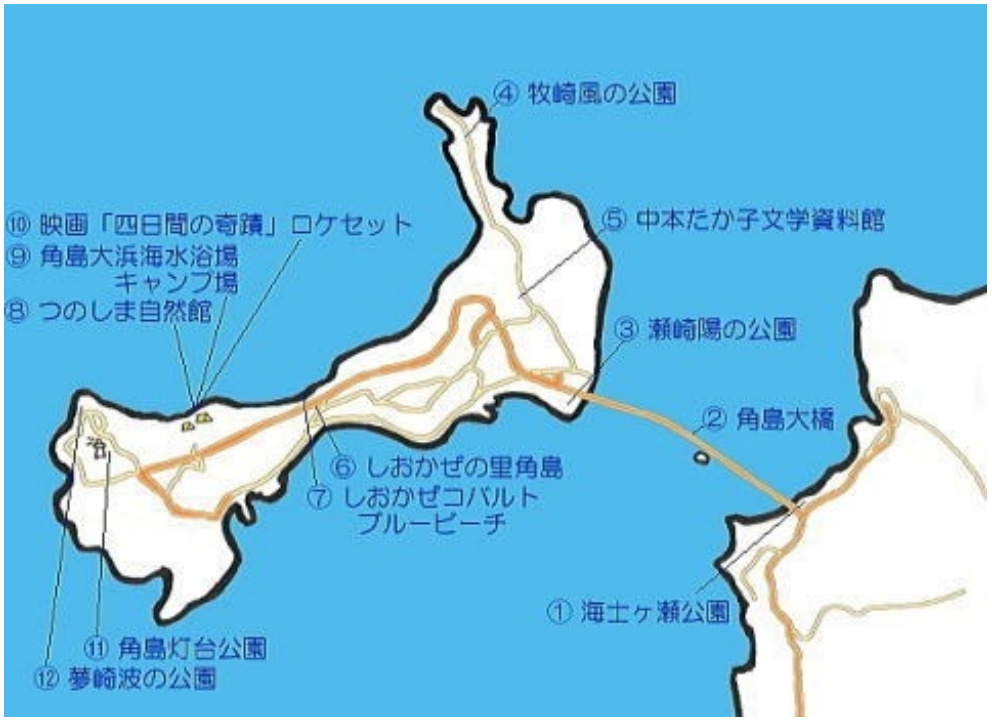
でも、今回はそちらには向かわず、今まで行ったことの無い下関市に属する“角島（つのしま）”へ行ってみることにしました。

次回はそのレポートです。
お楽しみに・・・・・！(*^^)v

山口県日帰り旅：角島（つのしま）

萩の新しい道の駅を後にして、途中青海島に立ち寄って海産物の買い物をしたあと
角島（つのしま）　へやってきました。

角島は山口県の北西部の日本海に浮かぶ人口９００名ほどの小さな島です。



真ん中がくびれた“鼓”に似た形をしています。
ここに丁度１０年前の２０００年１１月に、全長１７８０ｍの“角島大橋”が開通しました。

橋を渡る手前に“海士ケ瀬公園”というのがあり、この写真はそこからの眺めです。

角島大橋の通行料は無料なんですが、通行料がいらない離島架橋としては、沖縄県の古宇利大橋（全長１９６０ｍ）に次いで、全国第二の長さを誇ります。

早速この大橋、渡ってみました。

この大橋、カーブして途中がせりあがっていますが、多分大きな船を通す為ではないかと思います。
このかっこいい角島大橋、映画、テレビを始め、自動車のコマーシャルなどにもちょくちょく登場するんですよ！

橋を渡りきった島の入口にも公園があったので、そこからも写真を撮ってみました。

こちら側は “瀬崎陽の公園” といいますが、この大橋、どの方向からも絵になります。

さて、島のメイン道路はいくつもの海水浴場を望む快適な直線ルートです。

島の真ん中付近のくびれた部分に、“しおかぜの里角島” という施設がありました。
すぐそばに “しおかぜコバルトブルービーチ” があり、真白な砂浜の先にコバルト色の海原が広がっています。

島の一番狭い部分ですから、ここからは南北両方の海が眺められます。

ここは角島漁協婦人部の方たちが中心に運営されているそうですが、特産品・土産物の販売所と、美しい海を眺めながら食事のできるレストランがあります。

この、魚介類を炭火で焼いているお店が気になったので覗いてみました。

サザエやいか焼きは何と“１００円”です。
私たちは“フグの唐揚げ”を注文しました。

食べる前に写真を撮っていると、おばさんグループが寄ってきて、「なにそれ？」

あそこで売っているフグの唐揚げですよ、と説明すると、
「フグは当たるんじゃない！？このあいだ漁師さんが自分の釣ったフグを食べて当たったって、新聞に載ってたわよ！」

まあ、そんなことは気にせず食べましたが、これが実に美味しかったな～！

そして土産でも買おうかとお店に入ってみました。

いや～色んな珍しいものがたくさんある！
嫁は野菜が安い！と感激して買ってましたが、私は海産物や珍味を！

今日は最初の道の駅でも、途中の青海島でもたくさん買い物をしたし、まるで買い物ツアーです。（汗）

しおかぜの里角島をあとにして、次に向かったのは島の先端にある “角島灯台公園” です。
ここでは駐車場が有料で、３００円取られました。

この “角島灯台” は、日本海側で初の洋式灯台だそうで、明治９年に造られ１３０年経過した現在でも現役として毎日点灯しています。

総御影石造りで高さが２９．６ｍ、螺旋階段で途中まで登れますが有料です。
灯台の下には公園やお店もあり、眼下の景色も素晴らしいものです。

周辺にはいろんな見どころがあるようですね。

駐車場に戻る途中、こんなものを発見！

中を覗いてみると　・・・・・・

うん十年前の “美人海女” がいらっしゃいました。（笑）

この角島、他にもいろんな見どころがあって、最近は山口県を代表する人気観光スポットの一つになっています。

実はここ、嫁が２０代の頃に海水浴に来たことのある思い出の場所だそうで、当時は渡し船しかなく、お店も何も、全く何にも無いところだったそうです。

きれいな砂浜と海、これだけはいつまでも残して欲しいものです。

このあと、道の駅きくがわに立ち寄ってから九州の自宅に戻ったのですが、“きくがわ” は以前にもレポートそていますので、省略しますね！

角島近くにできた道の駅！“北浦街道 豊北”

山口県の “角島（つのしま）” の近くに、３月２４日に新しい道の駅が誕生しました。

道の駅北浦街道 豊北（ほうほく）　がそれです。

私の自宅から１７０ｋｍ、日帰り圏内なので無視できず、ゴールデンウィーク初日の昨日（４月２８日）に行ってきたものです。

山口県は本州の最西端ですが、更にその西の端 “下関市” に “角島（つのしま）” があります。
角島は２０１０年１１月に一度レポートしていますが、通行料がいらない離島架橋として、沖縄県の古宇利大橋（全長１９６０ｍ）に次いで、全国第二の長さを誇る “角島大橋” で有名です。

道の駅はその角島大橋の５ｋｍほど下関市街寄りにオープンしています。

今回は道の駅と角島を２回に分けてレポートすることにします。

角島付近を拡大したのがこの地図です。
山口県というのは、北海道に次いで全国６番目に海岸線の長い県なのです。

それからもう一つ、山口県の特徴は、ガードレールが “黄色” に塗られていることです。
普通ガードレールは白だと思いますが、山口県を走っているとほぼすべてのガードレールが黄色なのです。

更に山陰地方に共通することとして、屋根瓦の多くが “赤”、これは寒さや雪に強い “石州瓦” を使っているからです。

中国自動車道の小月ＩＣを下りて途中から海岸線の国道１９１号を走り、道の駅に数キロに近付くと、道路沿いに “道の駅満車” という看板が立っていました。

どうやら離れた場所に広い駐車場を用意して、シャトルバスで送り迎えしているようです。

標識を無視してそのまま進むと、道の駅には何人ものガードマンが交通整理をしており、入口に１０台ほど並んでいました。

それ程の長い待ち時間でもなく駐車場に入ることができました。

空にはほとんど雲もなく、暑いくらいの晴天です。
九州のＧＷは、晴れる日は今日だけで、あとはほとんどが雨か曇りの予報なのです。

駐車場の脇にこのような展望台があります。
ここからだと角島大橋も遠望できるのです。

シャトルバスが頻繁に行き来していますが、ピークを過ぎたのでしょうか、それほど大勢は乗っていないようです。

新しい道の駅はやはり気持ちが良いですね。
早速中に入ってみます。

ここは “休憩コーナー” 兼 “カフェテリアコーナー” で、奥にある “わくわく亭” で注文したものをここで食べることができます。

そしてこちらが “ほうほく夢市場” です。

ここの買い物は実に楽しいです。
いくつもの漁港を抱えているので魚介類の種類も多く、新鮮で安いです。

写真を撮っていませんが、“東北被災地３県の物産コーナー” がありました。
私たちは煎餅汁のせんべいを買いました。

このコーナーを担当している女性の店員さんは、岩手県宮古市で被災し、この下関へ移住してきた方なのだそうです。
岩手県には５月に行く予定ですが、少しでも応援したい気になります。

さて、買い物のあと休憩コーナーで食事を済ませ、展望テラスに出てみました。

眼下には “和久港” に停泊する漁船が見え、実に美しい風景です。

この道の駅は災害時の一時避難所としての機能を有するそうですが、最近そういう面でも道の駅は地域の中心になりつつありますね。

この写真は何だと思われますか？
トイレの洗面所の窓なんです。

男性の用をたすところもこれと同じく広いガラス窓になっていますから、美しい海岸の風景を眺めながら気持ち良く（笑）できますね。

さて、１時間半ほどここで時間をつぶしてしまいました。
これから、角島大橋の方へ移動します。

次回はそのレポートをお送りすることにします。

スタンプは青と赤の２種類あったので、両方とも押してきました。(^▽^)

西長門海岸随一の絶景！“角島大橋”

道の駅を出て５～６分ほどで
角島大橋（つのしまおおはし）　のたもとまでやってきました。

前回来た時よりも更に天気が良いので楽しみです。
そして今回、是非写真を撮りたい場所がありました。

橋を渡る少し手前に、斜めに上り坂があります。
そこを上がると、橋を高い位置から見下ろすことができるのです。

何はともあれ、その写真からご紹介しましょう。

橋の途中、左手に浮かぶのが “鳩島” です。

この海域を “海土ヶ瀬戸（あまがせと）” と呼びますが、鳩島を迂回するように左カーブしており、更にカーブ付近が盛り上がっている橋の形状が、特に美しい景観を作りだしているのだと思います。

２０１０年１月に一度レポートしているので多少ダブるかも知れませんが、この橋は全長が１７８０ｍ、橋桁の数は２８基です。

通行料がいらない離島架橋としては、沖縄県の古宇利大橋（全長１９６０ｍ）に次いで、全国第二の長さを誇ります。

これは橋の入口右側にある “海土ヶ瀬公園（あまがせこうえん）” です。
海の色が素晴らしいですね。

海土ヶ瀬戸は日本海と響灘の海流が作りだす変化に富む海峡で大潮の時は１ｍの落差が生じ、特に海水のグラデーションが美しくなるそうです。

では、橋を渡ってみましょう。

この橋はさすがに皆さん、ゆっくり走ります。
車のコマーシャルやテレビドラマにも何度も使われた景観です。

橋の中央付近に両側が少し広くなった箇所があり、２～３台の車が停められます。
この日は両側とも車で埋まっていて車から下りて写真を撮る姿がありました。

橋を渡り切ると、そこは人口千人弱の “角島” です。

鼓（つづみ）の形をしたこの 角島、周囲１７ｋｍの小さな島ですが、先端の灯台を始めとして多くの見どころがあります。

今回は島の中心部のくびれた場所 “しおかぜの里 角島” だけ立ち寄りました。

ここには土産店、食事処のほか、サイクルポートがあり、自転車を借りて島めぐりをすることもできます。

そして前回来た時には気がつかなかったのですが、ここには素晴らしいビーチがあるのです。

道路を渡った反対側のこの海岸、“コバルトブルービーチ” といいます。
この海の色は正にコバルトブルーですね。

久しぶりにさらさらの砂浜の感触を味わいました。

さて、灯台公園などは前回に行ったのでパスして帰途につくことにしました。

逆方向からの角島大橋もなかなかのものです。

連休初日、天候に恵まれ、それ程の大渋滞にも遭遇せず、充実した日帰り旅を楽しむことができました。

静御前の墓がある！？“願成就温泉”

昨日（２月１５日日曜日）日帰りで、山口県、島根県、広島県の６か所の道の駅を回ってきました。

行程としては、

・中国自動車道山口ＩＣを降りて国道９号線へ
・道の駅願成就温泉（山口県）
・県境を渡って道の駅津和野温泉なごみの里（島根県）へ
・更に国道９号線を進んで、道の駅シルクウェイにちはら（島根県）
・９号線を少し戻り、国道１８７号線へ分岐して南下
・道の駅かきのむら（島根県）
・更に南下し、再び山口県に戻って道の駅ピュアラインにしき（山口県）へ
・一旦中国自動車道に戻り、六日市ＩＣから吉和ＩＣまで１区間だけ走る
・高速上で県境を越え、道の駅スパ羅漢（広島県）が最終
・ここから４時間半かかって九州の自宅戻り

といったものです。
朝6：30出発で、自宅戻り20：30の１４時間、走行距離670Ｋｍでした。

今回は１か所目の「道の駅願成就温泉」
（がんじょうじゅおんせん）をご紹介します。

願成就温泉は山口県の東端、島根県との県境のすぐ手前にあります。

願いが成就するという縁起の良い名前ですが、干支地蔵とかいうのがあって、願いを書いたたくさんの絵馬が下がっていました。

ご利益があるのかどうかは定かではありません。　(^。^)

ここには普通の道の駅のような「物産店」はありません。
長屋のような建物があって、果物屋さん、天ぷら屋さん、萩焼きのお店、うどん屋さんなど小さな個人商店がハーモニカ状に並んでいました。

店番のおばさん達が暇そうに椅子にこしかけて世間話をしていました。

リンゴの里なのでリンゴパイの試食をいただき、袋入り１０００円の徳佐リンゴを売りつけられそうになりましたが「帰りにまた寄るからね」と嘘を言って逃げました。　**(^_^;)**

他にレストランと温泉の独立した建物があり、こちらは立派です。

道の駅のスタンプが見当たらないので先ほどのリンゴ売りのおばさんに尋ねたところ「あ～、それは温泉のフロントに置いてあるよ。」とのこと。

温泉の建物に入って行ったら、確かにフロント付近に置いてありました。
まだ朝早かったのに、結構多くのお客さんが温泉に入っているのですね。

ここにはもうひとつ「静御前」の等身大の像が建っています。

「静御前」って誰だっけ！
説明文を読むと、源義経の恋人だったんですね！　（そんなことも知らんのか！）

どうして山口県の端っこにこんなものがあるかと言うと、静御前の墓所がすぐ近くにあるのです。
では、なぜ京都のひとである、静御前の墓所がここにあるかと言うと　・・・・

その説明書きを読んだので、知ったかぶりをして解説！

義経の死を知った静御前は世の中をはかなみ、剃髪をして尼になった。
やがて浮世から身を隠すように京都を去って諸国を流浪し、言い伝えのある当地（山口県徳佐）で母子、侍女とともにひっそりと暮らし、生涯を終えた、と言うお話です。

下の写真は温泉の入口にありました。

静御前の悲恋の物語を終わります。

道の駅
願成就温泉
ふとうの湯
山口県阿武郡阿東町徳佐上2-95
TEL 08395-7-0118

幸玉・幸輪が守る！“ピュアラインにしき”

印象の薄かった「道の駅かきのきむら」を出て、国道187号線を一路南下します。

この道は、やがて中国自動車道を横切り、更に行くと今度は山陽自動車道を横断して瀬戸内海側に出て、以前ロードレースに遭遇してひどい目にあった「周防大島」の道の駅サザンセトとうわに至ります。

目指す「道の駅ピュアラインにしき」は、中国自動車道を横切って１５分ほど走った位置になります。
中国道を超えたあたりが県境で、再び「山口県」に戻りました。

この道の駅は結構大きく、多くの客で賑わっています。
それと、外人さんが多いのは「岩国」の米軍基地が近いせいでしょうか？

私は米海軍戦闘機パイロットの「ＴＯＰ　ＧＵＮ」のロゴの入った帽子をかぶっているので、アメリカさんから文句を言われないかひやひやしましたが　・・・。
（ちなみにこの帽子はある通販で買ったのですが、「米国内着用禁止」 の注意書きがありました。）

この道の駅の入口両側には面白いものがありました。
下の写真は、重さが１．５トンもある石の球で、水に浮いてくるくる回っています。

そして入口の反対側にあるもう一つは、９００Ｋｇの石の輪っぱで、同じく水に浮いて回っており、その輪の中を更にもう一つの球が回転しながら回っています。

水の力というのはすごいものですね。

玄関口でこの二つを感心しながら眺めていたら、背後の駐車場で
「がっしゃ～ん！」というでっかい衝撃音がしました。

振り返ると、大型バイクのおねえさんが曲がり切れなかったらしく
駐車中の軽自動車のお尻にぶつかり、ひっくり返っていました。

仲間がすぐ助け起こし、倒れたバイクを起こしていましたが、あわれ軽自動車のお尻は凹んでます。

帰りにもう一度見たら、店内アナウンスで呼び出された軽の持ち主のおばさんが、悲しそうにバイクのねえさんと何やら話し合ってました。

他人事ではないですね、用心しなきゃ！

道の駅の中は広くてきれいですし、手作りこんにゃく体験コースだとか、レストラン、休憩室、情報ステーションなど、内容が充実していました。

今日最後の目的地は県境を越えて今度は広島県にある「スパ羅漢」という道の駅です。
ナビが示すには、最短距離の「国道434号線」を通るコースなのですが、念の為にレジの人に尋ねてみました。

Q：「スパ羅漢という道の駅に行きたいんだけど、この国道４３４号線は道は良いのですか？」
Ａ：「う～～ん！　最近はだいぶ通りやすくなっていますけどねぇ～」と歯切れの悪い返事。

Q：「それじゃ～、この高速まで戻って次のインターから行った方がいいですかね～？」
A：　とたんに表情が明るくなり　「そりゃ～そっちの方が早いし、いいですよ！」

一体、この国道４３４号線ってどんな恐ろしい道路だったんでしょうか？

CHUGOKU 山口県岩国市錦町
道の駅
ROUTE187
ピュアラインにしき

瀬戸内海の周防大島！“サザンセトとうわ”

昨日（日曜日）瀬戸内海の周防大島にある
道の駅サザンセトとうわ に行ってきました。

この道の駅は山口県でもぽつんとひとつ離れているので、他とまとめて回ることができず、やむを得ず１か所のみの日帰りをしたものです。

一か所往復しただけですが、走行距離は608Ｋｍに達しました。

朝7：15自宅出発、8：45関門橋到着。
めかりＳＡから下関を望む。
関門海峡をたくさんの船が行き来しています。

中国自動車道の山口ＪＣＴから山陽自動車道（広島方面）へ入る。
玖珂ＩＣで下りて一般道へ、国道４３７号線を一路南下。

柳井市から周防大島に架かる「大島大橋」を渡る。

（インターチェンジを降りて２０分強）

（走りながらの撮影のため、ガードレールが映ってしまいました）

そして島の東海岸を２０数キロ南下すると、目指す道の駅があります。
（大島大橋から３０分前後）

ところが　・・・・！

道の駅まであと１Ｋｍのところまで来たら、
ロードレース中につき、迂回してください！　で、国道が通行止めになっています！！

係員の指示に従って山手に入り、ぐるっと回って道の駅近くに出てきたのですが、
やっぱり国道の手前に来ると進入禁止！

何と、道の駅自体がロードレースの最終ゴールなのです。
聞いてみると「どっかに停めて歩くしかないですね」との返事！

と言っても、どこにも停められないので、道の駅の近くの「ロードレース選手駐車場」と書いた中学校を見つけ、こっそり選手のふりをして駐車しました。　（ごめんなさい！・・・m(__)m　）

道の駅は大きくてきれいです。
裏に海産物専門のお店もありました。

そして、道の駅目指して選手が走ってきます。

高校生による太鼓の応援もあります。

道の駅にはたくさんの屋台が並び、走り終えた選手たちや応援の家族など、大勢の人々であふれていました。
みかんの産地だけあって、袋詰め放題３００円というのがありました。
いっぱい詰め込んで、数えてみたら２５個ありました。
スーパーで買うより、かなりのお得です。

で、・・・　やっと通行止めが解除されたのは良いが、今度は島から出る人たちで大渋滞！
ゆっくり瀬戸内海の風景でも撮影してこよう、と思っていた目論見は外れました！

第一日曜日は、高速道路のサービスエリアがすべて「２割引」になりますので、あちこちで買いあさって、結局自宅の戻りは19：30でした。

サンセトとうわ
道の駅

萩方面へ！“仁保の郷・あさひ・萩往還公園”

今回は、山口県の山陰方面を何回かに分けてご紹介します。

中国自動車道の山口ＩＣを下りて、２０分ほど走ると、
「道の駅仁保の郷（にほのさと）」があります。

広大な敷地に、朝市広場、多目的デッキ、子供広場あり、駐車場中央に独立した立派なトイレがありました。

ちょうどクリスマスの時で、玄関には巨大なリースが飾ってあります。

建物の１階は物産館、レストラン、パン工房、お菓子工房、餅工房などが並んでいます。
普通の道の駅に比べてかなり売り場が広いので、つい、いろんななものを買い漁ってしまいます。
建物の２階はいくつかの研修室になっているようです。

次は、国道２６２号線を萩方面に向かうと２０分ほどで
「道の駅あさひ」に到着します。

ここはこじんまりとした、田舎のスーパーといったイメージです。
商品もスーパー並みでした。

スタンプが薄い！！

次の目的地は

「道の駅萩往還公園」です。

道の駅あさひから更に萩方面に行くと、「萩道路」という有料道路があります。

その有料道路の料金所の隣にあるのです。

下の写真が料金所で、和風の面白い作りになっています。

この料金所を出てすぐの駐車場に車をとめ、料金所の真下にある地下道を通って、道の反対側の道の駅に行くのです。(最初はわからずにうろうろしました。^_^;)

萩は幕末に活躍した吉田松陰で有名ですね。
この道の駅は、「吉田松陰記念館」と一緒にあります。

そして、道の駅の前には高杉晋作をはじめとする、幕末に活躍した志士たちの像が１０体ほど立っています。

売店はあまり大きくありませんが、産地である「萩焼」が売られていました。

道の駅に併設して「松陰記念館」があり、無料です。
記念館の中には松下村塾での講義の様子が再現してあり、ここで学んだ志士たち一人一人のその後などが分かります。

日本海側へ！“ハピネスふくえ・阿武町・たまがわ”

萩往還公園から一旦萩の市内に入り、県道１１号線を通って
「道の駅ハピネスふくえ」へ向かいました。

ここは中央にユニークな形の屋根があり、その右に透明な壁の建物があります。
入ってみると、それは吹き抜けの温室になっており、シクラメンをはじめ色んな草花が栽培されています。

この道の駅では毎年１２月にシクラメンフェアが開催され、３０００鉢程のシクラメンが展示、販売されるそうです。

このメインの建物は温室だけで、その手前に農産物を売るバラック風の建物があり、敷地の左側に物産店と食堂の入った建物がありました。

次は、日本海に面した道の駅阿武町を目指します。
一旦県道１０号線を走り、途中で県道１４号線に移り、日本海側の国道１９１号に出るルートを

、ナビの指示にしたがって辿りました。

ところが、県道１４号線に入ると、次第に薄暗い山道に入り、ついには全く離合のできない、やっと車が１台だけ通れる狭い道になりました。

対向車が来ないかとはらはらしながら走っていると、前方の道路上に黒いものが動いています。
何と、野生の猿が２匹道路上で戯れていました！

車が近づくとあわてて近くの樹木に飛び移りました。
写真を撮ろうと車を止めたところ、さっと森の奥に逃げ、撮れた写真はお猿さんのお尻だけです。

その後も、ガードレールに堂々と座ってるお猿さんなど何度か見かけましたが、写真は撮れませんでした。
と言うか、対向車が心配でとにかく急ぎましたので・・・・

何とか無事に国道に出ることができて、見晴らしの良い海岸線の道路をしばらく走ると
「道の駅阿武町」はありました。

ここは、全国の道の駅の発祥の地だそうです。

かなり広い敷地の真ん中にバスの待合所があり、ぐるっとバス専用レーンが作ってあります。
実際、乗合バスがそこを入ってきました。

敷地の左側はやや古い建物で「発祥交流館」の看板があります。
ここには、休憩所、野菜の産直市、うどん屋、焼きたてパン屋、饅頭の屋台などがあります。

バスの待合所を挟んで反対側に、新しい物産館、レストラン、温泉、温水プールなど立派な建物が並んでいます。

物産館の中も賑わっていました。

そして道の駅の裏は日本海の美しい景色が広がります。

阿武町を出て海岸線を約３０分走ると、

「道の駅ゆとりパークたまがわ」 に到着します。

ここは六角形のユニークな建物が中央にあり、その両側に物産館、レストランなどが並んでいます

。
建物の裏に回ってみると、そこは広いイベント広場でステージがありますので、おそらくコンサートなどが開かれるのではないでしょうか？
山口県は、特にこんな大規模な道の駅が多いような気がします。

物産館はさすがに新鮮な魚介類が多く、中央の丸い水槽には悠々と魚たちが泳いでいました。

付近には田万川温泉をはじめ、森林公園、キャンプ場、遊歩道、ゴルフ場などがあり、市民の憩いの場にもなっています。

鮮王国
道の駅
ゆとりパークたまがわ

豊かな村づくり日本一！“仁保の郷”

まず最初に訪問したのは

道の駅仁保の郷（にほのさと）　で、約５年ぶりになります。

九州から関門橋を渡って本州に入り、中国自動車道 “山口IC” を下りて３０分弱の距離です。
山口県に入ると、がらっと変わる風景があります。

以前にも紹介したことがありますが、まず最初にガードレールが黄色になることです。
山口県が管理している国道と県道のガードレールがほぼすべて “黄色” なのですが、これは昭和３８年に山口で開催された国民体育大会がきっかけです。
元々は景観整備の一環として、山口の特産である “夏みかん” の黄色に統一したのですが、よく目立つ色なので交通安全にも一役かっているようです。

もう一点の特徴は、上の写真にも写っているように民家の屋根が “赤色” になることです。

これは山口県に限らず山陰特有のものですが、集落全部が赤い屋根、というのも珍しくありません。
これは、“石州瓦（せきしゅうがわら）” を使っている為です。

石州瓦は島根県の石見地方で生産されている粘土瓦で、焼成温度が1200℃以上と高いため凍害に強く、日本海側の豪雪地帯でシェアが高いのです。
出雲地方で産出される含鉄土石 「来待石」 を釉薬に使用することによって、赤褐色の色になるのだそうです。

“仁保” は山口市の北東部に位置する人口が３５００人程の農村地帯です。
鎌倉初期に関東から 「平子重経」 が地頭として赴任以来８００年の歴史があり、多くの神社仏閣や遺跡があります。
山口が “西の京” といわれるのに対し、仁保は “西の奈良” と呼ばれています。

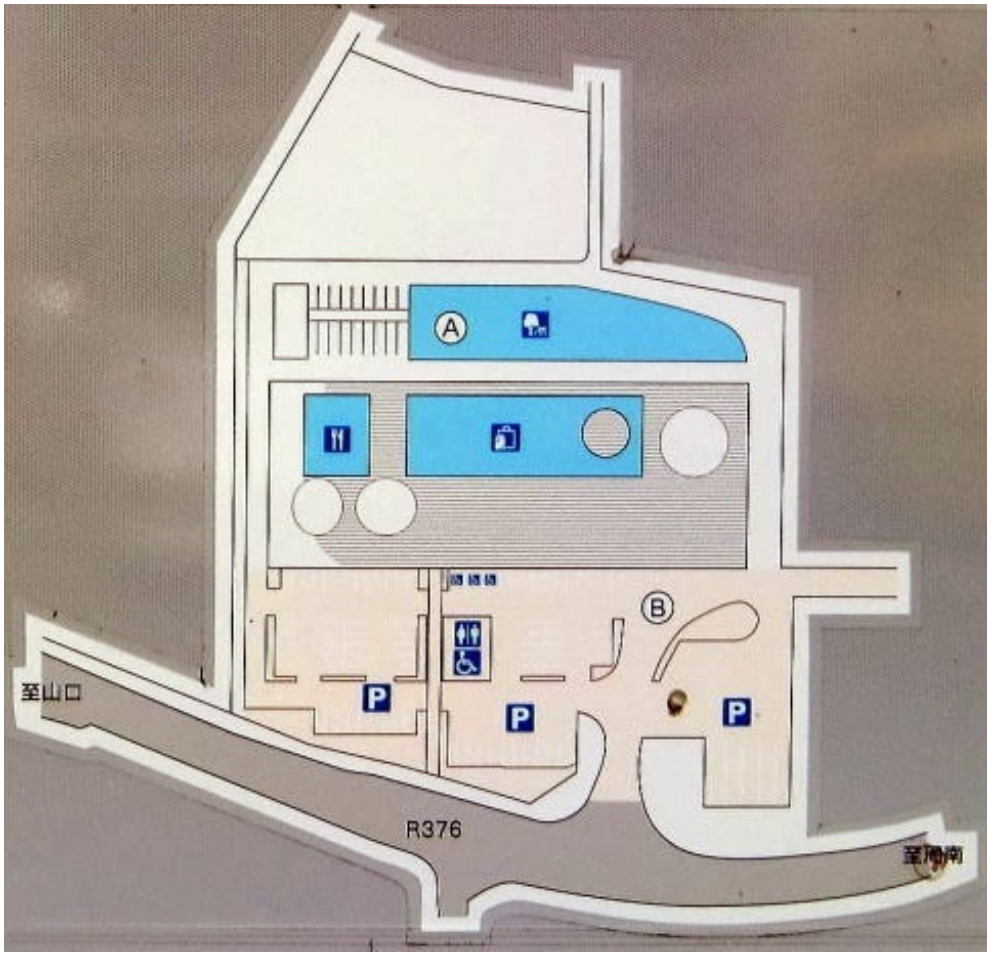
また、日本最大の国際通信施設である “山口衛星通信センター” には最大直径３４ｍという巨大なパラボラアンテナが林立し、 「近代的いなか社会」 を目指す、ひとつのシンボルとなっています。
平成１３年には、“豊かなむらづくり日本一” として全国表彰されました。

駐車場のまん中にあるこれは、トイレの建物です。

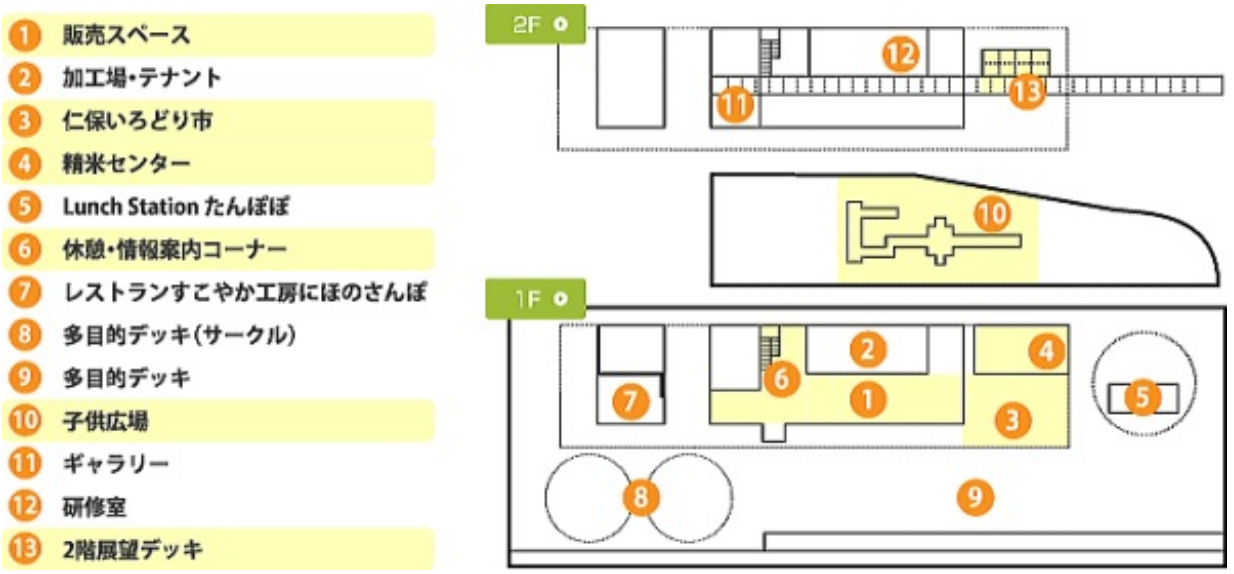
手前に見えるテントの奥は、“仁保いろどり市” といって、産直品の販売コーナーです。

この道の駅の最大の特徴は、建物の前の広いデッキだと思います。

駐車場から一段上がったこの “多目的デッキ” では様々なイベントが行われます。
このデッキは、“再生木” を使っているのだそうです。



ちょっとこれだけでは分かりづらいので、HPから配置図をお借りします。



多目的デッキの広さがお分かりではないかを思います。

全面ガラス張りの洒落た建物です。

地元特産品や限定品が並び、商品の品揃えも良くて、とっても賑わっている道の駅でした。

四季折々の自然の宝庫！“長門峡”

日帰り旅の２か所目は、２０分ほどで
道の駅長門峡（ちょうもんきょう）　へやってきました。

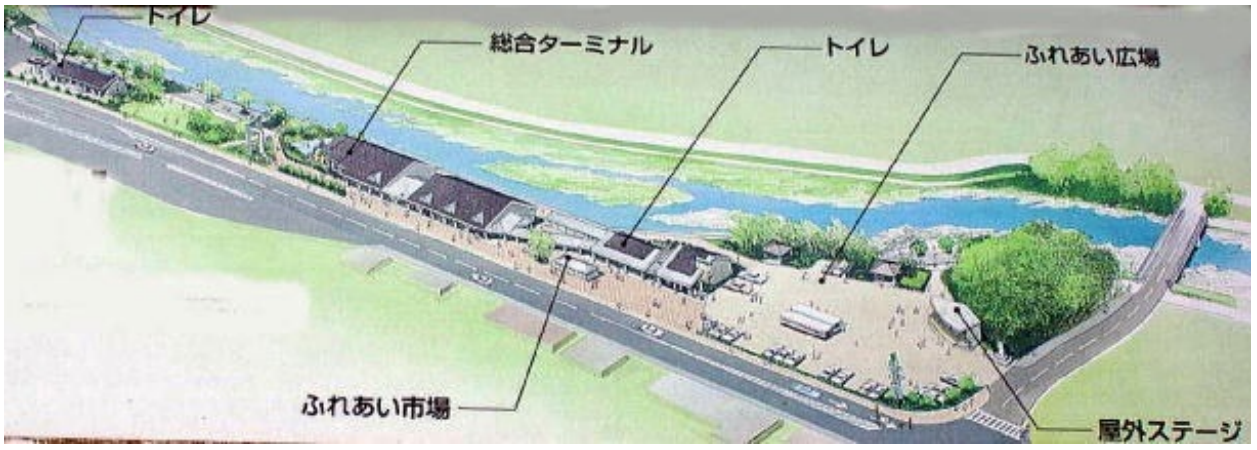
ここは中国路の幹線道路である国道９号に面しており、常に交通量の多い場所にあります。
私がこの道の駅を訪れるのは確か３回目だと思います。

“長門峡” というのは、その名の通り渓谷です。

大正１２年に “国の名勝” に指定され、昭和３７年には “山口県立自然公園” にも指定された中国地方を代表する景勝地のひとつです。
また、 “２１世紀に残したい日本の自然１００選” にも選ばれています。

長門峡には山口市阿東（旧阿東町）から萩市川上（旧川上村）にまたがる全長５．５ｋｍの遊歩道があり、片道約１００分ほどかかります。
春の山桜やつつじ、夏の清流と新緑、秋は渓谷の紅葉、冬は水墨画を想わせる雪景色と四季を通じて自然を楽しめる場所です。
特に秋の紅葉は見事で、“長門耶馬渓” と呼ばれることもあります。

道の駅はその長門峡遊歩道の入口まで、わずか３分ほどの場所にあります。



道の駅の全体はご覧のような配置になっています。

“くんくのだいち”というのが道の駅の愛称ですが、これは「山の匂い、清流の匂い、そして大地の匂いなど、あとうの自然の匂いをくんくん嗅いでいる様子」をイメージしたネーミングだそうです。

この通路には、阿東町のいろんな観光案内が掲げられています。

“十種ケ峰（とくさがみね）”というのは標高９８９ｍ、その美しさから別名“長門富士”とも呼ばれ、キャンプ場、スキー場、パラグライダー基地などがあります。

建物に入って最初にあるのが、“ふるさと産品直売所「あとうの恵み」”です。

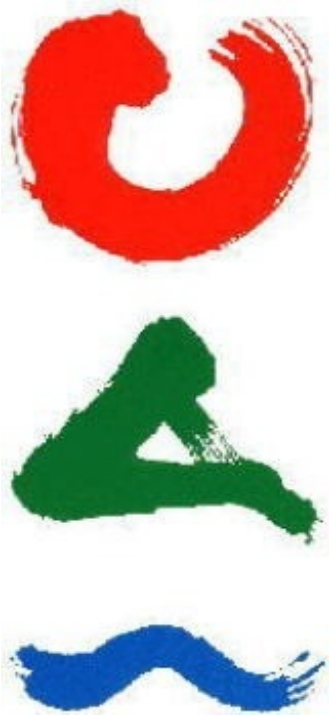
ここでは、以前来た時に買って美味しかった“長州漬”をまた買いました。
少し辛いけど、ご飯のおかずにとっても旨いのです。

そのお隣が “情報案内コーナー” です。
ここに、いくつもの “木像” があるのがわかりますね。

実際にはもっともっとたくさんあるのですが、実はこれ全部 “チェンソー” を使って創ったものです。

阿東在住のチェンソーアーティスト 「林　隆雄さん」 の作品で、この道の駅のイベントで実際に創るところを見せてもらえることもあるそうです。

一番奥にあるのが、“聴秋（ちょうしゅう）”という名前のレストランです。
“長州”にかけたネーミングだと思います。(^。^)



これは阿東のシンボルマークです。
赤い丸は特産であるりんごや太陽を表し、緑の三角は山や林、木を表し、青い波線は清流を表しています。

阿東の豊かな自然をイメージした端的なマークだと思います。

シンプル道の駅！“うり坊の郷**katamata**”

日帰り３か所目は、３０ｋｍほど走って

道の駅うり坊の郷**katamata**（かたまた）　へやってきました。

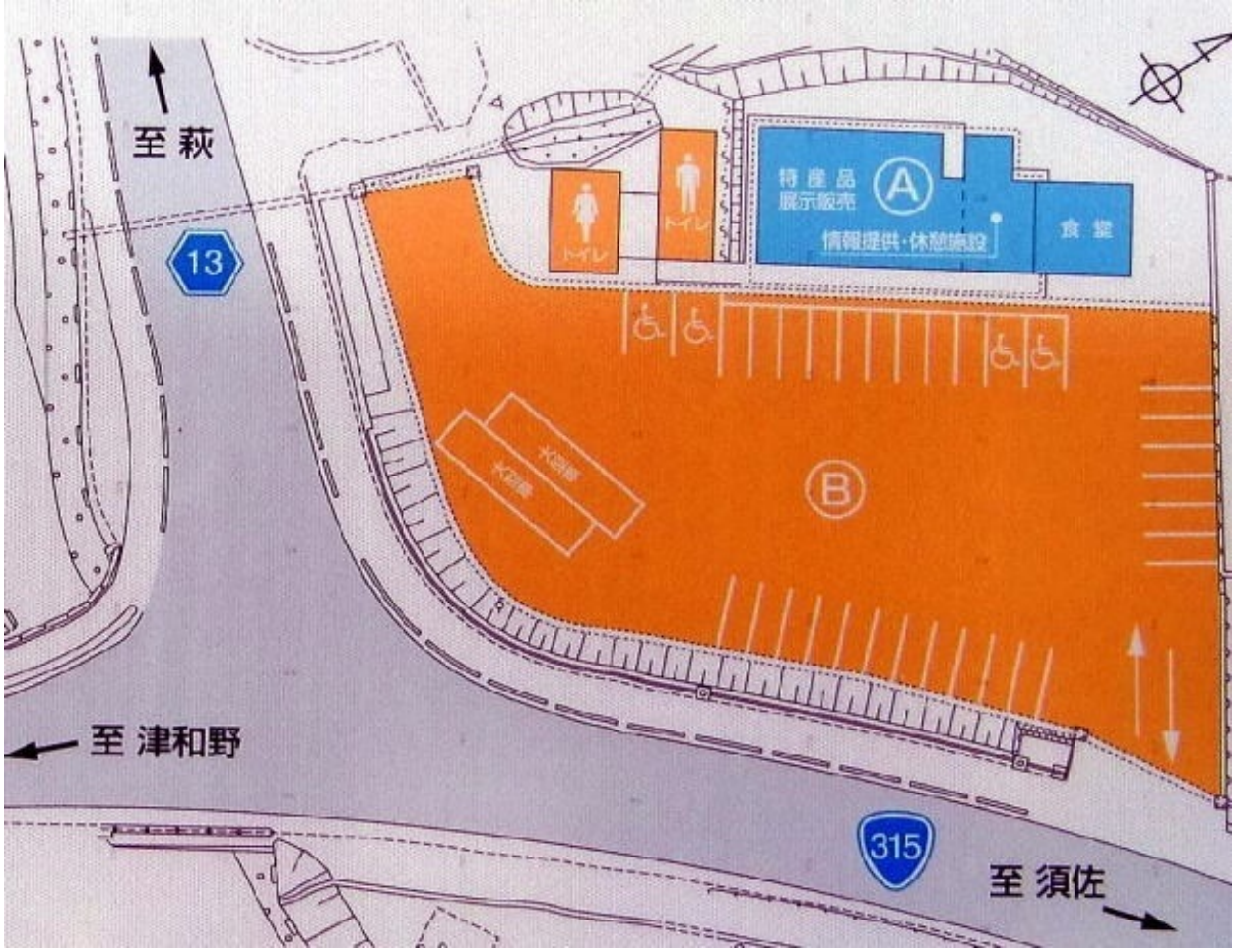
“Katamata” とローマ字の入る道の駅は珍しいのですが、この地域の地名 “片俣” からきています。

“萩市大字片俣” は、山陰地方の観光地として名高い “萩” と “津和野” のほぼ中間に位置する、標高３６０ｍ程の農山村です。

“うり坊” というのはイノシシの子供のことを言いますが、おそらくこの周辺の山林には多くのイノシシが生息しているのだと思います。

駐車場の側面には、そのうり坊の親子が描かれていました。
それに標高が高い為でしょうが、ずっと温かい日が続いたにも拘わらずかなりの雪が残っています。

道の駅の建物はこの１棟だけで、いたってシンプルです。
この建物も、やっぱり屋根は石州瓦の “赤” ですね。



ここは元々２００１年から都市農村交流施設として営業していたものが、２００４年にリニューアルして道の駅に登録されたものです。

山村だけあって、薪もたくさん売っていますね。

登録証
道の駅
うり坊の郷 katamata

道の駅
片保お宝マップ

情報コーナーには、こんな“うり坊”の絵が飾ってありました。
そして売場にも・・・・・

なかなか可愛いものですね！

ショーウインドウの上には、木彫りのうり坊が！
そのショーウインドウの中身は・・・？

イノシシのお肉でした！！(^_^;)

シンプルだけど、ほっと一息つける道の駅だと思います。

うり坊の郷 kalamala

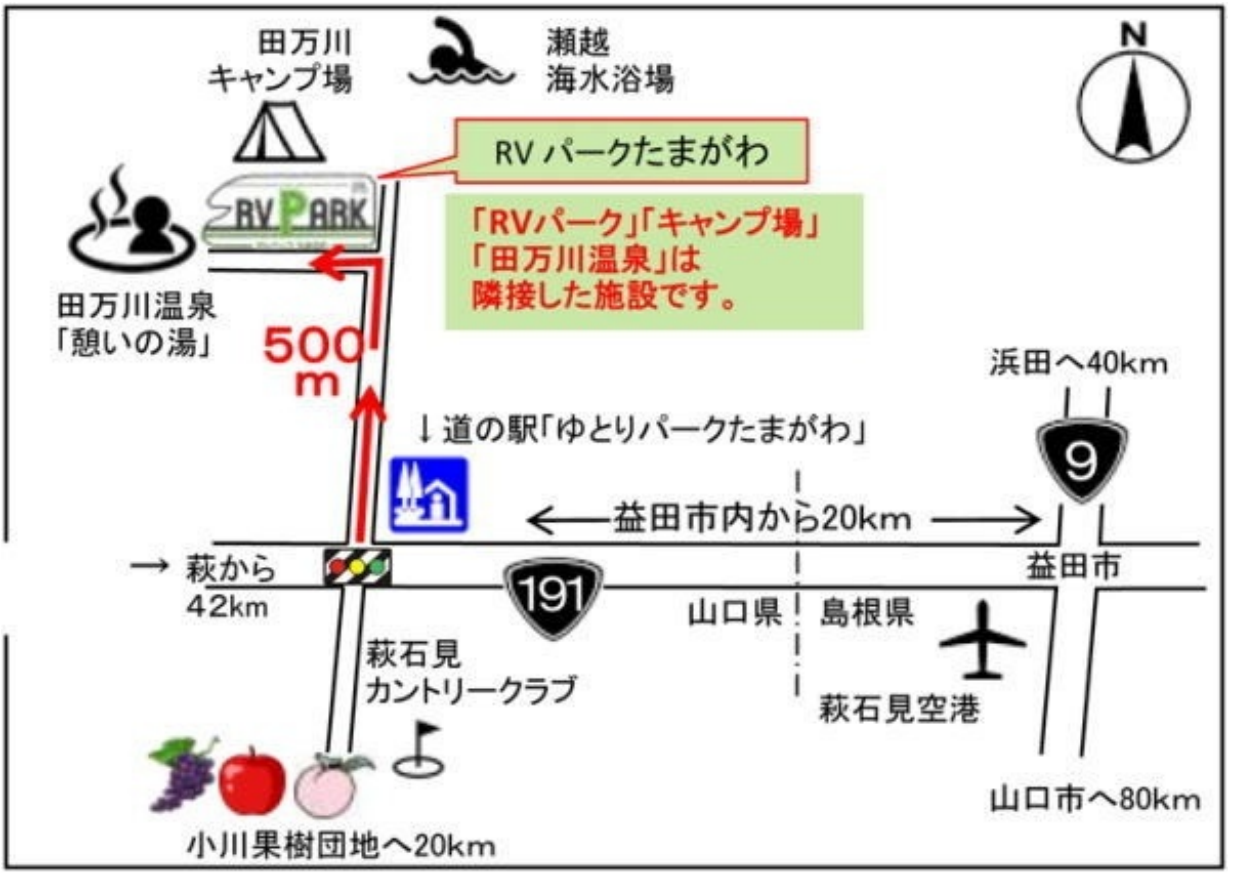
なまぐち道の駅すつみ

田万川温泉！“ゆとりパークたまがわ”

本日の４か所目は日本海側に出て
道の駅ゆとりパークたまがわ　へやってきました。

“田万川地区”は山口県の北東部に位置し、ここからほんの少しで島根県との県境です。

かつての竹下政権下での“ふるさと創生１億円資金”を使って旧田万川町は温泉を掘り、その“田万川温泉”はキャンプ場や海水浴場に隣接していることもあって四季を通じて賑わいます。

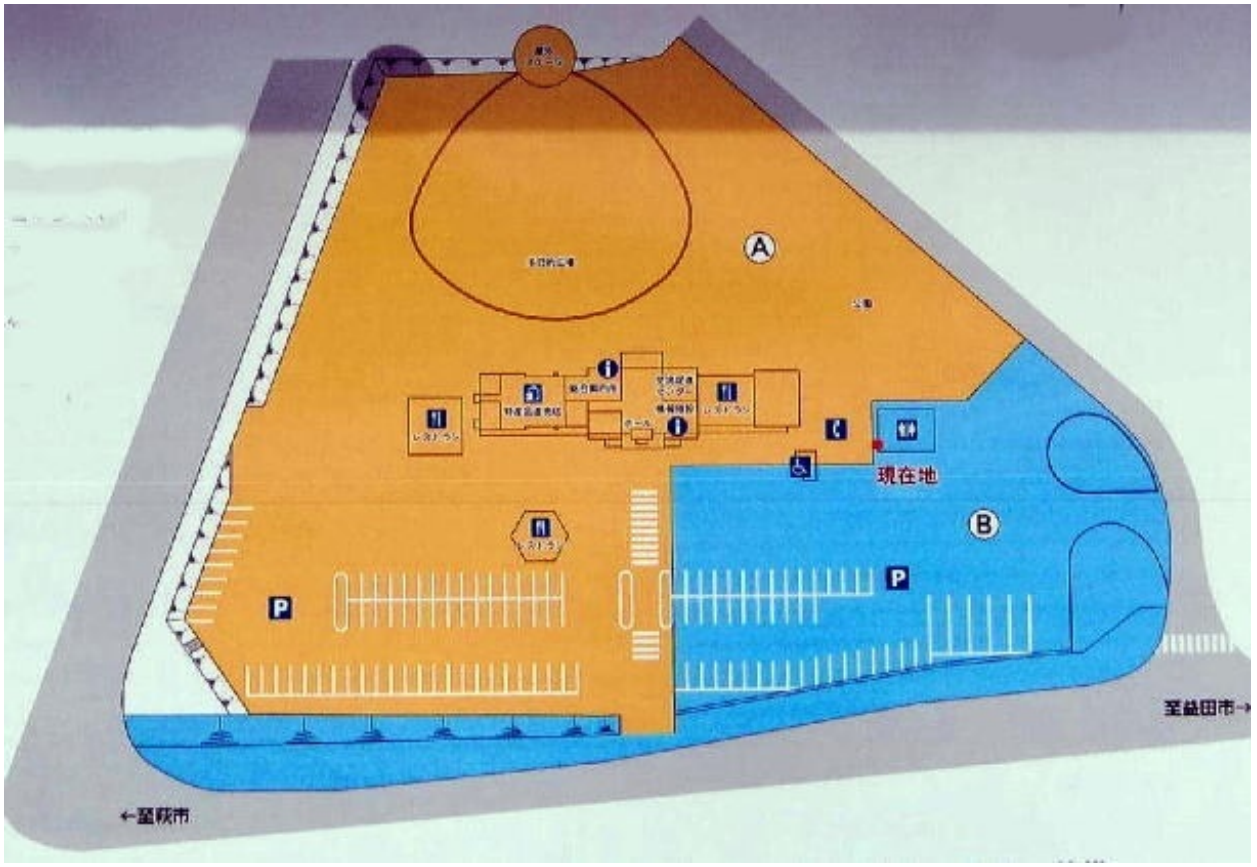


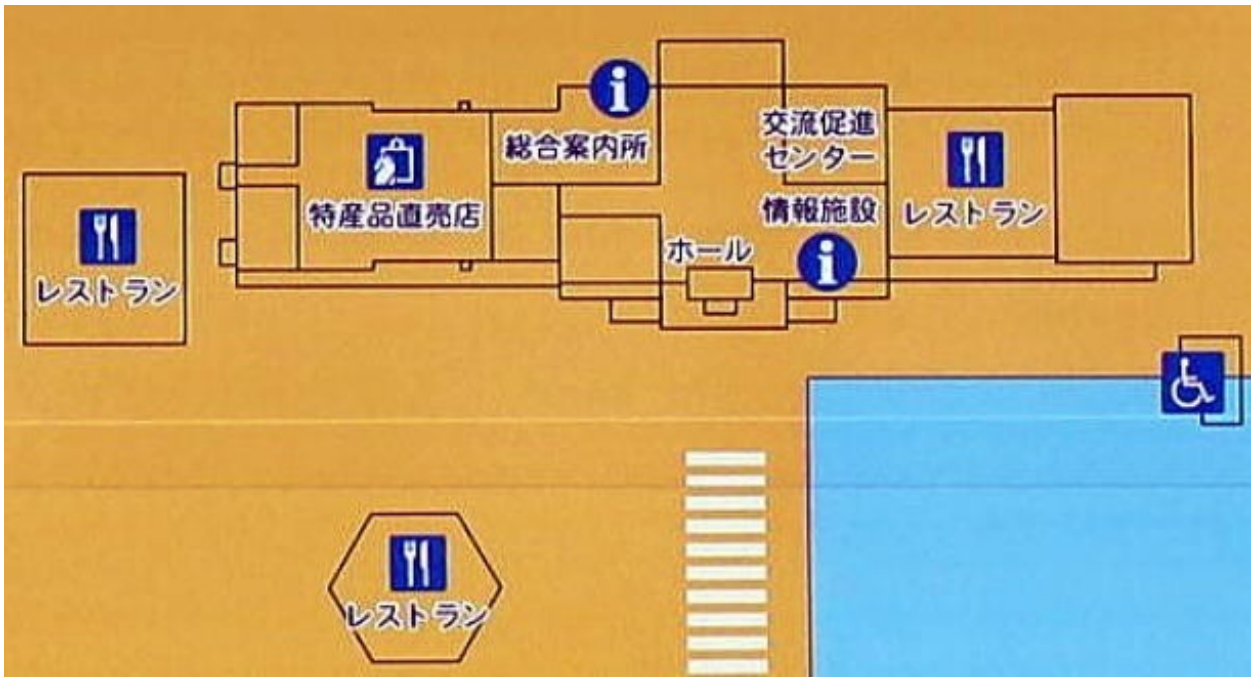
（ＨＰより借用）

その田万川温泉は、道の駅から５００ｍの距離にあり、“田万川キャンプ場”“ＲＶパークたまがわ”“瀬越海水浴場”も同じところにあります。

昨年（２０１３年）７月２８日、ここ田万川地区は未曽有の豪雨による水害に襲われました。
夏場の最も大事な時期にキャンプ場も閉鎖せざるを得なくなり、専門業者による洗浄などの災害復旧作業を経て、１１月上旬ようやく全面再開に漕ぎつけたものです。

道の駅ゆとりパークたまがわの、建物の中央部分は黒い六角屋根になっており、これは県指定文化財である “六角堂” をイメージしたものです。





これが道の駅の全体配置になります。

メインの横に長い建物の中央 “ホール” 部分が先程の六角の屋根ですが、駐車場中央付近にある “レストラン” と書かれている箇所も同じく六角の建物です。

こちらは“レストラン”と書いてあるけど、実際は農産物の直売所がメインで、その一角でうどん、ラーメンなどの軽い食事ができるようになっていました。

中央の玄関から中のホールに入ってみます。

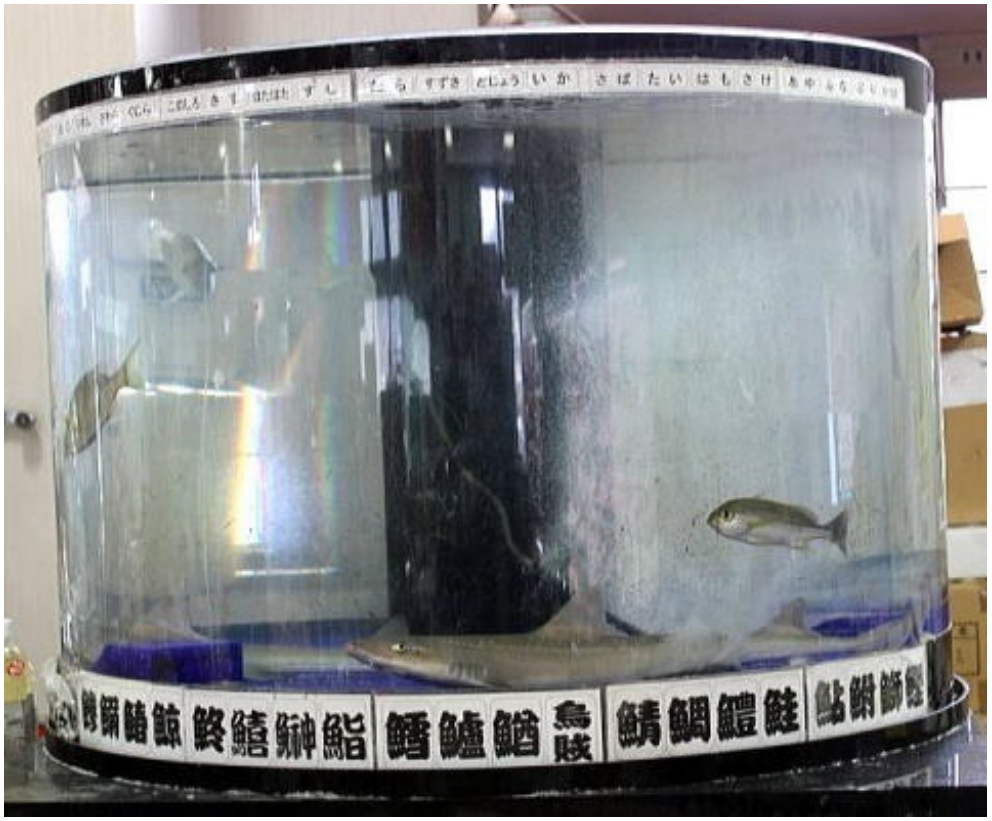
ここは情報コーナー兼、ゆったりとした休憩所になっています。
こんなものがありました。

“道の駅実験記念” と書いてあります。

この次に行く予定の、“道の駅阿武町” というのが道の駅の発祥の地と言われています。
道の駅の発祥経緯については次回の記事で詳しく触れたいと思いますが、1991年10月から翌年7月にかけて山口県、岐阜県、栃木県の計12か所において 「道の駅」 の社会実験が行われました。
その内の１箇所が、ここ “田万川” なのです。

ホールから左に進むと特産品直売所があります。

直売所の一角に鮮魚コーナーがあり、そこの水槽には魚が泳いでいます。



もっとたくさん泳いでいたはずですが、あんまり写っていないですね！(^_^;)

ここは建物の左右両方の端にレストランがあります。
お昼時なので、私たちは右端にある “ゆとり茶屋” に入りました。

ここは定食を頼むと、ご飯、味噌汁、お漬物が食べ放題になります。
でも私たちはうどんにしたのでお茶だけです。(^^ゞ

道の駅の裏側には “多目的広場” と “野外ステージ” がありました。
広々としていて、まさにゆとりのある道の駅だと思いました。

新潟王国
道の駅
ゆとりパークたまがわ

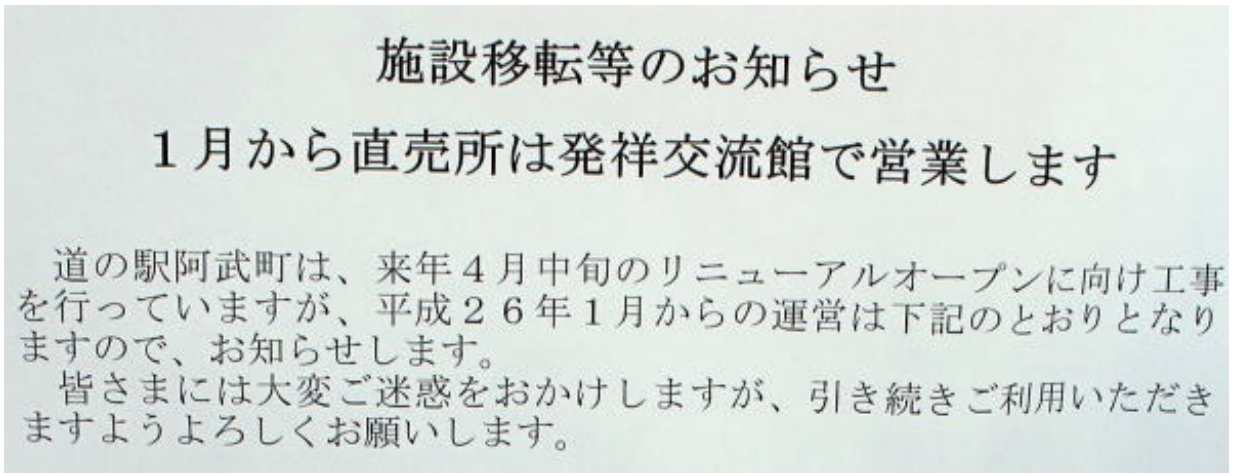
道の駅発祥の地！“阿武町”

次は日本海沿岸の国道１９１号を４０分弱走り

道の駅阿武町（あぶちょう）　にやってきました。

ここへ来るのも約５年ぶりなんですが、国道から敷地に入ると何だか様子が変です。

トラックやら重機やらが忙しく動き回って何やら工事をしています。
車を停めて近寄ってみると貼り紙がありました。

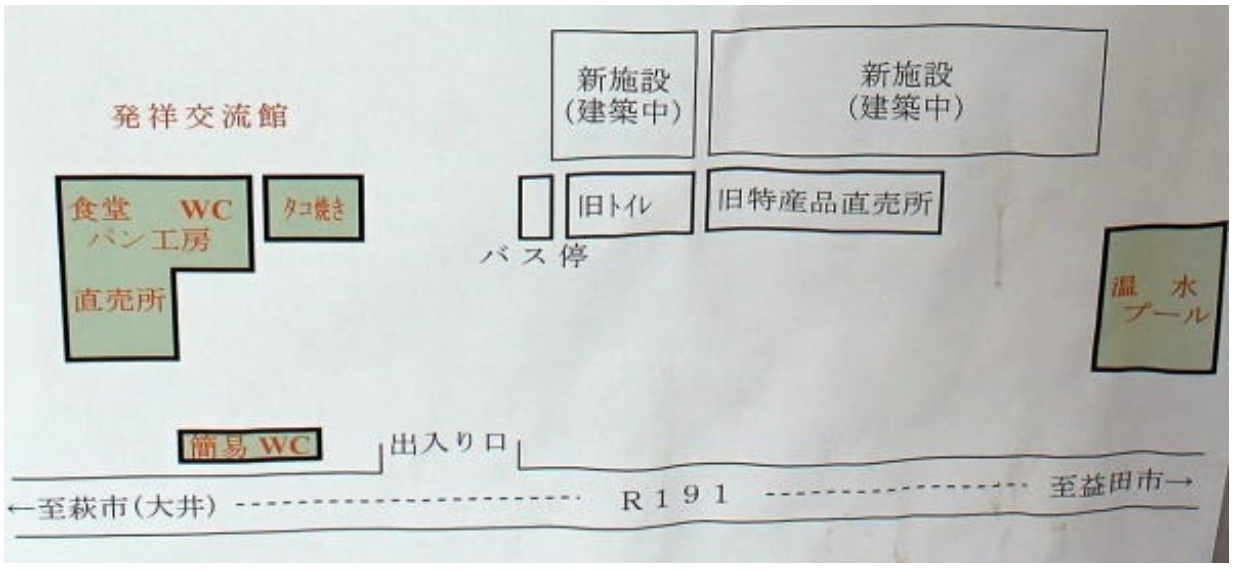


施設移転等のお知らせ

１月から直売所は発祥交流館で営業します

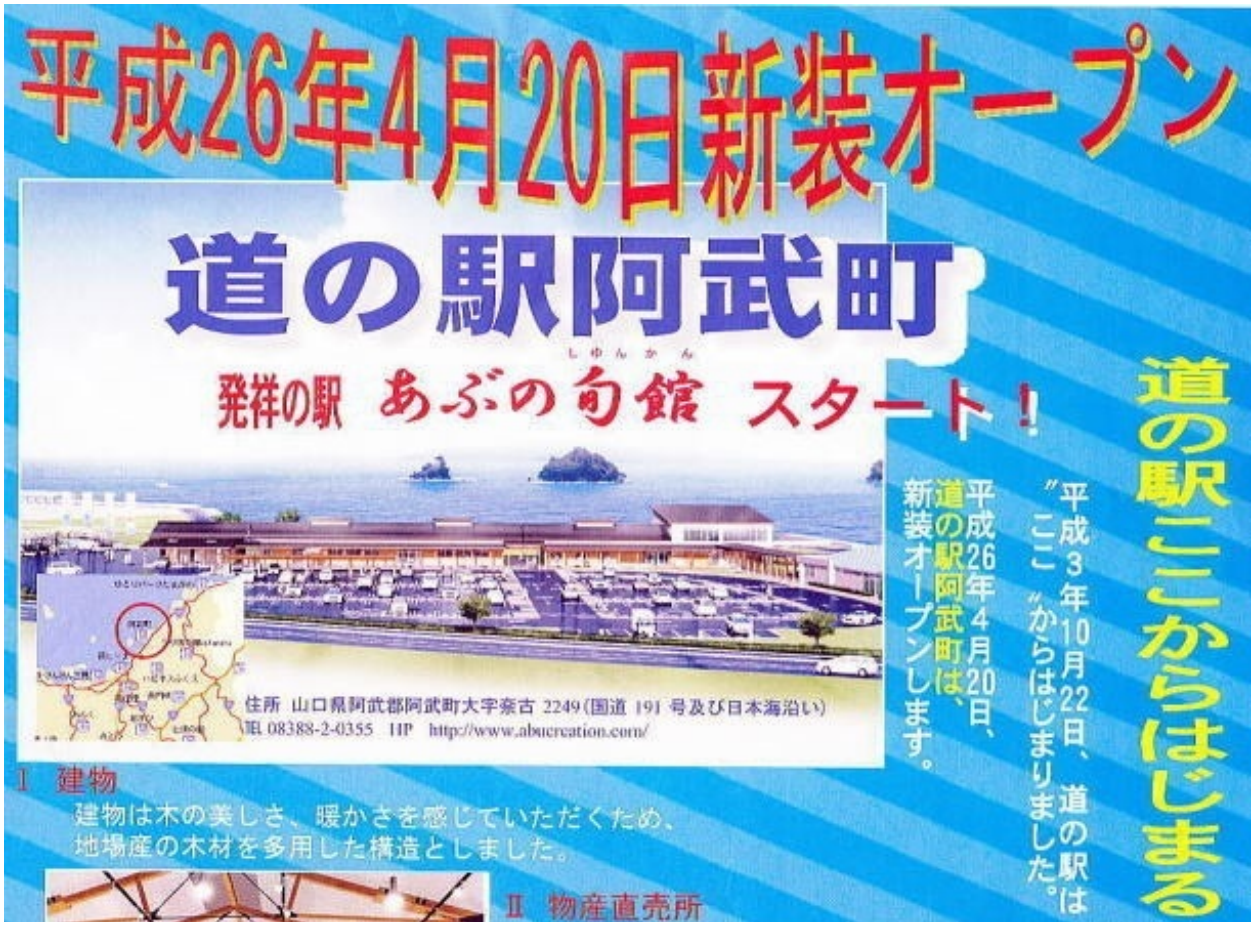
道の駅阿武町は、来年４月中旬のリニューアルオープンに向け工事を行っていますが、平成２６年１月からの運営は下記のとおりとなりますので、お知らせします。

皆さまには大変ご迷惑をおかけしますが、引き続きご利用いただきますようよろしくお願いします。



どうやらリニューアル工事があっているようです。

裏手に回ってみると、新しい建物がかなり出来上がっていました。



これが店内で見つけた新装オープンのチラシですが、随分と立派になりそうです。
これは是非、４月２０日過ぎにまた来なければなりません。

これが従来の道の駅の配置なのですが、“発祥交流館”の部分は従来通り営業しています。

観光案内所
パン工房
CAFE848

物産館の機能などは一旦こちらに移っているようですが、工事現場に使うような仮設トイレが外に並んでいました。

ご覧のように玄関には、“全国道の駅発祥の駅” と表示されています。

こちらの看板にも書いてありますね。
実は “道の駅発祥の地” あるいは “全国道の駅第一号” を名乗る道の駅は他にも何カ所かあります。

平成５年に発刊された 「道の駅の本」（旧建設省道路局監修） によると、道の駅の始まりについて次のように書かれています。

１９９０(平成２)年１月に広島市で行われた 「中国地域づくり交流会」 のシンポジウムでの 「鉄道に駅があるように、道路にも駅があってもいいのでは」 という提案がなされました。
この発言をしたのが、山口市阿東町にある船方農場グループ代表の坂本多旦さんです。

その発言をきっかけに、１９９１(平成３)年１０月から１９９２(平成４)年４月にかけて山口県、岐阜県、栃木県の３地域１２箇所において仮設の休憩施設を使い、“道の駅の社会実験” が行われました。
ここ阿武町や、前回訪問した田万川町が、その社会実験のなされた場所です。

正式には、１９９３年４月２２日に全国１０３箇所の施設が旧建設省により道の駅として登録されましたから、このすべてが 「第１号」 と言えるかと思います。

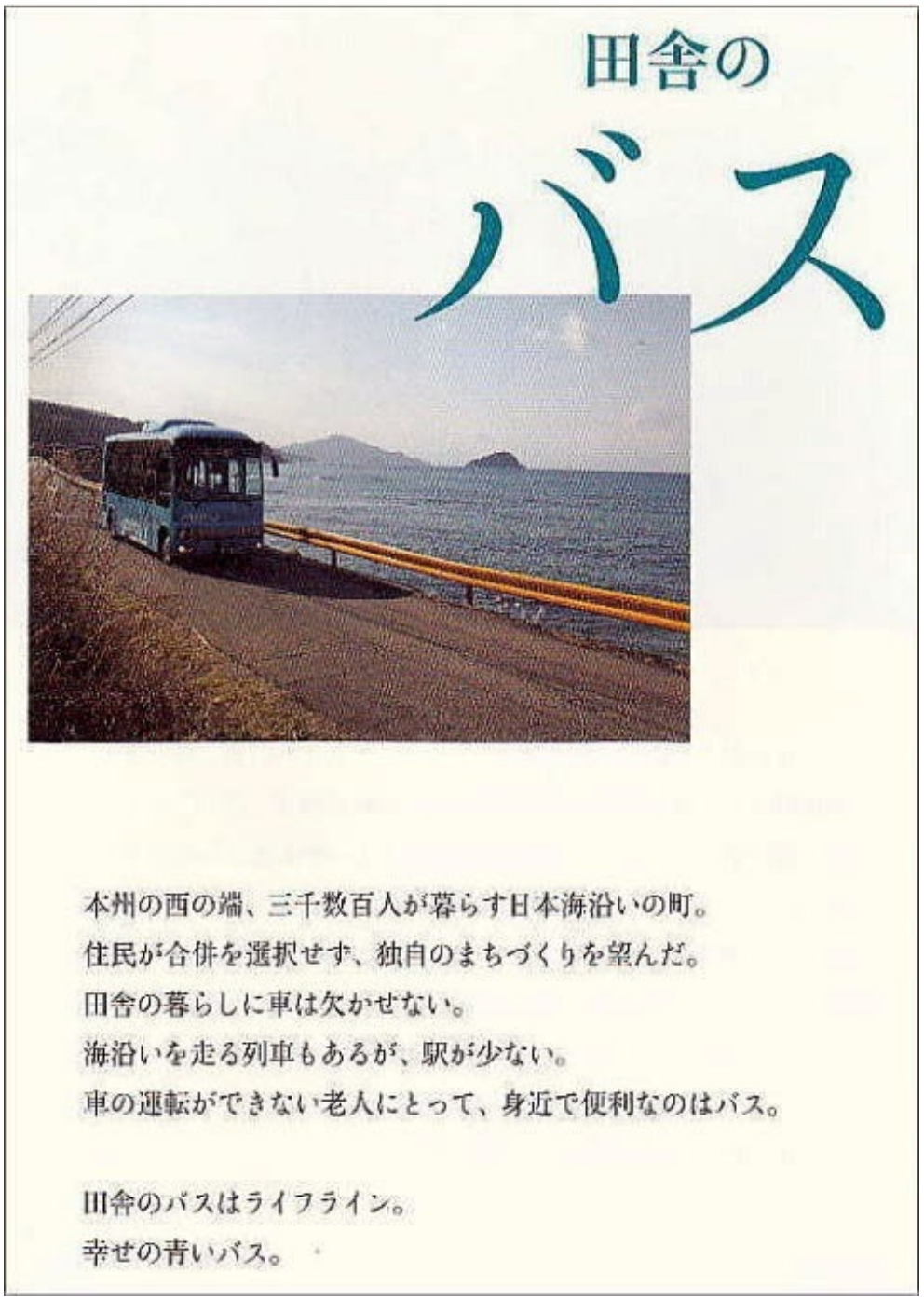
ご覧の石碑は、実は新潟県の “道の駅豊栄” にあったものです。

こちらは１９８８年（昭和６３年）１１月にできた “豊栄パーキングエリア” がもとになっていて、高速道路でなく一般道に初めてできた道路情報を提供する休憩所として “発祥の地” を名乗っています。

“発祥交流館” の中には、案内所、レストラン、情報コーナー、パン工房などがあります。
その奥が直売所です。

再び外にでて、道の駅の裏手にまわるとそこは海岸になっています。

沖合に浮かぶ小さな二つの島は “鹿島” という仲睦ましい夫婦島（男鹿島と女鹿島）で、カップルにとってのパワースポットになっています。



これは道の駅にあったリーフレットの最初のページです。

平成の大合併で合併せず、独自の街づくりを選んだ阿武町住民の幸せの青いバスは、ここ道の駅が始発駅になっていました。

海と緑が光りかがやく街
道の駅
あぶ
阿武町
ちょう
全国道の駅
発祥の駅
年
月
日

魚市場に直結！“萩しーまーと”

日帰り旅６カ所目、最後の目的地は

道の駅萩しーまーと　です。

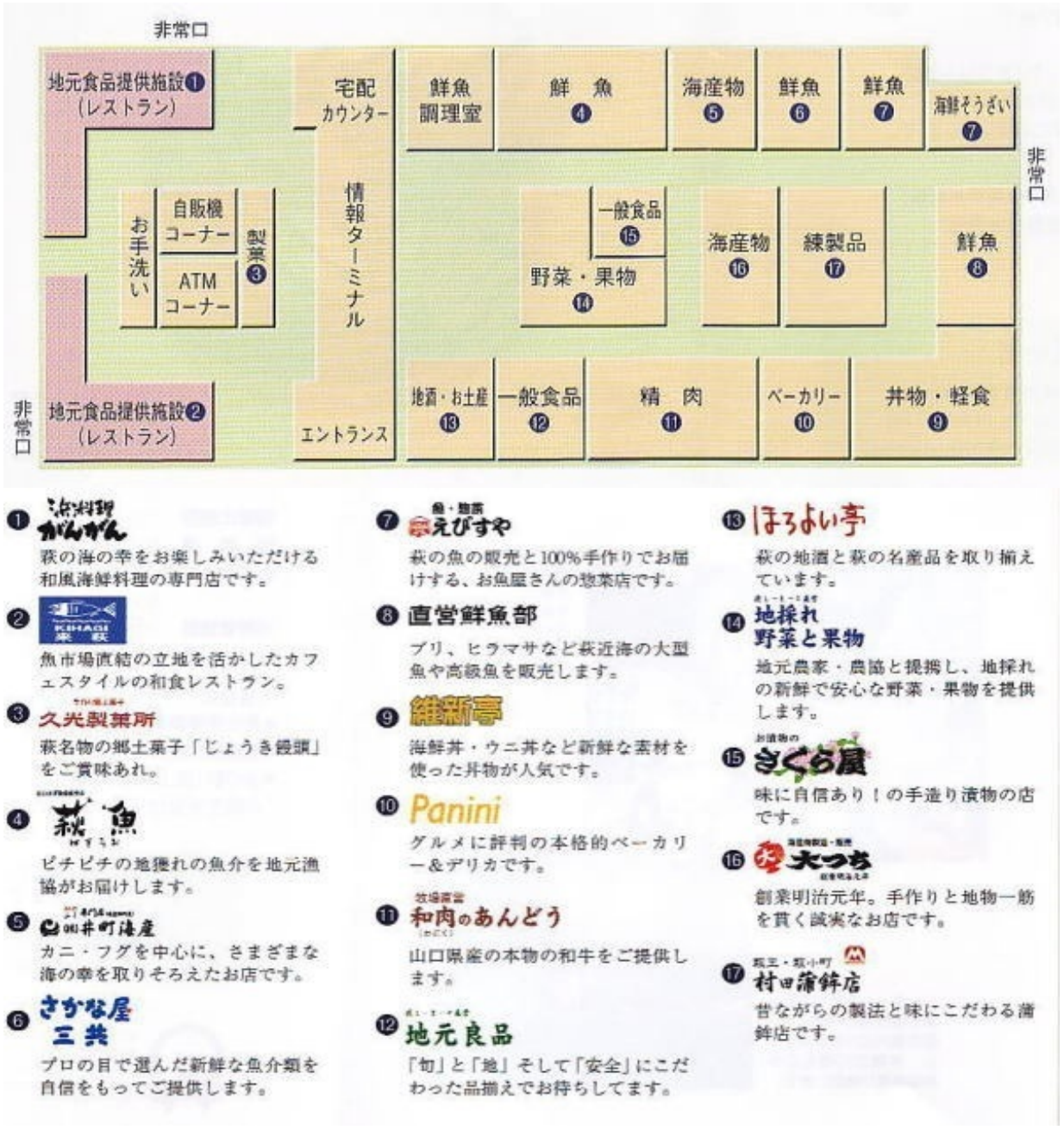
この道の駅は今回が３回目であり、私のお気に入りのひとつです。

道の駅はこの写真の左端にちょっとだけ見えている建物ですが、正面の横に長いところが萩の魚市場です。
魚市場には萩市管内の１８の漁港から、年間２５０種類もの多彩な魚種が集結します。

そして道の駅の左隣には山口県漁協の巨大な冷凍・冷蔵工場がありますから、道の駅には常に超新鮮な魚介類が並ぶのです。

道の駅は杉の原木を構造材として用いた木造建築で、内部は魚介類を中心とした市場を再現しています。

正面入口から中に入ります。



道の駅の内部はご覧の通り、１７の店舗があり、レストランだけでも３か所もあります。

入口に近いこちらのレストランは“来萩（きはぎ）”といい、カフェスタイルの和食レストランです。

もう一つ、奥側にあるお店が和風海鮮料理の、”浜料理がんがん”です。

今回は既に食事をすませているので中には入りませんでしたが、前回来た時はここで、“漁師のまかない飯”というのを頂きました。

このレストランの最大の特徴は、市場で買った魚介類をこのお店に持込み、好みの調理法で料理をして貰えることです。
これは“勝手御膳”といって、ひとり５００円の調理代は必要ですが、１グループ３種類までの調理ができますから、市場直結のこの道の駅ならではのユニークなサービスだと思います。

入口ホール付近で人がいっぱい集まっているお店があり、そこでは名物の“蒸気船饅頭”を焼いていました。

“蒸気船饅頭” は、幕末に萩沖に出没する黒船を、「まんじゅうにして食べてしまえ」 と気勢を上げる為に誕生したそうで、幕末以来約１２０年もの歴史があります。

焼き方は “鯛焼” に似ていますが、鯛焼が誕生したのは昭和の初期ですから、こちらの方が “元祖” ということになりますね。（笑）

私たちはこの饅頭は買わず、一緒に売っていた “夏みかんゼリー” の試食が美味しかったので、これを３種類も買ってしまいました。

さかな屋

店内はご覧の通り、昔ながらの市場の雰囲気で、見て回るのがとっても楽しいのです。
ここでも、いろんなものを買ってしまいました。

６カ所の道の駅を回り終え、１５時４５分に帰途につきました。
中国自動車道には “美祢東ＩＣ” から入りますから、昨年１０月に起きた “桜塚やっくん” の事故現場を通ります。
この付近、確かに高速にしてはカーブの連続で上り下りも多いのです。

私たちもいつも以上に気を引き締めて走り抜けました。

奈良の大仏様のふるさと！“みとう”

先週土曜日に、山口県の道の駅４か所を日帰りで回ってきました。

今日からはそのレポートですが、最初に訪問したのは
道の駅みとう　です。

福岡県の我が家から九州自動車道、中国自動車道と走り“美祢ＩＣ”で一般道に下りて約２時間半で到着しました。

道の駅
みとう
Mito
大田河川公園
Oda Riverside Park

この道の駅も５年半ぶりくらいになります。
前回来た時はルートの最後で閉店間際だったこともあって、あまり印象がなかったのですが、こんなに大きかったかな～と、ちょっと意外でした。

こんな垂れ幕がありました。

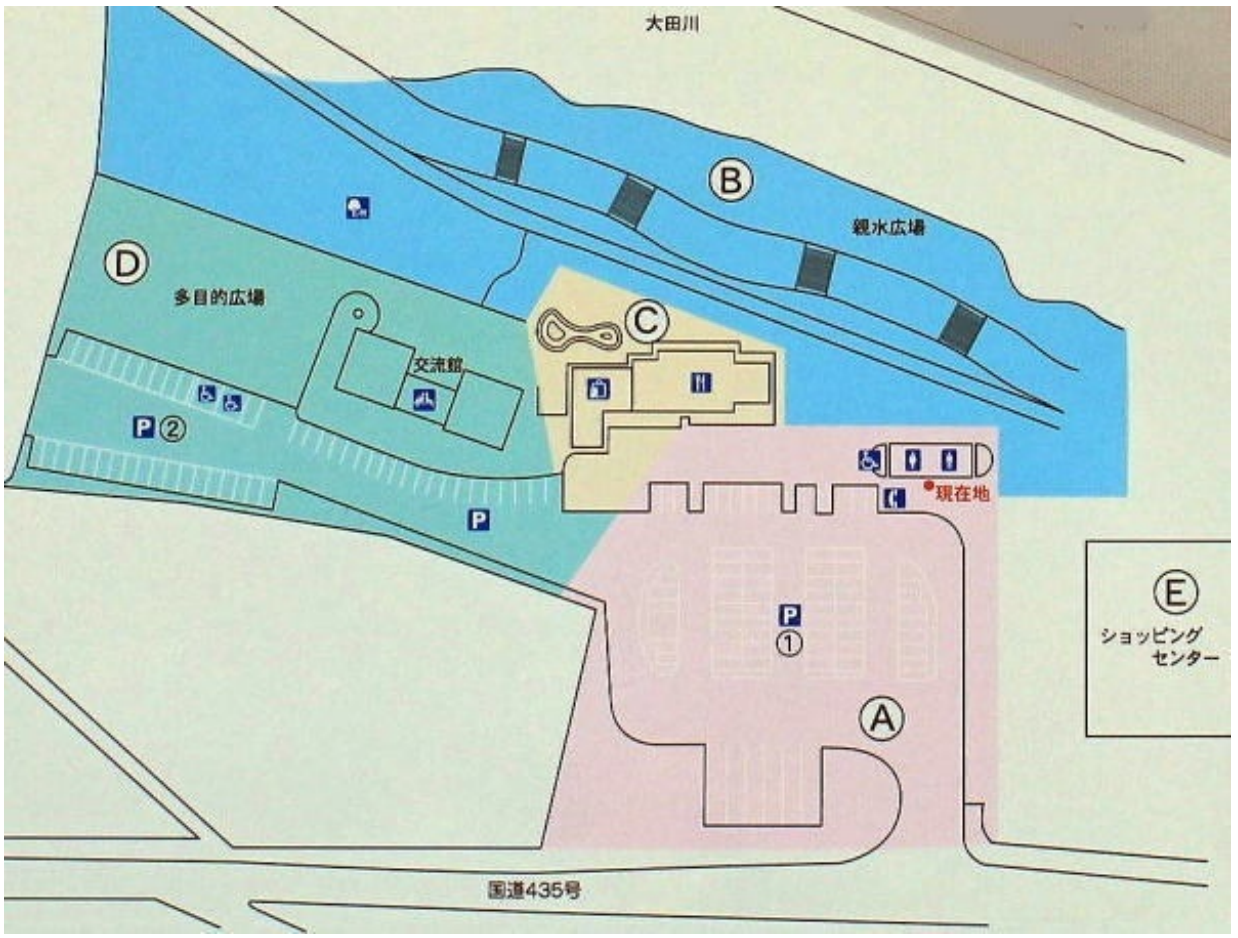
“このまち奈良の大仏のふるさと” って書いてありますね！

実はこの道の駅にも大仏様がいらっしゃるのです。

これがその大仏様で、とってもふくよかな優しいお顔をなさっていますね。

実はここ”美祢市美東町”にはかつて日本最古といわれる”長登銅山（ながのぼりどうざん）”があり、７世紀末から８世紀初めにかけて銅を中心とした鉱物を産出しました。
奈良東大寺の大仏様の建立の際、ここ長登銅山の銅を献納したと伝えられており、“大仏様のふるさと”といわれるようになったのです。

道の駅みとうの高さが４メートルの大仏様の石像も、それを記念してつくられたものです。



道の駅のすぐ裏を ”大田川” が流れており、そこは親水公園になっています。

公園にはベンチや椅子、テーブルなどが整備されており、家族連れでくつろぐ人々の姿があります。

周辺の写真を撮っていると、町おこしをやっている、という男性から声をかけられました。
「九州からこられたのですか？」と言われたので、おそらく車を降りるときから見られていたのかと思います。
道の駅を回っているのだと話すと、「他の道の駅には無い、ここにしか置いてないものがありますよ！」と連れて行ってくれました。

案内してくれた先にあったのが、これらの花壇です。
この鉢は、よく見ないと分らないのですが実は “古タイヤ” でできているのです。
確かに鉢の内側にタイヤの溝があります。
土台の部分がホイールで、要するにくるっと外側に開いて形を整え、色を塗った訳ですね。

廃タイヤというのは日本では総本数９４００万本も出ているそうで、その９１％は何らかの形でリサイクルされます。
ただ、そのリサイクルの際にＣＯ２が発生しますから、それを発生させずに再利用できないかと町の人たちで考え、誕生したのがこの“エコ鉢くん”なんだそうです。

男性は、「ちょっと待ってください。パンフレットを持ってきます」と自分の車に戻り「九州でも紹介してください」と、パンフレットを手渡してくれました。

さて、道の駅の本題に戻りたいと思います。

建物の一番手前は “レストラン” になっていました。
ここに “食” と大きく文字が書いてありますね。
この道の駅の特徴の一つは、このように “文字” や “書” でいろんな案内が書いてあることです。
たとえばこんなものもあります。

これは “喰” ”おかず” ですね。

こちらは “厠” つまりトイレです。（笑）

ちょっと見にくいかもしれませんが、「道の駅みとう」 という文字の下に 「ごっぽ しあわせます」 と書いてあります。
これは、「大変助かります」 という意味の方言なんだそうです。

一番奥にあったこの建物が物産館で、情報コーナーや道の駅スタンプもここにありました。

ログハウス風な建物に特産品がきちんと整理されています。
ちょっと気になった商品がこちらです。

さきほど“ごぼうまみれ”という釣り看板があったと思いますが、ここに並んでいるのは全部ごぼうを使った商品です。

レジにおられた駅長さんに尋ねると、「美東はごぼうが特産なので、色んな商品を作っているのですよ！」とのことでした。
私たちはこの手前の下にあるごぼうのスナックを買ったのですが、あっというまに食べてしまいました。

道の駅の敷地の一番端に、農産物の直売所がありました。

そこにあったのがこの “美東ごぼう” です。
でも結構値段は高いようで、嫁は 「たかがごぼうに●●●円も出せん！」 といって買いませんでした。(^^;)

道の駅みとう
●奈良の大仏さまのふる里●
山口県美東町

地元のスーパー風！“あさひ”

２か所目は山越えルートで国道２６２号に出て

道の駅あさひ にやってきました。

ここは既に “萩市” になるのですが、日本海側の萩と、瀬戸内海側の防府市を結ぶ歴史街道 “萩往還” の途中になります。
元々は参勤交代の為に整備された萩往還は、山陽と山陰を結ぶ重要な交通路となり、幕末には吉田松陰や坂本龍馬などの勤王の志士も往来しました。

この道の駅周辺にも、数々の史跡が残っています。

祝 萩市佐々並市
カレー

道の駅のすぐ横を流れているのが “阿武川” です。
この川での魚釣りには “遊漁証” が必要ですが、道の駅がその取扱所にもなっています。

正面に “祝　萩市佐々並市　国の重要伝統的建造物群保存地区に認定” という文字が見えます。
“佐々並市” は “ささなみいち” と読み、旧旭村であるこの地域のことを言います。
かつて参勤交代で藩主が休憩するお茶屋を中心に発展してきた農村集落で、萩往還を代表する街並みが残っているのです。

正面入り口を入って左側には小奇麗なレストランがありました。
以前来た時はなかったような・・・と思っていたら、昨年（２０１３年）７月にリニューアルされたのだそうです。

５年半前に来た時も感じたのですが、ここは地元の方が日常的に買い物をするスーパーといったイメージです。
道の駅としての特徴には乏しいので、早々に立ち去って次の道の駅を目指しました。

維新の志士が立つ！“萩往還”

３か所目は

道の駅萩往還（はぎおうかん）　にやってきました。

道の駅あさひからは２０分弱の距離ですが、萩市街地に入る少し手前にあります。
この道路は元々 “萩有料道路” といって、この道の駅の真ん前に料金所があったのですが、現在は無料開放されています。

この写真の左奥、“ようこそ萩” と書かれた瓦屋根が見えると思いますが、これが料金所の跡です。

道の駅自体も、平成２２年１０月にリニューアルされ、以前に来た時より随分と立派になりました。

“萩往還”というのは前回の記事でも触れましたが、日本海に面した萩城下町（萩市）と、瀬戸内海側の海港三田尻（防府市）を結ぶ、全長５３ｋｍの街道のことです。

関ヶ原の戦いで西軍について敗れた毛利輝元は、領地が周防・長門の２か国に減らされます。
新しい領地の本拠地として、山口、防府、萩の３か所を候補に挙げたのですが、徳川幕府の意向で最も交通の不便な萩に決められてしまいました。

そこで参勤交代の為の“御成道（おなりみち）”として整備されたのがこの“萩往還”です。
これはほぼ直線に結ばれているため、急峻な坂道や峠などの難所の多いのが特徴です。
江戸時代の庶民にとってもこの街道は山陽と山陰を結ぶ重要な交通路となり、幕末には多くの志士が行き交う、歴史上重要な役割を担ってきたのです。

道の駅の建物の前に、幕末の維新の志士たちの像が立っています。

この３人は、中央が “吉田松陰” 、左が “高杉晋作” そして右端が “久坂 玄瑞” です。

こちらの二人は、左が “品川弥二郎” 右が、“山田顕義” です。

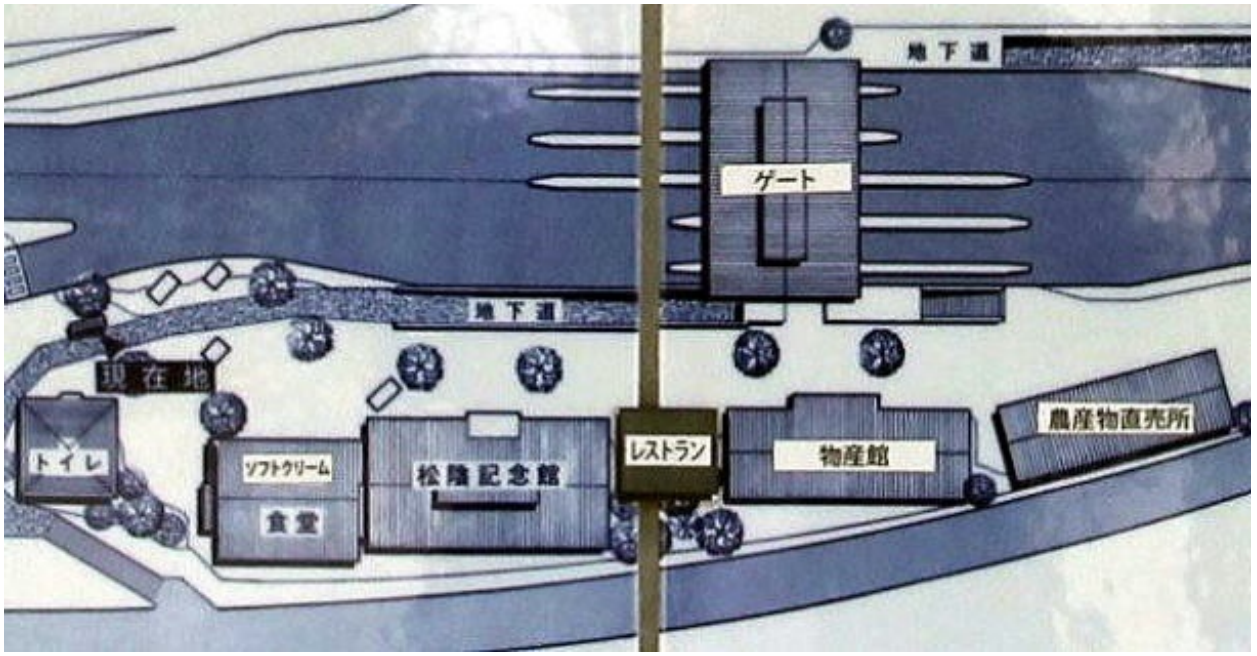
逆光で少し写りが悪いですが、上の３人は左から、“山縣有朋” “木戸孝允（桂小五郎）” “伊藤博文” そして下の二人は、“天野清三郎” “野村和作” です。
少しなじみの少ないお名前も混じっていますが、いずれも吉田松陰の門下生で、明治新政府などで活躍された人物です。

“萩” といえばご存じのとおり幕末の長州藩で維新の志士たちが活躍した地ですから、この道の駅も先ほどの１０体の銅像と共に、“松陰記念館” が併設されています。

ここは無料で見学でき、維新で活躍した人物やその歴史についての様々な資料が展示されています。

ボランティアの地元の方々が何人かおられ、詳しく解説もしてくれます。
その一角に作られているのがこちらの部屋です。

これは、吉田松陰の“松下村塾（しょうかそんじゅく）”を再現したものです。
ここでは実際の松陰と塾生の講義のやり取りが、音声でも再現されています。
ここで学んだ門下生が明治維新を成し遂げ、明治新政府で活躍してきたのです。



道の駅はこのような配置になっていて、この両端に広い駐車場があります。

一番奥の “農産物直売所” がこちらです。

その手前の、“物産館” がこちら！

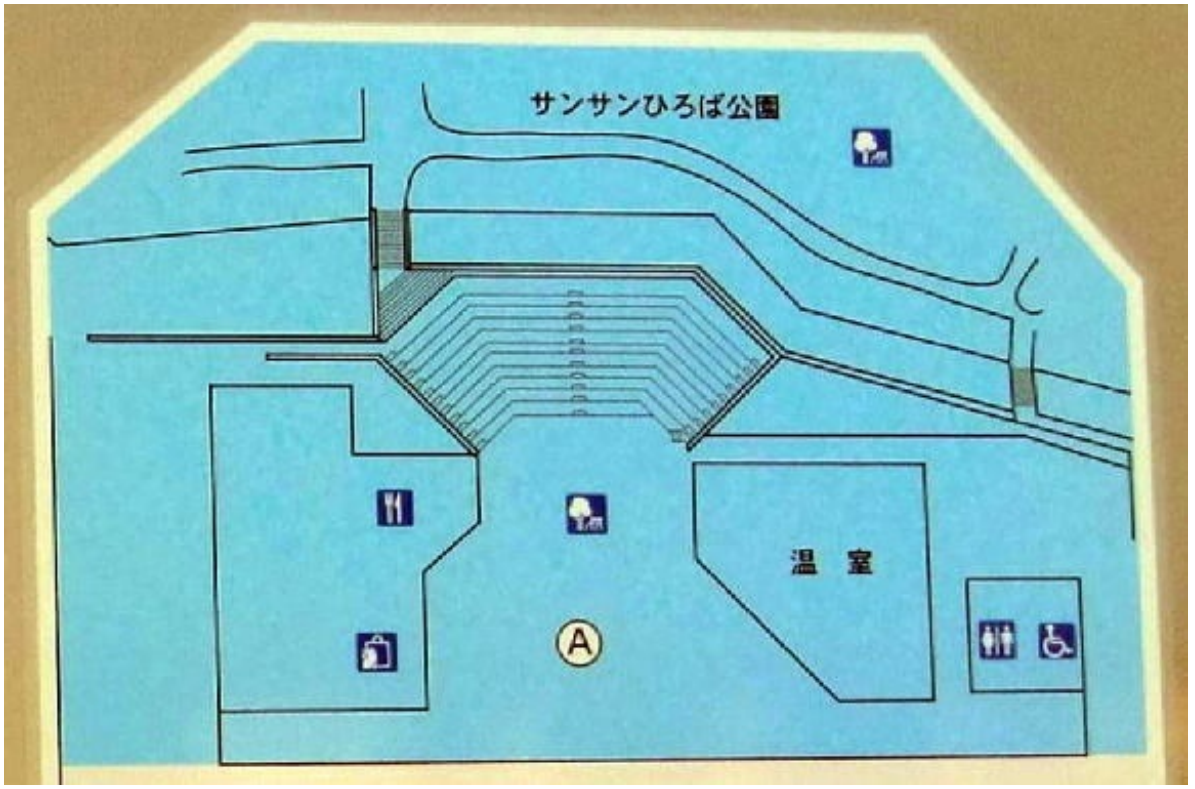
萩の特産物や海産物も豊富で、私たちも色々買い込みました。
歴史を学び、買い物も楽しめ、食事処も２か所あって、とても充実した道の駅だと思います。

温室のある道の駅！“ハピネスふくえ”

回の日帰り旅の最後の目的地である
道の駅ハピネスふくえ　に向かいました。

道の駅萩往還からは、萩の市街地を経由して１４ｋｍ、２０分強の道のりです。
途中、“松陰神社”の前を通りますが、半年前に行ったばかりなのでスルーです。
この松陰神社には、萩往還の道の駅に再現されていた、“松下村塾”の本物があります。

道の駅ハピネスふくえは、ご覧のようにユニークな建物です。



半透明の屋根の下は広場になっており、その先に階段があって、一段高いところに “サンサンひろば公園” があります。

広場の左手には情報コーナーと食事処があります。

今日の予定を順調に消化したので、少し遅いですがここで食事にしました。
店内にお客さんは誰もおらす、食堂のおばさんたちがテーブルに座っておしゃべりしておられました。
私は野菜炒め定食、嫁はカキフライ定食を注文。

今回はありふれた料理なので、写真は撮っていません！(^^;)

お腹が落ち着いたところで、もう一方の建物へ行ってみます。
正面右側のこちらの建物は、大きな温室なのです。
５年半前に来た時は、ここにはシクラメンをはじめとするさまざまな植物が展示・販売されていました。

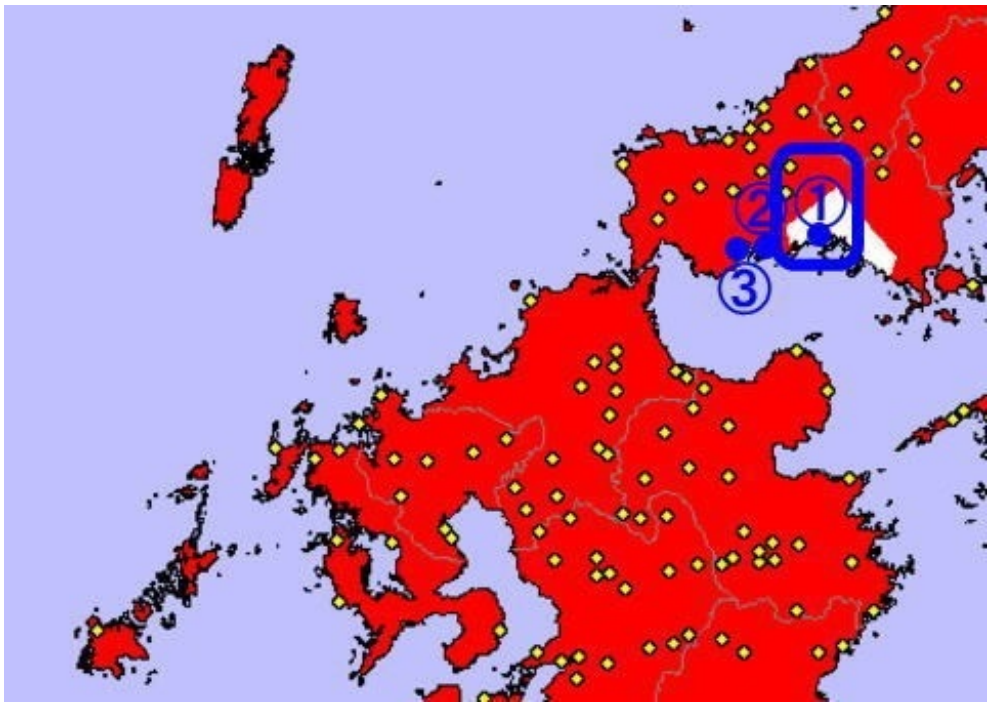
ここ旧福栄村は、山林が面積の８割を占め、高齢化率も４０％前後という農山村ですが、近年シクラメンなどの花卉栽培に力を入れてきました。
この道の駅の温室もその象徴だと思います。

でも、今回少し様子が変わっていました。
花卉類は隅の方に少しだけで、農産物主体の店舗になっています。
時期的なものがあるのかもしれませんね。

ただ、先ほどの食堂もそうですが、土曜日というのにほかの道の駅とはうって変わった、閑散とした様子がちょっと気になりました。

新規オープン！“ソレーネ周南”

１週間前の土曜日に、山口県の道の駅３カ所を回ってきました。
最初にご紹介するのは、今年（２０１４年）５月１７日にオープンしたばかりの
道の駅ソレーネ周南　です。



ここは山口県の東南部、“周南市” にあります。
私のところからは日帰り圏内の新規店なので、ずっと気になっていたものです。

福岡からだと九州自動車道から関門海峡を渡って中国自動車道に入り、山口ジャンクションで山陽自動車道に進路を取ります。
そして “徳山西ＩＣ” を下りるとすぐの国道２号沿線にあります。

我が家からは３時間の道のりでした。

周南市は北部を中国山地、南部は瀬戸内海に挟まれた地域で、人口は約１５万人、面積、人口とも山口県内の第４位になります。
周辺の光市、下松市とともに “周南広域都市圏” を構成しあわせて２５万人の商圏があります。

その周南市に今年５月、ＪＡ周南、山口県漁協、徳山商工会議所など１１の地域団体の出資を受け、総工費１９億円でこの道の駅はオープンしました。

“ソレーネ周南” の “ソレーネ” というのは山口県の方言で “それいいね！” を意味し、周南市民など４２７件の応募の中から選ばれた名前です。

道の駅の全体はご覧の通りです。
道の駅の一番の特徴は、ドーム型の屋根と、その下の屋根付き広場だろうと思います。

山野

そしてその屋根付き広場を通り抜けた裏手には川が流れ、“親水公園” があります。

ここは階段で川縁まで下りてゆくことができ、子ども達は水遊びを楽しむことができます。

屋根付き広場では、この日は農産物だとか、花卉の苗などがたくさん並べられていました。
その値段の安いこと！

例えばハイビスカスの苗が、すべて“１００円”なのです。
私は地元ホームセンターで５００円前後で買ったのとほぼ同じサイズだったのでショックを受けました。(+_+)

情報コーナーでスタンプを押した後、“物販施設”に入ってみました。

ここには直営店４店舗とテナント４店舗が入っていて、それぞれ個性的な商品を販売しています。

例えば、一番奥にあった“ＢＡＲる　長州ピンチョス”というお店はこんな具合です。

ここは「ヨーロッパ居酒屋風バル」といって道の駅への出店は全国初です。

並んでいる食品は、例えばウナギの寿司だとか、とにかく見たことにないようなものばかりでした。
でも、お値段もそれなりに、だったので買うのは躊躇しましたけど！(^^;)

このお隣にレストランがあります。
ただ、昼食の時間帯がいくつかに決まっているらしく、予約をしてその時間に行かなくてはなりません。

私たちは、お店でお弁当を買い、休憩所で食べることにしました。

これが “研修交流室” なのですが、この日は自由に中で休憩できるようになっており、皆さん思い思いにお弁当を買って食事をされています。

私が買った弁当は地元特産の “タコ” を使った “へたこ飯” です。
タコ飯の上に、タコのフライが乗っています。

地元ならではのお弁当で、とっても美味しかったです。(*^▽^*)

８月５日にテレビ東京系で放映された“ガイアの夜明け　【驚きの深化をとげる道の駅】”という番組で、この道の駅ソレーネ周南も取り上げられていました。

この時は、先日紹介した群馬県の、“川場田園プラザ”それに愛媛県の“よしうみいきいき館”そしてここソレーネ周南の３カ所が特に詳しく取材されていました。

この道の駅の駅長さんはリクルートのご出身です。
なんとレストランの調理もご自身でなされ、駅長として道の駅全体を取り仕切ってもおられます。

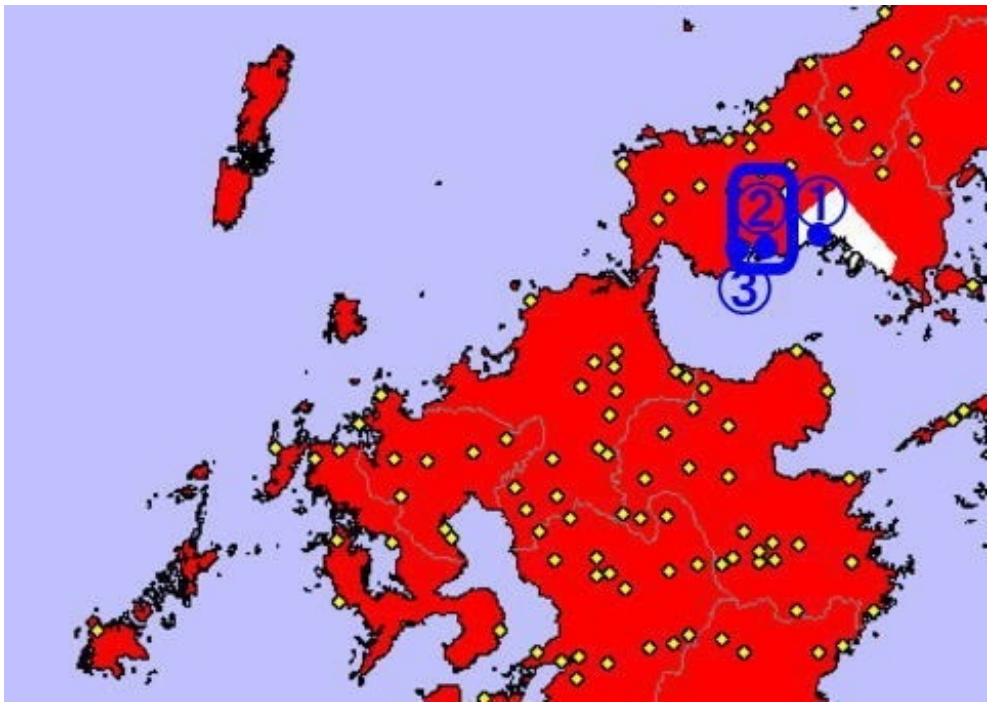
地元に密着し、地元に還元できる道の駅を目指し、まったく新しいことに次々に取り組んでおられます。
周南市には山間部の過疎地や瀬戸内海の離島も多いのですが、例えば山奥のおばあさんたちの組合でつくるお豆腐を仕入れて道の駅で販売し、逆に買い物に不便なおばあさんたちの為に、道の駅の新鮮な食材などを山奥に運んで販売する試みも始めておられます。

離島のお年寄りの生きがい造りの為に、おじいさん達が育てたトマトを道の駅で自分で値段をつけて販売し、作る喜び、売る喜びを実感させる取り組みもなさっています。

これからの道の駅のあり方を示す、モデルケースになることと思います。

車エビ養殖発祥の地！“あいお”

折角周南市まで来たので、帰り道にある道の駅に２か所立ち寄りました。
その１カ所目は、
道の駅あいお　です。



ここは、“山口市秋穂（あいお）”になりますが、先ほど行った道の駅ソレーネ周南からは２９ｋｍの距離で、３０分ほどで到着しました。
秋穂は瀬戸内海に面しており、農業と漁業のまちで、特に“車エビ養殖発祥の地”として有名です。

（パンフレットより借用）

「えび狩り世界選手権」というのは１９９１年から始まったイベントで、秋穂の海水浴場の一角を網で仕切り、その中に体長15センチほどのクルマエビを１万５０００匹ほど放流し、参加者が時間内に手づかみで何匹獲れるかを競うものです。
参加費は必要だけど獲った車エビはそのまま持ち帰ることができるので、１６００名の参加者枠に毎年２０～３０倍の応募があるのだそうです。

海外からの参加者もあるので、「世界選手権」と銘打っているそうで・・・(^_^;)

この道の駅ですが、三角屋根がいくつか連なったかわいい形をしています。
桜色のこの建物はエビをモチーフにしており、上空からみるとエビの形なのだそうです。

上空からの写真や建物の配置図がないので本当かどうか確認できませんが・・・(^▽^;)
それともう一点あるのですが、この写真では分かりづらいので一部を拡大してみましょう。

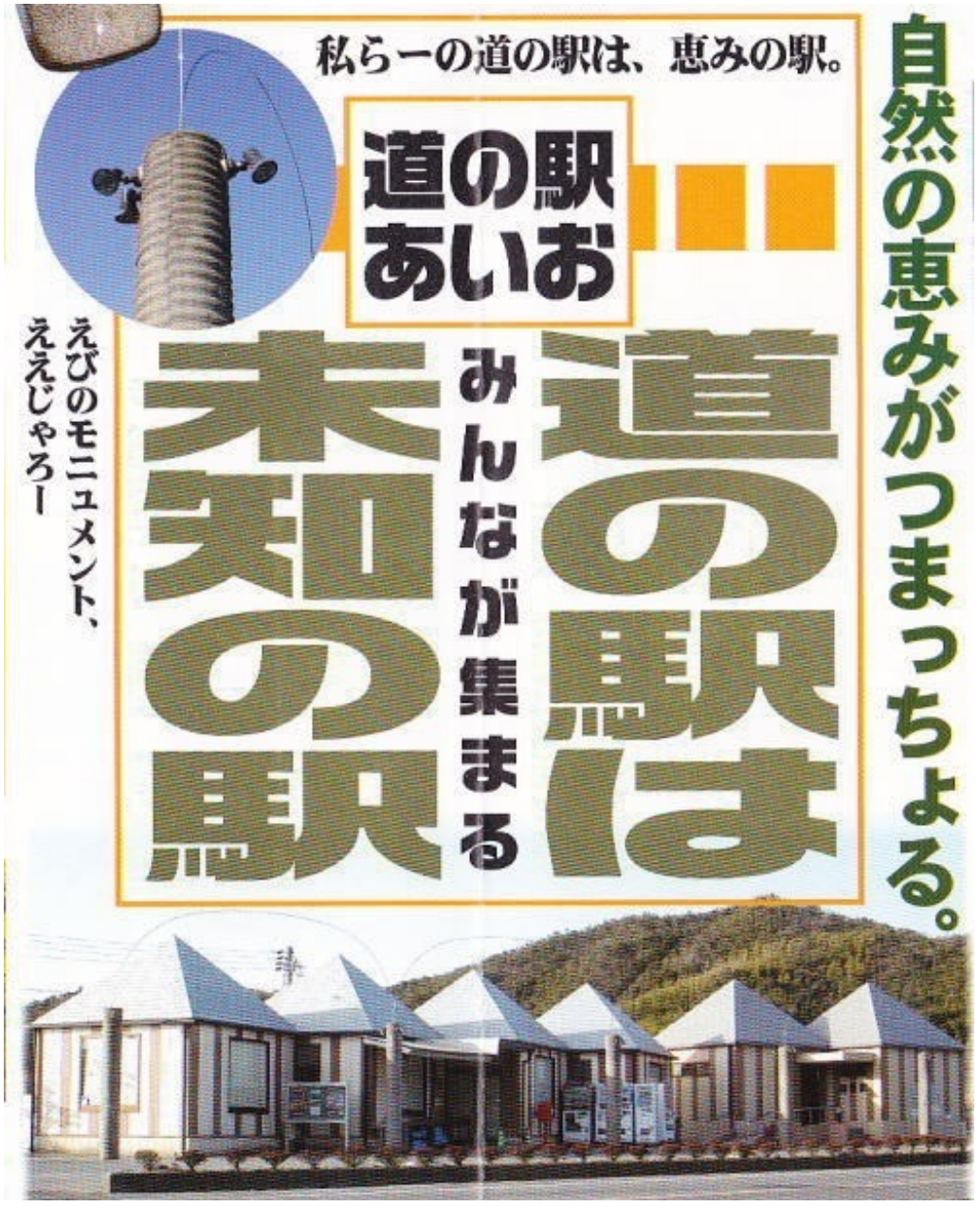
建物の前に並んでいるモニュメントからワイヤーが伸びていますが、これは“車エビのひげ”なのだそうです。
そして２つのライトが、“車エビの目”をイメージしています。

道の駅の入り口は並んだ三角屋根の真ん中付近にあります。
中に入って、左手にレストランがあり、右手が特産品販売のコーナーです。

上の写真はレストランの方向ですが、さすがに、エビフライ定食、エビ焼飯、エビ雑炊といったエビを使った料理が人気です。

特産品コーナーは、結構狭いのですが、冷凍ショーケースにはちゃんと車エビも入っています。
あとから考えると、本場だけあって相場よりかなり安かったように思います。

海はもちろん、
自然があふれちょる
ええとこがよーけいあるいわ。
新山口駅
四辻駅
山陽本線
大道駅
山口県セミナーパーク
山口県消防学校
正八幡宮
大師寺
六角堂
東泉寺
福楽寺
道の駅
あいお
防府新大橋
らんらんドーム
山口市大海総合
センター
周防大橋
山口市秋穂総合支所
秋穂観光協会
秋穂小学校
長徳寺
大海小学校
秋穂中学校
大昌寺
JA山口中央秋穂支所
善城寺
禅光院
遍明院
国民宿舎 海眺の宿
あいお荘
中道海水浴場
草山公園
■秋穂彩時記
お大師まいり（旧暦の3月20日～21日）
えび狩り世界選手権大会（8月～9月）
えび供養祭（10月）
あいお祭り・あいお花火まつり（11月）
浜村杯秋穂ロードレース（11月）
あいお道の駅まつり（12月）

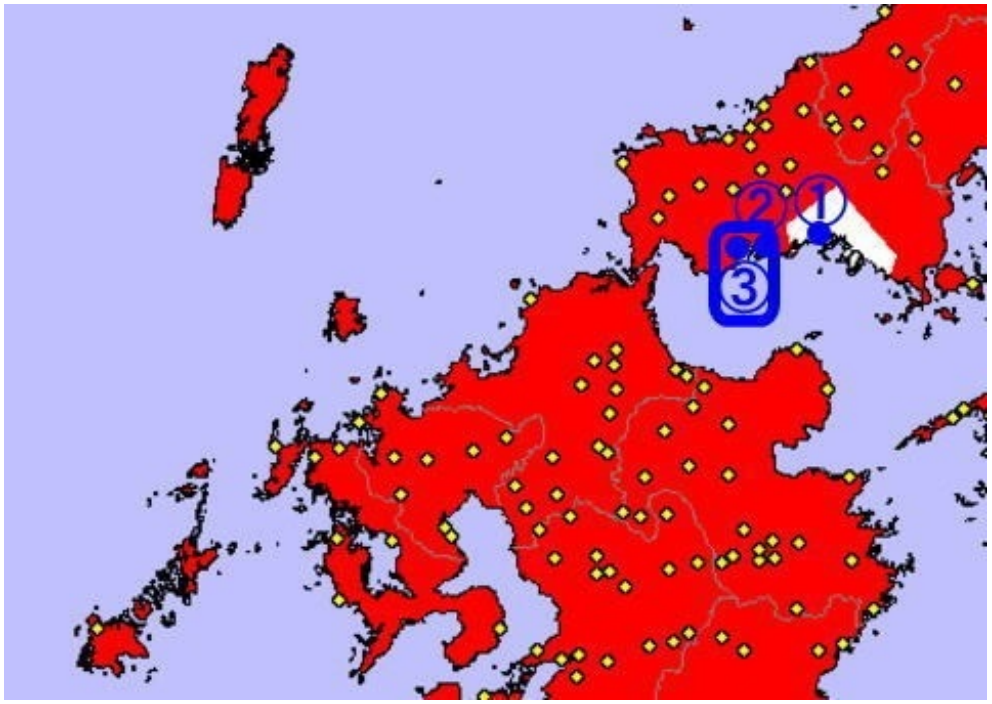


小ぶりの道の駅ではありますが、地域の特徴を活かしていると思います。

きらら博の跡地！“きららあじす”

新しい道の駅訪問のついでに立ち寄った最後は、

道の駅きららあじす　です。



ここは、その前に訪れた「道の駅あいお」 からは、１０分ほどしかかかりません。
“山口市阿知須（あじす）” では、２００１年に２５０万人の入場者を記録した “山口きらら博” が開催されました。

その跡地は現在、「山口きらら博記念公園」 になっており、自然観察公園、スポーツ交流公園として、様々な施設が整備されています。

道の駅は、その記念公園の一角にあります。

この案内マップの中に、“多目的ドーム” というのがありますね！

そのユニークな形をした真っ白の多目的ドームは、まさに道の駅のすぐ筋向いにあります。
この日は、誰なのかわからなかったけど大きなコンサートが行われていて、見渡す限りの駐車場

がぎっしりと車で埋まっており、周囲のすべての交差点には何人ものガードマンが立って誘導していました。

またこの敷地内には、日本水泳連盟公認の２５ｍ、５０ｍプールのある“屋内水泳プール”や、“月の海”と称する人工の海浜広場などユニークな施設がたくさんあります。

（月の海：ＨＰより借用）

道の駅
きらら あじす
きらら あじす

この道の駅へ前回来たのは２００８年１１月ですから、既に６年近く前になります。
私が道の駅巡りを始めた初期の段階ですね。

これが道の駅内部の配置図になります。

イベント広場と店舗の間はテラスになっていて、観葉植物などの販売と休憩テーブルが配置されていました。

中央にある玄関を入ると、そこは “休憩・情報コーナー” になっています。

そして玄関右側が、レストランの “麺・南蛮料理「倭寇（わこう）」” です。
南蛮料理ってどんな料理なんでしょう。
ちょっと興味があります。(^▽^)

玄関の左手が “野菜売場・特産品売場” です。
傍らにもち工房やパン工房があり、６年前に来た時とイメージは変わっていませんでした。
ここでは花が安かったので私たちは菊とバラの花を買い、野菜や夕食のおかずになりそうなものをいくつか買い物をしました。

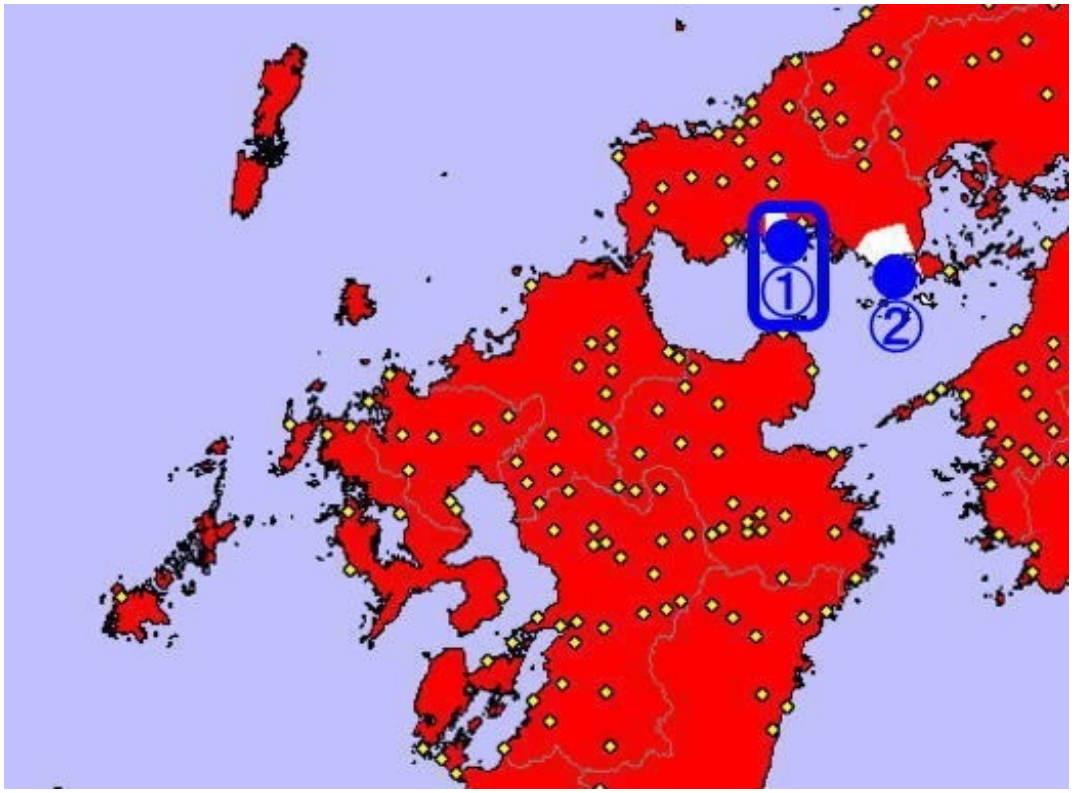
山口県の道の駅を初めて回ったのは、私がブログを書き始めた初期の頃なので、写真も少なく、一つの記事にいくつもの道の駅を纏めて書いていました。
ですからそれらをもう一度回って記事を書き直してきたのですが、今回でひとまず終わったようです。

他のエリアでもそういったところがあと少し残っていますので、なるべくもう一度訪問して書き直してゆくつもりです。

山口県の新駅：個性派店舗が集結！“潮彩市場防府”

先週の土曜日（１０月２４日）に山口県の新駅２カ所を巡ってきました。

その１カ所目は、山口県防府市（ほうふし）にある
道の駅潮彩市場防府　です。



九州からは、関門海峡を渡って中国自動車道の山口ジャンクションから山陽自動車道に進路をとります。

“防府西ＩＣ”で下りて一般道を２０分ほどで到着し、我が家からは３時間の行程でした。

“山口県防府市” は瀬戸内海に面し人口が１２万人弱、古くは周防の国の国府として栄え、交通の要衝として発展してきた町です。
今年のＮＨＫ大河ドラマ “花燃ゆ” の主人公、文（後の美和子）が晩年を過ごした場所であり、防府駅前には現在 “ほうふ花燃ゆ大河ドラマ館” が作られています。

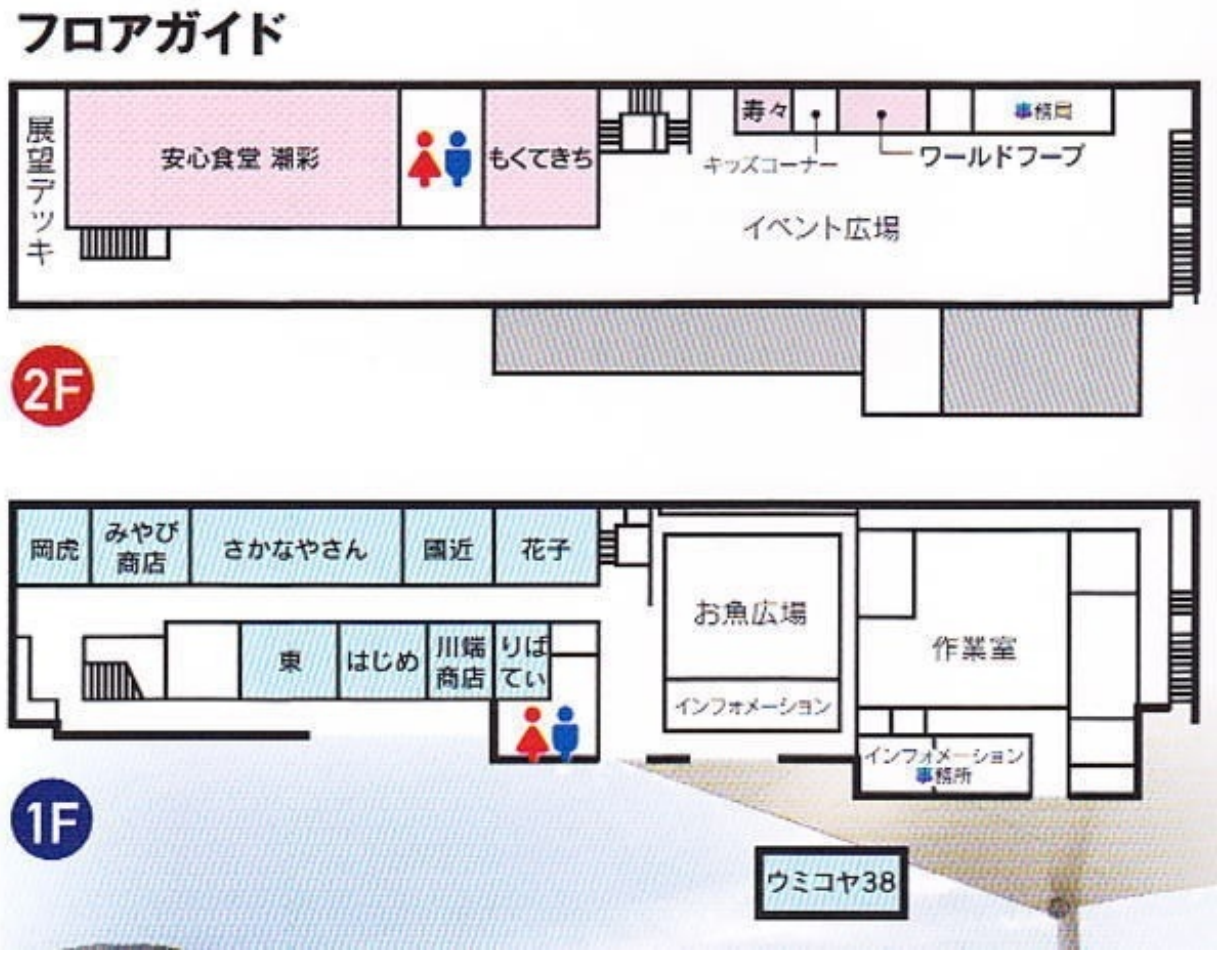
この道の駅はその瀬戸内海の “三田尻中関港” という港に面しています。

この道の駅が正式にオープンしたのは実は２週間前の１０月１０日（土）です。

といっても、この施設自体ができたのは２００８年３月で、２０１３年７月に防府市の公共施設になり、そして今年道の駅として登録されたのです。

ですから、地元の人にとっては、もとから馴染みのある場所ということになるのでしょう。

この道の駅の特徴のひとつは、ご覧の写真のように漁協の卸売市場に隣接していることです。ですから、地元で水揚げされたばかりの魚介類が豊富に並び、その獲りたての食材を使った旬の料理を味わうことができます。



これが店内のフロアガイドですが、２つ目の特徴として、ここは１０数店舗の集合体で成り立っていることです。

１階の中央部の入り口を入ると、そこには “お魚広場” があります。

ここにはテーブルや椅子がならび、皆さんくつろいでおられます。
写真の左手前にインフォメーションのカウンターがあり、常駐の職員の方もおられます。

そして、左手の入り口をはいると、そこには商店が並び、懐かしい昭和の “市場” の雰囲気が漂います。

りぼてい

フロアガイドにあるように、１階には９つの店舗が並んでいますが、ほとんどがお魚やさんか、その加工品のお店です。

お魚は、箱に入って１箱いくら、といった売り方もされています。
お店の方とお客さんが対面で、１対１で売り買いをする昔ながらの市場です。

そして今回は２階には上がれませんでしたが、いくつかの個性ある食事処があり、新鮮な魚介類

を使った創作料理などを味わうことができます。

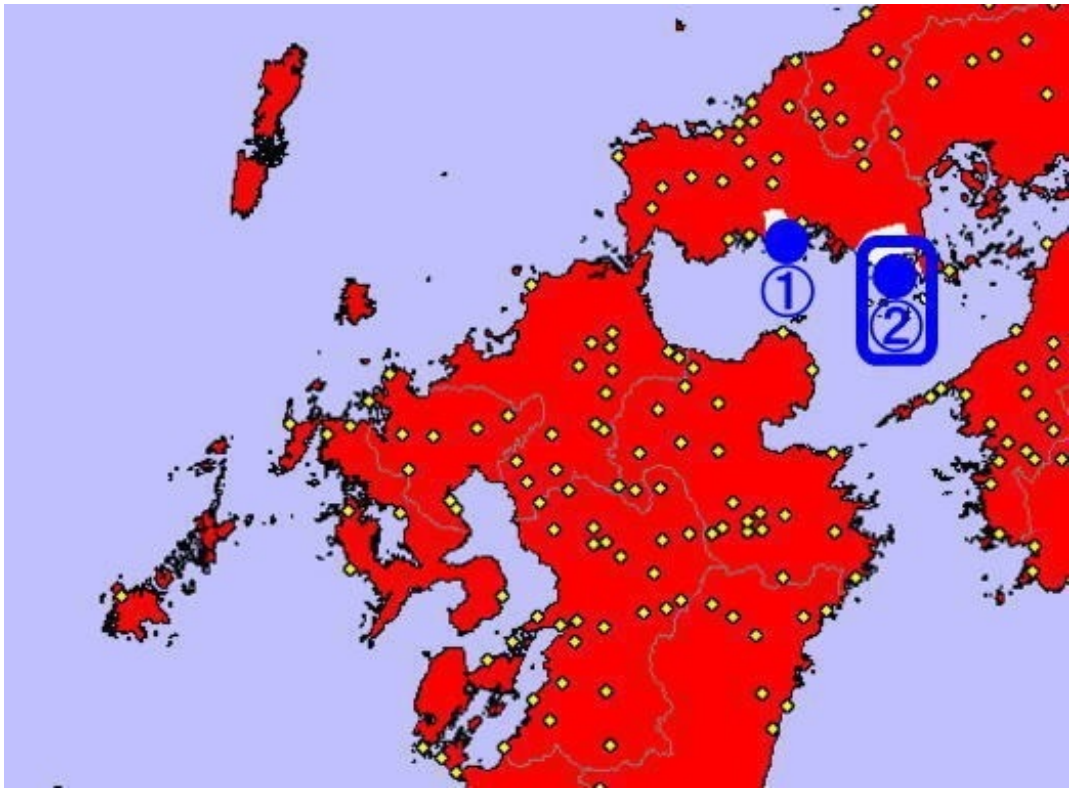
これは通路を挟んだ向かい側にある別棟で“ウミコヤ３８”という海鮮炭火焼のお店です。
１１月１日からは“カキ小屋”が始まるのですね！

一般の道の駅のような土産物を並べた物産館はありませんが、個性的なテナントのお店が“市場”を形成してお客を集める、魅力的な道の駅だと思います。

山口県の新駅：瀬戸内海の恵み！“上関海峡”

山口県の新駅巡りのもう一カ所は

道の駅上関海峡（かみのせきかいきょう）　です。



１カ所目の道の駅潮彩市場防府からは距離にして７４ｋｍあり、すべて一般道ですから１時間４０分かかりました。

所在地は、“山口県熊毛郡上関町室津” になるのですが、この “上関町（かみのせきちょう）” というのがどこにあるのか、もう少し詳しく見てみましょう。

この地図にあるように、瀬戸内海に突き出た ”室津半島” の南端部分と、上関海峡を挟んだ対岸にある “長島” それに、“祝島” “八島” からなる町で、人口は約２８００人です。

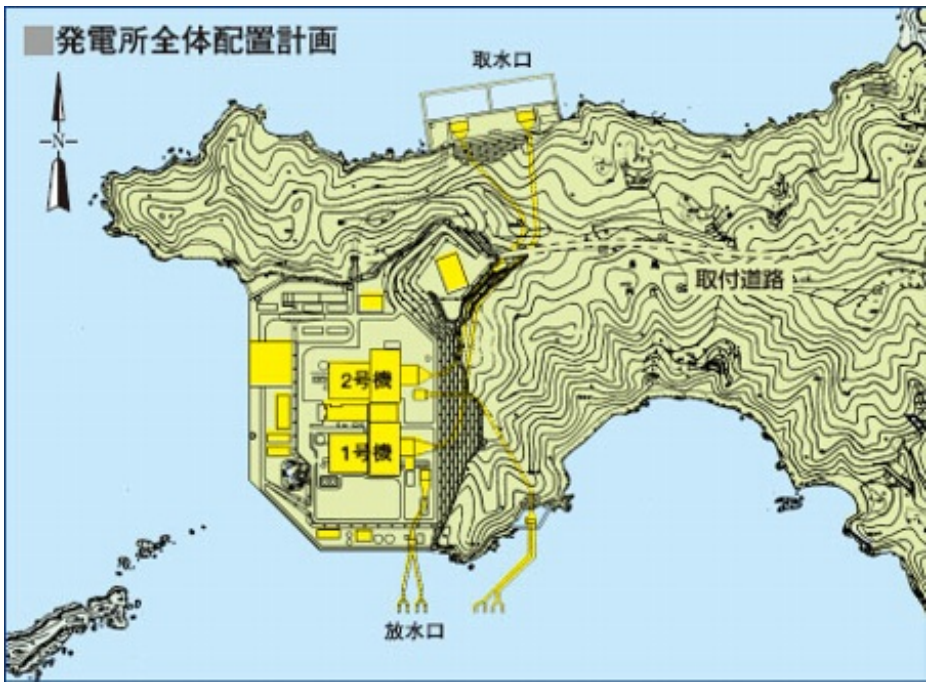
室津半島と長島の間は “上関大橋” で繋がっており、室津の南部と長島の北部が町の中心にあたり、道の駅は室津半島の南端に位置します。

ところで山口県では、“下関” の方が地名としては有名ですね。
かつて瀬戸内海西部には船の荷物を検査する “番所” が設置されていたのですが、これが都に近い方から、「上関」「中関」「下関」 と呼ばれており、これが地名になったものです。

ですから上関には、朝鮮通信使も来航したという “旧上関番所” が史跡として残っています。

“上関” というと、もうひとつ大きな話題があります。
それが中国電力の “上関原発計画” です。

長い間住民を二分する賛成派、反対派の争いがあり、結局２００１年に工事に着手し、長島の最西端に一部海岸の埋め立てなどが始まりました。



この１号機、２号機の合計で３９２．６万ｋＷの発電を見込んでいましたが、２０１１年３月の福島の原発事故により、工事は中断したままになっています。

実は私が訪問したこの日、道の駅の裏の港の広大な敷地に大勢の人が集まり、集会を開いていました。
スピーカーから流れてくる内容からすると、どうやら原発計画を直ちに中止しろという運動の集会だったようです。

道の駅の裏側はご覧のように港になっていて、対岸が “長島” です。

道の駅の配置はご覧のとおりで、どちらかというとシンプルです。

登録証
道の駅

お会計
ソフトクリーム
300

奥の方には海産物の直売所もありましたが、道の駅の玄関先にはこんなものもあります。

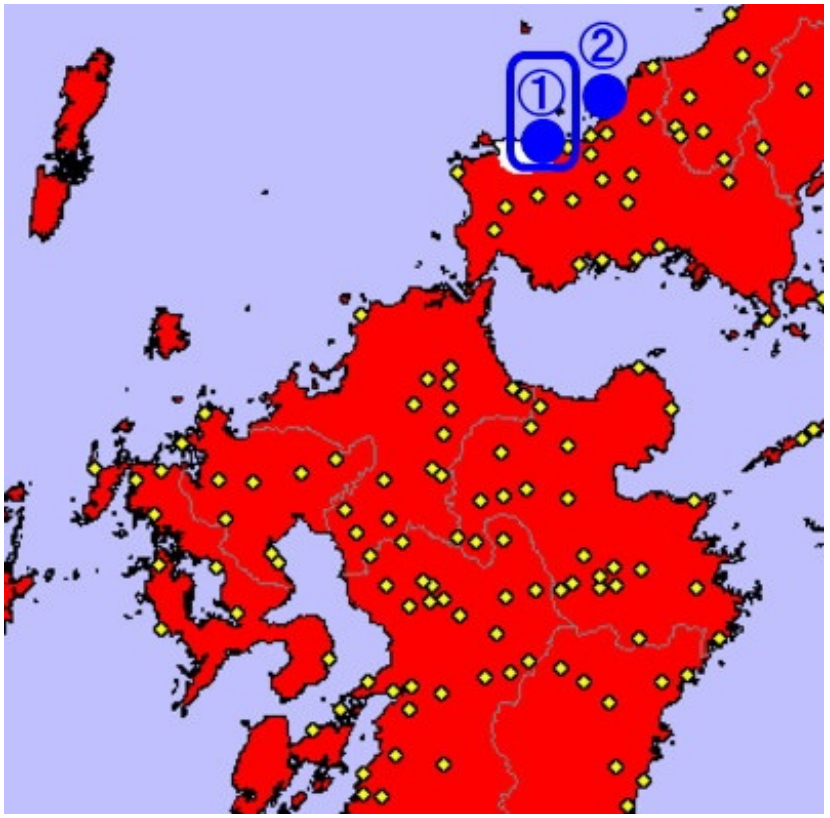
水槽の部分を拡大しましたが、お魚が元気に泳ぎ回っています。
私たちはテイクアウトコーナーで買ったソフトクリームを味わい、帰途につきました。

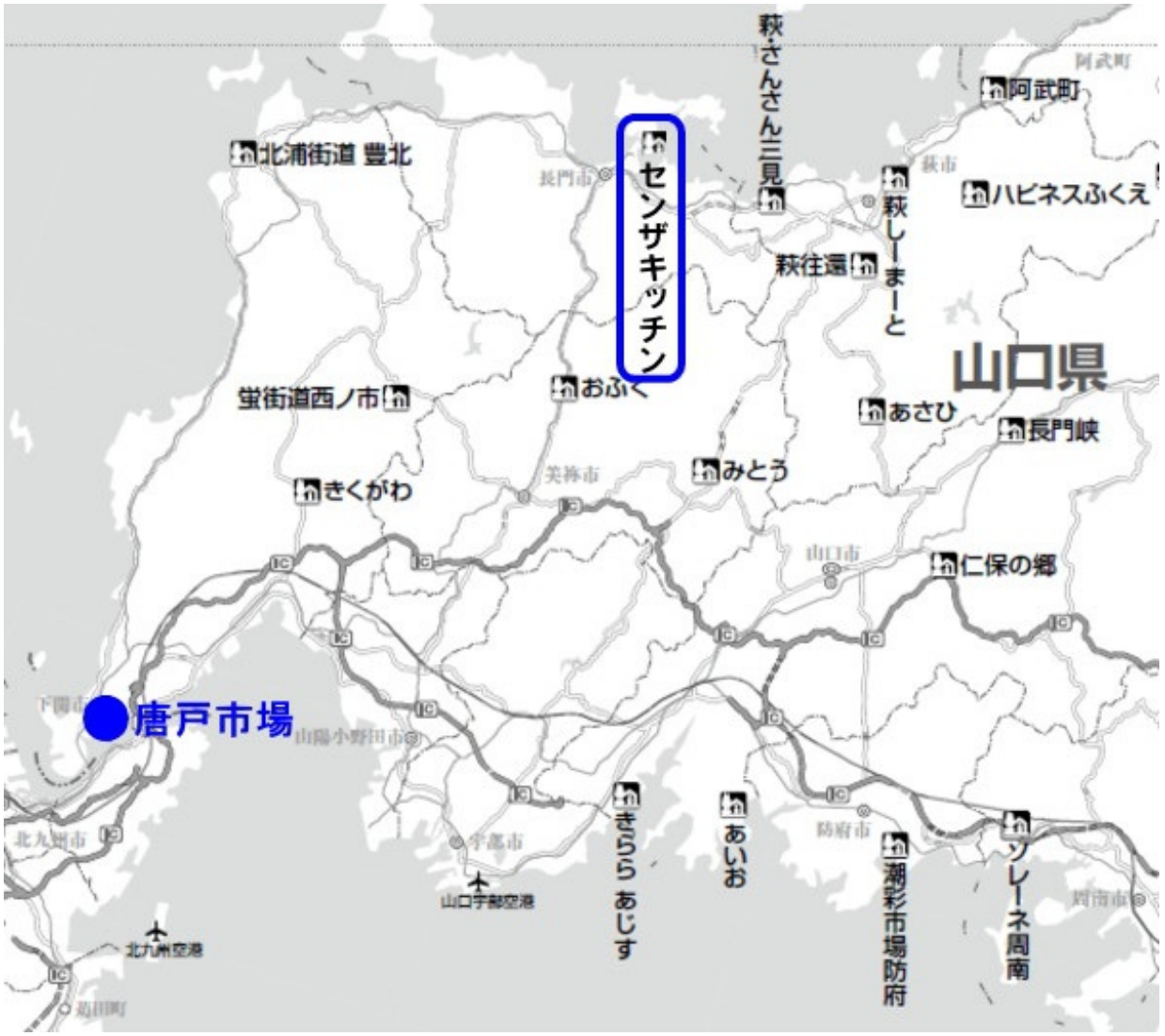
花咲く海の町 かみのせき
道の駅
上関海峡

グランドオープンの道の駅！“センザキッチン”

山口県に新規にオープンした

道の駅センザキッチン　に行ってきました。





“道の駅センザキッチン” がグランドオープンしたのは４月２０日（金）です。
場所は山口県で我が家からは日帰り圏内なので、その翌日、２１日（土）に早速行ってきました。

でも、せっかく山口方面に行くのだから、途中、下関インターで下りて、“唐戸市場” に寄り道をしたので、まずはその紹介です。

“唐戸市場” は関門海峡に面した位置にあり、特にフグの水揚げで全国的に名前が知られていますが、毎週祝日と週末には “活きいき馬関街” というイベントが開催されるのです。

朝の９時５０分に到着したというのに、既にこの賑わいです。
右側の建物が唐戸市場ですが、そこで買った寿司や海鮮丼などを皆さんこの海に面した公園で食べておられるのです。

さすがに下関だけあって、こんなモニュメントが・・・・！
これは、フグのセリの様子です。

市場の中はご覧のような様子です。
イベントの開催される週末に来るのは初めてでしたが、それぞれの店舗の前にはあらゆる食材が乗ったお寿司がずらりと並んでいます。

パックを貰って、好きなお寿司を入れ、市場内に作られて椅子、テーブルや、あるいは先ほどの外の公園などで頂くのです。

私たちの目的はここでの食事ではなく、今晩お酒と一緒に味わう為のフグ刺しです。
以前にも買ったことのあるお店でフグ刺しを買い、他にフグの唐揚げなどの食材を買い求め、再び高速に乗って、本来の目的地であるセンザキッチンに向かいました。

道の駅の所在地は　“山口県長門市仙崎” で、『青海島（おうみしま）』 という山口県を代表する観光地のそばにあります。

今回新たに道の駅がオープンしたこの場所に、その青海島を周遊する観光船の乗り場があることから、私が道の駅巡りを始めるずっと昔から何度もここへは来たことがあります。
以前ここには鮮魚や海産物を売る個人のお店がずらりと並んでおり、近くのスーパーでは見かけないような、分厚くてでっかいアジの開きなどを買って帰っていたものです。

この日はグランドオープンの翌日で、土曜日です。
到着したのは１１時５０分でしたが、予想通り駐車場は満杯！

場内整理のガードマンの誘導で少し離れた臨時駐車場に向かいましたが、そこもほとんど塞がっており、運よく１台空いた場所に停めることができました。

道の駅は、大きく分けて２つの棟で構成されています。

この写真は “キッチン棟” といって、以前は確か駐車場の一部だったと思いますが、そこにあらたに新築され、昨年（２０１７年）１０月にオープンしました。

そしてもう一つが “ダイニング棟” といいますが、以前海産物の個人商店や食堂、それに特産品販売所などがあった建物が建て代わり、新しい姿になって道の駅としてグランドオープンとなったものです。

この写真が “ダイニング棟” で、右端に “観光船乗場” があります。

観光船乗場だけは以前のままで、あとは全部建て替わったのだと思います。
全体の配置図を、センザキッチンのＨＰからお借りしました。

ダイニング棟の左端、配置図の⑯にあるのが、“長門おもちゃ博物館” です。
その建物も、とってもユニークです。

長門産木材で作られた外観だけでなく、館内は杉の木フローリングの上に様々なおもちゃが並び、ボランティアのおもちゃ学芸員の指導のもと、幼児から大人までが楽しめるようになっています。

ダイニング棟は、レストランなどの飲食店が６店舗入っています。
その一角に “観光案内所” があり、道の駅スタンプなどはここに置いてありました。

登録証
道の駅
センザキッチン
国土交通省 道路局長

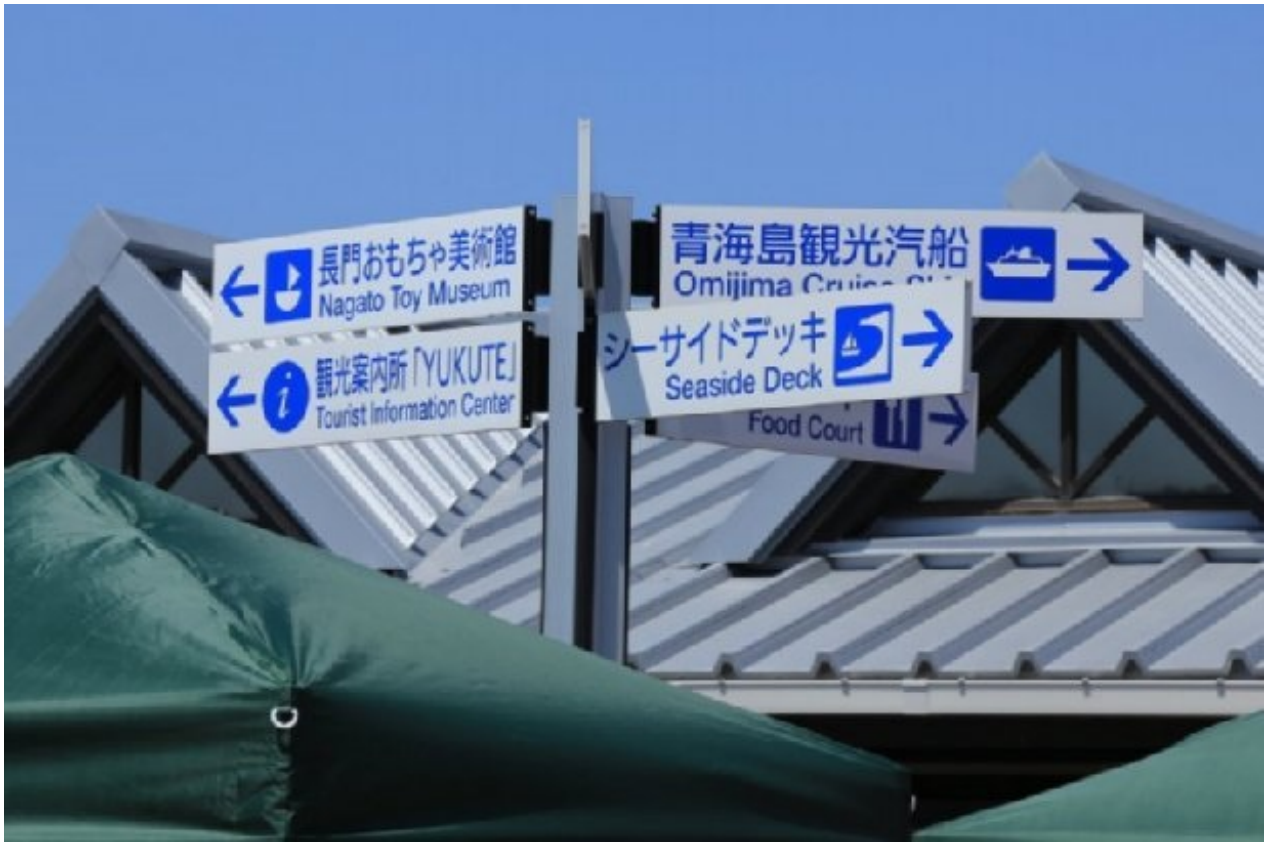
Nagato is calling
THE NAGATO
JOURNEY
BEGINS HERE

この観光案内所にはご覧の様にレンタル自転車も並んでいます。

ここ仙崎は、童謡詩人『金子みすゞ』の出身地であり、その生家は“金子みすゞ記念館”となり、仙崎駅から北に約１ｋｍ伸びる通りは昔ながらの風情が残り、“みすゞ通り”と名付けられています。

それ以外にも青海島などいろんな観光スポットを巡るのに、このレンタル自転車は便利です。

ちなみに、金子みすゞの詩は「こだまでしょうか」を始め、東日本大震災の時になんども繰り返し放映され、すっかり有名になりましたね。


長門おもちゃ美術館
Nagato Toy Museum
観光案内所「YUKUTE」
Tourist Information Center
青海島観光汽船
シーサイドデッキ
Seaside Deck
Food Court

ダイニング棟とキッチン棟の間にはご覧のように露天も出て、随分と賑やかです。

キッチン棟には、メインの農水産物直売所を始め、“仙崎本丸” というレストランや “グリルハウス” というバーベキューのお店などもあります。

仙崎といえば、昔から蒲鉾や竹輪などの練り物、そしてお魚の干し物なども有名です。
この直売所には、それら魅力的な食べ物が所狭しと並んでいます。

道の駅の裏側に出てみるとそこは海が広がっています。

ここは “シーサイドデッキ” といいます。
海上保安庁の巡視船も停泊していますね。

この正面にある、半蒲鉾型の建物は “海辺のパン屋” というベーカリーです。

１０年以上前にここへ遊びに来ていた頃は、個人商店のおばさんたちと値引き交渉をするのが楽しく、「九州からわざわざ買いに来た！」 というと感激してくれて、竹輪や蒲鉾をおまけにくれたものです。

そのような昔ながらの雰囲気はなくなったけど、誰でもが楽しみ、観光客も満足できる素晴らしい道の駅に生まれ変わったものだと思います。

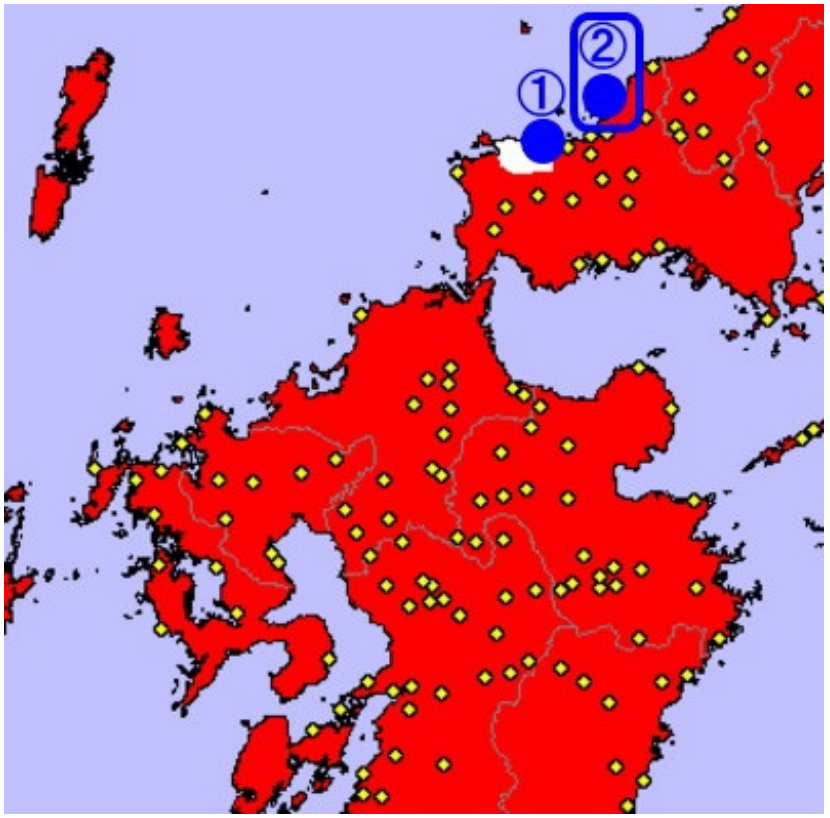
さて、１時間ほど滞在しましたが、折角ここまできたので、もう１か所訪れたい道の駅があり、これから 「道の駅阿武町」 へ向かいます。

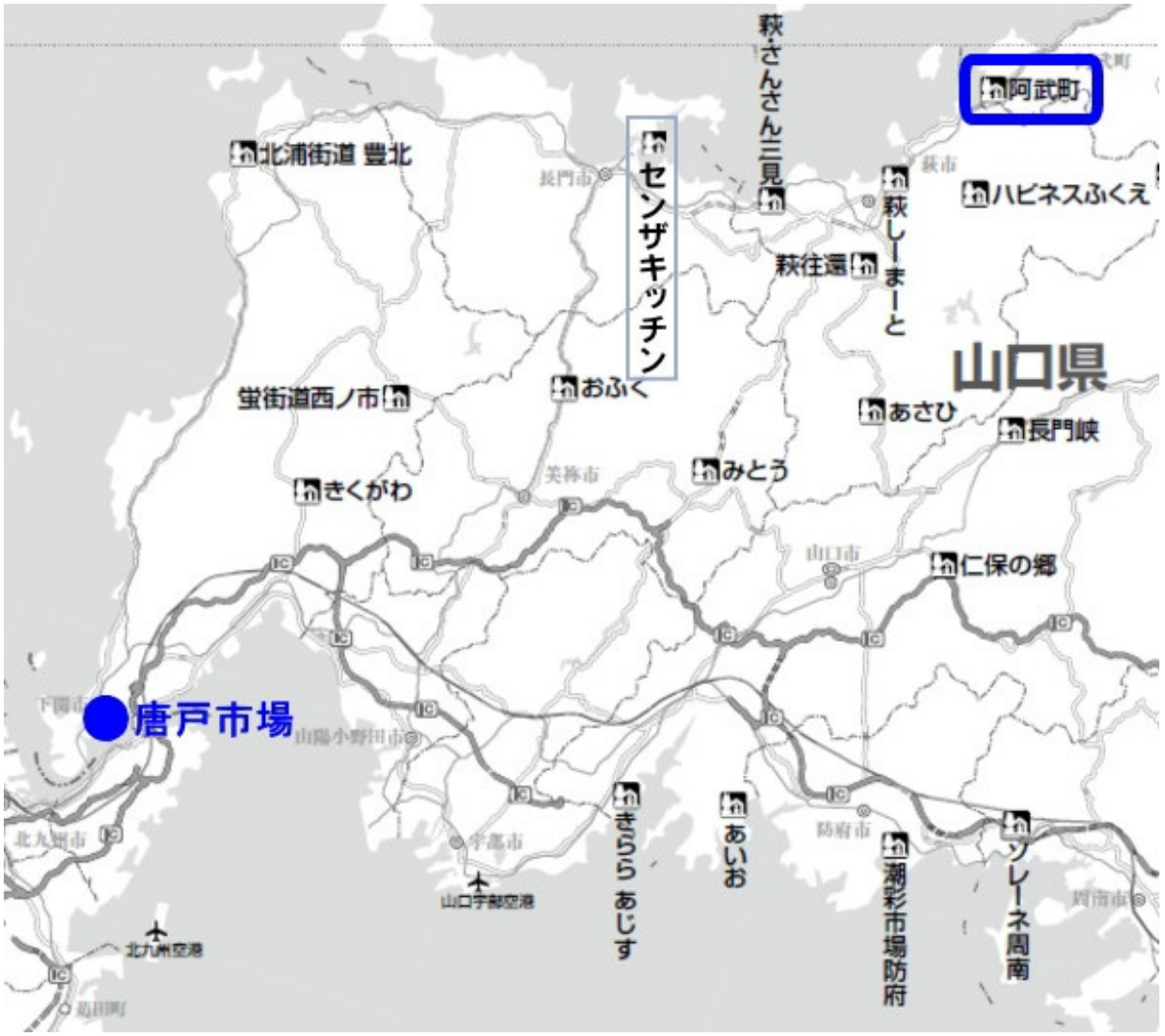
センザキッチン
Senzakitchen

道の駅発祥の地！“阿武町”

新しい道の駅「センザキッチン」を出て

道の駅阿武町（あぶちょう）　に向かいました。





途中、萩の市内を通り抜け、日本海の海岸線に沿った国道１９１号を走って５０分で到着しました。
ここへは過去２回来ていますが、２０１４年２月に来た時、リニューアル工事の真っ最中だったのです。

その年の４月２０日に新装オープンしたのですが、その新しくなった道の駅をまだ見ていなかったのが、今回もう一度来てみたかった理由です。

これがその、新しく建て替わった道の駅です。
杉材をふんだんに使った、木のぬくもりを感じさせる建物です。

新しくなったのがこの “直売所” “レストラン” “温泉” の建物で、その先には温水プールもあります。

これが温水プールの建物で、２５ｍプール、幼児プール、フィンランドサウナ、多目的ルーム、トレーニングルームなどを完備しています。

私たちはお腹が空いていたので、まず最初に向かったのはレストランです。

これが、レストランと温泉の入口で、入って右手が “日本海温泉 鹿島の湯” で、正面がレストランで “ダイニング

カフェ８４６”といいます。

このレストラン、海を眺めながら食事ができ、なかなかの雰囲気です。
料理の写真は撮らなかったのですが、私は 「アラカブの煮つけ定食」、嫁は 「無角牛のハンバーグ定食」 を注文しました。

この、“無角和牛”というのが、ここ阿武町の特産のひとつです。

“短角牛”というのは聞いたことがありますが、これはその名の通り角が無い牛で、全国にも約２００頭しかいない希少な種です。
その大半がここ阿武町で飼育されており、脂身の少ない赤身が特徴です。

嫁のハンバーグを少しだけ食べさせてもらったけど、違いがよくわからなかった！(^_^;)

さて、この道の駅、もうひとつ大きな特徴があります。
この看板をご覧ください。

左の看板が道路側から見たもので、右側はその裏側です。

『全国道の駅発祥の地　道の駅阿武町』
『ここより道の駅始まる』

と、それぞれに書いてあります。
ここにはもう一つ、古くからの建物があり、それがこちらです。

これが昔からあった道の駅で、現在は、“発祥交流館” になっています。
ここは、“道の駅の発祥の地”　なのです。

その歴史をざっくりと振り返ってみましょう。

----*

平成２年１月に広島市で開催された「中国地域まちづくり交流会」主催のシンポジウムで「鉄道に駅があるように道にも駅があってよいのでは」という意見が山口県阿東町の坂本氏から提議された。

この意見をきっかっけに旧建設省（現：国土交通省）が動き、平成３年１０月から山口県阿武町をはじめ、全国１２カ所で第１回の道の駅実験が実施された。

平成４年７月からの第２回道の駅実験を経て、平成５年４月２２日に全国１０３カ所の施設が、旧建設省より道の駅として登録された。
----*----*----*----*----*----*----*----*----*----*----*----*----*----*----*----*----*

全国には、他にも“道の駅発祥の地”や、“道の駅全国第１号”を名乗るところが複数あります。
“全国第１号”は１０３か所あるわけだからこれは良いとして、発祥の地は実は定かではありません。

私は２０１６年７月に、ダイヤモンド社からの依頼で、“ダイヤモンドオンライン”に道の駅についてのコラムを書く機会がありました。
その中で、道の駅の発祥は山口県の「道の駅阿武町」と思われる、という内容を書いたのですが、それを読まれた、旧建設省のＯＢで、実際に道の駅の立ち上げに携わったという方から連絡を貰いました。

そのＯＢの方とは電話やメールで当時の経緯を詳しくお聞きしましたが、その方によると道の駅の原型が日本で初めて誕生したのは島根県の「道の駅掛谷の里（かけやのさと）」だということです。
ここも同じように“道の駅発祥の地”を名乗っています。

そしてもう一つお聞きした情報は、平成元年６月に中国地方整備局長に着任された岩井氏のことです。
岩井氏は、全国に先駆けて過疎化の進む中国地方を何とか活性化したいと様々な仕掛けを試み、それが「道の駅」の発想に繋がり、道の駅という言葉を初めて公式に使ったのも岩井氏だということです。

こうしてたくさんの方たちの知恵と努力、熱意で誕生した道の駅ですから、生みの親や発祥の地が全国に複数あってもおかしくはないと思います。

直売所とレストランの間の通路を海側へ出ると、こんなものがありました。

これは “幸せのモニュメント” といいます。
海の向こうに２つの島が見えますが、右側が “男鹿島” 左側のやや小さいのが “女鹿島” です。

仲睦まじい夫婦島として昔から地元では親しまれており、カップルや家族が幸せを願うパワースポットになって

います。

さて、そろそろ直売所の中に入ってみましょう。

登録証
道の駅
阿武町
藤井治芳

海産物を始め、とっても商品が豊富です。
その中でも、特に私が驚いたのはこの品です。

例えばこのお魚、サバが５匹パックされています。
大きさは２５～３０ｃｍくらいでしょうか？

そのお値段がこちらです。

なんと「１２０円」です。
他にも、サバ４匹とイカが１杯で、「１００円」というのもありました。

最初見間違いかと思ったけど、他の魚もやっぱり安いのです。
買う方は有難いけど、漁師さんたちはこれでやってゆけるのでしょうか？

遠方から来ているのでさすがに生魚は買わなかったけど、いろいろと買い物を楽しみました。

駐車場にはこんな車も！
道の駅の車はよく見かけるけど、こんな大きなのは珍しい。

外の景色もご覧のようにとっても綺麗です。
おそらく夕陽が素晴らしいだろうと思います。

“道の駅の発祥の地” のひとつとして、更に素敵な道の駅に生まれ変わっていました。

google map の自動記録、走行距離４５７ｋｍ

初めての広島県！“スパ羅漢”

今回のルートで最後の目的地であり、また初めての広島県です。

ピュアラインにしきのレジのおね～さんのアドバイスに従って国道４３４号は敬遠。
一旦中国自動車道に戻り、六日市ＩＣから吉和ＩＣまで１区間を走ります。

ただ、かなり行き過ぎるので一般道を戻ったあと国道１８６号線を南下することになります。
距離的には遠回りですが、恐ろしい（らしい？）４３４号線を避けて、安全第一で行きましょう。

目的の「道の駅スパ羅漢」へはピュアラインから約５０分で到着しました。
この日は、２月と思えない程暖かだったのですが、途中の道路の両端にはかなりの量の雪が残っています。

ここはバイクのライダーと、それからやっぱり外人さんが多かったですね。
本当に深い山の中で、建物の裏をきれいな清流が流れていました。

目指す道の駅スタンプは、レジのカウンター付近にありました。
スタンプ帳に押していると、道の駅の駅長（らしい雰囲気の人）がカウンターから身を乗り出して覗き込んでいます。

私：「広島県は初めてなんですよ。今日は朝から６軒目の道の駅なんです」と説明すると、
その人は一旦事務所に戻ってわざわざ地図を広げて持ってきて
駅長（？）：「どこを行かれたんですか？」と聞いてきます。

今日のルートを説明すると、感心することしきり！
そんな珍しいかな～？？

今から九州まで戻ることを言うと、駅長（？）：「ここまで来て温泉に入らなきゃだめですよ！」

そう言えば、ここの名前は「スパ」だから温泉でしたね。

せっかくのご好意だけど、そんな時間はないので帰ることにしました。

スパ羅漢を出たのが１６：１０、途中一回休憩しただけでしたが、福岡の自宅に帰りついたのは２０：３０です。

朝、６：３０の出発でしたからちょうど１４時間、走行距離６７０Ｋｍの旅でした。

中国地方も広いです。
多分、日帰りで行けるのは今回が最後だと思います。

ダム湖のほとり！“湖畔の里福富”

３月１日（日）～２日（月）に１泊２日で、広島県１２か所、岡山県１か所の合計１３か所の道の駅を回ってきました。

地図が細かくて見にくいと思いますが、イメージとして捕えていただければ、と思います。

今回、九州から車でまっすぐ行くことも不可能ではなかったのですが、時間の効率を考えて、鉄道+レンタカーという形をとりました。

３月１日、朝7：30博多発の「新幹線のぞみ８号」　で、広島駅に着いたのが8：36でした。
広島駅前で、予約していたレンタカー を借りました。

今日からの相棒は黒のマツダＤＥＭＩＯです。

さすが広島はＭＡＺＤＡの城下町ですね。

最初の目的地は、昨年の９月にオープンしたばかりの
「道の駅湖畔の里福富」　です。

広島東ＩＣから山陽自動車道に乗り、２つ目の西条ＩＣで降ります。
ここからは国道３７５号線を一直線なので、道も良くて分かりやすいところにあります。

ここはすごく広大な敷地があり、正面の「交流館」の他に、「多目的ホール」「多目的グラウンド」やデイキャンプ場、それに大型遊具を備えた「ふれあい広場」がありました。

ちょうどこの日は日曜日で、何やら「ウォーキング大会？」みたいな催しがあっていて、競技に参加した人たちに賞品を渡されており、大勢の市民でごったがえしていました。

交流館の入り口で、美味しそうな焼きたてパンの匂いがします。

ここは評判のパン屋さんらしく、１０人もはいれば身動きが取れなくなるほどの狭い店内で、押し合いながらもパンを取り合っています。

中を覗いて諦める客もいましたが、私たちは挑戦しました。
小柄な家内が何とかもぐり込んで、１０分ほどかかってやっといくつかのパンをゲット！

フランスパン風の焼き方ですが、とても柔らかくておいしく、なるほど評判の店のはずだと納得しました。

実はこの道の駅は、周りがダム湖になっています。

県営福留ダムというダム自体は、今年の春に完成予定で、今現在はテスト的に湖に水を入れています。

そしてこの湖にかかる大きな橋が建設中で、すべて完成すれば市民の憩いの場として更に景観に恵まれた、素晴らしいところになることでしょう。

道の駅 湖畔の里福富
広島県東広島市福富町久芳1506
TEL 082(435)2110

赤い屋根の疑問！“道の駅よがんす白竜”

道の駅湖畔の里福富を出ると、県道～国道４３２号線を通り３０分ほどで
「道の駅よがんす白竜」　へ着きました。

ここは小さい道の駅で、駐車場も広くありません。
建物だけはモダンですね！（失礼！）

「よがんす」とは方言で「良いですね」といった意味があり、また白竜湖の畔に建つのでこのような名前になったものです。

白竜湖はあんまり大きくはありません。
対岸の壁に大きな白い龍の絵が描かれていました。
（写真はちょっとわかりにくいですね）

建物の中は、売店、レストラン、休憩所などがありますが、いずれも大きくはありません。

ところで、以前から不思議に思う事がひとつあります。
関門海峡を渡って九州から山口県に入ると、とたんに民家の屋根が「赤色」になるのです。

ここ広島県も同じで、集落全部が申し合わせたように「赤屋根」になり、
立派なツノ （いや、しゃちほこですね！） がついています。

何か中国地方では「屋根の色は赤に統一すること！」というお上のお達しでもあるのでしょうか？ (?_?)

ちなみに、このあと尾道に入ったら、とたんに屋根の色は九州と同じく「黒」になりました。
翌日、広島県の山間部に行くと、やはりどの集落も赤屋根です。

どなたか中国地方にお住まいの方で、理由をご存知でしたら教えて頂けませんか？
永年の疑問ですので　　(^_^;)

※この件、早速次のような回答があり、永年の疑問が解消しました。
　ありがとうございました。

［ベストアンサー］
石見地方を産地とする石州瓦は昔から「赤瓦」と聞いています。
石見・出雲地方に特に使われたかと思います。
表面が、つるつるしていて、積雪対策にぴったりかと思います。
だから雪の多い地方に使用されています。

道の駅 よがんす白竜
広島県三原市大和町和木952-4
TEL 0847(35)3022

キムチが特産！“クロスロードみつぎ”

今回３ヶ所目の道の駅は、山陽自動車道「三原久井ＩＣ」の近くの
道の駅クロスロードみつぎ になります。

「みつぎ」というのはここの地名で「御調」と書くんですね。
よそ者には読めませんね！

上の写真が道の駅の本体の建物です。

駐車場をはさんで真向かいに下の建物があります。
最初これが道の駅かと思っていたら、こちらは子供図書館でした。

ここはバスターミナルも兼ねていて、町民の交流の場になっているようで賑やかです。

道の駅の隣に野菜市場があり、また道の駅の前には様々な屋台が並んでいます。

この御調町はキムチが特産で、沢山の種類が並んでいます。

そういえば、私がキムチといえばこれ、と決めている「備後漬物」の和風キムチはこの近くの福山市が本社でした。
（マックスバリューで売っています。　・・・　決して備後漬物の回し者ではありませんよ！　）

昼食にしようと食堂へ行ったものの、ぎっしり満席！
道の駅の入り口にいくつもの屋台が並んでおり、特に客が多い天ぷらやがありました。

その場で揚げているので、とても良い匂いが漂っています。
匂いに一番弱い私たちは、お昼は天ぷらで済ますことにしました。
それに、最初の道の駅で買った焼きたてパンも少し残っていますからね

下の写真は半分くらい食べたあとです。　(~_~;)
これにぎっしり入って３００円ですから、安いです！

このところ、食べ物の話題ばかりで恐縮です。

次回からまじめにやります。　(^_^)

鞆の浦を歩く！“アリストぬまくま”

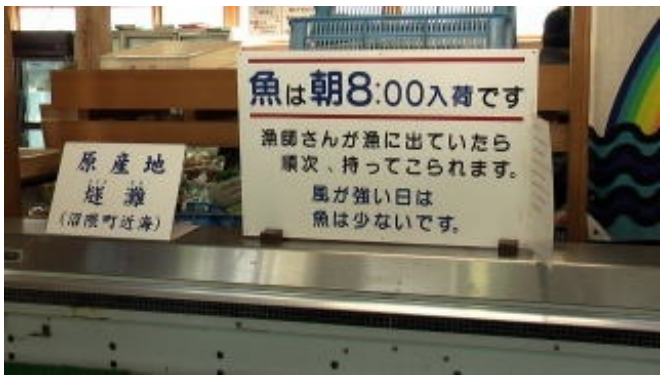
クロスロートみつぎを出て国道４３２号を南下すると、まもなく尾道市内に入ってきます。
今夜は尾道に宿泊予定ですが、次の目的地に行くはそこを一旦通り過ぎます。

目指す「道の駅アリストぬまくま」へは、４０分ほどで到着しました。
地図から見て、瀬戸内海の海岸沿いかと思っていましたが、普通の町中にありました。

上の建物は情報ターミナルで、休憩所を兼ねています。
そして、その右隣に下の写真の「特産品市場」がありました。

特産品市場には、瀬戸内海で獲れた新鮮な魚介類 があるはず・・・でしたが、昼過ぎにはもう何も残っていませんでした。

もちろん、野菜などの農作物は豊富にありましたよ！



更に奥には、ハーブガーデンがありました。
手前が販売用、奥は鑑賞用のハーブが並んでいます。

と言うことで、本日４か所の道の駅スタンプをゲットしたのですが、今日の予定はここまでです。
実はまだ時間は１４：００なのですが、もう近くには道の駅は無いのです。

この先の半島の先端付近に「鞆の浦」（とものうら）という場所があり、名前の感じから良さそうに思えたので行ってみることにしました。
（こんな有名なところを実は知りませんでした。(^_^;)）

海岸線沿いの道路は快適なのですが、「この先大型車通行禁止」という看板が何度も出てくるのが少し気になります。
快適な道路をしばらく走ると「鞆」と言う集落の海岸線につき当たりました。
ここからは昔ながらの漁村の道路になり、道幅は急に狭くなります。
離合できない場所もあるので、なるほど「大型車通行禁止」はこの事を言っていたのだな、とまだタカを括っていました。

すると道は更に狭くなり、道路はコンクリートではなく、石畳になります。
昭和３０年代にタイムスリップしたような昔ながらの街並みが続き、
「えっ、こんなとこ車で走っていいの？」と不安になります。

でも対向車が来たので、、とりあえず道路は繋がっているのでしょう。
ちょっとだけ広そうなとこに止まり、ぎりぎり３～４台が離合してゆきました。

路地がまるで巨大な迷路のようになっていて、自分がどこを走っているのかさっぱり分かりません。
一体道路はつながっているのか、どこへ行こうとしているのか不安が最高潮に高まってきたとき、傍らに空地がありました。

早速空きスペースに駐車したら、真後ろに「駐車厳禁！」の看板が ！
でもちょっとだけだから、と勘弁してもらい（無断で） 先がどうなっているのか歩いてみました。

少し歩くと、その「３丁目の夕日」さながらの昭和初期みたいな街並みを、大勢の観光客が散策しています。
更にまっすぐ進むと、海岸に沿った大きな道路があり、観光バスまで停まっているではありませんか？

一体、どうなっているんだ！？
あの迷路は何だったんだ！？

広い道路に出て歩いてみると「鞆の浦観光情報センター」なるものがありました。
そこにあった地図を見ると、この観光バスの通る広い道路は、その先で行きどまりになっています。

つまり、半島の反対側の福山市から来た道路で、私の来た道の駅方面からなら、やっぱり迷路を通るしかなかったようです。

いくつかの有料駐車場があるのですが、今日は日曜日でしかもこの鞆の浦では
「ひな祭り」があっていたので当然ながらどこも満車　です。

この観光情報センターにも立派なお雛様が飾ってありました。

結局「駐車厳禁」の看板の前に停めた事も気になり、路地裏の巨大迷路を戻る気にもならないので、福山方面の遠回りで尾道へ向かうことにしました。

道の駅

尾道市内散策

前回で鞆の浦（とものうら）に立ち寄ったおかげで巨大迷路を楽しみ（？）、福山市内まで迂回してはるばる尾道へ戻ってきたのですが、ホテルに着いたのはまだ１６：００ちょっと前でした。

フロントで「予定より早く着いたのですが、どこか見て回るところがありますか？」と尋ねると、地図を出して親切に教えて頂きました。

ホテルはＪＲ尾道駅のすぐそばのビジネスホテルです。
部屋に荷物を置き、教えられたとおり駅前を通り線路沿いの道を２０分ほど歩くと、千光寺へ登るロープウェイ乗り場に着きます。

尾道は古い街並みで、途中林芙美子の像が立っていました。

ロープウェイは１５分ごとに出発しますが、わずか３分で山頂駅に到着です。
そこには除夜の鐘で有名な千光寺があり、展望台があります。

この展望台からの眺望には感動しました。

３６０度すばらしい展望なのですが、海側は瀬戸内しまなみ海道の「新尾道大橋」が見えます。
その先には、瀬戸内海の島々が望めます。

この展望台からは文学のこみちというルートを歩いて降りることもでき、それなりに見どころがあるのですが、もう夕刻が迫るので最終のロープウェイに乗り込んで山麓駅に戻りました。

尾道という街は、海岸線に並行して国道２号線が走り、それに沿ってＪＲの鉄道が走っています。
この線路を境に、山側はすべて急坂になっていてその山麓にたくさんの由緒ある寺院が立ち並んでいます。

これらを巡る「古寺めぐりコース」というのがあり、すべて石畳の細い道を辿ります。
これこそが、まさに「尾道」の情緒を堪能できる散策コースとなります。

このように、コースには順路があり、石畳を辿ってゆけばいいのですよ、とホテルのフロントの方が教えてくれました。

昼間の鞆の浦同様、この街も昭和の古い時代にタイムスリップした気分になります。

でも　・・・　！
ご存じ、尾道は「石段」の町です。
コースは平坦ではなく、急な石段を上り下りしなければなりません！

情緒を味わう前に体力がギブアップ！

早々にあきらめて山を降り、逆に海岸線を歩いてホテルへ戻ることにしました。
国道と並行して、海沿いに「海岸通り」があり、これもきれいに整備されています。

尾道は対岸に「向島」という大きな島があり、そことをつなぐ渡船がいくつかあります。
高校生が大勢乗り込んで、島へ戻ってゆきます。

ところで、この日泊まった宿はネットで探した「尾道第一ホテル」なのですが、
なんと、朝食、夕食付で２人合計１３，５００円です。

確かにビジネスホテルですから部屋は狭いですが、食事もまずまずの内容でしたし本当に満足です。
１日２組の特別料金でしたが、ラッキーでした。

高原産品市場！“さんわ１８２ステーション”

さて、２日目です。

尾道のホテルを８：２０にチェックアウトして市内を抜け、福山西ＩＣから福山東ＩＣまで１区間だけ山陽自動車道を走ります。
あとは、国道１８２号線を一路北上します。

再び山間部にはいってきましたが、道路状況は良いようです。
それに昨日につづいて天候には恵まれています。

この辺から民家の屋根が再び赤色に変わってきました。
ブログ仲間のtakaさん からいただいた情報によると、中国地方の民家の屋根が赤いのは「石州瓦」を使うからなのだそうです。

石州瓦は島根県の石見地方で生産される粘土瓦で、赤いのが特徴です。
これは、凍害や塩害に強いため、山陰地方などの雪の多い地区で多く使われます。
従って、山陰地方の集落の屋根は 赤色一色だったわけです。

おかげで永年の疑問が解けました！

道の駅さんわ１８２ステーション　へは、ちょうど１時間で到着しました。

まだ朝早いせいか、がらんとしています。

下の写真がメインの建物でお土産品などを売っていましたが、ここにも誰もいませんでした。
まだ朝の９時半ですから仕方ないですよね。

敷地は広く、その先には農作物の販売所があります。

まだ、店の人たちや業者の人が野菜を並べている最中でした。（朝早くからじゃましてすみません）

そんな訳でここは、あんまりご紹介する話題もありません。m(__)m

今日は９か所制覇を目標にしていますが、時間が足りなければ最後の方を次回に回さねばなりません。

気合いを入れて頑張ります！
と言う事で、次の目的地へ急ぐことにします。

道の駅
SANWA HIGHLAND
さんわ182ステーション

ユニークな街路樹！“遊ＹＯＵさろん東城”

国道１８２号線を一路北上し、中国自動車道の東城ＩＣのすぐそばに次の目的地である
道の駅遊ＹＯＵさろん東城　はありました。

先ほどのさんわ１８２ステーションから４０分程で到着です。

ここはとても大きな建物で、素敵な感じの道の駅です。

左側に生鮮野菜を売る「東城きんさい市」があります。
きんさいとは「来なさい」という意味でしょうね。

ここには、たこやき、回転饅頭、ソフトクリームの店もありました。

物産館はとても広くてきれいで、豊富な商品が並んでいます。
見て回るだけでも楽しくなります。

まだ朝早いのでお客さんより店員さんの方が多かったですが、たぶん普段は賑わっているだろう

と思います。

レストランは２か所あります。

「もみじ」は山菜、川魚などを使った郷土料理、
そして「雄橋」は広島牛ステーキコーナーで、目の前の鉄板で焼いてくれるそうです。

最高級和牛肉ですから、多分お値段の方も最高級なのでしょうね！　(^_^;)

ところで、この道の駅の前の道路の街路樹は、下の写真のように面白い形をしています。

きのこ型かな？それともアイスキャンデー型？
この辺の植木屋さんはユーモアのセンスがあるのでしょうか？

北京
入口

HIROSHIMA・TOYO・TAISHAKUKYO
道の駅・遊YOUさろん東城

光のドーム！“リストアステーション”

岡山県から引き返して広島県に戻ると、再びきれいな青空になってきました。
（わずか１０分の距離なんですけどね！）

その前に行った遊ＹＯＵさろん東城のすぐそばにある東城ＩＣから中国自動車道に乗り
１区間の庄原ＩＣで下りて国道４３２号線を南下すると、５０分ほどで
道の駅リストアステーション　に着きました。

「リストラ」ではありませんよ、「リストア」です。
過疎化の町の再生を願って「よみがえる」という意味だそうです。

ここのシンボルは何といってもこの「光のドーム」です。

ドームの中に入ってみると、４～５０名は入れるくらいの広い空間で、何かを常駐しているのではなく、さまざまなイベントに使うようです。

この日は、この付近に自生する「節分草」の展示が行われており、寄せ植え教室、節分草観察会、節分草スタンプラリーなどの催しがあっていました。

「里山を楽しむ会イベント実行委員会」の方がなにやら説明してくれましたが、よく分かりませんでした。
（まじめに聞いてなかったのでごめんなさい！）

節分草と言うのは、このような花です。

ちょうど節分の頃から花が咲くのでこの名がついたそうで、
「春を告げる花」ともいわれています。

ドームの横に物産館があります。

店はあまり大きくはありませんが、いろんな種類の「コンニャク」が山積みしてありました。

ここは静かな山あいの村で道の駅自体もこぶりですが、すぐ隣接して河川公園があり、町民の憩いの場になっているようでした。

森の泉！“ふぉレスト君田”

リストラ　・・・　いや間違った！リストアステーションから、次の道の駅へは少し離れています。

先ほど来た道を中国自動車道まで戻り、更に北へ行くのですが、地図を見てもどのルートが一番近いのかさっぱりわかりません。

従って、いつもの通りナビ任せで行くことにしました。

中国自動車道の、先ほど降りたインター付近を通って４３２号線を更に北上し、庄原市に入ると、ちょっとした町になります。
その市内でナビの指示で左折、更にその先を右折し、ずっとまっすぐ行くとまた先ほどの４３２号線にでました。
何で一旦路地にはいったのかわからずそのまま進みました。

異変 に気づいたのは、既にかなり走った後です！

「あれっ！　残りの距離数が増えてるよ！！」

確か庄原市内を走っているとき、あと１０数キロだったはず。
それが２０数キロ、１０キロ以上も遠くなっています！！

車を空き地に停めて地図をみますが、どこで間違ったかわかりません。
迷うところは全くなかったはず！
引返してもかえってわからなくなるので、そのまま進むことにしました。

途中、県道６２号線にぶつかりました。

「えっ！県道６２号ってさっき見たよ！」
庄原市内を走っているとき、確かに左が県道６２号、まっすぐが国道というちいさな標識があったように思います。
でも、ナビ君は何も教えてくれず、そのまま真っ直ぐ進んだので、どうやらそこが遠回りの原因だったようです。

まあ、いつものことですが、結局１時間以上費やして、
道の駅ふぉレスト君田　へやってきました。

前置きが、ずいぶん長かった　・・・・　！

ここは温泉施設です。

森に囲まれた場所に、ログハウスっぽいウッディな建物がいくつも建ち並んでいます。
正面が温泉のロビーで、目指すスタンプもここにありました。

温泉フロントの右隣が食事処ですが、宿泊も出来るようです。

全体像は、このようになっていて、結構広いですね。

そして一番右端に野菜などの売り場がありますが、もうこの時間にはあまり残っていませんでした。

遠回りしたおかげで無駄に時間を費やしました。
今の時間は２時少し前、今日の目標はあと４箇所ですが行けるのかな～　！

少し気になり始めました。

時間に追われる！“ゆめランド布野”

ふぉレスト君田から県道をしばらく走ると、国道５４号線にでます。
これをちょっとだけ南下したところに次の目的地があり、わずか１５分で到着です。

道の駅ゆめランド布野　は、とても大きな道の駅です。

生鮮食料品を扱っている「布野ふれあい市場」が、別棟であります。
地域の農家やグループによる高冷地野菜、花などが豊富に並んでいました。

正面の入り口を入ると、ふれあい館という情報ターミナルになっています。
スタンプもここにありました。

レストランや特産品売り場も大きく、他にふれあい広場やステージがあり、
又、建物の２階は７０畳の大広間を備えた多目的会議室になっています。

時間があればゆっくり見て回りたかったのですが、少し厳しくなったので先を急ぎます。
そういえば、今日は昼飯抜きで走っていることに気がつきました。　(^_^;)

ゆめランド
布野
ROAD OASIS
広島県・布野村
～道の駅～

関所を再現！“北の関宿安芸高田”

さあ、あと目的地は３か所です。
昼食抜きですから、何とか間に合いそうに思います。　（お菓子をかじりながら走って！）

レンタカーを返すのは広島駅前で１８：００の約束になっています。
福岡へ戻る新幹線は、余裕を持って２０：０６広島発ののぞみ４３号ですから、レンタカー返却が遅れても、こちらは何とかなります。

道の駅北の関宿 安芸高田　は、
中国自動車道の三次ＩＣから高速に乗って１区間、高田ＩＣで降りるとすぐのところにあります。

ここは、一目で気に入りました。
ほんとに関所なんです！　(笑)

こちらが正面玄関のようです。
まだ新しい道の駅ですが、全部木造の時代ががった建物で統一されています。

そして、この玄関の開き戸をはいると　・・・・・
まるで昭和初期（生まれていた訳ではありません！）の駅舎のようですね！

駅舎の中は時代ががったレトロなポスターが並び　・・・・・・・

昔なつかしい（いや知らない！）駅の切符売り場が再現されています。

そして何とここには３種類ものスタンプがあったのです。

その裏の建物は「北のひもの市場」で、私の大好物の干物や海産物がいっぱい！
自分の車で来ているなら、衝動買いで山ほど買い込んだでしょう！（列車で帰るので自粛しました）

うまそ～！

ちょっと残念！

ゴールまであと２か所！

インターチェンジに隣接！“舞ロードＩＣ千代田”

道の駅舞ロードＩＣ千代田　は、中国自動車道の千代田ＩＣに隣接しています。

建物としてはこの１棟だけですが、バスターミナルも兼ねており、敷地はかなりの広さです。

そして、フェンスの向こう側は、今下りてきたばかりの　インターチェンジ があります。

細長い建物の通路にも花苗などの商品が並び　・・・・

ここが、物産館の入口です。
道の駅の提灯が面白いですね。

店の中は結構お客さんが多く　・・・・・

神楽にでも使うようなお面が売ってました。
右上の大きいのは４６，０００円、
一番小さな般若の面でも　１５，０００円です。

一つだけ「売約済」が貼ってあったけど、買う人がいるのですね。

そしてここには、前回の北の関宿を上回る、４種類ものスタンプがあったのです。

中国地方の「スタンプ帳」と言うのは、一応全駅分を揃えたセットが２００円で売ってますが、ほとんどの道の駅には１枚もののスタンプ用紙が備え付けてあります。

ここの道の駅には「お一人１枚でお願いします」とわざわざ注意書きが書いてあるのにも拘らずうちの嫁さんは厚かましく４枚も使ったので、のこりが数枚になってしまいました。
　　俺　・・・・・　しらないっ　・・　と！

さて、この道の駅を出る時点で　１６：００　を少し過ぎています。
何とか最後の「豊平どんぐり村」へ行く時間はありそうです。

ここはインターチェンジに隣接しているので、ナビはここを高速道路上と勘違いしています。
どうやっても次の広島北ＩＣまで行って、一般道を引き返すルートをとります。

地図を見るとまっすぐ一般道を通った方が近いので、今回はナビ君の言うことを聞かないことにしました。
さあ、あと１か所で　２日間の目標であった１３か所を走破です。

トトロがお出迎え！“豊平どんぐり村”

舞ロードＩＣ千代田の道の駅から、一般道を通って約２０分で最終ゴール である
道の駅豊平どんぐり村 へ到着しました。

豊平どんぐり村というのは元々運動公園で、広大な敷地内にグラウンドやテニスコート、野外ステージ、トレーニングセンター、資料館などの施設が立ち並んでいます。

道の駅は、その一角にありました。

入口では、トトロや猫バス がお出迎えです。

道の駅全体としては、一番手前に大きなレストランがあり、物産館のほか、ふるさとの家、絵画館などが、いずれも木造建築で統一されています。

運動公園の建物のひとつで、これは 豊平ウイング といい、トレーニングルーム、会議室、ステージなどの総合施設になっています。

さて、これで当初の予定通り１３か所の道の駅を走破することができました。

広島市内にレンタカー会社指定のガソリンスタンド があり、まずそこに立ち寄らねばなりません

。
到着予定は６時前なので、時間内には返却できそうです。

高速を使うつもりでしたが、ナビが一般道を案内してることを途中で気がつきました。
平日の夕方ですから、市内に入るにしたがって度々渋滞します。

それより問題は、このガソリンスタンドが交通量の激しいメイン通りの右側にあることです。
一旦通り過ぎて、先の信号を左折し、Ｕターンして信号に戻ろうとしたら一方通行！

無駄な時間を使ってスタンド到着がＪＵＳT18：00 、レンタカー会社はすぐ近くなので念の為に間もなく戻ることを電話しました。

わずかな距離なのですが普通に行くと又幹線道路の右側になり、とても右折はできません。
ガソリンスタンドに道順を教えて頂きました。
でも、それからが悪戦苦闘 、わずか１Ｋｍ程度のところを何度も間違って１５分もかかってしまいました。

とりあえず無事にレンタカーを返して広島駅着、時間にゆとりがあるので
駅ビル２階の「サッポロライオン」で祝杯 をあげ、もちろん名物の焼きカキをいただきました。
（*^_^*）

自宅到着が２２：３０、無事に戻りました。
さあ、次の計画に取り掛からなければ　・・・・　。

広島県制覇！“来夢とごうち”

今回は島根県全体を回る旅ですが、、最初の１ヶ所だけは広島県にあります。
道の駅来夢とごうち は、今回のルート上にあるので残しておいたものです。
広島県はこれでようやく制覇です！

九州の自宅を朝６：２０に出発して、中国自動車道の戸河内ＩＣを出たのは１０時をちょっと過ぎていました。
ナビは「料金は６，５５０円です」とアナウンスしますが、ＥＴＣの表示は「休日割引１０００円」
ありがたいですね～～！

道の駅は、インターからすぐのところにあります。

この道の駅はすごくかっこいい～です！
２階のガラス張りの部分は、レストランになっています。

１階の道路に面した部分には、沢山のお花を売っていて見た目にすごくきれいです。

道路を挟んだ向かい側にも建物があり、こちらはラーメン、軽食、弁当などのお店が並んでいます。

店の中で見かけたのがこの神楽で使うお面です。
中国地方の道の駅では、よく見かけます。

上のお面はかなり大きいですが、金額は２０万円なんですよ！

なかなか感じの良い道の駅で、１軒目としては幸先がいいスタートです。

今日、明日の天気は予報では晴れ！
最終日の３日目が崩れる予想です。

さあ、２０箇所目指してがんばるぞ！

道の駅 来夢とごうち
中国自動車道戸河内IC出口

神楽に遭遇！“津和野温泉なごみの里”

山口県の願成就温泉の道の駅を出ると、すぐのところに短いトンネルがあります。
このトンネルをくぐると、そこは島根県です。

次の「道の駅津和野温泉なごみの里」　は距離にしてわずか数キロ、１０分ほどの距離にあります。

津和野（つわの）と言うのは山陰の小京都とも言われ、山間の小さな城下町ですが、武家屋敷の前の掘割に鯉が泳いでいることで有名な観光地です。

道の駅は少し中心部から離れた田園風景の中にあって、裏山は見事な竹林になっています。

駐車場で車を降りると、なにやら「ぴーひゃら、ぴーひゃら、どん、どん」と、鐘太鼓の音が聞こえます。
どうも、道の駅の建物の中から聞こえているようです。

入口を入ろうとすると、何と！
そこに鬼がいるではありませんか！

鬼の面をかぶり、金キラリンの衣装を纏ったひとが入口付近でうろうろしています。
そして、その奥には黒山のひとだかり！

鬼の前を恐る恐る通って道の駅の中に入ると、舞台があり 郷土芸能の神楽 が催されていました。

舞台のすぐ前にはシートを敷いて人々が座り、その後ろにはぐるっと折りたたみ椅子があってぎっしり観客が腰掛け、その更に後ろが立見席になっています。

私たちは、その立見席でしばらくビデオを撮ったり、写真を写したりしていました。

突然私の後ろから煙が上がり（発煙筒でした！！）、先ほど入口付近でうろうろしていた鬼が、客席を通って舞台の武士（かな？）に挑みかかります。（準主役だったんですね！）

どうやらクライマックスのようですが、ゆっくり見ている暇もないので売店をまず物色！

そしてスタンプが見当たらないのでレジの人に聞いてみると、
「あの舞台の幕の裏側ですよ！」との事。

幕の後ろは狭い通路になっていて、そこにも笛を演奏している烏帽子姿の人がおり、
「すんません！すんません！」と言って通してもらい、無事に道の駅スタンプをゲットしました。

その先が温泉になっていて、他に民芸品の販売、体験コーナーが並んでいました。

次の目的地に向かう途中、津和野の街中を通りました。
何台もの観光バスがとまっており、日曜日なので多くの観光客が街を散策していました。

車をどこか駐車して少し歩いてみたい気にもなりましたが、
なにせ日帰りで帰れる時間を計算して、ぎっちり道の駅巡りを組み込んでいます。
まるでノルマをこなす使命感でもあるように、観光は諦めました。

（助手席の嫁さんは、これが不満のようです！）

買い物天国！“シルクウェイにちはら”

津和野観光を諦めて国道９号線を更に北上すると、途中１８７号線との分岐があります。

この分岐から９号線をもう少し走った所に次の目的地
「道の駅シルクウェイにちはら」　はありました。

ここは、あまりに広すぎて写真に入りきりません。
それにしても、このモニュメントは何なんでしょう？

道路沿いの看板です。
ごちゃごちゃしてますね。

４月から９月までは、カヌー教室もあります。

道の駅の入口です。
ここは、入って真中に情報コーナーがあり、左が売店、右が食堂です。

売店の売り場はかなり広いです。
売店での私たちの一番のお楽しみは「試食品」です！

ここは、とにかく何でも試食が置いてあって感激です！
これは、味見をせざるを得ない　　・・・　と言うことで食べまくりました！

でも、お土産の大半はここで買いましたから、やっぱり試食品は置いておくものです。（笑）

売店と反対側のコーナーにはオープン形式の食堂があります。
ラーメン屋、うどん屋、定食屋など３つの店舗があり、セルフで自分のテーブルに運んで食べる形式です。

いっぱい試食品を食べたのに、やっぱり正式な食事はとりましょう！と言うことで、私はラーメン、嫁はきつねうどんにしました。
何気なく隣を見ると、同年代のご夫婦が魚のフライの食事をしており、メニューを見ると日替定食で「５００円」です。

「え～！ラーメンより安いじゃん！！」

どうして人は、他人の食べているものの方が旨そうに見えるのでしょうかね？

外に出て、はっと気づきました。

周りは山に囲まれているのですが、杉林から風が吹く度に「どどっ！」と花粉が飛んでいます。
確かテレビのコマーシャルか何かで見たことがありますが、実物は初めてです。

風で揺れるたびに大量の花粉が流れているし、森全体がかすんで見えます。

これがはるか彼方の都会までさまよってくるのでしょうね。

私自身が花粉症でないことを、今日は特に幸せに思いました。

印象薄い！“かきのきむら”

前回の「道の駅シルクウェイにちはら」から国道９号をちょっと戻ると、国道１８７号との分岐があります。
進路を１８７号にとり、まっすぐ南下します。

目指す　「道の駅かきのきむら」　までは、３０分もかかりません。
私は「柿の木村」かと思い込んでいたら「柿木村」というれっきとした地名でした。

このルートは“石見ひとはなライン”というのですね。
１８７で「ひとはな」か！（笑）

下の写真が道の駅かきのきむらの全景です。

ちょっと寂しい雰囲気ですね。（失礼！）

看板を見ると、近くに柿木温泉があり、室町時代からの「棚田」が有名なようです。

売り場は、山菜やヤマメの加工品など、まあまあといったところです。

やや印象の薄い道の駅だったので、悪いけど先を急ぎます！　**(^_^;)**

魔の県道２９６号線

既に（予告編）でお知らせしたように、4/12（日）から4/14（火）まで２泊３日で島根県を回ってきました。
これからしばらく「島根の旅」シリーズでご紹介してゆきますが、ある道路事情を初回はお話したいと思います。

これは最終日、つまり昨日の出来事です。

内陸部の国道３７５号線にある「道の駅グリーンロード大和」から、
国道２６１号線上にある「インフォメーションセンターかわもと」へ向かう途中の事です。

この２つの国道は離れていますので、途中県道を通って横切らなくてはなりません。
道の駅グリーンロード大和で尋ねると、
「一旦***まで行って、そこから左折して川本方面へ行った方が分かりやすいよ」と教えてくれました。
（***という部分は、実はよく分からなかったのです）

教えられたとおり川沿いの道をしばらく走ると、大きな橋のところでナビが左折を指示しました。
私はてっきり、これが教えて貰った「左折」の場所だと思い橋を渡りました。

この道路には「県道２９６号線」の標識がありましたが、集落を抜けるとだんだん道幅が狭くなり
やがて離合のできない道幅になって、教えられた道路より手前で曲がったことを悟りました。
でも、もう引き返すこともできません。
というより、道幅は狭いけどナビが案内する道路だから近道なんだろう、と思いました。

ナビが「４キロ先を左折します」と案内したので、４キロ我慢すれば広い道に出れる、と希望が出ました。
やっと集落に辿り着いて三叉路を左折しひと安心したのもつかの間、県道２９６号線はその先にも続いています。

しかも「この先大型車通行禁止」の看板があります。

実はここからが最大の過酷な道路 だったのです。
県道なので一応舗装はありますが、落ち葉で道路が隠れていたり、落ちてきた小石が転がっていたり、うっそうとした山の中で、車のＧＰＳレーダー探知機からは「ＧＰＳ電波が受信できません」というアナウンスが何度も繰り返されます。

そして、急な登り下りのペアピンカーブは、１回でハンドルが切れません。
小さな橋から落ちないように慎重に何度か切り返したりして通らねばなりません。

その時の心境としては　・・・・・・
「慎重に、慎重に！」「ゆっくり冷静に！」「とにかく進むしかない！」と、
声を出して繰り返していました。

かなり進んだ山中で、山菜をとっているおばさんに出会いました。
これで集落が近い、と少し安堵しました。
県道３１号の広い道路に辿り着いたのは、それから間もなくのことです。

道の駅間の走行距離から推定すると、この離合不可能な悪路は15～6ｋｍはあったと思います。
対向車が１台もなかったことが幸いしました。
というより、こんな道を通る車なんて元々無かったのでしょうね。

今朝、Wikipediaでこの県道２９６号線を調べたところ、
「軽トラック程度の車幅以上の車は通行不可と考えた方がよい」
と書いてありました。

それなら県道の最初に看板でも書いておいてくれよ！　と恨みました。
この方面へ行く予定の皆さん！　ナビが指示しても絶対に県道296号線は通らないように！！

葉わさびの料理法！“匹見峡”

広島県の戸河内から国道１９１号線をまっすぐ日本海側に進むと、いくつものスキー場の看板があります。
九州にもいくつかのスキー場がありますが、規模が小さいのでスキーヤーの多くはこのあたりまで走ってきます。

また、九州では桜の時期が過ぎてほとんど散ってしまいましたが、この付近は正に今が満開で道路沿いでたくさんの桜並木を見ることができました。
中国地方だからということではなく、おそらく海抜が高いので遅いのではないかと思います。

道の駅匹見峡 は、戸河内から４０分、島根県の県境を越えてまもなくのところにあります。
道の駅の裏に匹見川が流れ、上流には秘境といわれる匹見峡がある自然豊かな場所です。
ちょうどヤマメ釣りを終えたばかりらしいご夫婦がおられました。

この道の駅自体はできてからまだ何年も経っていないのですが、元々「出合いの里みちかわ」として地域の特産品販売を行っており、これに駐車場、トイレやバス停などを整備して道の駅になったものです。

下の写真が、トイレとバスの待合所です。

真裏に渓谷が流れており、緑に囲まれた自然豊かな環境です。

店内に入ると、まるで田舎の雑貨屋です。
何でも、元々は酒屋から始まったお店なんだそうです。

店内で、珍しいものを見つけました。
清流・匹見川で採れたワサビの葉の部分「葉わさび」です。

ちょうどこの葉わさびを買おうとしていた年配の奥さんに「これって、どうやって食べるんですか？」と尋ねてみました。
「ゆがいてお浸しにするんですよ」との即答。

我が家も買ってみることにしました。
レジでお金を払うときに、お店のおばさんに念の為「これは、ゆがいて食べるんですよね」と聞いてみました。

びっくりして、とんでもないといった顔をしたおばさんは、丁寧に作り方を解説してくれました。

・まず包丁で３つに切り、それにたっぷりの塩をかけて十分にもみほぐす。
・その後、塩を抜くために何度も洗い流す。
・それを力一杯に絞る。　・・・　これは旦那さんがやって下さいよ、と何度も念を押されました。
・これに醤油とみりんを加えて味をつける。
・瓶に詰めて、丸２日間おいてから食べる。・・・２日間おかないと独特の辛味が出ないそうです。

実はその後、出雲の居酒屋で「葉わさびの醤油漬け」を注文し、すごく旨かったので早速帰ってから作ってみました。

みりんは無かったので、日本酒と砂糖で代用しました。

教えられたとおり２日経った昨日食べたところ、居酒屋での味と同じくピリッとした辛みが絶妙でした。
それにしても、最初に教えてくれた年配のご婦人は、ゆがいて食べて果たしてどんな味がしたのでしょうか？

芝桜に癒される！“サンエイト美都”

匹見峡からわずか１５分で
道の駅サンエイト美都　に到着しました。

あんまり大きくはなく、こじんまりとした道の駅で、美都温泉の入口にあります。
周りには芝さくらが咲き乱れていました。

裏庭の本物の桜も見事に満開でした。

４月の中旬ですから、九州に比べるとずいぶん遅いですね。

でも、今年は桜の満開を九州と中国で２度見られて幸せです！

さて、花見を楽しんだところで、これが道の駅の本体です。
物産館、レストラン、喫茶などがはいっています。

そして駐車場を挟んだ反対側には、かわいいトイレが・・・。

美都町は「ゆず」の産地で、ゆずを使った加工品が多数あり、ゆずラーメンの看板も！
ゆずの味のラーメン？？？　う～～ん！！！　　ヽ((◎д◎　))ゝﾜｶﾗﾝ

次の道の駅は、いよいよ日本海側の海岸線にあります。
まっすぐ１９１号線を走って益田市から国道９号線に入るルートがありますが、少し遠回りです。
近道の県道があるので、こんな時は地元の人に尋ねるに限ります。

「ゆうひパーク三隅に行きたいんですが、どの道がいいですか？」

道の駅のお兄さんは、親切に教えてくれました。
「この裏の道にはいって次の三叉路を左に曲がり、川沿いに走ると３０分程で国道に出ますよ」

「道路は走り易いですか？」 一番肝心なことを尋ねました。
「そうですね、１０キロほどは離合できない道が続きますが、あまり車は来ないのでゆっくり行けば大丈夫ですよ」と笑顔で説明してくれました。

「１０キロ」 という言葉にドキッ！としましたが、お兄さんの笑顔に何故か安心し、そのルートを辿ることにしました。

確かに離合の厳しい道幅でしたが、途中出会った対向車は２台だけで難なくクリア。
シリーズ初回にご紹介した魔の県道２９６号線 に比べると、景色も良くて快適でしたね！

（今は、２９６号線以外のすべての道路が「快適」と思えるようになってしまっていたのです！）

ゆうひラインに出る！“ゆうひパーク三隅”

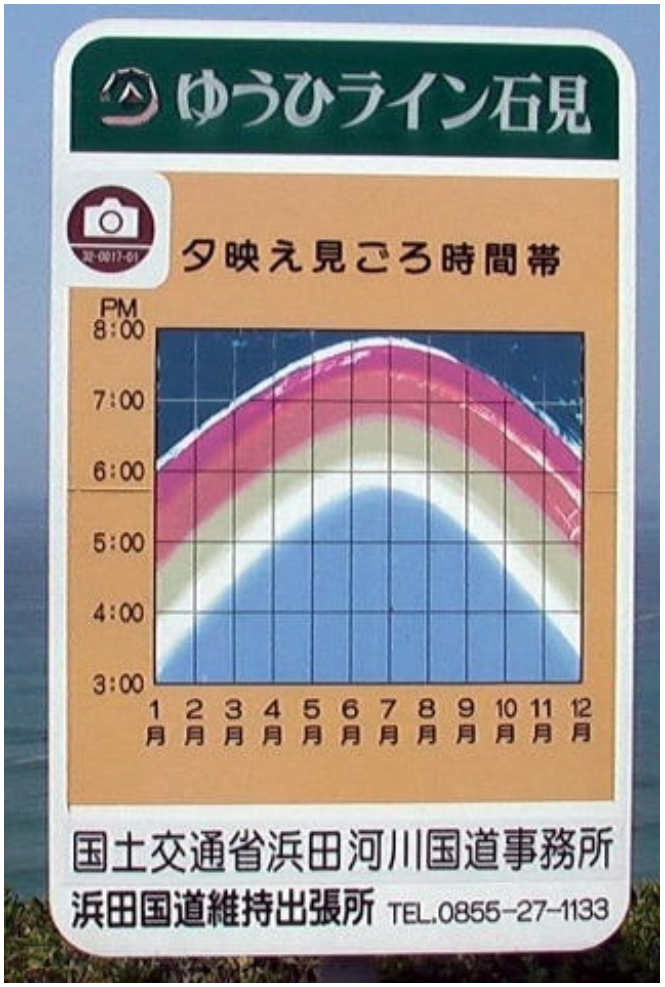
サンエイト美都で教えられたとおり、県道を通って約３０分で日本海側の国道９号線にでました。
道は狭かったけど、そのまま国道を行くよりかなりの時間短縮になりましたね。

道の駅ゆうひパーク三隅 は、そこから間もなくです。

ここは素晴らしい景色でした。
道の駅の裏手にはよく整備された公園があり、その先には日本海の大海原が広がっています。

道の駅は少し高台にあり、海岸を見下ろせます。
ＪＲの山陰本線も真下を通っていました。

「ゆうひパーク」という名前のとおり、夕陽がきれいなんです。
ここには夕陽の見える時間帯が表示されていました。



下の写真が道の駅の全体です。

正面が入り口で、右手がレストランになっています。

玄関の前に青空市場がありますが、今日はもう終ったらしく農産物はありませんでした。

物産館や情報コーナー、休憩所があり、店内は結構込み合っていました。

さて次の道の駅までは12～3キロと近いのですが、その先は出雲まで一気に走ります。
ですから、次の道の駅で腹ごしらえをすることにして出発しました。

石見神楽の公演！“ゆうひパーク浜田”

ゆうひパーク三隅から２０分ほどで
道の駅ゆうひパーク浜田 へ到着しました。

似たような名前が隣同士で並んでいるんですね。

まず驚いたのは、駐車している車の多さです。
ものすごく大きな駐車場がいくつかあるのですが、ほとんど満車でぐるぐる回ってやっと停めることができました。

すごく大きな施設で、離れて車をとめるとだいぶ歩かねばなりません。

ここも海に面していますが、正面にこのような大きな橋が見えます。
ここも夕陽がきれいなんでしょう。

駐車場がいっぱいだった訳が分かりました。
中はお客さんでごったがえししています。

この中庭で何があっているかというと　・・・・・

これは石見神楽といって、毎月第２、第４日曜日に定期的に催されているそうです。
同じ島根県の津和野の道の駅でも見かけましたが、島根は神楽が盛んなのでしょうか？

それに島根や広島の道の駅でも、大きな神楽のお面をよく見かけますからね。

それにしてもたくさんの観客が見入っています。
大勢の家族連れが集まっているようです。

腹が減ったので、ここで昼食にしました。（もちろん軽食です）

食事処も充実していて、上の写真の右の建物がファーストフードで、麺類、軽食、パンなどいくつものお店が並んでおり、ガラス越しに神楽を見ながら食事ができます。

正面の２階には立派な和食レストランもあります。

正面にある「五地想市場」が物産館です。
これもとても広く、私の大好きな試食がたくさんあります。

珍しい食材なども多く、あれこれ買い込みました。
レジで、「いつもこんなにお客さんが多いのですか？」と聞いてみました。
「ええ、でも今日は日曜日で神楽があっているから特別でしょうね」との返事。

この道の駅は、休憩所も広くて見晴らしがよく、案内カウンタも専門の女性がにこやかに対応されます。
久しぶりに充実した道の駅に出会った気がしました。

道の駅・ゆうひパーク浜田
ROAD STATION
YUHI PARK HAMADA

４人の神様！“大社ご縁広場”

ゆうひパークの二つの道の駅を巡ったあとは、出雲まで一気に走ります。
距離にして９４キロ、２時間弱もかかってしまいました。

本当は「キララ多岐」の道の駅がその手前にあるのですが、今夜の宿泊がキララ多岐のすぐそばであり、又大社ご縁広場の道の駅は17：00で閉まるため先に行って、引き返すことにしたものです。

途中、国道９号の大田市仁摩町という処に仁摩サンドミュージアムという施設があり、一年砂時計という巨大な砂時計があったそうですが、俺です さんのコメントで教えて貰うまで知らなかったので、通り過ぎてしまいました。

道の駅大社ご縁広場 は、縁結びの神様として有名な出雲大社のすぐ近くにありました。
一旦車を停めた後、道の駅の標識を撮るために信号待ちをしていたら、
自転車に乗った中学生の男の子が「こんにちわ」を声を掛けてくれました。

「今日は日曜なのに学校なの？」と聞くと、「いえ、用事があったので・・・」とはにかみながら答えました。
この付近はさすがに観光地だけあって、見も知らない私たちにもちゃんと挨拶するよう教育されているのでしょうね。
ちょっとさわやかな気持ちになりました。

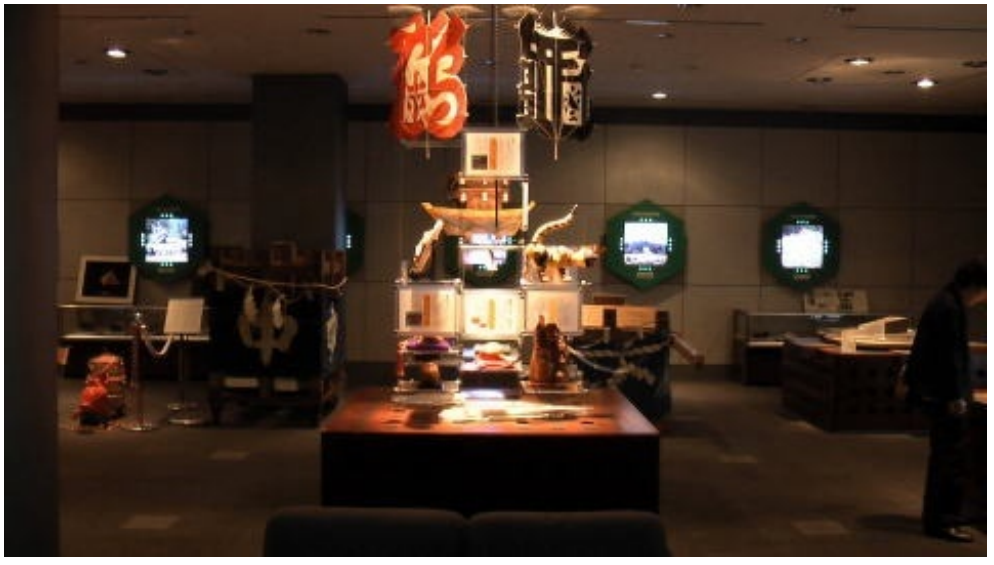
歴史と文化の展示
吉兆館
in
道の駅
大社ご縁広場

道の駅
大社ご縁広場

閉館間近な時間だったせいか、駐車場にも車は少なくがらんとしています。
中に入ってみると、　・・・・　　ここは文化・歴史展示館になっています。

普通の道の駅のような、物産館やレストランなどは一切ありません。
入り口カウンターに受付の女性が一人いて、見学は無料なので入ってみました。

館内は照明を落としてあり、神の世界に入り込んだような厳かな気分になります。
すごく静かなので小声でしか話せない雰囲気です。



奥の方には上の写真のように歴史的な色んなものが展示してあり、
手前半分は広い空間で、その四隅に４名の神様（？）がおられました。

神様だけに照明があって、何か怒られているような威圧感がありましたよ！（笑）

出雲大社はすぐそばですが、既に４時半を回っていてあまり時間が無いし、
それに、今更縁結びを祈っても仕方が無いだろう（笑）という事になり、最後の目的地へ引き返すことにしました。

絶好のデートスポット！“キララ多岐”

出雲大社から引き返し、
道の駅キララ多岐 へ戻ってきました。
今夜の宿泊はすぐ近くなのでもう安心です。

この道の駅は、まるでおとぎの国のお家みたいな建物が並んでいます。
既に５時を過ぎて夕暮れですが、家族連れやカップルなど大勢ののお客さんで賑わっていました。

道の駅の裏手は、すごくきれいな海岸です。
そこには「二人で鳴らす　愛の鐘」というのがあります。

バックに巨大な風車が回っていて、とっても絵になる風景ですね！

これは建物の裏手ですが、レンガ色の建物が並び、ここからは日本海が一望でき、絶好のデートスポットです。
何組ものカップルがいましたので、おじさんとおばさんは遠慮がちに後ろを通り抜けました。
（汗）

さて、店内ですがとても広くていろんな商品が揃っています。

出雲そば、名物のしじみの加工品、海産物、などなど・・・・　。
少し早いけど、お土産の大半をここで揃えました。

天井には　・・・・・・　わかりますか？
スパイダーマンが腰掛けています。

ここでは、買い物をしたりソフトクリームを食べたり、海を見たりして結構時間をつぶしました。
ホテルは、ここからわずか５００メートルの距離です。

とりあえず、今日７箇所のノルマ（笑）は果たしました。

道の駅
キララ多伎
海辺の交流舞台
島根県出雲市多伎町多岐135-1
TEL 0853-86-9080

マリンタラソ出雲に泊まる！

今日は道の駅ではありません。
初日泊ったホテルが結構良かったのでその紹介です。
　（決してホテルの回し者ではありません！　(;^_^A ）

道の駅キララ多岐を出ると、わずか５００メートル、国道９号沿いに
マリンタラソ出雲 はあります。

なぜ５００メートルとわかるかと言うと、このホテルの目の前に「道の駅キララ多岐まで５００ｍ」の看板があるのです。 (^ε^)♪

ホテルに着いたのは６時を過ぎていましたが、駐車場はほぼ満杯でした。

あとで分かったのですが、ここには海水を暖めた海水プールがあり、そのプールに遊びに来た人、あるいは食事だけをとりにきた人も多く、全部が宿泊客ではなかったようです。

これが正面玄関です。

「タラソ」というのは、タラソテラピーの略で、は海洋療法と訳されます。
海の様々な資源を活用して、身体の機能を高めていく健康づくりのことだそうで、先ほど紹介した温海水プール（正式名称は元気海プール）が中心の施設のようです。

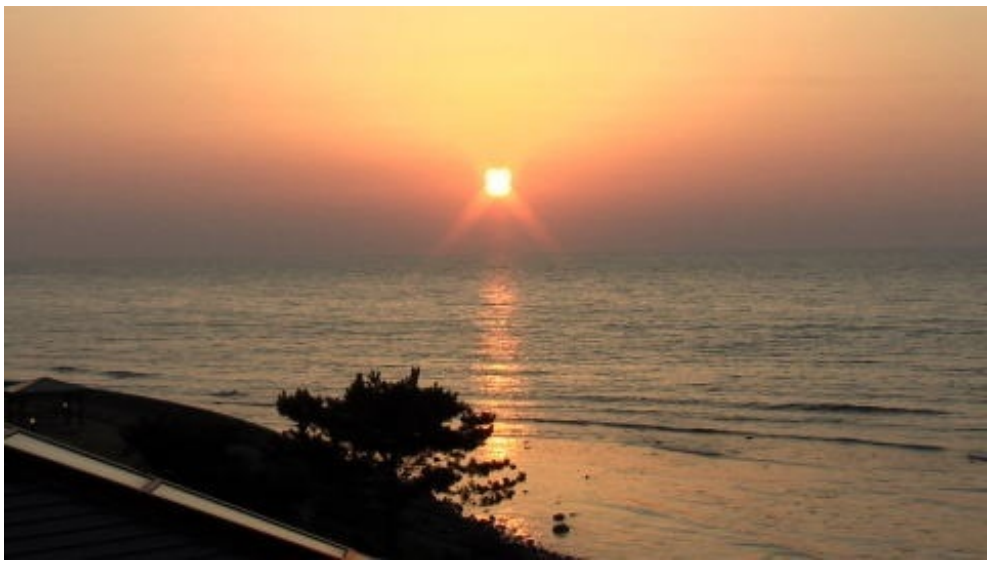
玄関は２階にあり、１階下りたところにフロントがありました。
チェックインを済ませると、フロントのおねえさんが「６時半には夕陽が沈みますからきれいですよ！」と教えてくれました。

このホテルは全ての部屋がオーシャンビューで、部屋は広く、そして結構広いベランダが全ての部屋についています。

ベランダに出てみると、先ほど行ったばかりの道の駅キララ多岐の建物が見えました。

風車も見えますね。

そしてやがて太陽が沈むと、海は真っ赤に染まってきます。



見事な夕陽を何枚も写真やビデオに収めることができました。

そして何よりいいのは料金なのですが、夕食、朝食ともバイキングがついて
二人で１５，６００円、つまり一人当たり７，８００円ですから、リーズナブルと言えます。
（注：楽天でのネット予約です）

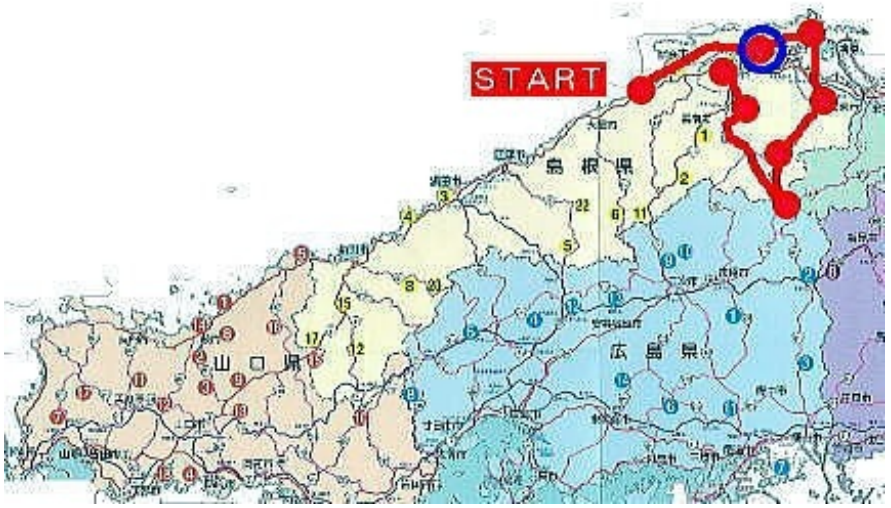
私たちは海水プールまでは行きませんでしたが、水着やバスタオルも借りることが出来ます。
子供さん連れで行けば喜ばれるのではないかと思います。

以上、マリンタラソ出雲の宣伝　・・・　いや違った紹介でした！

マリンタラソ出雲
http://www.talaso-izumo.jp/index.html

宍道湖に面する！“秋鹿なぎさ公園”

さて、２日目になりました。
本日の行程はというと、まず宍道湖に沿って走り、その後内陸に入って岡山県との県境付近まで行ってぐるっと回り、再び出雲市内に戻ってくるコースです。



ホテルを出て出雲の市内を抜け、宍道湖の北側国道４３１号線を辿ると、やがて右手に
宍道湖の湖面が見えてきます。

海のように大きく見え、キラキラ光っていました。
ここで獲れる“しじみ”が有名ですね。

宍道湖の東端に松江市の市街地がありますが、その少し手前、湖畔に面して
道の駅秋鹿なぎさ公園 はあります。

秋鹿は「あいか」と読みます。
どうしてこれが「あいか」なのかな～
日本語って、日本人にも読めないのですからいい加減ですよね。

建物の１階の一部には情報コーナーがありますが、大半の部分は湖に浮かべるヨット、ボート、カヌーなどの格納庫になっています。

２階に上がってみるとまず研修室があり、何かマリンスポーツの講義があっているらしい声が漏れていました。

その先に小さい売店があり、その奥がレストランになっています。

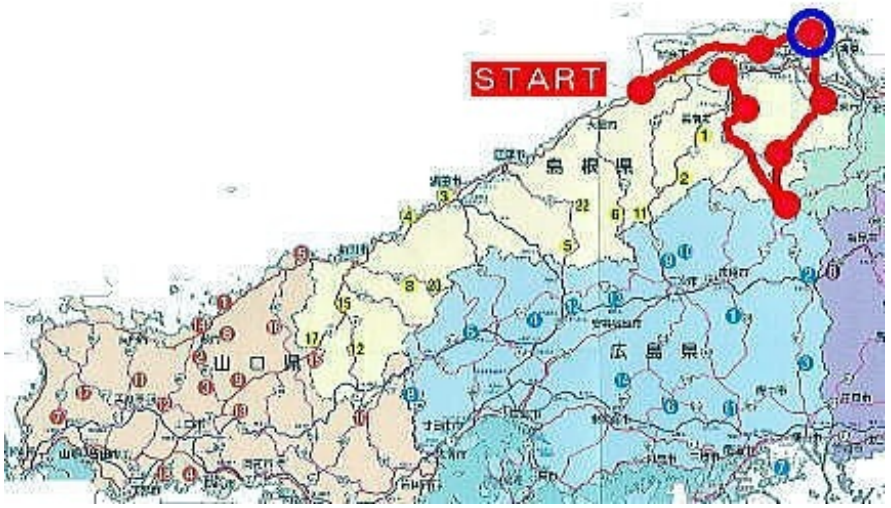
そして先端にある広いベランダは宍道湖に面していて、穏やかな湖面を眺めることがでします。

元々ここはマリンスポーツの基地で、ヨット、カヌーなどを楽しめるようです。
隣接する芝生公園では、家族やグループでのキャンプもできるようになっています。

残念ながら湖面には１隻のヨットもカヌーも出ていませんでしたので少し期待外れしました。

弁慶伝説！“本庄”

宍道湖の湖畔にある秋鹿なぎさ公園を出て、次に向かったのは
道の駅本庄 です。



島根県と言えば「宍道湖」が最も有名ですが、この付近を拡大すると、下のような地図になります。
宍道湖は全国第６位の大きさの天然湖で、隣の中海は同じく全国第５位の広さになります。

いずれも汽水湖という種類の湖で、これは淡水と海水がまざる湖のことを言います。

宍道湖と中海は大橋川を介して連なっていますが、中海は境水道を通して日本海と直接繋がっているので、宍道湖に比べて塩分の濃度が高いそうです。

今回の本庄の道の駅は、この中海に面した場所にありました。

ここは、かなり小ぶりの道の駅です。
下の写真は道の駅の「半分」を写しているのですが、全体を見てみると　・・・・・

下の写真が道の駅の全体です。
手前の半分は、コンビニのファミリーマートなのです。

ですから、どうみてもここはコンビニの駐車場にしか見えませんね。

そして道を挟んだ先には、中湖の湖面が広がっています。

物産館もこじんまりとして、奥には軽食のカウンターがあります。

こんな土産物を見つけました。

実はゲゲゲの鬼太郎で有名な水木しげるさんの出身地がこのすぐ近く島根県境港市で、
そこには水木しげる記念館もあります。

さて、もう一つご紹介したいのは、ここは「弁慶の里」だという事です。

弁慶の母親「弁吉」は器量が悪く縁に恵まれなかったので、両親が心配し出雲大社に祈願してようやくある山伏と結婚することができました。
そして生まれたのが弁慶です。

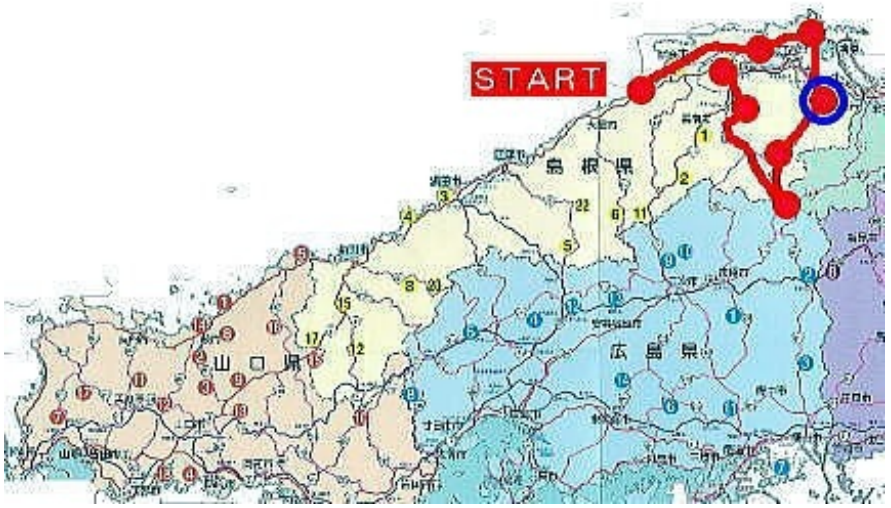
父親である山伏というのは実は天狗で、幼い弁慶に兵法を教え、やがて各地の寺で修行をした弁慶は１６歳の時に京都へ上り、義経に出会う　・・・　という物語です。

ここ本庄に伝わる弁慶の伝説　・・・　でした。　　The END！

弁慶の里
道の駅
本庄

尼子経久の居城！“広瀬・富田城”

中海の湖面を左手に見ながらしばらく走り、内陸部へ入って５０分弱、次の目的地
道の駅広瀬・富田城（ひろせ・とだじょう）に到着しました。



県道に沿って大きな飯梨川が流れており、道の駅はその対岸にあるので、橋を渡ります。
河川の土手沿いに桜並木があり、「桜祭り」の旗が立っていましたが、この付近ではもう桜の時期は終わったようです。

この付近は戦国大名尼子経久の居城「月山富田城」が築かれたところで、道の駅のすぐ裏手に城址が残っています。
道の駅の名前も、このお城に由来するものです。

上が、道の駅の全景です。
左手に物産館、絣伝習所、食事処などの入った建物があります。

そして、渡り廊下で繋がった奥が歴史資料館ですが、ここは有料です。

これが道の駅の入口ですが、レトロな雰囲気がありますね。
この右側に食事処がありますが、ちょうどお昼時だったせいか、中はいっぱいでした。

物産館の半分にはこのように織物の機械が並んでおり、これが絣伝習所だと思います。
数人の若い女性の方たちがこの機械を使って何かを織っておられました。

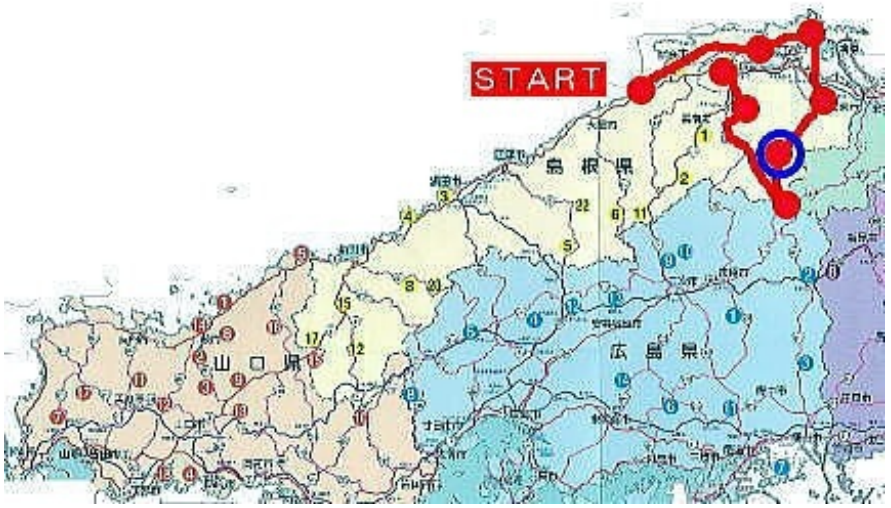
そしてこれはお雛様！
ウサギだとか牛だとかお地蔵さんとか、いろんなバリエーションがあって可愛いです！

物産館にはあまり人がいなかったのですが、多くの車が停まっていたのでここには食事に来られる人が多いのだろうと思います。

道の駅 広瀬・富田城
島根県・安来市

蔵元直売！“酒蔵奥出雲交流館”

次に訪れたのは国道４３２号線沿いの
道の駅酒蔵奥出雲交流館 です。



ここは「酒蔵」でっせ！
しかも蔵元直売ではありませんか！ o(*＞▽＜)ｙ ☆

いかにも酒蔵らしい建物ですね。

玄関にはこんなものが　・・・・　うわぉぉ～～～　(*＾ー＾)ノ

更に　・・・・・
店の奥には試飲コーナーまであるじゃないの・・・！　(＾ε＾)

あっ！　車なんだ　・・・　　飲めね～や！　(T▽T;)

ここは売り場がとっても広いんです。
しかもきれいだし、商品の種類が豊富！

またしても、いっぱい衝動買いしてしまいました。　…　少し反省！

そして、こんなものまで　・・・・・

え"〜〜！　イナゴってか〜〜　　ε=ε=ε= ヾ(*~▽~)ノ

試食まであるぜよ！
パリパリさくさく田舎の懐かしい味　・・・　って書いてある　(･Θ･;)

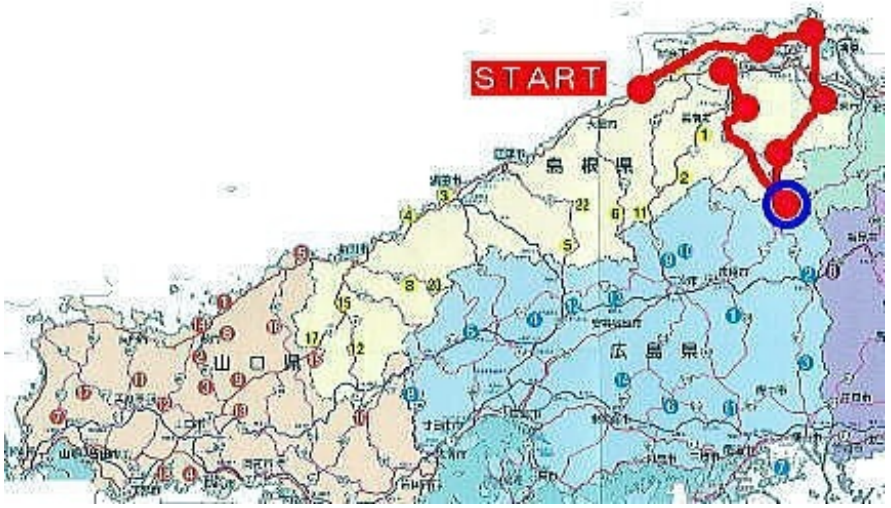
ボクはとても食べれなかったけど　・・・・　嫁さんは食っちゃた。

うおぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ　・・・・・　((((((ﾉ゜⊿゜)ﾉ

海抜７５５ｍ！“奥出雲おろちループ”

次に向かう道の駅はおろちループという恐ろしい名前です。
ルートに少し自信がなかったので酒蔵奥出雲交流館で尋ねると、イラストマップを持っきて親切に教えて頂きました。

前回書き漏れたのですが、この奥出雲は小説「砂の器」の舞台となった場所で、その資料室があり映画のシーンや出演者のサイン、それに舞台となった亀嵩駐在所のセットもありました。



おろちループまで所要時間は３０分程度でしたが、市街地を離れどんどん山奥へ登ってゆきます。
並行して走っているＪＲの列車は、ここではスイッチバックで急坂を上ります。

やがて空中にぐるぐるととぐろを巻いたようなループ橋が現れ、それを登りきった頂上付近に道の駅奥出雲おろちループ がありました。

高度を測ると、海抜７５５ｍを示していました。

駐車場に面したこの建物には、売店と軽食コーナーがあります。

そして、今通ってきた道路の反対側に大きな新しい建物で、レストラン、喫茶や鉄の彫刻美術館と書いた看板が見えます。

このレストランへは道路にかかった赤い橋を渡ってゆくのですが、丁度工事中で橋自体が閉鎖になっています。
付近一帯も何か大規模な土木工事が行われていました。

売店に入ってスタンプを押していると、駅長さんらしい男性が話しかけてこられました。
それによると、レストランなどの工事はあとひと月程で終わってリニューアルオープンするそうです。

大規模な土木工事もすべてその一環で、体験牧場を作り、牛を飼育して乳絞りなどを体験してもらい、そして牛乳や乳製品なども作って販売するとの事です。
この付近は体験牧場を中心にしてテーマパークのような施設になると、熱っぽく語ってくれました。

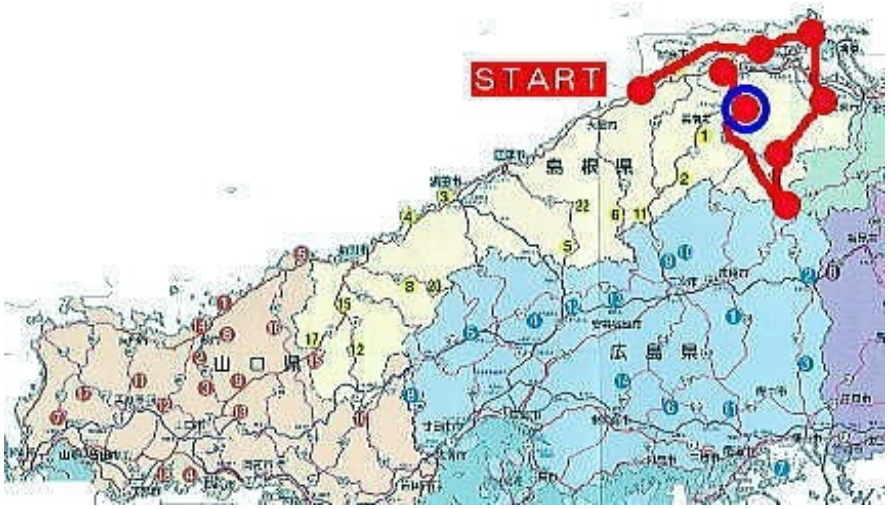
リニューアルしたら是非また来てくれ、と言われたけど多分無理だろうな〜。　(^_^;)

ここの飲食コーナーで軽く昼食をとり、次の目的地へと向かいました。

日本桜名所１００選！“さくらの里きすき”

おろちループを再びぐるぐる回って平地に戻り、国道３１４号、５４号と辿って
道の駅さくらの里きすき へやってきました。

おろちループの道の駅から約５０分かかりましたが、出雲市内にだいぶ戻ってきました。



ここ木次町（きすきまち）は、日本さくら名所１００選にも選ばれた中国地方随一の桜の名所です。

中国山地から宍道湖に注ぐ斐伊川に沿って「斐伊川堤防桜並木」の２キロにも及ぶ並木は桜のトンネルを演出し、絶景との事です。
もう少し早く来れば見られたかもしれませんが、残念です。

ここは２つの建物からなっています。
下の建物がメインで、情報コーナー、休憩所、レストラン、物産館、それに２４時間営業のコンビニも併設されています。

見た目以上に中が広いのに驚きました。
レストランのメニューも多彩で充実しています。

下の写真の建物は農産物の直売所ですね。
「たんびにきて家」というネーミングがユニークです。 (^▽^)

その右隣には屋台風のファーストフードのコーナーもありました。

物産館も結構広くて、色んなお土産品であふれていました。

ここにもありましたよ！
水木しげるのコーナー！

道の駅本庄で見たおやじの目玉焼きの他、妖怪達のお気に入りだとか、妖怪の国土産ゲゲゲの鬼太郎など、種類が多彩です。
多分、ここでしか買えないで代物でしょうね。

道の駅 さくらの里さすさ
出雲神話街道 国道54号

日本三美人の湯！“湯の川”

本日７か所目、最後の道の駅です。
時間は現在５時前 ですから、ほぼ予定通りです。

湯の川という地名はどこにもありますね。
北海道函館の湯の川温泉が一番有名でしょう。

ここにもやっぱり　湯の川温泉　があって、日本三美人の湯 なのだそうです。

これが道の駅の全景です。

国道９号線沿いで交通量の多いところですから、駐車場もとても広く
大型トラックや、すっごく長い大型トレーラーも停まっていました。
運転手さん達の休憩場所になっているのでしょうね。

横から見るとこのように、結構大きな建物なんです。
そして更にこの奥には、、花卉栽培の大きなハウスが何棟か建っています。

そして、さすがに温泉地ですね。
ちゃんと足湯 がありました。

長時間運転の疲れをここで癒すのでしょうか？

店内はかなり広い売り場がありますが、時間のせいでしょうか、あまり人はいません。
立派な建物のわりには、少し照明が暗いのが気になりました。

そして奥へ行くと裏にあるハウスに繋がっており、花卉類がきれいに咲き乱れていました。

さあ、これで２日目を終了です。
今日の走行距離は２１２ｋｍ、昨日が４９７ｋｍでしたからだいぶ少ないですね。

今夜の宿泊は出雲市内のビジネスホテルで、３０分ほどで到着です。

ＪＲ出雲市駅の真裏で、２人合計で朝食付６９８０円 と格安です。

居酒屋で 食事をしたあと駅前を歩いてみましたが、出雲はとてもきれいな街です。
駅の玄関は、さすがに出雲大社の社殿を模した造りになっていましたよ！

道の駅発祥の地！？“掛合の里”

３日目の朝になりました。
天気予報が見事に当たって、朝から土砂降り です！ (Ｔ▽Ｔ;)

バイキングの朝食を食べた後、７：３０に出発しました。
このホテルはチェックアウトも何もなく、自由に立ち去って良いのです。

最初の道の駅までのルートとして、昨日通った道を国道沿いに辿れば一番無難なのですが、ナビに従って最短距離を行くことにしました。

これは県道なのですが比較的道幅も広く、朝の渋滞に遭う事もなくこともなく、目的の
道の駅掛合の里 に着いたのは予定よりかなり早い８：１５ＡＭでした。

「掛合」は「かけや」と読みます。

困ったのはこの道の駅のオープン時間が ９：００ だという事です。
外は相変わらずの大雨なので車からも出られず、やむを得ず車の中から写真を撮っていました。

すると何か建物の中で人影が見えます。
「あそこだけ開いているかもしれんね！」と、傘をさして行ってみました。

すると男性の方が一人いて、「さっき入ったら、中からドアが開かず困ってたんですよ！」(笑)
どうなっていたのかよく分かりませんが、とにかく出られることを確認して中に入りました。

中にちゃんとスタンプが置いてあり、無事に３日目の最初のスタンプをゲット！

この建物は、情報コーナーと郷土芸能の紹介みたいなコーナーがあり、上の一寸法師（？）みたいな人形は全部陶器のお皿と茶碗ととっくりでできていました。

おかげで９時まで待たずに済んだのですが、物産館やレストランなどは別の建物で、こちらは勿論開いていません。
まだ先が長いので、こちらは諦めることにしました。

ひとつ気になったのは、この道の駅は

全国で初めて登録された道の駅発祥の地　と書いてあることです。

このあいだ山口県の阿武の道の駅にも「発祥の地」と書いてあったし、
他の方のブログによると北陸の方にも発祥の地があるそうです。

一体道の駅発祥の地は、全国にいくつあるのでしょうか？　　┐(￣へ￣)┌

県下有数のブナの産地！“頓原”

雨 が降り続く中、２０分ほどで次の道の駅に到着しました。
予報では、午後からは回復 してくるはずなんですが　・・・・・　。

道の駅頓原 （とんばら）に着いたのが ８：４０ なので、まだ駐車している車もまばらです。

正面にある建物がレストランと売店になっています。

その右側に情報交流館の建物があり、道の駅スタンプはここに置いてありました。

更にその右側に青空市 ぶなの里という野菜や草花の産直市があります。
そう言えばこの頓原地区は農林を中心とした地域で、県下有数の「ぶな」の産地でもあります。

スタンプを押したあと、レストランの建物に入ってみました。
オープンは９：００なのですが、入口は開いています。

売店はさほど広くはないですが、出雲の特産品が所狭しと並んでいます。
ここでは、葉わさびの加工品を買いましたが、醤油漬けとはちょっと違うようです。

まだ９時前なのでレジには誰もいません.
声をかけるとレストランの準備をされていた店員さんが来てくれました。

ごめんなさい！開店前から！　m(__)m
でも、快く対応してくれましたよ。

この道の駅には、宿泊施設があります。
会議室もありますから、グループでの研修や宿泊などに利用されるのでしょうね。

八岐大蛇が迎える！“赤来高原”

頓原の道の駅から１５分ほどで
道の駅赤来高原（あかぎこうげん） に到着しました。

今日最初の３つの道の駅は全て同じ５４号線沿いにあるので、私たちのように道の駅を巡る旅をする者にとっては楽チンでありがたいことです。

赤来高原という名前なので、山の上の見晴らしの良い高原をイメージしていましたが、ここは国道沿いの、広島県との県境に近い普通の町中にありました。

それでも、道の駅の看板によるとここは標高が４５０ｍあって、１０００メートル級の山々に囲まれているとの事ですが、あいにくの雨で回りの山は見えません。

道の駅の入口でこんなものを見つけました。
ガソリンタンクもエンジン回りも全部偽物っぽいし、ペダルがあるから　・・・・
これって、やっぱり自転車ですよね？ **(-^□^-)**

店内に入ると　・・・・・・・

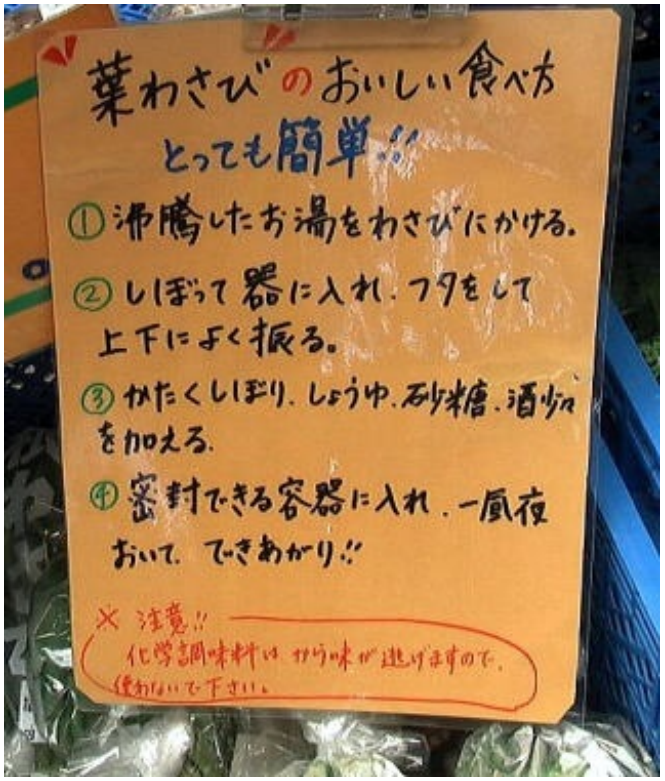
八岐大蛇（やまたのおろち）が中央の柱に巻きついていて、今にも襲いかかってきそうな雰囲気です。
ヘビ嫌いの嫁さんも、これはツノがあるから大丈夫だと、平気だったようです。

出雲はやっぱり神話の町です。
そういえば、この付近の道の駅の看板にはすべて 出雲神話街道 という表示がありましたね。

今回の旅の初日に匹見峡で買った 葉わさび がここでも売っていました。
そして親切にその作り方が書いてありました。

匹見峡のおばさんに教えてもらった方法とは微妙に違うようですが、
ま～色々方法があるのでしょう。

一番下の赤文字は、「化学調味料は苦味が逃げますので使わないでください」と書いてあります。
やはり自然のままの味が一番なんですね。



さてここからは、国道５４号線を離れ、ばらばらの場所を辿ってゆくことになります。

芝桜のじゅうたん！“グリーンロード大和”

さて国道５４号線を離れ、次の道の駅は国道３７５号線上にあります。
これを繋ぐのは県道５５号線ですが、狭いところもなく１８分程で到着しました。

道の駅グリーンロード大和　に着いたころには雨もだいぶ小降りになってきました。
そしてこの道の駅には、芝桜が一面に咲き誇っていました。

裏手の土手一面、そして建物の周りをぐるっと囲み、更に国道沿いの花壇も一面の芝桜で見事

です。

そして、道の駅を巡る場合に海岸沿いなら絶対に晴天の日が良いですが、山の中を回る時は雨の日、正確に言うと雨上がりが緑が鮮やかになって一番きれいなのです。

この道の駅の裏には大きな川が流れており、緑が映えるこんな風景が私は好きです。

反対側は深い山になりますが、雨に濡れた緑と、民家の赤屋根のコントラストが素敵です。

さて、肝心の道の駅ですが　・・・・・

正面にあるこの建物が道の駅と思っていましたら　・・・・・
入ってみたら、これはトイレ でした　・・・　。

駐車場の脇にある「まほろば市」と書いた木造の建物が道の駅本体なのです。

ここには小さなお店とその奥に食堂があり、管理のおばさんが一人おられました。

スタンプを押したあと、次の道の駅へ行くルートを尋ねました。
次は国道２６１号線という別の道路沿いにあり、今来た道を少し引き返して県道５５号線を辿るか、
あるいは、先へ進んで少し遠回りだけど大きい道を行くか迷ったからです。

おばさんは即座に、「このまま進んで****から左折した方がわかり易いよ」と教えてくれました。
であれば、ナビが示す方向と同じなので、おばさんのアドバイスに従うことにしました。

さて、このあとナビに従って少し早く左折してしまった為に、過酷な目 にあったのは
このシリーズの最初の記事でご紹介したとおりです。

その時の記事　→　島根の旅：魔の県道２９６号線

みなさ～ん、間違ってもこの県道２９６号線は通らないように！
スリルを味わうのが好きな方は止めませんが、万一対向車があればアウトです！
運次第のルートと言えますね！

石見銀山の土産物！“インフォメーションセンターかわもと”

さて、今回最大の難局を乗り切って (;^_^A ｵｵｹﾞｻﾀﾞﾖ！、次の道の駅へやってきました。
３日間の島根の旅も残すところわずか２か所になりました。

道の駅インフォメーションセンターかわもと は、
１年半前にオープンした島根県で最も新しい道の駅です。

メインの建物は円形の大きな建物です。
ここに物産館やレストランがはいっています。

更に建物の先には長い屋根が続いていますが、その奥に芝生公園と白いテーブルや椅子が見えますから、これはオープンデッキなのでしょうか？

まだ雨が降り続いているので人影はありません。

円形の建物の中はとても広い特産品販売コーナーになっていました。

ここは、世界遺産の石見銀山に一番近いので、石見銀山のお土産品だけでもこれだけの種類があります。
ぐるっと石見銀山コーナーで、裏にも違う種類があるんですよ！

そして日本酒の種類もこんなにたくさん！
「死神」なんて銘柄は不気味ですね、でも飲んでみたい気もする！

この時点で、時間は１２時半過ぎ。
最後の道の駅は同じ国道沿いで今度は楽チンなので、そこで昼食にすることにしました。

道の駅
石見の情報発信拠点
インフォメーションセンター
かわもと
緑にこだます音楽の里
川本町
KAWAMOTO-MACHI

最終回！“瑞穂”

最後の道の駅へは、同じ国道２６１号線沿いを約２０分で到着しました。
島根の旅シリーズもいよいよ今回が最終回です。

道の駅瑞穂 には、１時少し前に到着しました。
この近くに瑞穂ハイランドスキー場というのがあり、九州のスキーヤーにも結構人気があります。

道の駅は木造で横に長く、山陰地方らしく石州瓦の赤い屋根です。
石州瓦については以前にも少し触れましたが、この島根県の石見地方で生産される粘土瓦で、三州瓦、淡路瓦と並ぶ日本三大瓦の一つになります。

雪に強いことから山陰地方の豪雪地帯ではほとんどの家で使われ、九州から山陰地方に入ってくるととたんに民家の屋根が赤一色になるのはこのためです。

玄関がこのようにいくつもあり、それぞれにお食事処、特産処、待合処などと看板があります。

ここに書いてある田所駅って何だろうと思いましたら、元々ここはＪＲバスのターミナルだったところを整備して、道の駅になったのだそうです。
ですから、今でもバスターミナルを兼ねているものです。

店内は、地元の土産品のほか新鮮野菜の直売所など結構広い売り場になっています。

さて、やっと今回の目標の道の駅を全部回り終えたので、ゆっくり昼食をとろうと食堂へやってきました。

えっ！休業中の張り紙がある！
大変ご迷惑をおかけします、とも書いてある。

ここは「北京駅」という中華料理店があって、店主は中国の方だったはずです。
何かの事情で中国に帰ってしまったのかな？

仕方が無いので、この後九州までの長旅の途中、高速のサービスエリアで食べることにしました。

さて、高速ではスピードを抑えて安全運転を守り、１９：２０に無事自宅へ戻りました。
３日間の走行距離は１，１８０ｋｍ、訪問した道の駅は２０箇所でした。

いぬばさりと読む！“犬狭”

岡山県の自然豊かな蒜山（ひるぜん）高原を離れ、国道３１３号線を日本海側へ北上すると犬狭（いぬばさり）トンネルという長いトンネルがあります。

これを抜けると鳥取県に入ります。

この国道３１３号線はきれいな自動車専用道路ですが、別名 ロマンチック街道 というそうです。

ロマンチック街道といえばドイツのが有名ですね。
ウン十年前の２０代の頃、一人旅で放浪していた時に通ったことがあります。 (-。ー；)ﾏﾀﾞﾜｶｶｯﾀ!

道の駅犬狭（いぬばさり） は、鳥取県に入ってすぐ、自動車道をちょっと降りたところにありました。

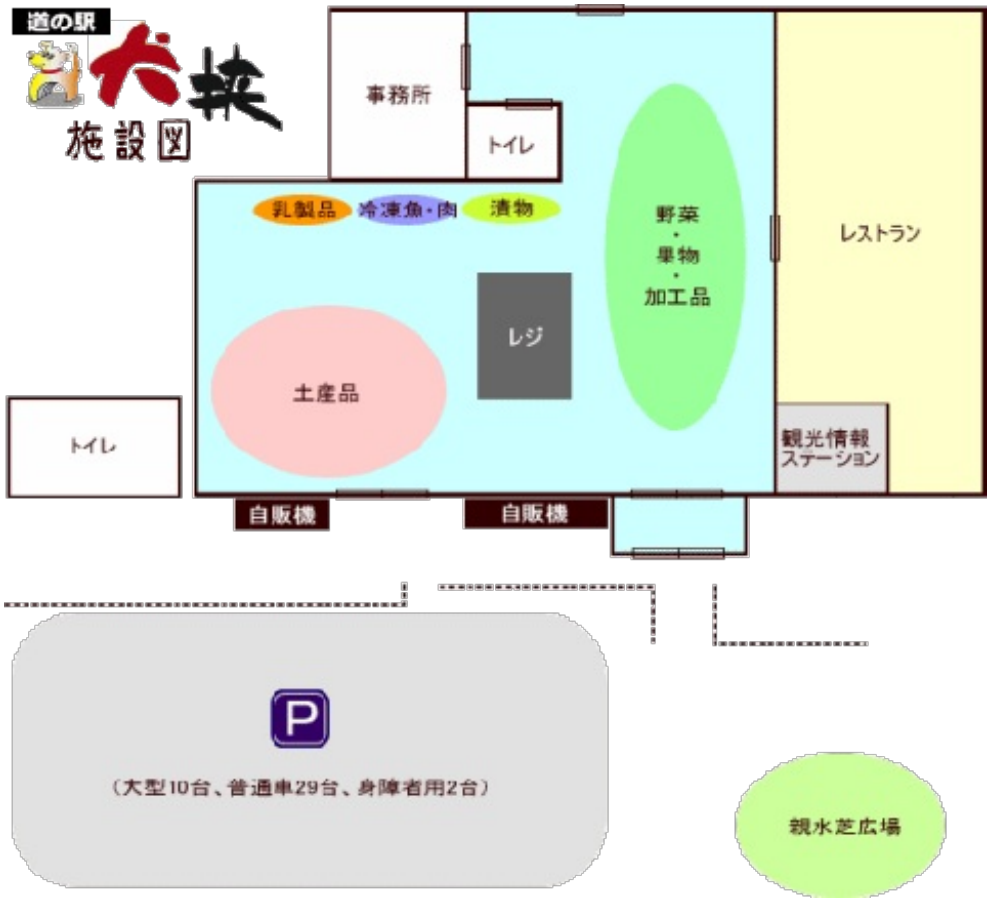
ここは標高３１３ｍ（国道と同じ数字ですね！）の犬狭峠というところにあり、鳥取県倉吉市と岡山県真庭市が共同で運営するという全国でも珍しい道の駅です。

この道の駅は、まさに 山の中 にあります。
平屋建てで、昔の庄屋さんの屋敷みたいな造りです。

まわりに集落なども見えず、国道の交通量は多いものの静かなたたずまいです。
隣接した 親水芝公園 もなかなかの風情です。

ここが入口になります。
近づくと結構大きな建物です。

中にはいると意外に広く、配置は下の図のようになっています。
まずは情報ステーションでスタンプをゲット！



野菜・果物コーナーです。
名産のプリンスメロンが一番前に並んでいます。（１玉４００円です！）

その奥が土産物店ですが、ここも結構商品が揃っています。

ところで、犬狭 （いぬばさり） とは珍しい地名ですね。
この地名の由来は諸説あるそうですが、主なものは以下の通りです。

■第1説

　鎌倉時代に後醍醐天皇が北条方に追われて通ったことで、この峠を「院走り峠」と呼び、「いんばしり」が「いんばさり」となり「いぬばさり」となったという説。

■第2説

　古墳時代に日本武尊が西国平定のため国境の矢筈ヶ山から「この矢のとどく限りの的すべて従え」と言って矢を討ったところ、これが峠にささったことから「矢ばささり」となり、これが変化して「犬挟」となったという説。

■第3説

　犬でも狭い道だから「犬挟」となったという説。

■第4説

狭くて急な峠で犬すら逃げる「犬ば去り」から「犬挟」となったという説。

さて、どれが本当なんでしょうか？

どこが道の駅？“北条公園”

犬狭の道の駅から国道３１３号を一気に日本海側まで行き、国道９号に出ました。
これを右折したすぐのところに、次の道の駅はあります。

雨脚 は更にひどくなり、道の駅に着くころには土砂降りの状態でした。
この時点で15：45、午後からは曇りの予報は一体どうなったんでしょうか？

ここは、とにかく不思議な道の駅です　・・・・・　？？？

道の駅北条公園 の案内看板に従って入ってゆくと、広大な駐車場がありますが、大雨のせいもあるのか、車はわずかしかとまっていません。

そして、正面にあるこの大きな建物　・・・・・・
ネットで見た北条公園の案内には確かにこの建物の写真があったのですが、　・・・・

シャッターが閉まっていて、どこにも入口が見当たりません。？？？？

その右側には、食堂があり　・・・・

どうやら停まっている車は、この食堂のお客さんのようです。

更にその食堂の右側 （一番道路寄り） に、産直市場がありました。

中に入ってみると　・・・・　ありました！　入口にスタンプが！
とりあえず、ノルマとしてのスタンプをゲット！

でも　・・・・・・・

店には誰もいません。
隣のテントの奥には、ちょっと人影があったように思いますが　・・・・　？？

外に出ると、駐車場の脇に看板を見つけました。

これを見て、やっと概要が分かりました。
正面の大きな建物は体育館だったようです。

そして、国道９号を挟んだ反対側にオートキャンプ場があり、更にその管理棟などもあります。
これらをすべて含んだのが、道の駅北条公園だったようです。

次の日、この付近をもう一度通ったので、オートキャンプ場付近を見に行きました。
２日目は打って変わって晴天 です。
以下は、２日目の写真です。

こちらを道の駅本体にした方が、はるかに良いのではないかと思いましたね　・・・　。

鳥取のハワイ！？“はわい”

北条公園から日本海沿いの国道９号線を約１０分走ると、
道の駅はわい に到着しました。

ここは自動車専用道路からちょっと脇にそれた高台にあります。

なぜここが 「はわい」 という名前かというと、ここの地名が “羽合町” だからです。 (*^▽^*)

ここは駐車場も広く、建物も横に細長いのですが、一番左端にコンビニ、次にレストラン、
真中には情報交流館があります。
その右に、物産館とファーストフードのお店、といった構成です。

そして建物の更に右の方には小高い山があって、頂上が展望広場になっています。

この建物は、羽合町橋津にある 藩倉 （江戸時代の米蔵）と形を似せて作られたのだそうです。

そして、「ハワイ」をイメージしてでしょうか　・・・・・

アロハ大市場 があり、　・・・・・

店内にはヤシの木が茂り　・・・・・　　（もちろん偽物です！）

玄関には巨大なソテツの木が　・・・・・　　（ソテツはどこにでもあるか　・・・　！）

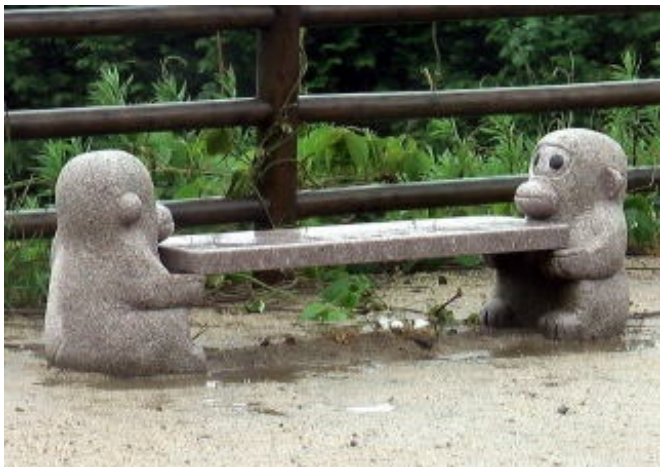
ついでにこれも、何となくハワイのイメージですね　・・・　。

さて店内ですが、まず水産物直売所があり、日本海で獲れたズワイガニがズラリと並んでいました。

かなりの広さのお店で、店の外にもこのとおり豊富な農産物が揃っています。

道の駅の裏手には 東郷湖 という湖が広がり、反対側は日本海、そして天気がよければ
伯耆大山が望める絶好のロケーションにこの道の駅はあります。

東郷湖を望む裏庭には、こんなかわいいベンチがありましたよ！



道の駅
はわい

大国主命の物語！“神話の里白うさぎ”

次の道の駅に行く途中、魚見台という、とても景色の良いところがありました。

ここには何故か覗き穴があり　・・・・

そこから覗いた日本海がこれです。

晴天だったらもっときれいだったでしょうね！　ちょっと残念！

さて、本日最後の目的地は

神話の里白うさぎ です。

因幡の白うさぎ といえば当然これでしょう　・・・　。

これは、道の駅の入口にあります。

右後ろにある鳥居は、白兎神社 といって、ここから長く石段が続いています。
ここは因幡の白兎が体を洗ったといわれる不増不滅の池があり、医療の神様としても有名です。

道の駅を横から見るとこのようになっています。
１階が情報コーナーと特産品販売所、２階は海鮮レストランで、一部が展望広場になっています。

真横から見るとこうなります。

そして、この道の駅の建物の２階から、国道９号線を越えて海岸まで陸橋がかかっています。
その陸橋から見ると、道の駅はこのようになります。

更に、陸橋から見下ろした海岸がこちらです。
ここは白兎海岸といい、因幡の白兎が鮫の背中を渡ったと言い伝えられる場所です。

さて、特産物販売所に入ってみました。
ここは、売り場の大半を鮮魚店が占めており、あらゆる魚介類が豊富に揃っています。

島根や鳥取でよく見かけるゲゲゲの鬼太郎みやげですが、ここのコーナーもちょっと面白かったので撮影しました。

ところで皆さんは因幡の白兎の物語を覚えていますか？

洪水で隠岐島に流されたウサギは、サメをだましてその背中を渡って因幡へ帰ろうとします。
ところがうっかり最後に口を滑らせたため、皮をはがれて赤裸にされてしまいました。

そこに最初に通りかかった大国主の命の異母兄弟の神様達は、嘘の治療法を教えてウサギを更に苦しめます。
異母兄弟の荷物を一人で背負わされていた大国主の命は最後に通りかかり、ウサギを助けてあげます。

大国主の命はウサギの予言通り、その後八上姫という絶世の美女と結ばれ、やがて隣の島根県にある出雲大社の祭神となる、というお話です。

でも、ウサギに嘘の治療法を教えて苦しむのを喜ぶなんて、とんでもない神様が昔はいたんですね。

フルーツセンター！“はっとう”

２日目の朝です。

昨日とは打って変わって上天気です！
今日は８箇所を回って、再び米子駅から九州へ戻ります。

すぐ近くの鳥取砂丘では今、「世界砂像フェスティバル」があっています。
見に行きたいのはやまやまですが、どうしても時間不足です。

昨夜は鳥取駅前のビジネスホテルに泊りました。
部屋は狭いですが、朝食もついて２人で６千円台 と格安なのが気に入っています。

２日目の最初は、鳥取駅前から３０分強、国道２９号線沿線の
道の駅はっとう です。

ここは、八頭郡八頭町 という地名からついた名前です。
八つの頭とは、やまたのおろち からきてるのかな～？？

ここには フルーツ総合センター という看板があがっています。

元々八頭町の特産である 二十世紀梨、西条柿、花御所柿、りんご、ぶどう 等を販売、加工するために出来た施設が、その後周辺を整備して道の駅になったのだそうです。

下の写真の手前の部分に フルーツ総合センター の看板がありました。
こちらは多分食品の加工をしているのではないでしょうか？

そして、ここが道の駅の正面入り口になります。

朝早いので客は誰もおらず、お店の女性の方が一人で荷物を運び込んだり、並べたりしていました。
次の道の駅の場所がよく判らなかったので尋ねてみたのですが、少し愛想が悪かった　・・・・・・

忙しい時に話しかける方が悪いですよね　・・・・　ごめんなさい！　m(u_u)m

ここにはすごく広い駐車スペースがあるのですが、その裏側にでっかい建物が見えます。
左端の木造瓦屋根のおうちは、うどん屋さんです！

上に上がってみると、でっかい体育館がありました。
手前の広場も洒落ていますね！

体育館を真横からみるとこんなにでっかいのです。
周辺には色んな花が咲いていて、地域住民の憩いの場、といった雰囲気です。

この周辺一体は 総合運動公園 なんだそうで、国道２９号線沿いの道の駅のすぐ隣にはグラウンドま

でありました。
つまり、総合運動公園と道の駅が一体になった施設だったんですね。

SLが走る！“若桜”

本日の２ヶ所目は
道の駅若桜 といって、昨年（２００８年）の６月にオープンしたばかりの新しい駅です。
「若桜」と書いて「わかさ」と読みます。

まだ新しいのでナビにも入っていません。
電話番号をナビに入力したら全然違うところを示し、今来た道を引き返すようになります。
おそらく、この町の役場か何かの電話番号なのでしょう。

ナビの指示を無視して国道２９号線を更に先へ進むと、わずか７～８分で到着しました。
ここは新しいので、いかにも新築らしく建物が輝いて見えます。　　・・・・　天気が良いせいかな？

今日はご覧の通り、雲ひとつ無い最高の天気です。
昨日、あの土砂降りの中を走ったのが嘘のようです。

左端の白い建物が 情報コーナー、休憩室、トイレ になっています。
白が基調の建物ですが、若桜の街に今でも残る 白壁の蔵 をイメージしたのだそうです。

正面の建物が 物産館と食堂 です。

そして一番右端 （下の写真） に、 若桜味工房 という、食の加工施設があります。
これは、う〜〜ん！　何に使うのでしょうね？

物産館に入ってみると　・・・・・・

入り口にこんな看板があります。
洒落ていますね！

まだ早いのでお客は少なく、若い女性の店員さんが床にモップをかけていました。
でも、オープンの９：００はもうとっくに過ぎているんだよな　・・・・　？

さて、突然 ＳＬ の写真が登場しました！

もちろん私が撮った写真ではありません。　（桜が咲いていますからね！）
情報コーナーに大きな写真が飾ってあったものです。

実はここ若桜は、ＳＬが走る道の駅 なのです！！
この道の駅の裏側に 若桜駅 という駅があります。

ここが終点らしく、線路はこの道の駅の裏で終っており、先端に車庫があります。
ＳＬはここに保存されているのだと思います。

どうやら常時運行するのではなく、イベント等の時だけのようですが　・・・・　。

若桜駅には当時の蒸気機関車設備が残されています。
蒸気機関車を方向転換させる「転車台」など、当時の施設がそのまま残っているのは全国的に珍しいそうです。
これを地元の有志の方たちが長い期間をかけて復元されたもののようです。

若桜駅ＳＬ保存会というサイトがありました。
リンクしていますので、興味のある方はご覧下さい。

来月、６月６日（土）～６月７日（日）は、この道の駅の１周年を記念して感謝祭が開催されます。
その時に、11：00、13：30、15：00の３回ＳＬが運行されるそうですよ！

八上姫のラブストーリー！“清流茶屋かわはら”

国道２９号線の今来た道を引き返し、次の道の駅は国道５３号線沿いになります。

ナビに導かれてどこをどう走っているのか判らないまま、３０分ほどで
道の駅清流茶屋かわはら に到着しました。

この道の駅は、私が中国地方の道の駅を回った中で上位ランキングに入る
とても綺麗で素敵な場所です。

ここは、道の駅のすぐ裏側を自動車専用道路 （高速かな～？） が走っており、
反対側に国道５３号線を挟んで、千代川 というでっかい川が流れています。
清流茶屋 というのは、ここから名前がついたのだと思います。

今日はまず、外の風景から　・・・・

千代川の河川の先の小高い山にお城が見えますね。
これが 河原城 で、拡大したものが下の写真です。

とても形の良いお城ですね。

そして道の駅の本体ですが、とにかくでっかいので一度に写真は撮れません。

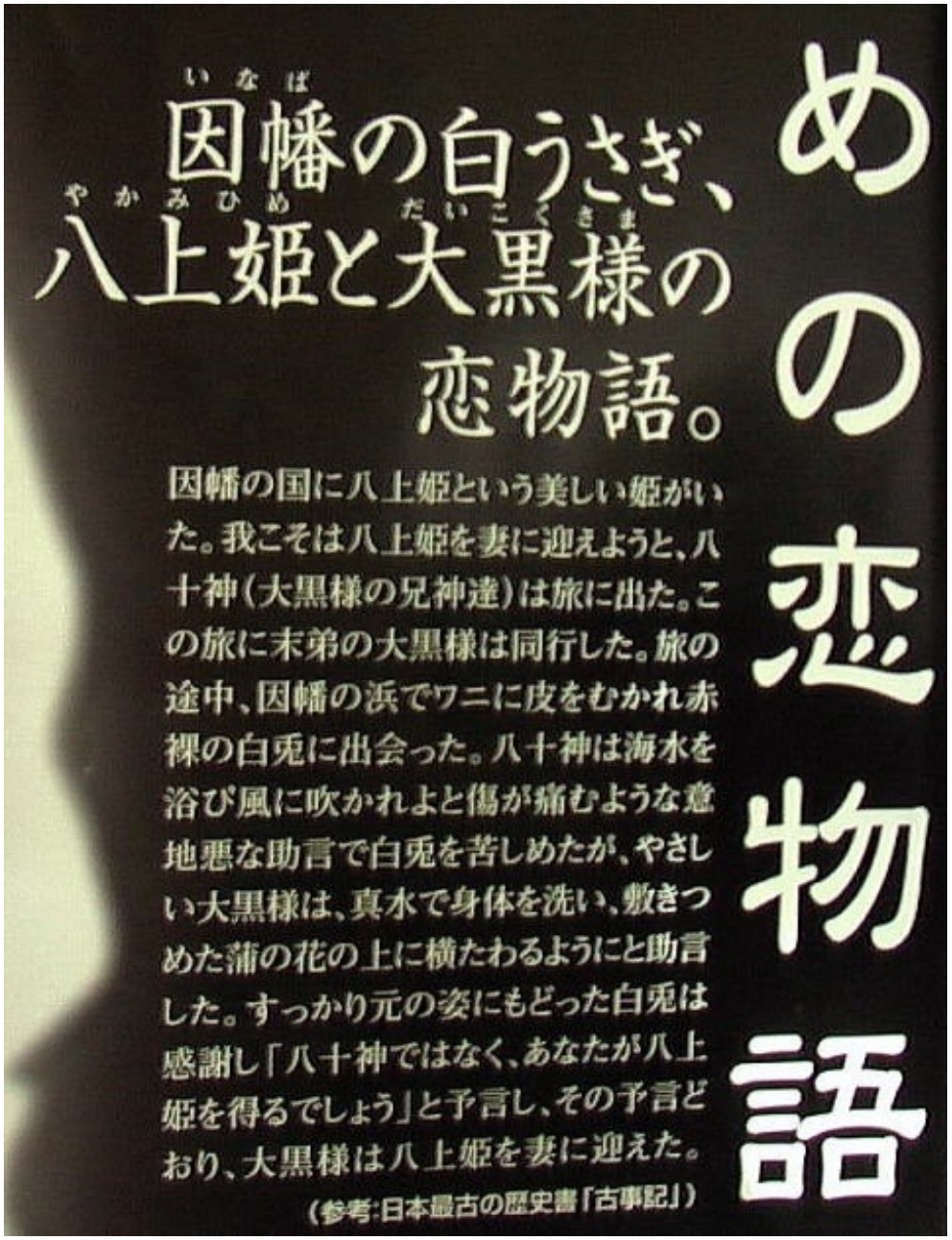
そしてここは、休憩所、情報コーナーも充実していますが、売店 がとても気に入ったので
その写真を数枚お見せします。

こんな楽しい雰囲気の売店だと、つい色んなものを買いたくなりますよね！（俺だけかな？）

ここも神話のふるさと だけあって、情報コーナーにはいろんな資料が揃っています。
こんな可愛いのもありました！

因幡の白兎くんです！

そして、その物語も書いてありましたよ！
少し大きめに貼り付けましたが、読めるかな？



先日「神話の里白うさぎ」の道の駅に行った時、少し物語を紹介しましたね。
あの時の、大国主命（大黒様）と恋に落ちる絶世の美女八上姫（やかみひめ）の故郷が
この河原町なのです！

みなさ～ん！八上姫はこんな人ですよ～！

因幡の白うさぎの神話にまつわるラブストーリーのヒロイン八上姫は、鳥取県がかつて
「日本でいちばんはじめの恋物語」 というキャッチフレーズで観光ポスターを作っています。

この物語をもっと詳しく書いたチラシが置いてありました。
それによると大国主命は異母兄弟に何度も殺されかけたり、八上姫と別れ別れに暮らしたり
結構生々しい物語になっています。

神話や童話といったものも、きちんと読んでみると結構面白いものですね。　o(^▽^)o

ラジウム含有量が世界一の温泉！“三朝・楽市楽座”

次は国道１７９号線を日本海側に向ってずっと北上すると３０分ほどで
道の駅三朝・楽市楽座（みささ・らくいちらくざ）へ到着です。

今日のコースも後半ですが、時間は１時を過ぎました。
三朝・楽市楽座は周りを山々に囲まれたのどかな田園風景の中にあります。

元々地元の特産品売り場だったのが道の駅になったのだそうです。
ＪＡの看板がありますから、最初の設立母体がＪＡなのかもしれません。

中央のこの入口が道の駅正面玄関です。

建物の右半分が主に農作物が置いてあり、そちらにも入口がありました。

店内の様子です。

他の道の駅もそうですが、この付近はたくさんの種類のお蕎麦が並んでいます。

ここ三朝町には 三朝温泉 がありますが、ラジウム含有量が世界一です。
それでラジウムの発見者キュリー婦人を讃えて毎年８月の始め、キューリー祭 が行われます。

ラジウム含有量が多いっていってもあまりピンときませんね。
そこで少し解説！

ラジウムが分解されるとラドンという弱い放射線でが出ます。
これを身体に浴びると新陳代謝が活発になり、免疫力や自然治癒力が高まる効果があります。
さらにラジウムが気化し、発生するラドンガス（湯気）吸うことで抗酸化機能が高まり、老化や生活習慣病の予防に役立ちます。

ですから、この温泉は療養目的で来られる湯治のお客様も多いのだそうです。

この道の駅はこじんまりとして、これといった特徴がありません。

名前になぜ 楽市楽座 がついているかも、結局わからずじまいでした。

残りの３か所は日本海沿いになりますので、ここは長居をせず次へ進むことにしました。

ここも道の駅発祥の地？“大栄”

国道１７９号線を北上し、日本海側の国道９号線にでました。
この付近は海岸線に発電用の風車が限りなく立ち並んでいます。

最近は各地で風車を見かけますが、これだけ延々と並んでいるのは圧巻です。

この国道９号線沿いには道の駅がいくつもあって、先日ご紹介した「北条公園」とは５キロしか離れていません。
道の駅大栄（だいえい）には １４：２０ に到着しました。

交通量の多い国道９号線沿いで、駐車スペースも広く取ってあります。
道の駅の隣は「お台場公園」という広い広場があります。

それからこの石の標識、ちょっと読みにくいかと思いますが、左下に
「道の駅登録全国第一号」と書いてあります。

一部隠れていますが、ここにも書いてありますね。

私が道の駅を回った中で、全国第一号 と書いてあったのはここが３ヶ所目！
他の方のブログにもどこか登場していましたので、一体全国には第一号がいくつあるのでしょうか？？

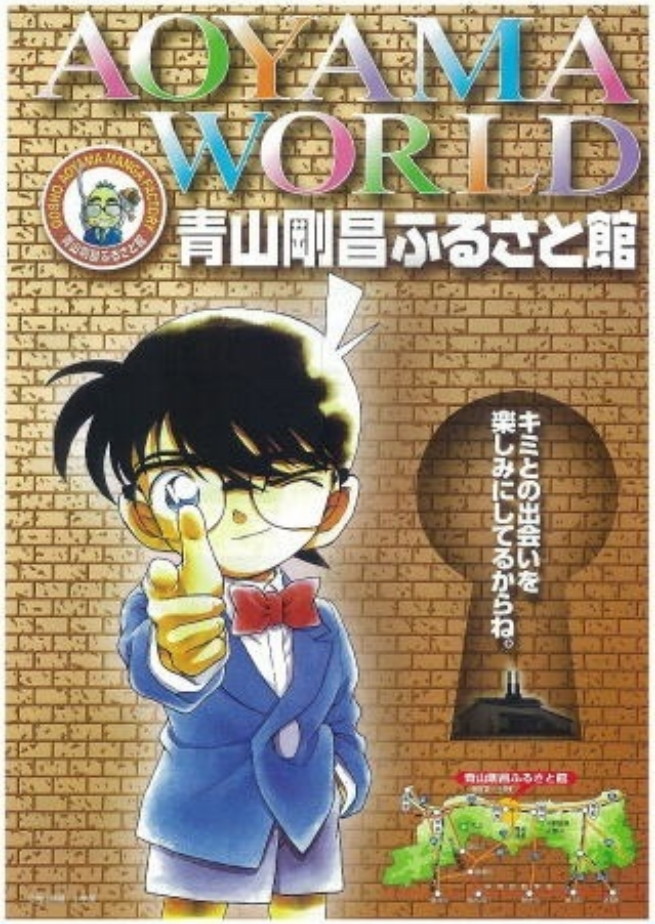
店内の様子です。

さてもう一つ、こんなブロンズ像が立っていたのですが誰だか分かりますか？

そう、名探偵コナン ですね。
どうしてこんなものが立っているかと言うと　・・・・・・・

コナンの原作者青山剛昌の出身地で、青山剛昌ふるさと館 がこの道の駅のすぐ裏にあるのです。
コナンの大ファンであるうちの嫁さんは大感激！　(≧▽≦)

といっても、見に行く時間は無いのでチラシだけで我慢してもらうことに　・・・・・・　ヽ(`Д´)ノ



ちなみにこの大栄町では、ＪＲ由良駅前から国道９号までの県道を 「コナン通り」 と名付けており
「コナンに会える町」 としてまちづくりをしているそうです。

名探偵コナンにせよ、ゲゲゲの鬼太郎にせよ、鳥取、島根は有名な漫画家を輩出しているのですね！

日韓友好交流公園！“ポート赤碕”

道の駅大栄からわずか９キロ、１２分で次の
道の駅ポート赤碕 へやってきました。

ここも、もう一度来たいと思う道の駅の一つです。
県内屈指の漁港・赤碕港がすぐそばにあり、道の駅の背後には日本海の海原が広がります。

道の駅と海岸の間には ふれあい広場 があり、子供たちがアスレチックやローラー滑り台などで遊びまわっています。

そして建物の右手には 日韓友好交流公園 風の丘 という公園があって、そこには
韓国風の公園が再現され、日韓友好資料館 もあります。

どうしてここが日韓友好かというと、その昔赤碕沖に漂着した韓国船を地元の人たちが助け、乗組員を手厚くもてなしたことから交流が始まったのだそうです。

いい話ですね！

道の駅の入口がまた、洒落ています。
写真ではちょっと見にくいようですが、迫力のある絵が両方に描いてあるんですよ！

そして赤碕港から水揚げされたばかりの山陰沖の魚介類が何十種類も並びます。
ここは赤碕町漁協直営ですから、料亭などのプロの料理人も買いに来るそうです。

面白いものを発見しました！

四角い金属の枠が電動でぐるぐる回っているのです。
これには、魚 がぶら下がっています。

そうです！　魚の干しものを作っているんですね！
メザシなどの干し魚をこうやって作るのを初めて知りました！

周りの金網は、猫 に取られないようにしているのかな？

さて、残りがいよいよ１か所になりました。
この時点で時間は １４：４０ です。
５時までに米子駅に戻れば大丈夫なので、少し余裕がありそうです。

さあ！最後の道の駅を目指しましょう！

最終回！“大山恵みの里”

今回の鳥取方面の旅の最後は、
道の駅大山恵みの里（だいせんめぐみのさと）です。

ここは、平成２１年４月４日の新規オープン！
つまり、出来てからまだ１か月とちょっとしか経たないほやほやの道の駅なのです！

できたばかりの道の駅という事は　・・・・・・
当然、ナビには入っていません。

電話番号で登録をしたのですが、９号線の途中で
「目的地に到着しました！」とナビは言うけれど、全くそれらしい建物はおろか
案内板さえも見当たりません。

ネットの情報では９号線から１キロ入った所になっているので、当然何らかの案内板があろうと
９号線を更に進みました。

それらしい案内板がないまま、米子に近づいてしまったので、コンビニに車を停め
道の駅に電話してみました。

電話にでた男性の方に事情を話して場所を尋ねると、
「今いらっしゃる所で、何か目印になるものはありますか？」
私が「９号線のローソンの駐車場にいるのですが・・」と答えると。

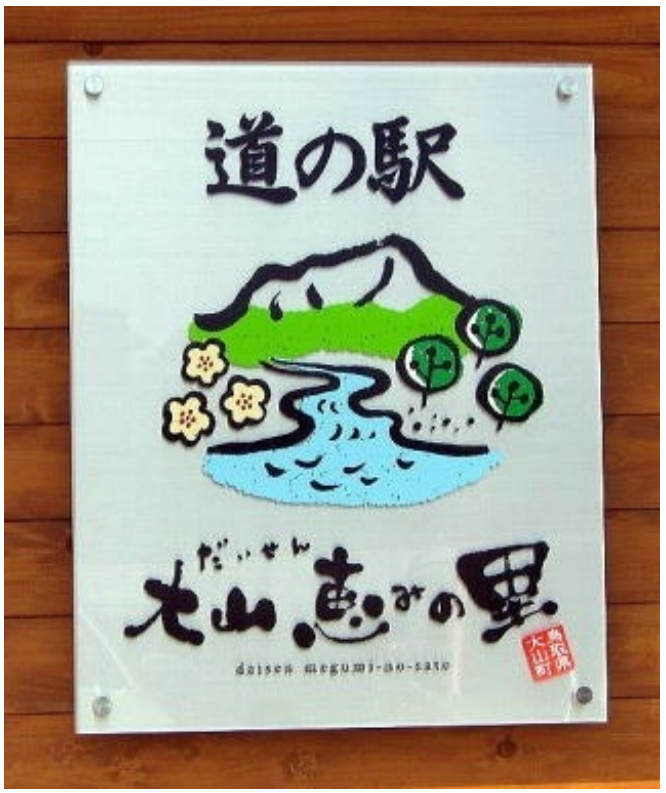
「あ～」 と、たったそれだけで判った様子です！

国道９号線にローソンは１か所しかないのでしょうか？

「その先を左折すると高速の山陰道があります。そこから高速に乗って鳥取方面に戻り
終点の名和ＩＣでおりて下さい。そのＩＣを出たところに道の駅はあります」

何と分かり易いのでしょう！
それにしても９号線にも案内を出しておいて欲しいものです。

高速の出口付近でこの看板を見つけてひと安心！



こじんまりとした駅ですが、建物が新しいというのは気持ちがいいものです！
場所を丁寧に教えていただいたお礼に（？）ここでもお土産を買いました！

ここはその名の通り、中国地方の名峰「大山」のふもとに位置します。
従って、駐車場からはその雄姿が拝めます。

写真は、ちょっとイマイチですね！
もう少し空気が澄んでいればもっと綺麗だったでしょう。

途中の道の迷いで時間を食ってしまったので、現在 １６：１０ です。
下の道を走れば厳しかったでしょうが、私の地図には載ってなかった山陰道のＩＣがそばですから、
これを走ることにしました。

高速を下りてＪＲ米子駅までは近かったので、３０分で到着しました。

結局昼食を取ってないので駅で駅弁とビール を買い込み、特急の中で食べました。
目的を果たしたあとのビールと食事はうまい！！

岡山で新幹線 に乗り換え、自宅には２２時半に無事帰還しました。

２日間の訪問道の駅：　１５か所
走行距離：　３７７キロ
使用ガソリン：　１７・９リッター

何と、リッターあたり２１キロも走ってるのですね！　エコ ですね！

初めての岡山県！“鯉が窪”

遊ＹＯＵさろん東城（広島県）の道の駅を出て、わずか１０分ちょっとで
道の駅鯉が窪（こいがくぼ）へやってきました。
ここは、初めての岡山県です。

岡山県全体を回るのはまだ先の予定ですが、ここだけは今回のルートに近いので立ち寄ることにしたものです。

県境を越えると何故か急に曇ってきました。
山の方を見ると、雨が降っているのでしょうか、かすんで見えます。

ここは静かな山あいにあり、広い敷地にいくつもの建物が並んで裏には庭園までもあります。
上の写真が真正面にあり、情報コーナー兼休憩所になっていました。

その入口のすぐ脇に「哲西の太鼓田植え」という像がありました。
昔はこんな風に皆で力を合わせて田植えを行っていたのでしょう。

この休憩所の右隣に、郷土料理店、物産店、農産物市場などが並びます。
これらをまとめて「昔ばなしの里」と名付けられています。

山野彩館という郷土料理の店には、「イノシシどんぶり」の看板がありました。
どんな味がするのでしょうか？

私は以前、趣味でイノシシ猟をされている方から、生肉を食べさせてもらったことがあります。
味は　・・・・　といえば、・・・　う〜ん！　まあ、馬刺しの方がまだ旨いですかね？ (^_^;)

それより、イノシシを追って仕留める 武勇談 の方が興味津津でした。
イノシシは農作物に被害を与えるので、猟に行くと農家の人たちにすごく歓迎されるそうです。

一番右端にある市場回廊は、Ｓ字カーブになっていてバザーや生鮮品販売などのイベントに使われています。

この道の駅の近くには、国の天然記念物である「鯉が窪湿原」があります。
西の尾瀬とも言われるそうですが、本物の尾瀬に行ったことがないのでイメージが湧きません。

この道の駅にいる間ずっと小さな雨が降っていましたが、このあと広島県に戻ったらパッと晴れました。
不思議ですね！

新庄選手の手形！“メルヘンの里新庄”

１泊２日の鳥取の旅から帰ってきたので、今日から新シリーズをスタートします。
「鳥取の旅」と銘打っていますが、一部岡山県も含まれており、その１回目は岡山の道の駅です。

予告編で少し触れましたが、博多を１７日の６：51新幹線 ひかり**RailStar**５４４号で出発、
岡山で伯備線に乗り換え、特急やくも５号で米子（鳥取県）まで来ました。

中国地方最高峰の 大山 （だいせん） のふもとに位置する 米子（よなご）に着いたのが、11：14.です。

（乗ってきたやくも５号です。ほとんど山の中を走ります）

ここで、ＪＲ系の 駅レンタカー で車を借りて、出発です。
交通費やレンタカー代が格安 だったのは、予告編の中でご紹介したとおりです。

今日、明日の相棒はトヨタの ヴィッツ です。
ナンバーが「**15-18**」なので、「一期一会」と覚えました。(^▽^)

今日は、上の地図のとおり７か所の道の駅を巡って、鳥取市内のビジネスホテルに泊まる計画です。

駅レンタカーのおじさんが話好きで、最初の目的地である道の駅までのコースを
こまごまと教えてくれました。
ナビだとこっちを示すけど、そうではなくてこちらを通りなさい　・・・・・　云々、
と　・・・・・・。(^o^;)
おじさんのアドバイスに従ってまず米子自動車道に乗り、江府ＩＣで降りる、
そしてあとは国道１８１号線を辿ると、１時間ほどで岡山県の
道の駅メルヘンの里新庄 に到着しました。

名前のとおり、看板も建物もメルヘンチックですね。

これが一番右側にある建物で、食事処があります。

その左側にこんなに長く建物が並んでいて、中央のとんがり屋根が物産館の正面入り口です。

この日は観光バスも立ち寄っていて、大勢のおじさん、おばさんで賑わっていました。
　・・・・・　あっ、俺たちもおじさんとおばさんだったんだ！　(;^_^A

いかにも山の中らしく、わらびだとか、大きなウドとか、山菜が並んでいました。

でも、今日はレンタカーなので野菜とか海産物を買うわけにはいきません。

さて、物産館の入口のところに、こんなものがありました。

プロ野球 新庄剛志 選手の手形です。
新庄選手の出身は福岡だから、ここは関係ないはず　・・・・　。

ここの道の駅の名前が「新庄」だからなのでしょうね！
「平成１０年１２月１３日来村記念」と書いてありました！

伝説の怪物スイトン！“風の家”

次の目的地は、県道５８号線を辿って約２０分、岡山県の
道の駅風の家 です。

ここは米子自動車道の蒜山（ひるぜん）ＩＣからだと、わずか数分の距離にあります。

今日はあいにくの雨 です。
予報では今日は雨のち曇り、明日は晴れるはずです。

ここは建物も大きく、お客もとても多いようです。

上の写真の右端に半分移っているところが野菜などの直売所で、下の写真がそれです。
オープン形式でかなりの広さです。

中に入ると、屋根だけの巨大な倉庫のようですが、もう商品は半分くらいしか残っていません。
この野菜市場は、平日は朝８時から、土日は７時半から開かれるのだそうです。

物産館の方に入ってみました。

ここはとても広いし、色んなみやげ物が揃っています。

そして、目を引いたのがこれです。
蒜山の伝説の怪物スイトン というそうで、大小さまざまな種類がありました。

この蒜山にはスイトンという恐ろしい怪物がいて、悪い人間を引きさいて食うという伝説があります。
何故スイトンという名前かというと、スイーと飛んで来てトンと一歩足で立つからだそうです。（笑）

畑の中にもスイトンがいましたよ！

岡山県と鳥取県の境に 蒜山 （ひるぜん） という山があります。
その南側、つまりこの付近を蒜山高原といい、さまざまなレジャー施設のあり、夏場の避暑や冬のウインタースポーツも楽しめる一大観光地です。

次に行く道の駅が、「蒜山高原」という名前ですが、この風の家も蒜山高原の一部になるようです。

大自然の中のレジャースポット！“蒜山高原”

道の駅風の家から次の道の駅蒜山（ひるぜん）高原までの２０分弱のみちのりは、
緑豊かな高原の中を走る快適なコースです。

道の途中には個性豊かな別荘がいくつも立ち並び、レジャー施設だとか、キャンプ場、レストランだとかがみられます。

途中、たくさんの車がとまったでっかい施設がありました。
はっきりは判りませんが、ヒルゼン高原センターというテーマパークがありますから、そこだったのかもしれません。

天気は回復しないものの、樹木にかこまれた快適なドライブを楽しみ、
道の駅蒜山高原 にやってきました。

駐車場に車をとめると、木々のあいだにすごく立派な建物が見えます。

わお～、すごく立派じゃん！　・・・　と感心して近づくと　・・・

正面の立派な建物は「ホテル」でした。

道の駅は、その左側の丸い建物です。

ここは、蒜山ヒルズ というホテルと道の駅が一緒にあるのですね。

そして道の駅の玄関には、昨日ご紹介した「蒜山の怪物スイトン」が、悪い人間が入ってこないかをちゃんと見張っていましたよ！（写真を撮り忘れた！）

店の中はこじんまりしていますね。
売店とレストランがあるけど、あんまり大きくはありません。

そして又、ここは サイクリングターミナル になっています。
ここを中心として、いくつかのサイクリングコースが整備されているようです。
ちゃりは、ここで借りることができます。

この緑の中をちゃりで走ったら、さぞ心地よいだろうと思います。

この道の駅自体もみどりの多い場所ですが、道路を挟んだ向かい側は、
自然牧場公園 というのがあって、森林浴を楽しむには最適だろうと思いました。

のどかな田園地帯！“奥津温泉”

本日4か所目は再び県境を越えて岡山県に入ります。
国道53号線を少し進んだあと、482号線、179号線と辿るのですが、これは山越えルートです。

今回の旅はここで山越えがあったくらいで、ほとんど平坦なきれいな道でした。
山越えと言っても、多少カーブが多いだけで何ら走り難いところはなく、前回の島根の旅のような神経を使う走りは必要ありません。

元々道の駅巡りのコースを考える時には、次回のコースもあわせて検討します。
この奥津温泉も、岡山側からでも行けるのですが、今回に組み込んだ方が効率的なのです。

道の駅奥津奥津温泉 までは、約1時間がかかり、ちょうどお昼時になりました。

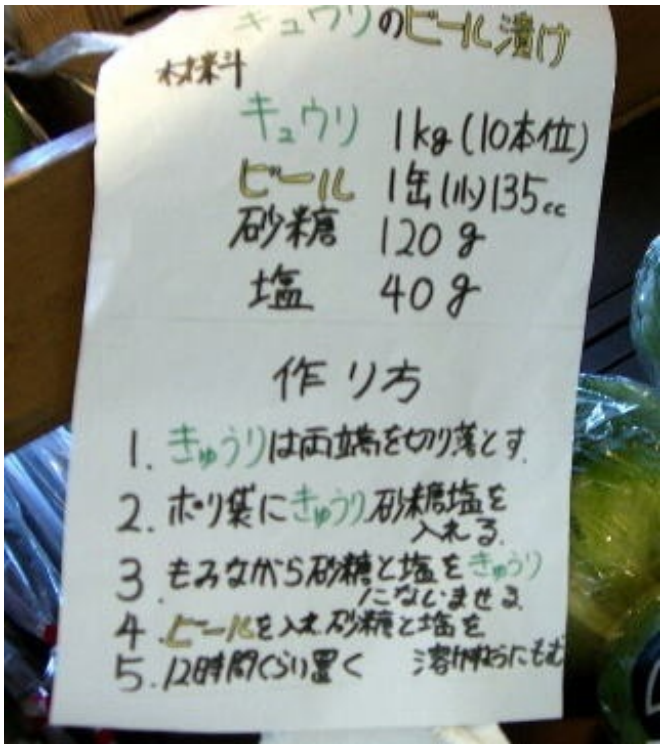
ここは本当にのどかな場所です。
周りは山に囲まれ、ちょうどツツジが満開で、空気も澄みきっています。

奥津温泉という名の通り、付近にはいくつかの温泉旅館があり、道の駅のすぐ裏にも
白い大きな温泉の建物がありました。

のんびり出来る広場もあります。
年配の人たちがシートを敷いて食事をされていました。

建物の中に入ってみると、結構広いですね。

野菜売り場には手書きで、キュウリのビール漬け の作り方が書いてありました。
書き写すのは大変なので写真に撮りましたが、嫁さんはまだ作ってくれません。 f^_^;



ここのレストランでは　「田舎料理のバイキング」　があっていました。
ここで食事を済まそうかとも思いましたが、どうも先の時間が心配です。

食事は先で時間の余裕があれば、という事にしてソフトクリームだけ食べることにしました。
1個２００円と、随分安かったのです！

外のベンチでソフトクリームを食べていると、女性の方が近寄ってこられました。
「津山警察署の者ですが・・・・・　」

思わず逃げ腰になると　・・・・　　((((((ﾉ゜⊿゜)ﾉ　（なんで？）

「交通マナーの指導に回っていますので　・・・　」と一通りチラシを説明して
反射ステッカーシール なるものをくれました。
靴やカバンに張り付けると、車のライトが反射して安全なのだそうです。

２人分くれましたが、岡山県民でもないのに、良かったのかな　・・・・　。(*゜-゜)ゞ

中国制覇の旅へ！“かよう”

博多から 新幹線ひかりRailStar５４４号 に乗り、8：57 に岡山駅に到着しました。
前回と同じく 駅レンタカー で格安のレンタカー を借り、最後の中国の旅へ出発です。

今回の相棒は、ホンダのフィット です。
駅レンタカーのおじさんが、「まだ新しいフィットですよ！」 と言っていましたが、確かに７０００キロ程しか走っていません。

今日はついてるぞ！！

ついでに運転席も！
とても走りやすい車です！

初日は、岡山県の中央部を回るコースですが、地図がごちゃごちゃして多分わかり難いでしょうね！
岡山市内を抜けて 山陽道 に乗り、ジャンクションから 岡山自動車道 に入ると片側１車線になります。

ジャンクションから２つ目の 賀陽ＩＣ で高速を下りると、そこからはわずか３分程度の距離です。

残念ながら天候はぱっとしません。
予報では晴れたり曇ったりのはずですが、どんよりして今にも降りそうです！！

道の駅かよう は、もちろん地名の 「賀陽町」 から来ているのですが、現在は隣町と合併し、「吉備中央町」 という地名に変わっています。

道の駅の向かい側にある石段を登ると、そこは 憩いの広場 となっていて、 ドックラン のグランドがあります。
その高台から撮ったのが上の写真で、配置は下のようになっています。

いちばん左端に 休憩所 があり、道の駅スタンプはそこに置いてありました。

中はゆったりとしています。

そしてその隣では 水車 が、ごっとんごっとんと回っています。

.
そしてレストランがあり、その先がマーケットですが、これはコンビニ風です。

今日の日程はかなりハードなので、多分昼食をゆっくり摂る余裕はなさそうです。
ここで、パンと飲み物を買い込みました。

中庭を挟んで、農作物の販売所があります。

道の駅の中を見て回っていると、小学生の子供たちがバスから大勢降りてきました。

先生が大声で叫んでいます！
「今から１時間半かかるからね～！　トイレに行きたくない人も行っておくんだよ～！」

私たちもつられてトイレへ！
それにしても、ここから１時間半って、子供たちどこへ行くのかな？

ハートの町！“かもがわ円城”

今度の道の駅も かよう と同じく 吉備中央町 にありますが、合併前の地名は 加茂川町 です。

加茂川町は岡山県のちょうど中央に位置し、形がハート形 をしていることから、「ハートの町」として、住民一体でまちづくりに取り組んでおられます。

道の駅かもがわ円城 は、吉備高原の 品野峠 というところにあり、岡山県で最初にできた道の駅です。

駐車場を囲んで建物が並んでいて、正面が階段で上に派手な色のテントの屋根が張ってあります。

階段を上ると中央が広場になっていて、白菜などの野菜が並んでいます。
右側の建物が農産物直売所です。

店内を探してもスタンプが見当たらないので尋ねると 「下の建物だよ！」 と教えてくれました。

駐車場を挟んで反対側にもう一つ建物があります。
ここは休憩所とトイレ、そしてその奥が食堂です。

スタンプは休憩所にありました。

手前に立派な藤棚がありますね。

ここには「毛虫に注意！」と書いた札がぶら下がっていました。

もう一つ、道路を挟んだ向かい側にも「品野屋」と書いた建物があり、これも道の駅のレストランです。

さて、この道の駅は国道４２９号線と県道３７２号線の分岐点になっています。

次の道の駅くめなんに行くのに、ナビは県道３７２号線のルートを示しています。
地図で見ると、国道４２９号線経由ではかなり遠回りになり、県道はそれをショートカットした形です。

レジの人に尋ねると、やはり県道の方を教えてくれました。
肝心のどんな道かを聞こうとした時に他のお客さんが話しかけてきたので、聞けないままになりました。

で、道の駅の裏側にある県道に車を進めると　・・・・・・

わずか２～３００メートルも行かない間に道路は離合不可能な１車線になりました。
しかも行く手は深い山中ですから、かつての島根県での恐ろしい悪路 が脳裏に　・・・　！

後で気づいたのですが、上の案内図の県道３７２号線のところには「大型車通行困難」とちゃんと書いてあります。
何とかUターンできるところを見つけて引き返し、一番安全な国道を辿ることにしたのですが　・・・　！

その続きは、次回に！

河童のエンゼルくん！“くめなん”

さて、道の駅かもがわ円城からあやうく “危険な道路” に入りそうになった私たちは、何とかUターンして引き返し、最も安全な （はずの） 国道を辿ることにしました。

まず国道４２９号線を一旦南下し、途中の分岐から国道４８４号線をV字型に北上します。
そして更に国道５３号線に出ると、目指す道の駅があるのです。

V字型に国道４８４号線を北上してしばらく走ると、間違って入り込みそうになった県道３７２号線の出口がありました。
確かにV字型を横に横断するわけですから、距離的にはかなり短いのでしょう。

徐行して道路を覗いてみました。👀
出口付近でさえ１車線、離合もできない道幅で、薄暗く、正に鬱蒼としています。

「あんな道を通らなくて良かったな～！」 と二人で笑いました。

その笑いもつかの間、道がだんだん狭くなってきたと思ったらついに１車線！

「えっ！　ここって国道だろ？？」

ところどころ離合場所はありますが、それこそ鬱蒼とした山の中のあの悪夢の再来です！

対向車が来るたびに、お互い徐行して何とか通り抜けます。

「うわっ！　トラックが来た！」　なんと工事のトラックまでがやって来ました。
離合場所に避難して無事離合しましたが、まあトラックが通れるなら大丈夫だろうと、逆に一安心！

やがて国道５３号線に無事に出ると、これはでっかい道路！　でも渋滞！
今回の教訓は「国道だからと安心はするな！」でした。

道の駅くめなん　は、その交通量の多い国道５３号線沿いにありました。
道路の両側に駐車場はあります。

まずは道の駅の外観から！

右端のとんがり屋根はトイレです！

道の駅の裏は公園になっていて、こんな可愛いのがいました！

河童と思ったら“エンゼル”だったんですね！
そいえば、上の写真の河童さんの背中にちょっぴり羽根が見えますね。

ここが道の駅の正面玄関です。

入ってすぐのところにレストランがありました。
その右が休憩所、左が物産館になります。

レストランの名前が 「川柳茶屋」 になっていますね。

久米南町は日本一の “川柳の町” として有名なのだそうです。
町の中心部の小高い丘陵に 「川柳公園」 があります。
公園までの上り道約２００メートルの遊歩道は 「川柳の小径」 と名付けられ、百数十基の自然石を使った句碑が並んでいます。

物産館の入り口にも河童のエンゼルくんがいました。

店の中で見つけた珍しいもの！
これは火鉢です。

火鉢って、時代劇のドラマでくらいしか見ませんね！　誰が買うんだろう？

参考までに、道の駅の配置図を！

この道の駅の少し先に「誕生寺」という地名があり、その名前のお寺もありました。
ここは、浄土宗の開祖である法然上人の生誕地としても知られているそうです。

機動戦士Ｚガンダム！“久米の里”

昨日、久米南町が日本一の “川柳の町” として有名だという紹介をしたところ、
早速 自由時間さん が、「道の駅」 と題した川柳を送ってくれました。

『遠くとも　行き着く先は　道の駅』
『応募した　カーナビがいつ　届くかな』（笑）
『道の駅　初めて行くなら　未知の駅』

で、私の方もお返しに２句！

『道の駅、辿る道路は、ナビまかせ』
『ナビまかせ、時々恐怖の　道もある』

自由時間さん、ありがとうございました。　(*^_^*)

ということで、今日の本題に入ります。（笑）

道の駅久米の里 は、中国自動車道の 院庄IC のすぐ近くになり、道の駅くめなんからは２７キロで、国道５３号線の快適なドライブです。

道の駅の建物より先に目に付いたのが、これです。

巨大な 機動戦士Zガンダム なのです。
大きさがわかりますか？

どうしてこんなものが道の駅にあるの？　って、誰でも思いますよね！
ガンダムの足元にあった説明が下の写真です。

え～と、読めるかな？
コックピットに人が入って操作できるんですよ！
二足歩行型有人汎用機械 だそうで、これは歩くところを見たかったな～～！

それにしても、この町にはすごい人がいるんですね。

さて、天気はやっぱし雨！
地面が濡れてますね。

ここの道の駅はまだ新しくて立派です。

配置図はこうなります。

お店の中に入ってみました。
なかなか綺麗です。

おっ！　ここの壁にかかってる何やら怪しげなキャラクターが　・・・・　！

これぞ　“久米仙人” なのです！

文字が小さくて読めない人のために一部を解説！

あるとき久米仙人が飛行の術を得て空を飛んでいるときに、川の岸で洗濯をしている若い娘のふとももが目に入り、そのとたん仙力を失って墜落してしまった。
久米仙人は、その後この娘を妻にした　・・・　というお話です。
修行を積んだ仙人さえ、色気の前には非力だったのか　・・・　！
しかし愉快なキャラクターですね。

最後にもう一つ、岡山らしい土産を見つけました。

桃太郎さんのきび団子でした　・・・　！

いで湯の街みまさか！“彩菜茶屋”

さて、道の駅久米の里のＺガンダムと別れて、次へは高速を走ります。
今日の行程は全部で３７０キロの予定ですが、結構高速が多いので多少は時間短縮できそうです。

道の駅のすぐ近くの 院庄ＩＣ から中国自動車道に乗り、関西方面へ２つ目の 美作ＩＣ で下ります。
「美作」 って書いて 「みまさか」 って読むんですね、知らなかった！

美作ＩＣ からわずか３分ほどで
道の駅彩菜茶屋 へ到着しました。

ここは、左隣に Ａコープ の農協系スーパーがあり、何かスーパーの一部のような印象を受けます。

農産物の直売所です。
その右隣に、お土産品コーナーと食堂の建物が続いています。

看板だと、素敵な道の駅に見えますね。

新鮮な野菜が並んでいるのは、どこの道の駅も同じです。
でも隣のスーパーと競合するのではないかと、余計な心配をしました。 (;´▽｀A``

岡山らしい商品がここにもひとつ　・・・・・　。

岡山の名産白桃を使ったカレー、う〜〜ん！どんな味がするんだろう？

この道の駅は普通の生活道路の中にあり、隣はＧＳ、周辺は普通の商店が建ち並んでいます。
あんまり、道の駅らしくない道の駅です。

次の目的地は少し離れているので、先を急ぐことにします。
この時点で時間は、１３：５５ です。

宮本武蔵の生誕地！“あわくらんど”

道の駅あわくらんど へは、当初中国自動車道を兵庫県の 作用ＩＣ まで行き、そこから国道３７３号線を辿るつもりでしたが、ナビがどうしても一般道を示します。

結局、ナビに従うことにしました。

距離的には一般道が近いのですが、帰りは高速を通って時間を計ってみたところほとんど同じでした。
結果として、通行料が要らない分得でしたね。

道の駅への途中、こんなものがありました。

宮本武蔵って、岡山県の出身だったんですね！
他にも、途中 「宮本武蔵駅」 という駅があり、　・・・・・

橋の欄干には宮本武蔵が剣を構えているブロンズ像が立っていて、
更に、道の駅の帰り、兵庫県を通ったときには
「宮本武蔵初めての決闘地」 というのまでありました。

私は以前熊本市に住んでいたことがあるので、熊本には 武蔵のお墓 があり、武蔵が五輪の書を書いた熊本市西方の 金峰山麓 「霊巌洞」 にも行きました。

ですが、生まれが岡山だったとは知りませんでした。
やはり、全国いろんな所を回ると新しい発見があるものです。

さて、道の駅あわくらんどは、こんな山奥にあります。
今にも雨が降りそうな天候ですが、山には霧がかかって 水墨画の世界 です。

下が、道の駅の正面入り口です。

道の駅建物へのエントランスも洒落ています。

ここを通って入口へ！

玄関脇には 黄金の水 がありました。
柔らかい味がしましたよ！

店内は、意外に大きくてきれいでした。

食事処もいいですね　・・・　。

少しおなかがすいたので、クルマの中で食べようと とうふかまぼこ なるものを買いました。
そしたら、はさみかナイフがないと開けられない　・・・・　！

切るものがクルマの中には何もなく、結局おなかを満たすことができませんでした。 (x_x；)

はじめての近畿の道の駅

道の駅あわくらんどで次の醍醐の里を検索すると、今度は 佐用ＩＣ から中国自動車道にのるコースが案内されました。
佐用ＩＣは 兵庫県 になりますから、初めて近畿地方を走ることになります。
佐用ＩＣの５分ほど手前に道の駅があったので、立ち寄りました。

道の駅宿場町ひらふく すなわちここが、私の 初めての近畿地方の道の駅 という事になります。

記念すべき、近畿地方第一号の道の駅案内版です！

規模的にはそれほど大きくはないですが、国道１７９号線沿いの交通量の多い場所にあり、気軽に立ち寄れそうです。

玄関を入ると、正面にカウンターがあり、消毒液が置いてありました。

そ、そうか！ここは兵庫県なんだ！！！

そうです！当時新型インフルエンザが、兵庫をはじめとする近畿地方で感染が広がっていたのです！
（今では、我が福岡県でも数十人の感染者がでていますが　・・・・・　）(;^_^A

道の駅のスタンプもこのカウンターにあったので、早速売店に入ってスタンプブックを購入。（２００円也）
そしてこれが、記念すべき近畿地方第一号のスタンプです！！ヽ(°▽、°)ノ

でもこのスタンプブックを見ると、近畿地方は
　福井県、兵庫県、滋賀県、奈良県、京都府、和歌山県、大阪府　と７県（府）で、

道の駅の数は９８ヵ所あります。

ひぇぇぇ～～～！
こ、これは手ごわい！！

いずれにしても、中国のあとは四国をまわるつもりだし、北海道の制覇が残っているから
近畿地方はずっと先に「先送り」ということにします。(-。ー；)

そうそう、前回の記事でも触れましたが、ここへ来る途中に「宮本武蔵初めての決闘地」という看板がありました。

宮本武蔵は、この地の 青蓮寺 という寺で 道林坊 という文武兼ね備えた僧のもとに預けられ、およそ９歳の時から、１３歳まで、この地を舞台に厳しい修練の少年時代をおくりました。
悪戯をして木に吊るされたのもここなんですね。

そして１３歳のとき「何人なりとも望みしだい手合わせいたすべし、われこそ日下無双兵法者なり」という、新当流の達人・有馬喜兵衛の高札を見て、金倉橋のたもとで初勝負をいどみ、一刀のもとに倒したといわれているそうです。

映画やドラマでは何度も見ていますが、実際に少年時代を送った場所がここだというと、なんだか感慨深いものがあります。

桜づくし！“醍醐の里”

兵庫県を瞬間的に訪ねた私たちは、中国自動車道の 作用ＩＣ から高速に乗り、４つ目の 落合ＩＣ まで一気に走りました。

落合ＩＣで下りて一般道を１０分弱、兵庫の道の駅からちょうど１時間で、
道の駅醍醐の里 へ到着です。

ここが今日最後の道の駅で、このあと宿泊地である備前町までは、１１０キロほど離れています。

道の駅は、比較的新しい建物です。
正面の建物に、物産館とレストランがあります。

そして右端にもう一棟あるのが、情報コーナーとトイレの建物です。

割りにこじんまりしていますね！

店内の様子です。

さて、ここの 醍醐の里 という名前ですが、これは
醍醐の桜 からきています。

醍醐の桜は、この道の駅から山道を約２５分ほど行ったところにある岡山県の天然記念物で、
根元周囲9.2m、樹高18m、枝張りは東西南北に20m、推定樹齢1,000年以上といわれる、県下一の巨木です。

昔、後醍醐天皇がこの地に立ち寄られた際、「見事な桜じゃ」と賞賛したためにこの名がついたそうです。

従って、この道の駅も 桜一色 なのです！

まず最初に入り口の看板ですが、一番上に 巨木の桜 が乗っかっています！

そして、レストランの名前も さくら です。

建物にあるガラス板には、すべて 桜 のすかしが入っています。（トイレまで！）

売店で売っているのは「桜あんころ」！！

そして、出ました！ さくらソフトクリーム！

俺さん と カリナさん が見たら喜びそうですね！！

最後に、醍醐桜への道案内を！

でも、私たちはそんなのを見に行く余裕はありません！
今の時間は １６：５０ ここから宿泊地までは２時間弱、チェックイン予定の １８：００ には絶対無理です！

途中でホテルに電話をすることにして、出発です。
次回は宿泊した「岡山いこいの村」 を紹介しますね！

今夜の宿泊：岡山いこいの村

醍醐の里の道の駅を１６：５０ に出て、岡山自動車道、山陽自動車道を一気に走り
備前IC で高速を下ります。

金曜日なので１０００円というわけにはいきませんが、通勤時間帯で半額なのは助かります！

高速を下りると今度は、岡山ブルーライン という快適な道路を走り、大平山IC で下りて山道をぐるぐると７～８分ほど登ると、岡山いこいの村 に到着です！　（１８：４０でした。）

当初は岡山市内のビジネスホテルを考えていたのですが、交通量の多い市内に又戻るのも大変だし、次の日の行程を考えるとこの付近が最も効率的だと判断しました。

宿はいつも通りネットで探したのですが、この岡山いこいの村は公共の宿で、
「貸切露天風呂コース」 で、朝夕食付きの ２名で１４，０００円です。

いつものビジネスホテルだと２人で７０００円程度で、今回はその２倍という 贅沢！ ですが、
それでも一般のホテルに比べればめちゃくちゃ安いですね！

部屋は和室でこんな感じです。
洗面所やトイレは設備も最新式で、公共の宿といったイメージではありません。

そして、これが窓からの眺望です！

標高１７６メートルの位置にありますから、瀬戸内海の眺めは抜群です。
ただ、携帯がＡＵ、ソフトバンクとも圏外でネットにも繋がらないのには参りました！

この宿には展望大浴場のほかに、３タイプの 貸切露天風呂 があります。
私の２名で１４，０００円には、この貸切露天風呂１時間の利用料が入っています。

私は、以心伝心風呂 でした。

フロントで鍵をもらって行ってみると、まずたたみの休憩部屋があり、テレビもあります。
その先に露天風呂があり、このタイプの場合は陶器風呂と、普通の大きい風呂の２つがありました。

多分５～６人でもゆっくりはいれる広さです。

真っ暗な空には、満月が輝いていました。
生垣の先に白い大きな何かがいくつも見えます。

暗闇の中で目を凝らすと、大きなアジサイの花がたくさん咲いていました。

そして、食事です。

これがレストランの入り口で、既に部屋ごとに料理が並べてあります。
生ビールで乾杯です！

料理の種類はやや少ないので、あとで茶碗蒸しとかお吸い物が出てくるのだろうと思いました。
期待は見事に外れて　・・・　それで終わりでした！

でも、ひとり７０００円ですから、こんなものでしょうね！
それなりの金額を出せばもう少し豪華なようですし、一品料理の追加も出来たようです。

翌朝、早起きして付近を散策しました。

目の前が野鳥の森で、いくつかの散策コースがあるようです。
うぐいすの鳴き声が山々に響き、快適な朝です！

天候も今日は晴れそうです！
ホテルの裏側はきれいに整備されていてプールもあり、ここにも散策コースがあります。

こんな鳥が庭で飼われていました。

つがいと子供です。
ダチョウかと思ったら、エミュー だそうです。

エミューはダチョウの次に大きな鳥でオーストラリアの国鳥ですが、その数が激減しているため今では、輸出禁止動物に指定されています。

おとなしくて好奇心の強い鳥とのことで、そういえば近づいても逃げませんでしたね。

フロントにかわいいのがあったので、最後にパチリ！

この宿は、公共の宿とはいえスタッフの方たちの心遣いも行き届いています。
携帯が繋がらない難点はありますが、お勧めです！

ただ、夕食は一品料理でも追加した方が良いと思います。
（朝食はとてもよかったですよ！）

さあ２日目、中国地方全駅制覇まで、あと３ヶ所を残すのみです！

参考：　岡山いこいの村　　←　ホームページへ

総合レジャーランド！“黒井山グリーンパーク”

２日目の最初は、宿泊した岡山いこいの村から、わずか４キロしか離れていません。
山を下りて、再び 岡山ブルーライン に乗ると、そのブルーラインの途中に道の駅はありました。

道の駅黒井山グリーンパーク はかなり広大な敷地があり、入ってくる車も多い為、ちゃんとガードマン２名がブルーライン沿いで出入りを誘導してくれています。

最初に案内図を見てもらったほうが、ここは判りやすいかと思います。

中央の駐車場の左手に ゆうゆう交流館 があります。
正面左に レストハウス、正面左が、農産物、魚介類の直売所 です。

そして周囲には、野外ステージ、ちびっ子プール、ゴーカート、ラジコンサーキットと
あらゆる施設が整っています。

まず上の２つが　ゆうゆう交流館　で、道の駅スタンプもここにあります。

ここは、半分が物産館　・・・・

そしてもう半分が、ギャラリー になっています。

ギャラリーには、さまざまな作品が展示、販売されていて、見て回るだけでも楽しくなります。

この手前の湯のみ、すごくいいな～と思いました。
でも、１個 1,700円という値段を見て、買うのはやめました！(゜-゜;

ゆうゆう交流館の横には、子供さん向けの プレイランド があります。

正面左の レストハウス は、セルフのレストランです。

最後が、JAと漁協の直売所 です。

通路にもたくさんの魚介類が並べてあって、大勢のお客で賑わっています。

ここは広い駐車場に次々にくるまが入ってきますが、なるほどそれだけの集客力をもった道の駅だと思えました。

瀬戸内海を望む！“一本松展望園”

今日はまず朗報からひとつ！　（ヨロコブノハ、オレダケカナ・・・？）
６月末で終るはずだったＪＲ西日本の 西日本パス が売れ行き好調につき８月３日まで延長、との新聞記事が載ってました。

つまりＪＲ西日本管内の新幹線、特急などが２日間乗り放題でわずか １２，０００円、
更にＪＲ系の駅レンタカーは最初の２４時間が ２，０００円 で借りられるのです。

という事は、次の四国攻略で、岡山まで新幹線で行き、列車で四国に渡り、そこでレンタカーを借りるという方法が使えます。
すぐ７月中の計画を立てなきゃ　・・・・・三 (/ ^^)/

ということで、今日の本題に入ります。(^-^)/

道の駅一本松展望園 は、黒井山グリーンパークと同じ岡山ブルーライン上にあり、わずか７キロ程しか離れていません。

ここも判りやすいように、最初に案内図をお見せしましょう。

ここの特徴は、まず駐車場左手、ブルーラインとの境に 頂上展望台 があることです。
更に、一番右端には ミニ鉄道公園 があるのも珍しいですね。

早速展望台に上ってみました。
本当は車でも行けるのですが、それを知らない我々は下の駐車場に停めて、息を切らしながら上りました。

これが展望台から見た、道の駅の建物全体です。

更に瀬戸内海の島々が一望でき、正面の大きな島が 小豆島 なのです。
小豆島にも３つの道の駅があるのでいずれ行かねばなりませんが、橋が無いのでフェリーで渡る

ことになりますね。

展望台を下りてくると、駐車場中央に人工の池があり、真ん中に噴水があります。

そして ミニ鉄道公園 があり　・・・・・・

ミニサーキットだとか、おもしろ自転車とか、ミニ鉄道、サイクルカーなどの遊具で子供たちが楽しそうに遊んでいます。

そして、ここが道の駅本体の建物です。
左から、レストラン、情報コーナー、ＪＡ売店があります。

果物売り場で珍しいものを見つけました。
グミです。

子供の頃は、おやつ代わりにちぎって食べたものです。
（おっと・・・　歳がばれる！！）

ワンパック ５００円 でした。

さあ、ついに中国全駅制覇まで、あと１箇所となりました。
張り切って出発です。

中国地方最後の道の駅！“みやま公園”

さあ、やってきました中国地方最後の道の駅。
岡山ブルーラインの一本松展望園からは、ほぼ１時間かかりました。

道の駅みやま公園 の空は、私の中国地方完全制覇を祝うかのように見事に晴れ渡り、
空気が澄み切っているせいでしょうか、周りの山々の緑がくっきりと見えます。

みやま公園は元々、岡山市の後楽園の約１０倍もの広さを誇る都市公園で、道の駅はその一部なのです。

起伏に富んだ高原には７０００本の桜を始めとして１５万本の植樹がなされており、散策ゾーン、プレイゾーン等に分かれています。
緑に囲まれた５つの池が点在し、サイクリングロードが整備され、更にパターゴルフ場やガーデンウエディングのできるイギリス庭園までがあります。

さて、早速最後のスタンプを押さなきゃ！
メルヘンチックな建物の中に入ると、情報コーナーがあり、スタンプが置いてありました。

慎重に最後のスタンプを押印！　・・・　ちょっ、ちょっと薄い！！

でもこれで一つの旅の区切りです！
そうです、あくまで区切りのひとつです。

これが、薄かった最後のスタンプ！

さて、ここで全駅制覇の証明をもらわなきゃ！

中国地方の場合、制覇した最後の道の駅でスタンプを確認してもらい、スタンプブックに同封されているハガキに証明の印鑑を貰う事になっているのです。

売店のレジに行き、「道の駅を全部回り終えたので証明をもらいたいのですが・・・」と声を掛けてみました。
その女性はよく判らない様子だったのですが、すぐ近くにいた店長らしい少し年配の女性が寄ってきて、
「分かりました、少し待って下さいね！」とスタンプ帳を預かって事務所に入って行かれました。

最初声をかけた女性の店員さんが、「すごいですね！全部回ったんですか？」と話しかけてきました。

「ええ、九州から来たんですが、九州の道の駅を回り終えたので、１年くらい前から中国を回ったんですよ！」と、ひとしきり自慢話をしていると、証明印ができてきました。

このハガキを送って、全駅制覇の認定証をもらったのは、少し前にご報告した通りです。

この道の駅は本当に人が多く、暑かったせいもあって日陰の休憩場所では何人もの方が涼んだり、ソフトクリームを食べたりされていました。

メルヘンチックなメインのメインの建物の隣が、野菜・果物や鮮魚の直売所です。

鮮魚売り場には、発泡スチロールのトロ箱にはいったたくさんの種類の魚が無造作に並べてあり、
店員さんがその中を忙しく動き回って、次々に売れていました。

自分のクルマできていたら私もたくさん買い込んだことでしょう。

さて、無事に中国地方の制覇が終わりましたが、今日はまだ計画が残っています。
ここを出る時点で、ちょうど１２時、これから初めての瀬戸大橋を渡って、四国へ偵察に行くのです！

それでは、次回は四国でお会いしましょう！！

初めての四国！“瀬戸大橋記念公園”

みやま公園から西へ進み、水島ＩＣ から 瀬戸中央自動車道 に乗り、いよいよ瀬戸大橋を渡ります。

ついにやってきました “瀬戸大橋”
それにしても、今日は土曜日、通行料１０００円ぽっきり、は有難いです！

この瀬戸大橋、瀬戸内海の島々を飛び石のように渡ってゆくのですが、島と島の間は ６つの橋 でつながっており、島の陸上部分は ４つの高架橋 があります。

これを全部あわせた長さが ９３６７メートル あります。

例えば一番長い 南備讃瀬戸大橋 の一つの橋げたの長さは、支柱の部分で１１００メートルですが、
塔の頂上部分は、 １１００メートルプラス３２ミリ です。
つまり、地球の丸みを計算に入れて設計されているのです。

さて、坂出北ＩＣ で瀬戸大橋を下り、一般道を少し戻ると
道の駅瀬戸大橋記念公園 があります。

もちろんここは記念公園がメインで、道の駅はついでに登録したのではないかと思われます。

ここは、とにかくきれいな場所です。
正面に見えるのが 瀬戸大橋記念館 で、入口からそこまで、水の回廊 で繋がっています。

ここが、水の回廊 のスタート地点です。

長い回廊には、さまざまな形の噴水があり、子供たちが大勢、水にはいってはしゃいでいます。

上の写真に高い塔があったのにお気づきと思います。
これが、瀬戸大橋タワー で、１００人乗りの客室がゆっくり回りながら地上１０８メートルまで上昇します。

早速乗り場へ行ってみましたが観光客は誰もおらず、がらんとしています。
二人だけで乗るのも気が引けるので断念しました。

瀬戸大橋記念館の建物の先が海岸になっています。
そこからの瀬戸大橋の眺めが絶景です。

真横が高架橋ですから、時折列車の通る 「ごおー」 という音が響きます。

瀬戸大橋記念館 は、複雑な、ユニークな形をしています。
コンクリート丸出しのような外壁で、屋上は展望台になっています。

早速入ってみました。

入口では 「親切な青鬼くん」 が出迎えてくれます。
目が光っているのが、少し不気味です！

道の駅スタンプはすぐ入口にありました。
受付カウンターで尋ねると、今年度のスタンプラリーは7月からなので、今はスタンプブックの在庫が無いとのこと。

とりあえず、白紙に押してみました。

次の道の駅でスタンプブックが手に入れば、帰りにもう一度戻ってくることにしましょう。

今回立ち寄ったのは公園のほんの一部ですが、周囲には球技場、マリンドーム、美術館、架橋機器展示広場、パットゴルフ場などの様々な施設が点在しています。

ここは観光客より、むしろ近隣の方たちの家族連れでの憩いの場、となっているように思えました。

四国偵察：道の駅うたづ臨海公園

瀬戸大橋記念公園にスタンプブックがなかったので、次の道の駅で探すことにしました。
道の駅うたづ臨海公園 は、わずか６キロしか離れていない、綾歌郡宇多津町にあります。

ここは、正式名称を 「恋人の聖地 うたづ臨海公園」 と言います。
すごく素敵な名前じゃないですか！

瀬戸内海に面するうたづ臨海公園は、瀬戸内海国立公園の中でも最も多島美の美しい言われる塩飽諸島をはじめとして、瀬戸大橋も一望できる絶好のロケーションにあります。

人気スポットなので、“恋人の聖地” などというロマンチックな名前がついたのでしょう。

結構にぎやかな町の中に入ってきたのですが、何か様子が変です！
ナビでは既に目的地付近にいるはずなのですが、どこにも案内板も看板も無いのです。

とりあえず公園らしい場所にあった広い駐車場 （舗装していない、ただの広大な空き地） に車を停めました。
その奥に、確かにネットで見たこの道の駅と思われる建物があります。
早速行ってみました。

でも、その建物の周りは工事のフェンスで囲まれており、どこからも入る隙間はありません。
フェンスの中では、作業員の方たちが何やら機械を使って工事をされていました。

その手前には、これもネットで見た昔の塩田を再現した施設がありますが、立て替えたばかりの新築です。

どうやら改築中だとは判りましたが、折角来たのに悔しいので道の駅へ電話をしてみました。
電話に出た年配のおじさんは 「今、改築中で閉鎖しています。でもスタンプラリーだったら、そこの正面にある結婚式場に置いていますよ！」 との事。

確かにすごく立派な結婚式場が道路を挟んだ反対側にあります。

早速行ってみました！

でっかい正門を入ろうとした私は、
うっっ・・・・！！　と一瞬体が凍りつき、思わず体をひるがえして門の陰に隠れました！

今、まさに一組の結婚式が執り行われており、玄関脇には礼服やドレスで着飾った大勢の男女がちょうど記念撮影の最中だったのです！

あの中をＴシャツ姿で玄関に入ってゆく度胸は　・・・・・　ありません。(^_^;)

柱の陰でしばらく迷っていた私たちは、どちらからともなく
「スタンプだけ押しても意味ないよね～」と、共通の言い訳を考えだし、その場を離れることにしました。
７月に再オープンという事だから、あらためて来ることにしましょう！

ということで、今回の初めての“四国”は偵察のみであえなく終了しました。

ここで昼食にするつもりだった私たちは当てが外れました。
さて、どうしようということになり、瀬戸大橋の途中にパーキングエリアがあったのを思いだしました。
そこで訪れたのが、瀬戸大橋のほぼ中央にある「与島PA」です。

ここは瀬戸大橋記念公園にも劣らぬ、最高のロケーションです。
そして何より、すごい数のくるま、人、人、人　・・・・　大変な賑わいなのです！！

ここは、瀬戸内海上のごく小さな島ですが、島全体の散策も出来るようです。

ついでにスタンプもゲットしました。

専用のスタンプ用紙が置いてありますが、イラストが可愛いですね！

ここに着いたのが１４：４０、少し遅いですがようやく食事 にありつけます！！
あとは岡山駅まで帰るだけ、１８時までに戻ればよく、かなり余裕があるのでここでゆっくりすることにしました。

ソフトクリームのコーナーには人が並んでいます。
その奥がレストランで、かなりの広さです。

折角四国へ来たのだから、やはり 讃岐うどん ですよね！
ぶっかけうどんを頼みましたが、これぞ讃岐うどんの味と感激！

おなかが落ち着いたところで、みやげ物コーナーへ行きました。
今回は何故か、ほとんどみやげ物を買っていなかったのです。

ここのみやげ物コーナーはすごいです！
道の駅では、とてもこれだけの商品は揃っていません。

それに、とにかく人が多い！！
珍しいものをいっぱい買い込んで、買い物も終わり！

１６：００ ここを発って、岡山駅着が１７：１５、これも通行料１０００円ぽっきり は有難いことです。

駅の構内でビール を飲みながら列車を待ちます。
１９：１４ ひかりRailStar５８１号 に乗り込み、２２時前に無事に自宅に戻りました。

初日の走行距離３７４キロ、２日目が１６５キロ、合計５３９キロで、使ったガソリンは ２８．８Ｌ
リッターあたり １８．７キロ ですから、まずまずです。

岡山ブルーライン！“黒井山グリーンパーク”

２日目の本日からは、まず岡山県を回ります。

道の駅黒井山グリーンパーク（くろいさん）　が最初の目的地です。

２日目の予定は、中国地方、岡山県の道の駅を３カ所まわり、そのあと新岡山港からフェリーに乗って小豆島に渡ります。
今回の旅で一番期待しているのがこの小豆島で、２か所の道の駅を回った後宿泊する予定です。

兵庫県小野市のホテルを出発してこの黒井山グリーンパークまで、距離で９４ｋｍ、１時間２０分ほどかかりました。

道の駅黒井山グリーンパークは、“岡山ブルーライン” の沿線にあり、その休憩所の位置づけです。

“岡山グリーンパーク” の正式名称は 「岡山県道３９７号寒河本庄岡山線」 といい、元々は沿線の緑や瀬戸内海の眺望などを楽しめる観光道路として作られました。
姫路と岡山を結ぶバイパス的な性格も担っており、山陽自動車道が全面開通するまでは、トラックなども頻繁に利用していました。

１９７４年の開通当時は有料道路でしたが、２００４年から無料化されています。
このブルーラインの休憩場所として、この道の駅と、次に向かう 道の駅一本松展望園 があります。

駐車場に車を停めると、浮輪まどを抱えた親子連れに出会いました。
この道の駅には、子供たちが夏休みを楽しむプールなどもあるのです。

この案内図、少し見にくいですが、左端に、“ちびっこプール” や “ウォータースライダー” があります。

他にも、ゴーカートやバッテリーカー、ラジコンサーキット、滑り台、屋外ステージなどがあります。
元々、この施設の開園当時は遊園地として作られたのが、１９９６年に道の駅になったものです。

観光ミカン園もあって、１０月中旬から１２月にかけてはミカン狩りができるようになります。
春には、ソメイヨシノやしだれ桜など約３００本の桜が満開となり、花見のメッカになるのだそうです。

この写真が、公園にある滑り台ですね。

駐車場に面したこの建物が、ＪＡと漁協が運営する鮮魚や農産物の直売店です。
８年前に来た時は、その隣に大きなセルフレストランがあったのですが、今回は閉鎖されていました。

そして道の駅の本体といえるのは、こちらの “ゆうゆう交流館” です。

左手の丸い部分はギャラリーで、右手には産直市場があります。
中央のスペースに、道の駅スタンプや観光案内などが並んでいます。

ギャラリーにはこんな作品が展示されていました。
ここではその時々のイベントにより、さまざまな本格アートの展示会が催されます。

右手にちょっとだけ見えますが、この日は何やら生け花の作品展があっていたようで、着物を着た女性の方たちから、「見ていって下さい」　と声をかけられました。

これが産直市場ですが、野菜なども並んでおり、もうひとつのＪＡの直売所と競合しないのかな、と少しだけ気になりました。

この日は夏休みの土曜日、おそらくちびっこプールではたくさんの子供たちが水遊びに歓声を上げていたことだろうと思います。

瀬戸内海の眺望！“一本松展望園”

岡山県の２カ所目はわずか７ｋｍしか離れていない

道の駅一本松展望園　です。

この道の駅も、前回の黒井山と同じく、岡山ブルーライン沿いにあります。

わずか１０分足らずの距離に似たような道の駅が２か所ありますが、所在地も “瀬戸内市邑久町” で同じ、道の駅としての登録も双方とも１９９６年で同時期です。
ＨＰも一緒なので、おそらく同じ経営母体なのだろうと思います。

この道の駅の最大の特徴はここからの眺望で、岡山ブルーライン随一の景観といわれています。
この日は少し霞んでいましたが、眼下の瀬戸内海の一番奥に見える島が “小豆島” です。

この写真は、道の駅と同じ高さにある “観光展望台” から撮りましたが、もうひとつ背後の小高い場所に、“頂上展望台” があります。

この案内図では、右手が瀬戸内海側、左手が岡山ブルーラインです。
ブルーライン側に “頂上展望台” があります。

以前来た時は車でも行けましたが、今は手前に車止めができていて遊歩道を歩かねばなりません。
頂上展望台にもレストランの表示がありますが、これは今は閉鎖になっていました。

瀬戸内海の多島美を背景にした道の駅も、なかなかの絶景だと思います。
そして、もう一つの特徴がこちらです。

ここにはご覧の “ミニ鉄道公園” があるのです。

写真には写っていませんが、１周２５０ｍのミニＳＬが走る他、サイクルカー、バッテリーカー、おもしろ自転車などをはじめとする、ちびっ子が喜ぶ遊具が揃っています。

道の駅本体に戻ってきました。
正面入り口を入ったところに情報コーナーがあり、左手はレストラン、右手はＪＡの直売所です。

いつも写真を撮っている道の駅の登録証は見つかりませんでした。

直売所の様子です。
岡山は果物の産地ですが、この日はたくさんのスイカが並んでいました。

瀬戸内海の景観とミニ鉄道公園、この二つがこの道の駅の魅力です。

春には７千本の桜！“みやま公園”

岡山県の３カ所目は

道の駅みやま公園 にやってきました。

ここの住所は “岡山県玉野市” です。
岡山ブルーラインの道の駅からは、１時間近くかかりました。

この道の駅、私が８年前に中国地方を全駅制覇した時の最後の場所で、ここでスタンプ帖をチェックしてもらい、証明の印鑑をもらった記念すべき道の駅なのです。

ここの駐車場は、普通車だけでも７００台分のスペースがあります。

それもそのはずで、この公園、全体では２００ｈａという、東京ドームの４０倍以上もの広大な敷地があるのです。　（参考：東京ドームは約４．７ｈａ）

（道の駅みやま公園のＨＰより案内図借用）

みやま公園の案内図をＨＰよりお借りしましたが、道の駅の本体建物はこの左上にあります。
この案内図、これでもみやま公園全体のほんの一部なのです。

この公園には１００種類以上、約１５万本の花や木が育てられており、特に春には約７０００本もの桜が咲き、岡山県で最大規模の桜の名所になっています。

そしてこの案内図の右手に、“深山イギリス庭園” というのがあります。

これは玉野市の市制６０周年を記念して作られた本格的なイギリス式庭園で、「２０世紀における伝統的なイギリス庭園」 をコンセプトに、イギリス人庭園技師ピーター・サーマン氏が設計しました。
この庭では、“ガーデンウェディング” も行われています。

私は時間の関係で入り口付近までしか行っていないのですが、小さくイギリスの国旗が写っているのが見えますか？
帰ってきてからＨＰの写真を見て、中まで入ればよかったと、後悔しています。

この３枚の写真は、“芝生公園” “わんぱく広場” あたりを撮ったものです。

公園の全体は、「散策コーナー」 「プレイゾーンコーナー」 「直売所・特産品コーナー」 に分かれており、レンタル自転車で回ることもできます。

「散策コーナー」 はイギリス庭園をはじめ、５つの池に沿った遊歩道が整備され、「プレイゾーンコーナー」 にはわんぱく広場、ミニパターゴルフ場、ドッグランなどがあります。
「直売所・特産品コーナー」 が、道の駅の本体部分です。

道の駅の建物もイギリス風なのかな？
イギリスへ行ったことがないのでわかりません！（笑）

イギリス風には似合わないこんなものも！

こちらは純日本風な！（笑）

この次が小豆島へ行くので、そのフェリーの中で食べる弁当を買いました。

中央の広場を挟んでもうひとつの建物は、農産物の直売所と、鮮魚の直売所です。
前回来た時はすごくたくさんの人たちで賑わっていたんだけど、多分時間の関係で少ないのでしょう。

この公園、とにかく広いので、私たちのように道の駅巡りでちょっとだけ立ち寄るにはもったいない気がしました。
桜の時期などにもう一度来れたら良いと思います。

さて、次はいよいよ本州を離れて、小豆島に渡ります。

ゆ・ら・ら！“むいかいち温泉”

“全国道の駅塗りつぶし同好会” というサイトがあります。
ここに無料で会員登録して自分が訪問した道の駅にチェックを付けてゆくと、自分専用の 「塗りつぶしMAP」 ができ、現在何パーセント消化したかなどの、詳しいデータも確認できます。

私はずっとこのサイトを使わせて貰っているのですが、せっかく制覇したエリアも新しい道の駅が次々にオープンするので、やがて虫食い状態の地図になってしまいます。

中国地方もその一つで、全駅制覇の認定証を貰った後で新しい道の駅が７つもできてしまって、完全に虫食い状態になってしまいました。
そこで今回、とりあえず日帰りで行ける２か所だけ塗りつぶしてやろう、という目的で回ってきたのが今回のレポートです。

その最初の目的地は
道の駅むいかいち温泉　です。

九州内だと新しく道の駅ができればすぐに走って行けますが、中国・四国となるとそうもゆかず、こんな状態です。

“むいかいち温泉” は、中国自動車道 “六日市IC” で下りるとそこから１kmの距離にあります。

この付近、“かきのきむら” “ピュアラインにしき” “スパ羅漢” といった道の駅が集中していて、この “石見ひとはなライン” は何度か往復した覚えがあります。

ここは昨年（2010年）４月にオープンした比較的シンプルな道の駅ですが、名前の通り温泉地です。

今回建物の写真は撮り漏れたのですが、この道の駅のすぐ裏に “ゆ・ら・ら” という名前の温泉施設があります。
日帰り入浴だけでなく、宿泊施設もそなえた本格的なものです。

（パンフレットより）

今朝自宅を出たのは６時半なのですが、ここへの到着が９時５０分で、３時間２０分かかったことになります。
６月１９日で 「高速休日１０００円」 が無くなりますから、何とか今のうちに、という焦りもあったのです。(^_^;)

島根は神楽が盛んな土地柄だから、こんな太鼓なんかもあるのですね。
少し店内で買い物をし、スタンプが見当たらないのでレジで尋ねてみました。

そしたらこのレジの裏側、テレビの映っているのがお分かりでしょうか？
このテレビの下に、道の駅スタンプは置いてあるのです。

現金を扱っているレジの後ろに回ってスタンプを押しに行く、ってちょっと入りづらいですよね！
ここには案内パンフレットなども並べてありましたが、もう少しレイアウトを考えた方が良い気がします。

そして、ここで発見したもの！

ここにも道の駅マグネットがありました！
かつては北海道だけだったのが、九州で広まり、そして中国まで！
いずれ全国の道の駅で扱うようになるかもしれませんね。

でも、北海道で２５０円だったのを知っているから、やはり高い！
全国集めていたらとんでもない金額になりますね。
ということで、買いませんでした。(;^_^A

ここで買ったのもの一つにこれがあります。

この地方の名物で “うずめ寿司” と言います。
今日は日帰りなので、帰ってから食事を準備するのが面倒だ・・・と考えた嫁が買ったものです。

ご飯の間におかずが挟まっているのですが、ご飯の中に埋める・・・ということで 「うずめ寿司」 という名前になったらしいです。（嫁の説による！）

まあ、美味しかったですね。
でも私はそのあとの道の駅で買った “たこめし” （蛸が炊きこまれていて、イイダコが１匹ご飯の上に乗っかっていた！）の方が好きだったな～(￣▽+￣*)

安芸の小京都！“たけはら”

次は広島県に入り
道の駅たけはら　に向かいます。

ここは昨年（2010年）10月にオープンしたばかりで、所在地は “広島県竹原市” です。
竹原市の位置関係が分かりにくいと思うので、拡大した地図をつけておきましょう。

広島市内から東へざっとした計算で40ｋｍほど離れています。
竹原から更に東へ行くと “尾道” ですから、そこから “しまなみ海道” を通って四国に渡れます。

むいかいち温泉を出て “六日市ＩＣ” から再び中国自動車道にのり、広島自動車道経由で山陽自動車道に進路をとります。
山陽自動車道の “河内ＩＣ” で下りて一般道を20分で到着ですが、むいかいち温泉の道の駅からは、1時間５０分ほどかかりました。

竹原市内に入ってからナビの誘導で狭い路地（旧道）に入りこんでしまいましたが、本当は道の駅の前まで大きなバイパスが通っています。
ナビに騙されるのはいつものことです。(;^_^A

駐車場は道の駅とは川を挟んだ裏側にあり、ガードマン数名が誘導にあたっていました。

この赤い橋を渡ると道の駅の建物です。

何故か道の駅の入り口には社があります。

なかなかきれいな建物です。
入り口はここ以外にもあって、この反対側からみると　・・・・・・・

少しイメージがちがうし・・・・・・
もう一方にはこんな入り口も　・・・・・・。

中にはいってみましょう。

まず最初にあるのがこの広い “休憩スペース” です。
ここは情報提供スペースでもあるので、道の駅スタンプもここに置いてありました。

竹原は竹細工が盛んな土地ですから、こんな竹で作った巨大な鯉が飾ってあります。
“竹原市竹工芸振興協会” と書いてありました。

全体の配置はこのようになっています。

ここで昼食を・・・と考えていましたが、覗いてみると“フレンチレストラン”で、結構な値段のコース料理です。
高級なものを食べるとお腹を壊す体質なので、別のところで食べることにしました。(^_^;)

売店は広くて、結構珍しいものが並んでいます。

広島といえば“かき料理”ですね。
我が家はかきめしとかきキムチ鍋を買いました。

これはかきとかあなごの笹めしです。

昨日ちょっと触れた“たこめし”をはじめとして、結構たくさん買い込みました。

そして２階へあがってみます。

２階は地元特産品の展示と、観光情報コーナーとして女性の案内の方がお二人おられました。

道の駅のガイドブックは１２ページにわたる立派なものです。

さてこの道の駅、これだけでは終わりません。
実は“竹原市”というのは“安芸の小京都”と称され、古い街並みがそのまま保存されているのです。
そして、この道の駅がその周遊コースの起点にもなっています。

実はこのことは、広島在住のブロガーさんに教えて貰ったのですが、知らなければそのまま帰ったかもしれません。

ということで、次回はその街並みを紹介しますが、予告編でちょこっとお見せしますね！

（パンフレットより）

町並み保存地区！“たけはら”

竹原は、はるか平安時代に京都下鴨神社の荘園として栄えた歴史から “安芸の小京都” と呼ばれます。
そして、江戸時代後期には製塩や酒造業で栄え、その豪華なお屋敷や由緒あるお寺が数多く残されています。

竹原市はそれらの歴史ある街並みを 「たけはら町並み保存地区」 として、大事に残しているのです。

“道の駅たけはら” のすぐそばにこのような案内板がありました。
町並みを巡るにはいくつかのモデルコースがあり、この道の駅を起点にしています。

町並みの地図やモデルコースがパンフレットとして道の駅にも置いてありますが、先にこれを見て頂いた方が分かりやすいかと思います。

横向きで見て下さい。すみません！(^o^;)
本当は下にもっと長いです。

右上に道の駅がありますね！
ここから出発です。

路地の主なところに案内板があるので分かりやすいです。
まずメイン通りの 「本町通り」 を歩きます。

これは “笠井邸” といって、無料で自宅内を公開されています。

町並み保存地区は貴重な文化遺産ですが、すべて個人所有の家々で、実際に人が暮らしています。
観光客といえど、そこに生活されている方への配慮が必要です。

通りにはいくつかのお店もありましたが、昔懐かしい駄菓子や玩具が売られていました。

これはお酒屋さん・・・・

ここは、竹鶴酒造の “小笹屋酒の資料館” になっています。
そしてニッカウヰスキー創始者 “竹鶴政孝” の生家なのだそうです。

これは市の重要文化財である “松阪邸” です。
この屋根は “唐破風” というのだそうで、屋根の下に “菱格子の塗り込め窓” があります。
かつて “浜旦那” と呼ばれた塩田経営者の豪邸なのだそうです。

邸内の見学は２００円の有料になっていました。

これは “二宮邸” だったかな？この塀が珍しい形をしていますね。
そしてこれは　・・・・・・　！

古い町並みと大型バイクのコントラストが素敵だったので、勝手に撮らせてもらいました。(;^_^A

この “復古館” も国の重要文化財です。
武家屋敷風の雰囲気をもった数寄屋風建築です。

これだけの古い町並みを実際に生活しながらきちんと守っているのには感動します。
１軒たりとも新しい家に建て替えたら町全体が台無しですからね。

以前四国で見た “うだつの町並み” や、秋田県の “角館武家屋敷通り” を思い出しました。

途中の壁にかかっていた江戸時代の絵図です。

立派なお寺などもありますから、全部見て回ればかなりの時間を費やすだろうと思います。
私たちは、途中の路地から道の駅へ引き返しました。

さて、今回の２か所の道の駅塗り潰しは終わりました。
あとは山陽自動車道 “河内IC” から一気に九州まで戻ります。

途中、宮島サービスエリアに立ち寄って食事を済ませました。
勿論、かきのフライです。(*^▽^*)

このSAからは、海を隔てて宮島が見えます。

帰りは食事休憩を除くと５時間走って自宅へ帰りつきました。
高速料金片道８０００円のところを、１０００円ですから得した気分です。

全行程７７６kmの日帰り旅でした！

神楽の定期公演！“ゆうひパーク浜田”

本日より、新しいシリーズを開始致します。

“中国地方一周の旅” と名付けましたが、実際には中国地方だけでなく、兵庫県２カ所、京都府２カ所など近畿エリアも含まれますのでご了承下さい。

旅の最初は島根県にある

道の駅ゆうひパーク浜田 からスタートです。

（速報）でもお伝えしましたように、４月１日（土）朝７時に自宅を出発、九州自動車道、中国自動車道と辿り、千代田ＪＣＴから方向を変えて “浜田自動車道” に入り、浜田ＩＣで下りると間もなく目的地です。

この日の天気予報は曇り時々雨、九州は小雨程度でしたが、中国自動車道に入ってしばらくすると本格的に降りだし、雨の騒音で会話がしづらくなる程でした。

途中２回のトイレ休憩を挟んで、１２時１５分に到着、５時間１５分の長距離運転でした。

※雨の中での撮影なのでボケてしまっています。(^^;

到着した時は、何とか傘を差さずに歩ける程度でした。

この道の駅、２００９年４月に一度来ていますから、実に７年ぶりです。
今回の旅の目的は新しい道の駅を回ることですが、前回特に印象の強かった２カ所を加えており、ここがその一つなのです。

この道の駅は少し高台にありますから、眼下には浜田の街並みや漁港、そして日本海が見下ろせます。
大きな橋がみえますが、これは浜田市街地とその沖合の “瀬戸ケ島” を結んでいます。

そして道の駅に隣接して “ゆうひ公園” があり、桜が間もなく満開を迎えようとしていました。

上の写真は建物の裏側から撮ったもの、下の写真が正面からです。

アトリウムを中心に “Ｌ字型” をしており、左手奥が “五地想市場” という物産館です。

中央のアトリウムから上がった２階には、“会津屋八右衛門” という海鮮レストランと、もうひとつ “orizzonte（オリゾンテ）” というイタリアンレストランがあります。

いずれも浜田港で水揚げした魚介類など地元の食材を使った本格レストランです。

Ｌ字型の右手は “フードコート” ですが、外では子供たちの遊ぶ姿が見えます。

これらの写真には写っていないのですが、Ｌ字型の中央にあたる広場には、“ステージ” があり、毎月第２、第４日曜日には、浜田の伝統芸能である “石見神楽” の公演が開催されます。

実は前回来た時がたまたまその公演の日で、大勢の観客が集まっておられました。

※２００９年４月１８日撮影

普段こういうものにあまり興味がない私でさえ、引き込まれるような迫力がありました。

アトリウムからフードコートに入る入り口にはこんなものが！
これも神楽で使うものなのでしょうか？

面白い椅子があったので写真に撮りました。(^_^;)

フードコートには、麺類の “めん処ゆうひ亭” や “モスバーガー”を始めとするいくつかのファーストフードのお店があります。

本当はここで食事をしたかったのですが、平日というのに席も空いていません。
時間もないので、先を急ぐことにしました。

２カ所目は３３ｋｍ離れた

道の駅サンピコごうつ に向かいました。

浜田ＩＣから再び高速に乗り、江津道路を終点まで走ってあとは日本海に沿った一般道です。
３０分ちょっとで到着しました。

赤い屋根が特徴ですが、これは当地名産の “石州瓦” です。

こういった建物に限らず、山陰地方に来ると赤い屋根の民家が一気に多くなります。
冬の寒さや雪に強いからですね。

道の駅の敷地にこんなものがありました。
正面をアップすると次のようになります。

これはいわゆる “鬼瓦” ですが、正確には “「鬼面」足付き棟端装飾瓦” というそうです。

“鬼瓦” というのは本来 「天地を鎮め、悪を払う」 という願いから創られた鬼面、獣面などの呼び名だったそうですが、現代では 「棟の端に据えられる装飾瓦」 の総称になっているそうです。

これも、“陶のまち” である “江津市（ごうつし）” の特産です。

“サンピコ” という名前ですが、これは “海彦（うみぴこ）” “山彦（やまぴこ）” “川彦（かわぴこ）” という３つの “彦” からとったものです。

目の前の日本海で漁師さんが獲った活きの良い魚介類、川沿いの肥沃な大地で育った新鮮な農産物、ゆったり流れる江の川の鮎やツガニなど、“江津（ごうつ）”の豊かな海、山、川の恵みがこの道の駅に集まってくるのです。

では、中に入ってみましょう。

最初に入ったここは情報・休憩コーナーです。
奥には案内の職員の方もおられ、ゆったりとした空間です。

その奥が農林水産物の直売所で、「三彦市（さんひこいち）」 です。

この右手奥の方にはテイクアウトブースがあり、石見和牛を使ったステーキ弁当だとか、揚げたての練り物などを販売しています。

１カ所目の道の駅で昼食を食べ損ねた私たちは、ここでコロッケや天ぷらなどの練り物を買い、休憩ブースのテーブルで頂きました。

世界遺産のまち！“ロード銀山”

サンピコごうつから３３ｋｍほど走って

道の駅ロード銀山 にやってきました。

ここ “島根県大田市” は、ご存知のように日本で１４件目の世界遺産となった “石見銀山（いわみぎんざん）” のある場所です。

この道の駅もそこから名前がついていますから、私はてっきりここで石見銀山の見学もできるのかと思っていました。
実際には、この道の駅からだと約１７ｋｍ離れた場所にあり、３０分弱かかりそうです。

（パンフレットより借用）

石見銀山は１５２６年に博多の豪商 「神屋寿禎」 によって発見されて以来４００年にわたって採掘された日本最大の銀山です。

最盛期には日本が世界の銀の３分の１を産出していたといわれており、その大半がここ石見銀山で採掘されたものです。
これらの銀は江戸幕府の財政をささえ、海外にも交易として多くが輸出されてきました。

この銀山が環境に配慮し、自然を破壊することなく大量の銀を採掘してきた歴史を特に評価され、２００７年７月に “石見銀山遺跡とその文化的景観” として世界遺産に登録されました。

鉱山遺跡としてはアジアで初めての世界遺産なのだそうです。

さて、国道９号沿いのこの大きな目立つ看板から中に入ります。
ここの配置は次のようになっています。

（ＨＰより借用）

駐車場に面したこの建物がメインの施設です。
中央から見ると、右翼が土産物などのショッピングゾーン、そして左翼がレストランです。

もうひとつ、駐車場を挟んだ向かい側に、農産物を扱う “ぎんざん市場” があります。
外から覗いてみたけど、この日は店員さん以外には誰もいませんでした。

メイン施設の方に入ってみることにしました。

玄関をはいって中央の階段を少し上がったところが情報センター件休憩所です。

パンフレットらしきものはたくさあるのですが、肝心の “石見銀山” に関するものがちょっと乏しかったようで残念に思いました。

この２枚の、上の写真がショップで、下がレストランです。
最近は店内の写真を撮ると注意されることがあるので、遠くから遠慮がちに撮っています。(;^_^A

せっかくの “ロード銀山” なのだからもっと特徴を出して、ここへ来た人が石見銀山の遺跡を見に行ってみたい、と思わせるような展示物やＰＲ資料を揃えれば良いのに、と思いました。

お洒落なリゾート地！“キララ多伎”

初日の最後の目的地として

道の駅キララ多伎（たき）　にやってきました。

ロード銀山の道の駅からここまで１５ｋｍほどの距離で、２０分もかからず到着しました。
この道の駅も７年前に一度来たことがありますが、中国地方で私が一番好きな道の駅のひとつです。

まず全体の外観から見て頂きましょう。

※この写真だけは翌朝、道路の反対側から写したもので、晴天です。

メルヘンチックな建物であることがお分かりですね！
では、配置図を見て頂きましょう。

（ＨＰより借用しました）

この図の上が道路で下がビーチ（日本海）ですから、最初の写真とは左右が逆の並びになります。

向かって右手が特産品コーナーのあるメインの建物（上の写真）、左手がレストランとベーカリーの建物（下の写真）です。

とんがり屋根のある、中央のメインの建物にまず入ってみましょう。

正面から入ると左手が“フードコート”で、奥が“情報・休憩コーナー”です。
２階部分に誰か腰かけているのがわかりますか？

スパイダーマンです！

これは７年前に来た時にもいました。
この道の駅とどんな関係があるのでしょうね？

奥の“情報・休憩コーナー”はご覧のようにガラス張りになっていて、そこからビーチと日本海が見下ろせます。

建物の右手全体が“特産品コーナー”ですが、ここの売り場はとても商品が充実しています。

“島根県出雲市多伎町”の名産は“イチジク”だそうで、売上人気Ｎｏ.1から上位はほとんどがイチジクの加工品で占められていました。
ここは宍道湖にも近い関係で、“シジミ”も特産で、私はシジミの加工品などを買い込みました。

一旦外に出て、他の建物も紹介しておきましょう。

すぐ左手のこちらはレストランで、“ごゑん”といいます。
日本海の新鮮な魚介類を使った海鮮丼などが人気です。

（パンフレットより借用）

旨そうですね！(＾～＾)
その更に隣には、“キララベーカリー”があります。

多伎の特産であるイチジクを使った、いちじくクルミの焼きたてパンが特に人気だそうです。

（パンフレットより借用）

そして少し離れた駐車場の端には、“らーめん工房 海（かい）”があります。

（パンフレットより借用）

ここも九州と同じとんこつ仕立てで、見るからに美味しそうです。
キララブラックというのが気になります。(^_^;)

道の駅の裏手には長い階段があり、それを下りると“キララビーチ”が広がっています。

この日はあいにくのお天気ですが、ここキララビーチはコバルトブルーに輝く遠浅の海で、夏には大勢の海水浴客で賑わいます。

そして日本海に沈む夕陽は、「日本の夕陽百選」にも選ばれています。

ちょっと見難いかとは思いますが、このボードには毎月の上旬、中旬、下旬ごとに、太陽が沈む時間と方向が書かれています。

この道の駅、実はこれだけではありません。
ここは“キララグループ（株式会社多伎振興）”という出雲市の第三セクターが運営しています。

キララグループには、この道の駅の他に、すぐ横の高台に“見晴らしの丘公園”があり、そこにはログハウス、コテージ、センターハウス、オートキャンプ場、バーベキューハウスといったグループで泊まれる宿泊施設やアウトドア施設があります。

（パンフレット借用）

更に少し離れて“多伎いちじく温泉”があり、そして私がこの日泊まる予定の“マリンタラソ出雲”もキララグループの施設で、ここからわずか５００ｍの位置にあります。

まさに道の駅を核とした総合リゾートを形成していると言えます。

今夜泊まる “マリンタラソ出雲” については、次回少しだけ紹介したいと思います。

オーシャンビューのホテル！“マリンタラソ出雲”

初日のこの日泊まったのは、

マリンタラソ出雲 です。

前回もお話ししましたが、ここも道の駅と同じ “キララグループ” の運営する宿泊施設です。
玄関の目の前に道の駅の標識があり、道の駅キララ多伎までわずか５００ｍの距離です。

実は７年前にもここに泊まったのですが、ホテルにちゃんと記録があるらしく、「吉田さまは２回目ですから、サインだけで結構です」 と簡単なチェックインで済みました。

（ＨＰより借用）

ここは３階建ての建物なのですが、この図は１階部分です。
玄関は２階にあり、エレベーターで１階に下りてチェックインします。

この１階に “元気海プール” というのがありますね！
ここの特徴の一つは “タラソテラピー” の施設があることです。

“タラソ” というのはギリシア語で海を意味し、海の資源を活用しながら人間が持つ自己治癒力を高める自然療法のことです。

この写真は翌日の朝、外の窓から覗いて撮った “元気海プール” の中です。

たくさんの水路のようなものが作られており、適温に温められた新鮮な海水の中を移動しながら、水流やジェットを利用した１４種類のアトラクションで健康つくりを行うものです。

各種のトリートメントのコースもあり、これを目的に来られる宿泊客、日帰り客も多いようです。

宿泊する部屋は２階と３階にあり、私たちは３階でした。
すべての部屋が日本海に面したオーシャンビューです。

そしてちょっと見難いかと思いますが、全室にご覧のようなベランダがついています。
ここから “日本の夕陽百選” の夕陽を見れるのですが、この日はあいにくのお天気で、あんまりきれいではありませんでした。

夕食はバイキングでしたが、宿泊客以外の一般の方も入れるようで、ほとんど満席の状態でした。

翌日の朝の写真ですが、沖合に何槽かの船が見えます！
じっと停まったままなので、何をしているか気になって部屋のベランダから望遠で覗いてみました。

道具を使って海の中を覗きこみ、手に持った長い竿のようなもので、貝を獲っているようです。
あわびか何かかもしれませんね！

さて、そろそろ２日目の出発です。

日本古来の製鉄技術！“たたらば壱番地”

２日目の最初に向かったのは

道の駅たたらば壱番地 です。

ここは中国横断自動車道 “尾道松江線” の “雲南吉田ＩＣ” に隣接しています。
ただ私たちは道の駅キララ多伎方面からですから、一般道を５０分ほど走ってきました。

この日は４月２日、一般道を走ると、本当にいろんなところで桜の満開に遭遇しました。

（ＨＰより配置図借用）

ご覧のように道の駅は自動車道から直接入ることができます。
この尾道松江線を別名 “中国やまなみ街道” と呼ぶのですが、大半が無料区間ですからとっても有難いことです。

私たちは一般道をきたのでこの駐車場に停めたのですが、ここは道の駅の裏側になります。
勿論こちら側にも入り口があるので、店内を通って表の方に出てみました。

なかなかきれいな道の駅で、まだ早朝だというのにたくさんのお客さんで既に賑わっていました。

“たたらば壱番地” という名前ですが、ここ “島根県雲南市吉田町” がかつて日本古来の製鉄技術である 「たたら製鉄」 で栄えたことに由来します。

“鑪（たたら）” というのは砂鉄と木炭を燃やし続けて鉄を作り出す日本古来の技法で、その技法で鉄を作ることを 「たたら製鉄」 といいます。
この地域では良質な砂鉄と、豊富な森林資源から生まれる木炭を使って鎌倉時代から操業が始まり、大正時代に最後の火が消えるまでそれは続きました。

江戸時代後半には国内総生産量の８割を占め、その良質で豊富な鉄は刀などの材料として全国各地の刃物の産地に運ばれてゆきました。

（パンフレットより案内図借用）

店内の配置図と店内の写真です。
両方とも生意気そうな（笑）少年がいますね！

アニメ『秘密結社 鷹の爪』のキャラクター“吉田くん”の故郷がここ雲南市吉田町なんだそうで、これはその雲南市バージョン“雲南吉田くん”だそうです。

このアニメ、私は残念ながら読んだことがないのであまりピンときませんが、道の駅のマスコットになっています。

店内の写真の一番下にあるのが、配置図⑤番の“ままたまご”というお店です。
ここで私たちが買ったのが、この商品です。

これが一番人気の“たなべのたまごぷりん”です。

たなべのたまごというのは平地飼いの有精卵にこだわった田部養鶏場の卵でコクがあり、この卵をたっぷり使ったプリンです。
普段食べるプリンより、濃い味がしました。

他にもいろんな土産品が揃っていて、なかなか充実した道の駅だと思います。

広島県屈指の豪雪地帯！“たかの”

旅の２日目、２カ所目は

道の駅たかの に向かいました。

最初に行った道の駅たたらば壱番地はインターチェンジに隣接していますから、そこから松江自動車道にのり、一つ目の “高野ＩＣ” で下りると、そこが目的地です。

先ほどの島根県の道の駅からわずか２０ｋｍの距離ですが、ここは “広島県” です。

“広島県庄原市高野町” は、広島県の最北部で中国山地のど真ん中に位置します。
標高も４８０～８００ｍに分布しており、県内屈指の豪雪地帯です。

ですから勿論スキー場もあり、毎年２月に開催される “雪合戦” は大勢が集まる一大イベントになっています。

丁度この日はオープンして３周年目らしく、その感謝祭が行われていました。

この建物、地元の豊富な森林資源を活用した木造平屋建てであり、外観の緩やかなカーブは、高野町の特産であるリンゴをイメージしているのだそうです。

今度は別の方角から見てみましょう。

道の駅の右手に、“ゆきむろ” と書かれた白い建物がありました。

これは丘の斜面に建てられているのですが、上の階に雪を運び込むらしい大きな入り口があり、階下には中を見学できるドアがありました。

ゆきむろの構造はこのようになっており、次のよう説明書きがありました。

ゆきむろの内部は、年間を通して湿度が９５％以上、温度は１～２度に保たれています。

例えばジャガイモをこの中に保存すると、ジャガイモ自身が自分の凍結を防ぐためにでんぷんをショ糖に分解するため甘くなる、などの効果もあるのだそうです。
電気代もかからず二酸化炭素も出さず、豪雪地帯ならではの究極のエコ冷蔵庫だと思います。

体験室の中に入ってみましたが、あまりにも寒いのであわてて退散しました。

３周年ということもあるかもしれませんがこの日はとても賑わっていました。
店の外にもいくつもの露店が出店していましたが、建物内部は次の通りです。

（パンフレットより配置図借用）

“たかのキッチン” という蕎麦、うどん、おにぎり、ジェラードなどのファーストフードのお店があり、その奥が “わいわい高原市場” という直売所です。

高野町は標高が高く年平均気温が１０．６℃と冷涼な気候で、中国山地からの源流水にも恵まれていることから、大根、リンゴ、夏イチゴ、トマトなどが県内有数の産地です。

そしてこの直売所に並んでいる商品を見ると、それら特産品を生かし、工夫を凝らした珍しい食材の種類が多いことに感心しました。

パッケージも魅力的で何を買おうかと目移りしましたが、私がその中で選んだのは次の商品です。

これは “野菜ピクルス” といって、具材や漬け方にたくさんの種類がありましたが、この写真はダイコンをレモン汁で漬けたお漬物です。

レモンの酸っぱさとダイコンのシャキシャキ感があり、とっても美味しく頂きました。

こちらはふじリンゴの “アップルコンポート” です。
リンゴの産地だけあって、リンゴをまるまるシロップに漬けたものなど、いろんな種類があり、商品企画力に優れていると思います。

今日の１カ所目のたたらば壱番地もそうでしたが、新しい道の駅ほど商品や店舗に創意工夫を凝らし、地域に根付いて商品と情報を発信している姿勢が見られ、魅力的だと思いました。

次は再び島根県に戻り

道の駅おろちの里 へやってきました。

一般道を３１ｋｍ走って到着したここは、“島根県雲南市” です。
雲南市は松江市と出雲市の南側に位置し、出雲地方の南にあることから “雲南” という地名です。

実は今日の１カ所目に訪問した “道の駅たたらば壱番地” も雲南市ですし、他に “掛谷の里” と “さくらの里きすき” という、全部で４つの道の駅があるのです。

そしてこの地は、出雲の神話 “ヤマタノオロチ” 伝説の舞台でもあります。

（パンフレットより借用）

日本最古の歴史書 「古事記」 に残る、“スサノオノミコト” による八岐大蛇（ヤマタノオロチ）退治のお話しですね。

スサノオノミコトは天照大神の弟ですが、高天原（たかまがはら）を追放され、この出雲に降り立ちます。
そこで出会った老夫婦に、娘をヤマタノオロチに差し出さなければならないという話を聞きます。
ヤマタノオロチは８つの頭と８つの尻尾を持った巨大な龍ですが、スサノオノミコトは策をめぐらし、強い酒をオロチにのませて眠ったところを退治し、めでたくその娘 “クシナダ姫” と結婚するというお話です。

雲南市には、そのヤマタノオロチが棲んでいたという “天が淵” を始めとする、たくさんの伝承地があります。

この道の駅は、この日に行った２カ所の道の駅と違い、ごくシンプルな造りです。
場所も山間のごく静かなところにあり、すぐ目の前に “さくらおろち湖” の景観が広がります。

ここは一級河川・斐伊川本流上流部に築かれた “尾原ダム (おばらダム)” のダム湖です。

“斐伊川（ひいかわ）” は 古くから農業用水として利用されてきましたが、ヤマタノオロチ伝説にもみられるように頻繁に洪水を起こす暴れ川で、流域住民の悩みの種だったのだそうです。

むかしの人は、頻繁に起こる洪水被害を、おろちの仕業だと考えたのかもしれませんね。

これが配置図です。
まず、“情報コーナー” に入ってみました。

パンフレットなどの間に備え付けてあるもの、これはタブレット端末です。

パソコンはよく見かけますが、こんな風にタブレットが自由に使えるのも珍しいです。

その隣が “特産物販売所” です。
そして一番奥はレストランになっています。

ここは地元の食材を使った、田舎料理バイキングのレストランでした。
ここでは地下６０ｍからくみ上げた地下水を使っているのだそうです。

外では季節に応じて様々な苗の販売が行われています。
この道の駅の常設だそうです。

派手さはないけど、こじんまりと纏まった道の駅でした。

安来節の里！“あらエッサ”

次は島根県の東の端

道の駅あらエッサ にやってきました。

道の駅おろちの里からはずっと一般道を１時間以上走ってきたのですが、途中たくさんの桜の満開に出会い、特に木次町周辺では桜のトンネルの中もくぐってきました。

この日は４日間の旅で唯一、終日晴天に恵まれ、ご覧の青空です。

ここは “島根県安来市（やすぎし）” になります。
すぐ東側に鳥取県との県境があり、お隣は鳥取県米子市です。

“安来” というとどなたも気がつかれると思いますが、“安来節” の発祥地ですね！

道の駅の正面に、このようなイラストの看板がありました。

ほっかむりをして、腰に魚籠をぶら下げ、しょうけを手にユーモラスに踊る、“どじょうすくい” です。
“安来節” の起源は江戸時代中期ですが、全国的に民謡として知られるようになったのは大正から昭和にかけてなのだそうです。

安来節の唄に合わせて踊るのは、“どじょうすくい男踊り” “どじょうすくい女踊り” を始めとしていくつかのバリエーションがあります。
安来市には “安来節演芸館” という施設が、有名な “足立美術館” に隣接した場所にあり、いつでも唄と踊りを楽しむことができます。

この道の駅の名前も、安来節の掛け声である、“あらエッサッサー” からきていますね！

（パンフレットより借用）

ここも規模の大きな道の駅ですが、その配置はご覧の通りです。

この写真の右側の建物が、“やすぎ魚々市（ぎょぎょいち）”です。

手前の方にはテーブルと椅子が並んでいて休憩できるスペースになっており、奥は海産物の販売所です。
島根半島沖から水揚げされたばかりの新鮮な魚介類やカニが直送され、販売されています。

次は道の駅の左半分です。
ほぼ中央に“なかうみ菜彩館”という農産物直売所があります。

更に左隣の“情報コーナー”に道の駅のスタンプなどが置いてありました。

一番下にある写真が道の駅の最左手にある、“中海の郷”という古民家レストランです。
ここの人気メニューはこちらです。

（パンフレットより借用）

安来節の里らしく、“どじょうづくしセット”でした！（笑）

私たちはこれを味わう余裕もないので、道の駅の前に並んでいた屋台でテイクアウトの焼きそばなどを買い、休憩コーナーのテーブルで頂きました。

次は、鳥取県に入り

道の駅奥大山（おくだいせん）　に向かいました。

米子西ＩＣから“米子自動車道”に乗り、江府ＩＣで下りると道の駅はすぐ近くです。
道の駅あらエッサから３０分弱で到着しました。

（パンフレットより借用）

鳥取県には、中国地方最高峰で、唯一の日本百名山でもある“大山（だいせん）”（標高１７０９ｍ）　があります。
今は広島県や島根県にたくさんスキー場ができていますが、かつては九州からスキーを楽しむには、夜行列車やスキーバスを使って大山のスキー場までやってきた時代もありました。

道の駅奥大山は、その大山の南山麓に位置します。

車窓からの大山の雄姿です。
４月ですが、まだ若干雪が残っているようです。

この道の駅の地名は、“鳥取県日野郡江府町（こうふちょう）”　ですが、“奥大山”という呼び名が一般的です。
人口は３千人弱の過疎地ですが、西日本最大級のブナ林が育む豊かな水かあり、近年ではサントリーの誘致に成功し、“サントリー天然水 奥大山ブナの森工場”として稼働しています。

道の駅自体はそれほど大きな規模ではありませんが、地元木材を使った木造建築で落ち着いた雰囲気があります。

（パンフレットより配置図借用）

情報コーナーもスペースとしては広くはありませんが、きちんと資料が整理整頓されており、無料でＷｉＦｉ も使えます。

天井が木材で組んであり、温かみがあって印象的です。

写真の “物産館マルシェ” は珍しい食材も多く、私たちもいくつかの買い物をしました。
写真はありませんが、ニンニクをまるごと醤油漬けしたものや、外側が真四角でカチカチの食パンも買いました。
旅先で食パンを買うのも珍しいと思うけど、帰ってから食べてみると、外側はカリカリ、中はふんわりと、食パンにしては珍しい食感でした。

今回の旅はレンタカーでなく自分の車で直接来ているので荷物の心配が無く、つい、いろんなものを買ってしまいます。(^_^;)

次は１時間２０分ほどかかって

道の駅燕趙園（えんちょうえん）　にやってきました。

秀峰大山の南側をぐるっと回って、再び日本海の近くまで戻ってきました。
ここは“東郷池”という大きな池、というよりは“湖？”のほとりにあります。

ご覧のように東郷池の南の端にありますが、池のちょうど対面になる北側の端には、以前行ったことのある“道の駅はわい”があります。

羽合（はわい）という地名の、“鳥取県のハワイ”ですね！（笑）
でも、ここ道の駅燕趙園の住所は羽合ではなく、“鳥取県東伯郡湯梨浜町”になります。

ここはいつもの道の駅の標識がどこにも見当たらなかったので、これでご勘弁を！

広い敷地の中に中国風の派手な建物がいくつも建っています。
どれが道の駅なのかわからずにうろうろしましたが、この最後の建物に道の駅であることが書いてありました。

ラーメンの幟があったのでレストランかと思ったのですが、ここは“お買物処 燕趙園”です。
ちゃんとしたレストランは別にありますが、ここでもテイクアウトの飲食コーナーがあるようです。

さすがに中国風らしく、店内にも派手な飾り付けがあり、天井にはハリボタの龍が舞っています。
とりあえず道の駅スタンプは押したものの、この道の駅の全体がどうなっているのかさっぱり分かりません。

全体図を描いた看板を見つけましたが、色が褪せて薄くなっています。
「現在地」と書いたところが先ほど道の駅のスタンプを押したお買物処です。

道路を挟んだ向かい側にもいろいろ施設があるようです。

道路と敷地の境にはこのような鎖がはってあります。
すべてが中国風に作られていますね。

そしてご覧のような、道路をまたぐ “横断陸橋” がありました。
その陸橋の上が展望台のようになっていて、全体を見下ろすことができます。

展望台から見て、左手が芝生広場、正面は “集粋館” というイベントや展示会の行われる建物です。
更にその先に、“東郷池” が見えます。

そして右手に見えた瑠璃色の屋根瓦の建物群が、この施設の一番のメインとなる “中国式庭園 燕趙園” です。

これは鳥取県と中国河北省の友好のシンボルとして建設されたもので、総面積が１万㎡にもなる日本最大級の中国式庭園です。

歴代皇帝が親しんだ“皇家園林方式”と呼ばれる中国庭園を再現したものです。
中国で設計、資材の調達、加工などを行い、一旦仮組したあと解体し、日本に持ち込んで中国人技術者の下で再建設したのだそうです。

（ＨＰより全体図借用）

さきほどの配置図では分かり難いので、ＨＰから全体図をお借りしました。
これだと庭園の広さが実感できますね。

有料の中国庭園にはかなり貴重な展示物などもあるようですが、私たちは次の予定があるのでここまでで引き返しました。

この道の駅に来て、ちょっと不思議に思ったことが二つあります。

その一つは、これだけの貴重な“中国庭園”があるのに、道の駅の情報コーナーにはそれを紹介するような資料は全く見当たらなかったことです。
もともと有名でそこまでＰＲする必要はないのかもしれませんが、道の駅で集めたパンフレットなどを基にブログを書いている私にとっては、ちょっとがっかりでした。

もう一つは、この日は土曜日であるにも拘わらず、土産店にほとんどお客さんがいなかったことです。
日本最大級の中国庭園という地域としての貴重な財産を、この道の駅は十分に生かし切れているのかな、とちょっと気になりました。

２日目の最後の目的地は

道の駅きなんせ岩美 です。

この日の宿泊は鳥取市内ですが、道の駅はその先２５分程の “鳥取県岩美郡岩美町” にあります。
従って一旦鳥取市内を通り抜け、再び戻ってくることになります。

岩美町は鳥取県の東北端にある人口約１万２千人の町ですが、すぐ東側に兵庫県との県境があります。
無理にこの日に訪問したのは、開店時間が朝９時半からなので、翌日の効率を考えたものです。

“きなんせ” というのは、鳥取弁でおいでください、の意味です。
多くの人に道の駅へ、そして岩美町に来て欲しいという願いで名付けられています。

岩美町は北側を日本海に面していますが、西は鳥取市の青谷海岸、東は京都府京丹後市の経ケ岬まで１２０ｋｍ続く “山陰海岸ジオパーク” の一部になります。
この山陰海岸ジオパークでは、日本列島がかつてアジア大陸の一部であった頃の、貴重な地形や地質を確認することができるのだそうです。

ジオパークというのは、世界遺産と同じく “ユネスコ” が認定します。

「世界遺産」 が、文化遺産や自然遺産の保護を主な目的にするのに対し、「ジオパーク」 は、地層や岩石等の自然保護、そしてそれらを地球科学の研究や教育に活用すると共に、新たな観光資源として地域の活性化に役立たせることを目的としています。

（パンフレットより借用）

これが道の駅全体の配置図です。

右端に “道路情報提供コーナー” があります。

これが情報コーナー兼休憩所です。
資料が整然と並べられており、木目の床がきれいです。

一番奥が交流・研修室で、そちらからも店内に入れますが、私たちは一旦外にでて正面から入ることにしました。

これはレストラン “海陽亭” の入り口です。
海鮮問屋村上水産の直営で、“天然海水いけす” を備えた本格的な海鮮料理のお店です。

これが店舗への入り口ですが、入ってすぐのところで私たちを出迎えてくれたのがこちらです。

さすがに本物ではないと思いますが、巨大松葉がにです。

実は岩美町は、“松葉がにの漁獲量日本一” を誇ります。
ただ、その漁期は毎年１１月６日から３月２０日まで（メスは１２月３１日まで）だそうですから、この日はその季節を過ぎていました。

店内はなかなかお洒落です。

広い通路の右側は先ほどの “レストラン海陽亭” で、左手には “いわみのおばちゃん家” という軽食コーナーがあります。

奥はスーパーマーケットのような雰囲気ですが、さすがに鮮魚や水産加工品のコーナーが広く取ってあり、日本海で水揚げされた豊富な魚介類が並んでいました。

さて、これで２日目の予定を終了しました。
先ほど通った道を引き返し、ＪＲ鳥取駅に近い “鳥取グリーンホテルモーリス” がこの日の宿です。

夕食はアーケードの中の居酒屋で、日本海の海の幸を味わいました。

余部鉄橋１００年の歴史！“あまるべ”

３日目に入り、最初に目指したのは兵庫県の

道の駅あまるべ です。

鳥取市内のホテルを朝７時５０分に出発し、到着したのが８時４５分、１時間近くかかりました。

“兵庫県美方郡香美町余部” にあるこの道の駅は平成２４年（２０１２年）７月にオープンしました。
ここはＪＲ山陰本線 “餘部駅” に隣接し、最大の特徴は高さ約４０ｍの “余部橋梁（鉄橋）” の真下にあることです。

このコンクリート製の立派な鉄橋は、実は平成２２年（２０１０年）に建て替えられたもので、それまでの鉄橋は明治４５年（１９１２年）に建設され、約１００年もの間山陰本線の運行を支えてきたのです。

この２枚の写真は案内看板にあったものを撮ったのですが、上が鉄骨製の旧余部鉄橋で、下がコンクリート製の、最新土木技術で建設された現在の橋梁です。

旧橋梁は延長３０９ｍ、高さ４１ｍ、橋脚１１基を有し、当時は東洋一の規模を誇る橋梁だったのです。

ご覧のように、当時使われていた橋梁の一部が保存されていました。
そしてもうひとつ、橋梁の真下にこんなものがありました。

昭和６１年１２月２８日、旧余部橋梁の時代に山陰地方特有の強い低気圧の強風により、回送中の客車７両が橋梁から転落したのです。

乗客はいなかったものの、鉄橋下のカニ加工工場を直撃し、従業員の主婦５名と列車の車掌が犠牲になり、多くの重傷者を出す大惨事となりました。
これはその慰霊碑ですが、１００年の歴史のなかではこのような悲劇も起きていたのです。

私たちが道の駅に到着したのは開店の９時より前でしたが、この日は日曜日で多くのお客さんが予想されたのでしょう、数名のガードマンが駐車場の整理にあたっておられました。

道の駅の隣にはご覧のような “鉄橋資料館” があり、鉄橋グッツなども販売されています。
鉄道ファンには魅力的だろうと思います。

（パンフレットより案内図借用）

道の駅の内部はご覧のような配置になっています。
まず情報コーナーに入ります。

ここには３台の大型モニターが設置されており、余部橋梁の１００年の歴史が分かる展示と共に、それを紹介する映像が流れていました。
そして前回も紹介した “山陰海岸ジオパーク” のエリアでもあるので、その紹介コーナーもあります。

道の駅のほぼ半分の面積がこれら情報コーナーで占められており、残りが売店と食事処です。

さてここで、付近の地図をご覧いただきましょう。

「現在地」 と書かれた道の駅の場所と、鉄橋やＪＲ餘部駅の位置関係がわかるかと思います。

橋脚１１基で作られた旧余部鉄橋は平成２２年８月に建て替わりましたが、その中の３つの橋脚だけを残し、平成２５年５月、展望施設 “空の駅” が誕生しました。

次回の記事で、その空の駅をご紹介することに致します。

※道の駅スタンプが何故かいくつもあったので、全部押してきました。(^_^;)

高さ４０ｍの歴史遺産！“余部鉄橋空の駅”

前回の “道の駅あまるべ” の続きで、今回紹介するのは

余部鉄橋 空の駅 です。

道の駅の標識と一緒にこの “空の駅” の看板もありますが、勿論空の駅なんてここしかありません。

前回の記事でご紹介したように、余部（あまるべ）鉄橋は明治４５年に東洋一の規模として完成し、約１００年を経過した平成２２年に現在のものに建て替えられました。

建て替え前の、旧余部鉄橋の写真がこちらです。

（パンフレットより写真借用）

高さは今とほぼ同じで４１ｍ、長さ３０９ｍ、そしてご覧のような１１基の橋脚で作られています。
この、元の橋脚の内の３本を残して、展望施設 “空の駅” が誕生したのです。

これが周辺案内図ですが、一番下に道の駅があり、一番上にあるのが山陰本線の “ＪＲ餘部駅” です。
餘部（あまるべ）駅は高さ４０ｍの鉄橋の上にありますが、空の駅はこれに隣接して作られました。

平面図では分かり難いかもしれませんので、別の絵をお見せしましょう。

横からと上空からのそれぞれイラストです。
これだと、随分高い位置に駅があることが分かりますね。

ところで、“餘部駅” というのは最初からあった訳ではありません。

明治４５年に余部鉄橋は完成しましたが、三方を山に囲まれて陸の孤島であった余部には駅が無く、外部との行き来には車も通らない山道しかなかったのです。

それで人々は汽車に乗るために高さ４１ｍの長い鉄橋を渡り、列車の通過に怯えながら４つのトンネルを抜けて鎧駅まで線路を歩くしかありませんでした。

長い期間の陳情を経て昭和３４年４月にようやく餘部駅が誕生しますが、その工事には子供たちまで加わって海岸から岩石を運び上げたといわれています。

空の駅へは橋脚の下の歩道を歩いて行きますが、そこは芝生公園が整備されており、途中橋桁の鉄骨を利用した“東屋”もありました。

橋脚の下から階段がありますが、お分かりでしょうか？
ここから階段と山道を高さ４０ｍまで上って行くのです。

これは上っている途中の写真ですが、旧橋脚が３本だけ残してあるのが分かりますね。

結構急な坂道を上るので汗をかきました。
毎日通勤、通学をされている方は大変だろうと思います。

そして到着したのが餘部駅で、これは現在使われている現役のホームです。

一番下の写真の、右下に映っているベンチはわかりますか？
旧橋脚の鉄骨を再利用したものですね。（＾_＾）

空の駅はこのホームに並行した形で、作られています。

これがかつて使われていた線路で、この線路の上を進むと展望施設に行けます。

線路はここまでで、この先が展望施設になっています。
この右側に並行して現在の山陰本線が走っています。

そしてここからの展望がこちらです。

展望台の途中にはガラスののぞき窓で真下も見れて、なかなか迫力があります。

明治４５年に完成し、１００年に渡って山陰本線を守ってきた旧余部鉄橋は、“平成２６年度土木学会選奨土木遺産” に認定されています。
世代交代はしたけど、その一部がこういう形で遺産として残されているのはすばらしいことだと思います。

丹後半島の付け根！“くみはまＳＡＮＫＡＩＫＡＮ”

再び県境を越えて、今度は京都府にやってきました。

道の駅くみはまＳＡＮＫＡＩＫＡＮ が、次の目的地です。

ここは京都府の北西部 “京都府京丹後市久美浜町” になります。
以前は久美浜町という独立した自治体だったのですが、２００４年４月の市町村合併により京丹後市になりました。

（ＨＰから地図借用）

ＨＰからお借りした地図ですが、丹後半島の左の付け根になります。
ここには、“久美浜湾” があります。

（ＨＰから地図借用）

これも同じくＨＰからお借りした地図ですが、久美浜湾の部分が拡大されています。
“湾” とは言っても、日本海とはわずかな水路で繋がっているだけですから、実際には “吃水湖” が正しいと思います。

丹後半島は数年前に回りましたが、他に３カ所の道の駅があり、京都府のイメージとは全く違った風景の連続でした。

ここは２０１１年に登録された道の駅です。
でも、もしかすると以前からあった直売所なのかな、と思いました。

看板に表示されていた道の駅の配置図はご覧のとおりです。
中央に通路があり、右側に “地域特産物売店”、左手に “情報発信室” と食堂があります。

中央通路の入り口にあったのは、この魚の干し物です。
ここで作ってそのまま販売しているのでしょうね！

通路にはご覧のように舟があって、手造りの民芸品などが並べられています。
まず、情報発信室に入ってみました。

パンフレットはたくさんありますが、久美浜町やこの道の駅に関する資料は何もありません。

下の写真が食堂の入り口です。
いつもは日替わり定食が７００円であるようですが、この日は日曜日、「土日祝祭日は日替わり定食はお休みです」と書いてありました。

次は地域特産物売店に入ってみます。
入り口は何カ所かあります。

ごく普通の直売所、土産物店といった売り場です。

道の駅の名前にある“ＳＡＮＫＡＩＫＡＮ”というのがどういう意味か、どこにも説明がありませんでしたが、想像するに“山と海のめぐみ”を指して“山海館”という事ではないでしょうか？

違っていたらごめんなさい！（笑）

次に向かったのは丹後半島の反対側の付け根に位置する

道の駅海の京都 宮津 です。

“京都府宮津市”といえば、日本三景のひとつ“天橋立（あまのはしだて）”が有名です。

この道の駅は２０１５年度に登録されたばかりですが、国交省のＨＰにも“日本三景「天橋立」が一望できるロケーション”という言葉があり、また事前にチェックした他の記事でも同じような記載と共に天橋立の写真がありました。

（参考写真）

数年前にこの付近を回った時は近くを通ったものの高い位置からの天橋立を見ていないので、今度こそ全体を見れると楽しみにしていました。

でもそれが、大きな勘違いだったのです。

いつもの道の駅標識は見当たらなかったのですが、この案内看板に従って行くと、海沿いに出ました。
どれが道の駅なのか分からなかったのですが、大きな無料駐車場があったので、とりあえずそこに入りました。

この大きな建物の側面に「道の駅海の京都 宮津」という幕が貼ってありますが、これはただの立体駐車場で道の駅ではなさそうです。

私が車を停めた広い駐車場の横にはこの建物がありますが、“Ｍｉｐｐｌｅ 宮津シーサイドマート”という文字があり、これはスーパーマーケットで、駐車場はどうやらそのお店のものだったよう

です。

道の駅がどこか分からないまま、歩いて探すことにしました。

先ほど駐車場に入るときに曲がった角にあるこの建物が気になって行ってみました。
裏手は公園のような芝生があり、何台か駐車スペースもあるようです。

ここには “宮津市観光交流センター” という看板があります。
道の駅の表示はどこにも無いので恐る恐る入ってみると・・・・

道の駅登録証がありました。（＾_＾）

ここには観光パンフレット等が並べてある他、受付カウンターには案内の女性がおられました。

「道の駅って、ここだけなんですか？」 と尋ねると、「道路の先に直売所がありますが、そことここだけです」 と申し訳なさそうにおっしゃいました。

「ここから天橋立は見えますか？」 とも尋ねてみると、「いえ、ここからは見えません」 という返事。
観光パンフレットに載っているような写真は、天橋立南側にある “天橋立ビューランド” か、あるいは北側の “傘松公園” に行かねばなりませんが、いずれもリフトやケーブルカーを使います。

てっきりこの道の駅から見れると勘違いしていた私は、そんな時間を計画に組み込んでいないので、諦めざるを得ません。

これが先ほど入ってきたのと逆の公園側の入り口で、こちらに道の駅の駐車場があったようです。
それと、レンタサイクルがありましたから、ここを拠点に周辺を観光するには便利なのかもしれません。

そしてこれが、先ほど職員の人から聞いた、道路の向かい側にある“農産物直売所”です。
期待が大きかっただけに少しがっかりして、駐車場の先にある海岸に行ってみました。

そこには観光船の乗り場がありました。

更にその先の海がこちらです。
山と海の境に細長い島のようなものが見えますが、おそらくこれが天橋立の松林だと思います。

やはり日本三景を観光するなら、十分に時間をとって事前によく調べておかないといけませんね。

ところで、ネットで検索していたら京都新聞の“道の駅「海の京都宮津」、登録半年 集客成功もスペース不十分”という記事がありました。

“海の京都”というネーミングは、かつて丹後半島が大陸からの先進的な文化や技術の受け入れ拠点だったことに由来します。
その海の京都としての観光振興策、それに京都縦貫自動車道の全線開通などの相乗効果により集客力は高まったが、特産品などの物販や飲食スペースもなく、道の駅として物足りない、というのが記事の内容です。

この〝物足りなさ”こそが私がこの道の駅に対して感じたそのものです。
どこが道の駅なのか探さないといけないし、駐車場にしてももっとわかり易ければ、私のように間違ってスーパーの駐車場に停めることもなかったでしょう。

道の駅を運営する宮津市によると、２０１８年度には新たに物販施設をオープンする計画であると、記事の最後にありましたから、それを期待することにしましょう。

敬老の日発祥の地？“山田錦発祥のまち・多可”

ここまでずっと日本海側を回ってきましたが、次は一気に南下し

道の駅山田錦発祥のまち・多可 を目指しました。

ご覧の通り宮津市の道の駅から随分距離がありますが、８７ｋｍで約１時間半を要しました。
ここは “兵庫県多可郡多可町” になります。

ここは２０１５年１１月ごろにオープンしたばかりの兵庫県で最も新しい道の駅なのですが、来てみると建物はあんまり新しくなく、こじんまりとした印象です。
元々ＪＡの売店だったのが、道の駅として登録されたものなのだそうです。

この日の天気予報は下り坂だったのですが、この道の駅でついに雨が降りだしてしまいました。
雨の中、急いで写真を撮って回ります。

道の駅の入り口にこんな看板がかかっています。
ここは道の駅の他に、「多可町観光交流協会出張所」「多可山岳協会事務局」 を兼ねているようです。

道の駅の名前に “山田錦” とありますが、これはお米の品種で、酒造好適として日本一の銘柄です。
その山田錦の発祥の地がここ多可町であり、現在も多くの農家で栽培され、収穫された山田錦は全国各地の蔵元に出荷されます。

“山田錦発祥のまち” にしては、あんまりお酒は並んでいないようです。

ちなみに多可町は、平成１８年３月に「日本酒で乾杯のまち」を宣言しています。
宴会などの酒席では、ビールでなく最初から日本酒が出てくる、ということなんでしょうか？

ところで多可町は、この山田錦の他に、
●日本一の手漉き和紙「杉原紙」の発祥の地
●「敬老の日」の発祥の地
という、３つの発祥の地で地域活性化に取り組んでいます。

「敬老の日」に発祥の地があったことは驚きですが、戦後の動乱期にこの地で初めて村主催の敬老会が行われ、毎年９月１５日を「としよりの日」と定め、村独自の祝日にしました。
これが昭和４１年、「敬老の日」として国民の祝日に加えられたのだそうです。

道の駅の裏手は小さな公園になっており、そこにこんなものが建っていました。
ここには“播州歌舞伎”と書いてあります。

歌舞伎は京、大阪、江戸でまず流行した後、徐々に地方に広がってゆきます。
江戸中期には農村にも芝居小屋が建つようになり、これを“農村舞台”といいました。

農村舞台では農民自身が芝居をしたり役者を招いて芝居を楽しむのですが、特に播州地方に住む農民役者やその座（劇団）を、“播州歌舞伎”というそうです。

最盛期には「石屋３分に百姓１分、残る６分はみな役者」と言われるほどの役者村で、これが江戸、明治、大正と継承されてきましたが、昭和に入ると映画に押されてほとんど姿を消したのだそうです。

道の駅自体はこじんまりしていましたが、周囲を散策するにはなかなかの環境だと思います。

さて、３日目のこの日の予定はここまでです。
これから山陽道にでて、一気に岡山県の倉敷まで走ります。

１４９ｋｍを途中ＳＡでの食事を挟んで２時間４５分で走り、１７：２０に今夜の宿泊場所、ベッセルホテル倉敷に到着しました。

笠岡湾干拓地に建つ！“笠岡ベイファーム”

最終日になりました。
この日の訪問は３カ所のみですが、岡山県南西部の

道の駅笠岡ベイファーム　がその１カ所目です。

倉敷市内のホテルを朝８時に出発し、一般道を４３ｋｍ、５０分で到着しました。
開店が９時からなのでまだ準備中のようです。

お天気は残念ながらこの日も雨模様です。

キャンピングカーが２台あります。
おそらくここで車中泊されたのでしょうね！

“岡山県笠岡市” にあるこの道の駅、笠岡湾の干拓地に建てられています。
従ってこの付近、広々とした農地が広がっています。

そしてこの道の駅の正面には、１２ｈａという広大な菜の花畑が広がっています。

この日は雨の中なので写真がいまいちですが、私が訪ねた４月初めには１０００万本の菜の花が咲き乱れ、３月２０日には菜の花フェスティバルが開かれました。

５月の今の時期は一面にポピーが咲き、夏場には１００万本のひまわりです。
そして秋には３０００万本のコスモスと、四季を通じて広大な花畑ができ、市民に無料で開放されていて季節ごとにフェスティバルが開催されるのです。

９時を過ぎて、ようやくお店が開きました。

ここは笠原港に近いので、お魚の売り場も充実しています。
何でも “魚の詰め放題” いうイベントがあるらしく、ここの目玉になっています。

一番下の写真は、九州では “シャッパ” といいます。
こういう珍しい魚介類も山積みされています。

これがバイキングレストランの “四季彩” です。

本格的なイタリアンのシェフが、地元の食材を使って調理される人気レストランですが、なんとそのシェフが道の駅の駅長さんなんだそうです。

四季折々の花畑を楽しみ、豊富な海産物や新鮮野菜を買い、レストランのイタリアンバイキングを味わう、恵まれた道の駅だと思います。

大ダルマのまち三原！〝みはら神明の里”

本日の２か所目は県境を越えて広島県に入り

道の駅みはら神明の里 にやってきました。

“広島県三原市” は尾道市の西隣に位置する、人口９万６千人ほどの都市です。

かつて小早川隆景が築城した “三原城” の城下町で、ここは海に向かって船入りを開いており、満潮時にはあたかも海に浮かんでいるように見えることから、“浮城” と呼ばれました。

日本三大海城と称えられた三原城も、明治２７年に山陽鉄道が本丸を貫いて建設されたため、現在は石垣しか残っていません。

（パンフレットより借用）

ご覧のとおり、三原城跡とＪＲ三原駅が一体化して存在しますね！
“かくれ城跡” というのがちょっと気になる！！

ご覧のように、久々に敷地の広い道の駅です。
道の駅の裏側が瀬戸内海なので、まず建物の裏手に回ってみました。

道の駅の裏側はテラスになっていて、そこから瀬戸内海の島々が見渡せます。
お天気があまり良くないので、眺めがいまひとつでしたね。

道の駅の館内はご覧のような配置です。

まず１階のロビーから入ります。

入口付近には “小麦本舗” というベーカリーショップがあり、ゆっくりくつろげる広いロビーがあります。
ここで目にとまったものがこれです。

“希望の白ダルマ” と書いた真っ白いダルマがありました。
逆光で撮ったので写りが悪くてすみません！

実は三原市は “ダルマ” の町なのです。
毎年２月の第二日曜日を含む金・土・日で、“三原神明市” 通称 “ダルマ市” という伊勢神宮を祀るお祭りが行われます。

そこでは日本一の大ダルマがシンボルなのですが、現在のものは平成２５年に作り替えられた４代目で、高さ３．９ｍ、直径２．９ｍ、重さ５００ｋｇあります。
祭りにはダルマを売る店をはじめとして５００軒もの露店や催し物が並び、今年も３０万人を超える人出があったそうです。

白ダルマは、昔から愛、調和、平和を現し、幸せを呼ぶシンボルです。
この道の駅にある白ダルマは、東日本大震災からの早期復興を祈願して設置されたのだそうです。

ロビーの奥にはレストランの入り口があり、その手前に２階への階段があります。
２階には展望デッキがあるとのことで、先に行ってみることにしました。

階段を上がった最初の部屋は休憩室で、手前にキッヅコーナーがあります。

一番奥にドアがあって閉まっていますが、そこは７０名収容できる “多目的ホール” です。
他にも、定員１０名のミーティングルームが２部屋あり、市民に有料で貸し出されます。

そして２階のちょうど中央部分に “展望デッキ” があります。

展望デッキの中央には、愛の鐘があります。

更にここからの眺めがこちらです。

瀬戸内海とともに、しまなみ海道の島々が眺望できます。
そしてもう一つ、この展望デッキにはこんなものがありました。

これは、巨大ダルマの “絵馬掛所” です。

この道の駅の物産コーナーで、“三原ダルマと絵馬”（１０００円）が売っています。
三原ダルマの方は自分で顔を描いて持ち帰り、絵馬（これもダルマですが）には願い事を書いて、この掛け所に吊るすのだそうです。

絵馬は定期的に糸碕神社に奉納して、祈願して頂いています。

さて、最後に１階の “物産品販売コーナー” にやってきました。

ここにもダルマグッツがたくさんあります。(*^▽^*)
私たちもいくつか買い物をしましたが、その中のひとつがこれ！

海に近い三原は海産物も豊富で、「タコ」 も特産物の一つだからです。
でも、これは味噌がメインで、タコ自体はちょっとしか入ってなかったので、私のイメージとは少しかけ離れていたようです。(^_^;)

全国高校駅伝強豪のまち！“世羅”

今回の旅の最後の目的地は

道の駅世羅　です。

三原の道の駅から尾道ＩＣまで戻り、ここから北上して世羅ＩＣで下りると、道の駅はすぐそばにあります。

“広島県世羅郡世羅町”という地名を聞いて、ピン！とこられる方もおられるのではないでしょうか？

全国高校駅伝の強豪“広島県立世羅高等学校”ですね！
全国高校駅伝大会の第１回、第２回を連続優勝し、今までに優勝９度、入賞は３１度の驚異的な実績を誇ります。
特に昨年１２月には、男女チームともに優勝という快挙を成し遂げましたね！

ここ“世羅高原”には、自然のアップダウンや平地を組み合わせた、日本有数のランニングコースがあるそうです。
世羅高陸上部もここで練習していますし、有名選手、有名監督を数多く輩出しています。

世羅では町の駅伝大会が年に５回もあるという、まさに駅伝の町です。

道の駅世羅は、昨年（２０１５年）５月にオープンしました。
ご覧のように、すっきりした近代的なデザインの建物です。

そして敷地内には、こんなものがありました。

“天地花” というタイトルが書いてありましたが、何を現しているのでしょうね？
あいにくの曇り空ですが、真っ青な青空が背景なら、もっと映えたと思います。

いつもの道の駅登録証を探しましたが、見当たりませんでした。
ここは広い建物内がワンフロアになっていて、壁際にインフォメーションやファーストフードのカウンターが並んでいます。

ここのインフォメーションには、世羅を紹介する冊子が何種類も用意されていました。
普段見かける単なる観光紹介と違って、これらが実によくできているのです。

その中の一つを紹介しましょう。

世羅町ではふつうの町民を観光大使に任命し、その人たちを “世羅ピスト” と呼びます。
このGUIDEBOOKの２０１４年度版では５名だったのが、２０１５年度版では１０名に増えていました。

それは食堂のおばちゃんであったり、農家の跡継ぎ、ワイナリーの醸造長であったりと多種多彩です。
その中の一人に、境内に韋駄天の石像が祀られており、ランニングシューズの供養をすることで有名な、“修善院” のご住職もおられます。

ご住職自身も実は世羅高校陸上部のＯＢで、現役のランナーです。
もともとお寺とは全く縁がない生まれなのに、転勤がなく、世羅高校の後輩の面倒をずっとみられるから、という理由でご住職になられた方です。

これら “世羅ピスト” はそれぞれ独自の 「スタンプ」 を持ち、全部の世羅ピストに会って話をする、という “スタンプラリー” がこの冊子の企画なのです。

いろんな地方で町興しに取り組んでおられますが、この世羅町の試みは面白いと思います。

先ほど紹介した有名なランニングコースには、“私有地” を無料提供されている箇所もあります。
町の人たちみんなが応援し、みんなで町の活性化に取り組んでいる、素晴らしい見本だと思います。

ここから福岡県の自宅まで４１８ｋｍを一気に走り、１９時過ぎに無事帰りつきました。
４日間の走行距離は、ほぼ１７００ｋｍに達しました。

“中国地方一周の旅” シリーズは、今回が最終回です。
明日、５月２７日から、愛知県、静岡県、神奈川県、山梨県の新しい道の駅を回ってきます。

森林保全への取り組み！〝にちなん日野川の郷”

先月（１０月）末に１泊２日で訪問した、中国・四国の新駅巡りのレポートを本日より開始します。

道の駅にちなん日野川の郷　が、初日最初の目的地です。

この道の駅は鳥取県に、今年（２０１６年）４月２２日にオープンしました。

九州の我が家からだと、九州自動車道、中国自動車道と走り、地図の左下にある　〝庄原ＩＣ”で下りて、あとは国道１８３号の一般道を１時間ほど走ります。
１８３号は国道と言っても、山間部の離合が厳しい箇所も多々あります。

自宅を朝７時に出発しましたが、途中のＰＡでのトイレ休憩を挟み、到着したのは１３時１５分でしたから、６時間１５分かかったことになります。

前回中国地方の道の駅を巡ったのは４月１日から４日迄ですから、そのおよそ３週間後にこの新しい道の駅ができたことになります。

今回はここと、今月（１０月）広島県に誕生した新駅、更に四国に渡り、高知県の新駅の３カ所を制覇するのが旅の目的です。
目的は３か所ですが、途中ルート上の道の駅にも３カ所ほど立ち寄ります。

ここは　〝鳥取県日野郡日南町”ですが、鳥取県といっても南西の端っこに位置し、島根、広島、岡山の３県に接しており、町の面積の９割を中国山地の森林が占めています。

（日南町ＨＰより画像借用）

１９７０年には１万１千人ほどあった人口は現在４９００人ほどに減っており、山深い山村に共通した高齢化、過疎化がこの町の課題の一つです。
そんな町の地域活性化を目指して、この道の駅は作られました。

（道の駅ＨＰより画像借用）

施設の配置図が現地に見当たらなかったので、道の駅ＨＰから画像をお借りしました。

正面にある大きな屋根の部分は〝多目的ルーム”であり、会議やイベントに使われますが、ここは予約が必要で有料です。
また万一の場合の避難所としても使われ、防災施設としての機能も担っています。

この大きな屋根の左手は特産である〝トマトの加工所”になっており、右手が〝直売所”です。
右手の直売所に入ってみましょう。

直売所では日南町で獲れた新鮮野菜や加工品、それにドレッシングやジャム、お酒、お菓子などのオリジナル商品が販売されていますが、一つだけ特徴ある取り組みがあります。

それは、全国でも初めての「ＣＯ２排出ゼロの道の駅」を目指していることです。

具体的にどういうことかというと、この直売所で販売される商品すべてにつき〝１円”が日南町の森林の保全のために使われるのです。

これは〝カーボンオフセット”という仕組みですが、森林が９０％を占める日南町ならではの取り組みだと思います。

これらを含む地域活性化への取り組みにより、道の駅にちなん日野川の郷は国土交通省の〝平成２６年度重点道の駅”の一つに選定されています。

〝「まちを創生するための拠点（コンパクト・ヴィレッジ）」を形成し、6次産業化による産業振興等促進”というのが、正式な選定された理由です。

さて、道の駅の一番右端にあるのが、レストランです。
私たちもここで昼食をとることにしました。

おかずなどが並んでおり、好きなものをとって精算するセルフサービス方式です。

うどんや丼物もありましたが、時間がかかるとのことで、私はご飯、みそ汁、焼き魚、漬物にしました。
写真は撮っていませんが、値段も安くて満足しました。

さて次は広島県に今月オープンしたばかりの道の駅を目指しますが、距離は１００ｋｍ以上あり、一般道なので２時間半はかかります。

ものづくりの町！〝びんご府中”

初日の２カ所目は、広島県の

道の駅びんご府中 に向かいました。

最初に訪問した鳥取県の道の駅からびんご府中に向かうには、庄原ＩＣまで戻って中国自動車道と尾道自動車道を経由するルートと、すべて一般道を走るルートの二つがあります。

時間的にはそれほど違わないので、私は一般道ルートを選びました。
県道８号、国道１８２号と辿り、〝鯉が窪” 〝遊YOUさろん東城” などの知っている道の駅の前を通り、途中から狭い山道を走って、ちょうど２時間で府中市に入りました。

この道の駅は今年（２０１６年）１０月２２日にオープンしたばかりで、私が訪問した時点で１週間ほどしか経っていません。
従ってナビにも登録がないので、市内の２か所で通行人に道を尋ねてようやくたどり着きました。

今後行かれる方のために、パンフレットにあった地図を載せておきます。

私は府中駅を目指して脇道に入り込んでしまい、道の駅の裏側から探したので苦労しました。
市役所のある大きな通り（国道４８６号）を辿れば、目立つ看板があって分かり易いと思います。

道の駅の隣に “天満屋”という大きなショッピングセンターがあるので目標にすれば良いと思います。
実はこの道の駅の指定管理者も、その 〝天満屋ストア” です。

“広島県府中市” は広島県の東南部にある人口が３万９千人ほどの町です。

“府中市”というと東京都にもありますね。
更にややこしいことに、同じ広島県内の安芸郡にも“府中町”というのがあります。

従って、東京を“武蔵府中”、安芸郡を“安芸府中”、そしてここは“備後府中（びんごふちゅう）”と一般には言うのだそうです。

道の駅の名前が“びんご府中”というのも、これで納得できます。
道の駅は府中駅に近い市街地の中にあり、総事業費１２億円でオープンし、年間２０万人の来場を目指しています。

道の駅の配置図をパンフレットからお借りしました。

今、この配置図の右側から入ってきましたが、その右手（配置図では上）に情報コーナー、アンテナショップ、レストランがあります。

この入り口から入って左手が“情報コーナー”で、右側には開店祝いでしょうか、ランの花がいっぱい飾ってありました。

突き当りにはファーストフードがあり、その右手が“アンテナショップ”です。

“レストラン”を外から覗いたのが次の写真です。

この道の駅に到着したのが１６時半なのですが、このアンテナショップやレストランの営業時間は１７時までだったので、３０分程しか余裕がなかったことになります。

でも、この向かい側にある“産直市場”はご覧の通り！

産直市場の営業時間は、１５時までだったのです。

それで困ったのが、いつも写真に収めている道の駅の登録証です。
この産直市場の中に掲示されているのですが、外から見えるのだけど写真に撮れない！

外のガラスが反射して、ぼんやりとしか映らない！(;^_^A
それにしても１５時閉店は早すぎますね！

レストランと産直市場の間は “中庭”　になっています。

中庭の突き当りにもう一つ建物があって、そこは “交流テラス” になっています。

その入り口では、ビデオで府中の特産品などを紹介しています。
中に入ると、そこにあったのがこれです。

これは、ここ 「道の駅びんご府中」 の５０分の１の模型です。
更に、・・・・・

こんな家具が置かれていました。

実は府中市は、４００年の伝統を誇る “木工の町” で、市内に家具を製作する会社が１９社もあります。
特に “府中タンス” は桐の高級家具として江戸時代から知られている伝統工芸です。

ここにあるテーブルや椅子、それにレストランの家具もすべて “府中家具” を使っています。

先ほどの道の駅の模型も、府中の職人さんが工芸技術によって造られたものですね！
府中は家具工芸を始め、府中味噌、繊維、お菓子などの逸品が自慢の “ものづくり” の町なのです。

この道の駅パンフレットにある、“ぼれええ！”というのは、備後地方の方言で、「すごくいい」という意味なのだそうです。

ものづくりの町府中市の、伝統を生かした“すごくいいもの”を発信してゆく、というのがこの道の駅の役割なのだろうと思います。

さて、初日は２か所の道の駅で終了です。
この日はここから２２ｋｍの距離にある福山市内のホテルに宿泊し、明日は四国を回ります。

※初日に走ったルート（google mapの自動記録）
※この日の走行距離は、５６８ｋｍでした。

しまなみ海道を楽しむ！“多々羅しまなみ公園”

２日目の最初に立ち寄ったのは

道の駅多々羅しまなみ公園 です。

本州と四国を車で行き来する場合、現在３つのルートがあります。

東側から言うと、まず “明石海峡大橋　→　淡路島　→　大鳴門橋” を通るルート、二つ目が岡山からの “瀬戸大橋” のルート、そしてもう一つが今回の “しまなみ海道” を辿るルートです。

しまなみ海道は正式名称を “西瀬戸自動車道” といい、広島県の尾道と愛媛県の今治を結びます。
向島・因島・生口島・大三島・伯方島・大島などの島をそれぞれの橋で繋ぎ、全長は５９．４ｋｍです。

２番目の写真は途中のパーキングエリアから写したものです。
このしまなみ海道にはサイクリング専用道路が併設されており、車道と並行して走る多くのサイクリストを見かけます。

この道の駅は２００９年８月に一度来ていますから７年ぶりです。

ここは１９９９年８月に 「上浦町多々羅しまなみ公園」 としてオープンしましたが、２００５年に今治市と合併したことから、 「今治市多々羅しまなみ公園」 と名前が変わりました。

でも、今気が付いたのだけど、案内看板は 「上浦町・・・・・」 のままですね！

ちなみに公式な道の駅のホームページでは、地名の無い 「多々羅しまなみ公園」 になっています。
道の駅の名前が長すぎるので、今回私も短縮版を使わせて頂きました。(^_^;)

この道の駅は、生口島と大三島を結ぶ “多々羅大橋” を渡ってすぐのところにあります。

生口島（いくちじま）は広島県尾道市であり、大三島（おおみしま）は愛媛県今治市ですから、この多々羅大橋が本州と四国の境界、ということになりますね。

道の駅からの多々羅大橋の眺めが次の写真です。

お天気がいまいちなので、あんまり綺麗には撮れていません。

この多々羅大橋は１９９９年５月に総工費１４００億円で完成しました。
国内最長の斜張橋であり、現在は世界で５位ですが、完成当時は世界最大でした。

当時世界２位だったフランスのノルマンディー橋とは、その縁で姉妹縁組をしているそうです。

道の駅のすぐ裏側がご覧のように瀬戸内海に面しており、広い公園になっています。

しまなみ海道は “サイクリストの聖地” として海外でも有名であり、例えば台湾サイクリスト協会とは、姉妹自転車道協定を結び、国際大会なども開催されています。

写真には撮り漏れましたが、石を組み合わせて自転車をイメージした記念碑も建てられています。

道の駅内には、ご覧のようなレンタサイクルも並んでいます。
次に、道の駅の本体を紹介しておきましょう。

手前のとんがり屋根のある建物が “特産品センター” です。

中央のとんがった箇所は明り取りになっていますね。
この円形の部屋は、主にお菓子類を扱っているようです。

通路で隣の部屋に行くと、海産物等を主に扱うコーナーがあります。

特産品センターの隣にある、このかまぼこ型の建物は “生簀コーナー” です。

そこにあるのは名前の通り、でっかい生簀です。
ここにはたくさんの高級魚が泳いでいました。

写りが悪くて恐縮ですが、これはヒラメですね。
これらのお魚は、隣のレストランで味わうことができます。

ここは抜群のロケーションに恵まれ、更に施設も充実しており、私がもう一度来てみたかった道の駅の一つです。

次回、しまなみ海道でもう一カ所立ち寄ります。

来島海峡大橋を望む！“よしうみいきいき館”

しまなみ海道での２カ所目は

道の駅よしうみいきいき館 です。

“しまなみ海道” は瀬戸内海の島々を 「新尾道大橋・尾道大橋」、「因島大橋」、「生口大橋」、「多々羅大橋」、「大三島橋」、「伯方・大島大橋」、「来島海峡大橋」 という７つの橋で結んでいます。

そのしまなみ海道には全部で４つの道の駅があるのですが、今回は “多々羅しまなみ公園” と “よしうみいきいき館” の２か所だけ立ち寄りました。

“よしうみいきいき館” は、大島と四国本島の間を結ぶ、しまなみ海道最後の 「来島海峡大橋」 のたもとにあります。

これが道の駅の駐車場から見上げた 「来島海峡大橋」 です。

来島海峡大橋は、正確に言うと来島海峡第一大橋、来島海峡第二大橋、来島海峡第三大橋の総称であり、３つの長大橋梁により構成された世界初の三連吊り橋で、全長は４１０５ｍあります。

下から見上げた写真、とってもかっこいいですね。
でも、この写真にある、インターチェンジのような、円を描いた道路が何なのか気になります。

私たちが車で乗り降りした ”大島南ＩＣ” はもっと手前にあるし、地図を見てもそれらしいものは描かれていないので、航空写真に切り替えてみました。

航空写真で見ると、確かにインターチェンジみたいなものが見えます。

実はこれ、“サイクリングロード”の出入口のようです。

しまなみ海道には、サイクリング専用道路が併設されていることは前回の記事でご紹介しました。
そのサイクリングロードは自動車道とは若干コースが違い、島内では主に一般道を走ります。

島と島を結ぶ橋の上では、その場所によって、自動車道と並行して走るもの、自動車道と自転車歩行者道が二段階構造になっているものなど様々です。

来島海峡大橋の場合は、中央に西瀬戸自動車道があり、北側に自動車歩行者道、南側にバイク道が併設されているのです。
ですから、写真にあるインタチェンジらしきものは、自転車やバイクの出入口だと思います。

こんなものがありました。
自転車に乗っているのは、愛媛県のイメージキャラクター“みきゃん”君です。

前回紹介した“多々羅しまなみ公園”同様、この道の駅も“サイクリストの聖地”になっています。

２０１４年にテレビ東京系の「ガイアの夜明け」という番組で、ここ道の駅よしうみいきいき館が、町および道の駅の活性化の為にサイクリングコースを世界にＰＲする取り組みが放送されました。
それらが功を奏して、現在では日本国内各地だけでなく、海外からも多くのサイクリストが集まる聖地になりました。

しまなみ海道にある、“伯方Ｓ・Ｃパーク”“多々羅しまなみ公園”“しまなみの駅御島”“よしうみいきいき館”の４つの道の駅は、平成２６年度の“重点道の駅”に制定されています。

【愛媛県施策の「愛媛マルゴト自転車道」のコース沿い、県内外のサイクリストが多く利用】というのが、その選定理由です。

“急流観潮船”というのも、この道の駅が積極的に取り組んできた施策のひとつです。

来島海峡は、鳴門海峡、関門海峡と並んで“日本三大急潮”と呼ばれます。
この観潮船はここよしうみいきいき館から出航しますが、先ほど紹介した“ガイアの夜明け”では、道の駅の駅長さんご自身が操船の免許を持ち、自分で船を操っておられました。

さて、、道の駅本体の紹介です。
この道の駅の最大の魅力はこちらです。

この建物の前に作られた小屋のようなもの、これが “七輪バーベキュー” の部屋です。

この日は早朝なのでお客さんはまだいませんが、この横に大きな水槽を備えた魚介類の販売コーナーがあり、そこで好きなものを買って、この部屋の七輪で焼いていただくのです。

参考までに、７年前に来た時の写真を掲載しておきます。
雰囲気だけはおわかりですね！

これが、魚介類を売っているコーナーです。

土産物コーナーをちょっとだけ覗きます。
そして駐車場にあった、このお地蔵さんにも癒されました。

四国の３カ所目は

道の駅内子フレッシュパークからり にやってきました。

しまなみ海道を走り終えて四国本土に入り、“今治小松自動車道” “松山自動車道” と辿ります。
高速を１時間半ほど走り、“内子五十崎IC” で下りて５分程で目的の道の駅に到着しました。

“内子フレッシュパークからり” は、他の一般的な道の駅のような、大きな建物はありません。

樹々のあいだに隠れるように大きなテント張りみたいな施設があり、これが “直売所” です。
この直売所を中心に、周囲の林の中にいくつかの関連する建物があり、自然の中に溶け込んだ産直市場、といったイメージがあります。

私が、７年ぶりにこの道の駅にもう一度立ち寄りたいと思ったのには訳があります。

直売所の入り口に “全国モデル「道の駅」” という大きな看板が掲げられています。

実はこの道の駅、国土交通省が２０１５年１月に 「全国モデル道の駅」 「重点道の駅」 「重点道の駅候補」 を選定した際、全国でわずか６カ所の 「モデル道の駅」 に選ばれたのです。

“全国モデル「道の駅」” というのは、 「地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの」 が選定条件であり、その６カ所は以下の通りです。

・遠野風の丘（岩手県）
・もてぎ（栃木県）
・川場田園プラザ（群馬県）
・とみうら（千葉県）
・萩しーまーと（山口県）

・内子フレッシュパークからり（愛媛県）

全国１０００か所以上の道の駅の中から選ばれたのですから、すごいことだと思います。

参考：国土交通省HP　→　http://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/juten_eki/model01.html

全国モデル「道の駅」の選定証がこれですね！

テント張りのような屋根の下には、近隣農家から運ばれた新鮮な野菜、果物が並んでいます。

今でこそ、全国に道の駅を始めとする産直市場が数多くありますが、実はその産直市場の『元祖』と言われているのが、ここ内子フレッシュパークなのです。

“愛媛県内子町”は、総面積の７割以上を山林が占める、典型的な山間地の農村です。
他の地域と同様、過疎化、少子高齢化、それに農業の後継者不足に悩まされていました。

そんな中、１９８５年、農家の女性を中心に、地域の将来を学習することを目的として「内子町知的農村塾」が開講しました。
そしてこの塾の出身者を中心に、１９９４年「内の子市場」が開設され、農家が直接農作物を持ち込む、いわゆる農産物直売所の草分けが誕生したのです。

２年後の１９９６年には内子町が50%、住民の株主（現在は677人）が50%出資した第三セクター、「内子フレッシュパークからり」として発展、拡大し、今の形が作られました。

この道の駅のもう一つの特徴は、ネットやITを活用した農業の情報化、システム化だと思います。

安全、安心を目的としたトレーサビリティ（栽培履歴）は勿論のこと、農家には“農業情報端末”直売所には“POSシステム”を導入し、農家は出荷品の販売状況を端末で見ながら、足りないと思えば畑で収穫して店頭に並べ、逆に売れ残ったら引き取りに行きます。

農家の高齢者がシステムを使えなければ意味がないので、“農業情報センター”を作って使い方の教育を徹底し、今では８０歳の高齢者でも自分の畑で端末を自在に操ります。

結果として内子町の兼業農家でも月に１０万円前後の副収入があり、専業農家では１０００万円

を超える年収のところもあるのだそうです。

さて、直売所の裏手に出ると、ご覧のような美しい風景が広がります。
この自然のままの空間に、いくつかの施設が点在します。

敷地の一番奥にあるこちらが、“レストランからり” です。
地元の食材と旬にこだわった、「内子をまるごと味わっていただく料理」 が自慢です。

これは “からりパン工房” “ハンバーガーショップからり” などが入った建物で、他に “からり燻製工房” “からりシャーベット工房” などもあります。

どの施設にも “からり” という名前がついていますが、これは

「果楽里」果物を楽しむ里
「花楽里」花を楽しむ里
「香楽里」香りを楽しむ里
「加楽里」加工することを楽しむ里
「カラリ」と晴れ晴れした気分
「カラリ」としたすがすがしい時間
「カラリ」とした爽やかな人間関係、出会いを楽しむ

という意味だそうです。

この道の駅は 「小田川」 という分岐した2つの川にに挟まれた中洲のようになっています。

その小田川に架かる吊り橋が、この “からり橋” です。
揺れる吊り橋の中央付近で撮ったのが、次の写真です。

こちらは橋の左手で、遠くに松山自動車道の架橋が見えます。

これが反対方向ですが、アユか何かを獲っているのだと思います。

道の駅フレッシュパークからりは、道の駅のモデルとしての魅力だけではなく、大自然をそのまま残したロケーションの良さもあって、年間７０万人もの顧客が訪れています。

道の駅に出荷する農家は約４３０名で、これは内子町の農家の２０％を占めています。
過疎地の農業高齢者の生き甲斐を作り出し、地域活性化の見本となる道の駅に相違ないと思います。

清流四万十川の恵み！“よって西土佐”

今回の中国・四国の旅の最後に訪れたのは、高知県西部にある

道の駅よって西土佐 です。

前回立ち寄った “内子フレッシュパークからり” から目的の “よって西土佐” までは１０８ｋｍあります。

松山自動車道は現在宇和島北ＩＣまで繋がっており、その一つ手前である “三間ＩＣ” で下りて、あとは一般道を２８ｋｍほど走ります。
ＩＣを下りてすぐのところに “道の駅みま” がありますが、更に目的地までには “道の駅広見森の三角ぼうし” “道の駅虹の森公園まつの” の前を通ります。

そして高知県にはいって目的地に近づくと、こんな標識も！

これは “よって西土佐” まで６ｋｍの標識ですが、同じ方向にあと３つも道の駅があるのです。
この付近、本当に道の駅が多いことに感心します。

内子の道の駅から１時間１５分程でようやく到着しました。

この道の駅は、今年（２０１６年）４月１０日にオープンしました。
その５か月後の９月２２日には１０万人の来客数を達成しています。

道の駅のある “四万十市西土佐” は住民わずか３０００人足らずの小さな町です。
その田舎町で短期間に来場者が１０万人を突破したのには、従業員の方たちの工夫を凝らした “ユニークさ” があると思います。

そのユニークさの一つが、ネットを使った情報発信の上手さだと私は思っています。

今年の初め頃、この道の駅がいつ頃オープンするか検索してみたところ、既にＨＰが出来上がっていて、そこには“開店準備中”の様子が写真と動画で克明に発信されていました。

それは４月１０日のオープンに向けて村人総出でＰＲ動画を作られたらしく、ＷＥＢで先行公開されたあと、テレビのＣＭでも流れたのだそうです。
工事中の現場の様子や、出荷を予定されている住民の方たちのふるさと自慢など、実に面白く、楽しく表現されていました。

現在のＨＰも、従来の道の駅のそれとは違ったユニークさがありますから、是非ご覧になって下さい。

（パンフレットより配置図の画像借用）

道の駅は国道４４１号に面していますが、国道を挟んだ向かい側には展望デッキがあり、その裏手には清流で名高い“四万十川（しまんとがわ）”が流れています。

四万十川は、増水時でも橋が流されないように欄干が一切ない“沈下橋”でも有名ですね。

案内図にもあるように、道の駅の右端は“鮎市場”になっていて、四万十川で獲れた新鮮な鮎の塩焼きや干し鮎などが販売されています。

この鮎市場は、「四万十川西部漁業協同組合」の運営です。

店内の一角で、なぜか北海道の物産ばかり並んでいるコーナーを見つけました。
何故だろうかと思って上を見ると、こんな看板がありました。

四万十市は数年前に「摂氏４１度」という“日本一あついまち”という記録が生まれました。
片や北海道の旭川は、“日本一さむいまち”として「マイナス４１度」という記録があります。

日本一のあつい町とさむい町、しかもどちらも４１度ということに目をつけたのもユニークです。

ユニークなことはまだまだあります。

階段で２階に上がって行くとき、下を振り返って「あれっ！」と思いました。
店の中に軽トラックが停まっている！？

引き返してみると、まさしく軽トラックです！(￣□￣;)!!

これはこの道の駅の名物のひとつで“軽トラックワゴン”というそうで、荷台には西土佐の旬の農作物が山積みになっています。
トラックにはちゃんとナンバープレートもついています。(＾～＾)

更にその運転席の窓ガラスには　・・・・！

たくさんの顔が！（笑）
これはおそらく従業員さんや、商品を納めておられる住民の方たちのお顔ではないかと思います。

この道の駅のユニークさのひとつは、店内はもとよりパンフレットやホームページに、従業員や地域住民の方たちのお顔がたくさん出てくることです。

パンフレットの表紙もご覧の通りですが、中身にもたくさんの方たちが登場されています。

こういったものを見ても、「みんなで道の駅を良いものにし、地域の方々みんなの力で盛り上げてゆきたい！」という駅長さんの想いがわかる気がします。

２階に上がってみると、なぜかそこには大きな“鉄道ジオラマ”がありました。
これは四万十町と愛媛県宇和島を結ぶ　「予土線」　の鉄道ジオラマだそうです。

その奥には “コミュニティスペース” があり、この日は年配の方たち１０数名が集まって、なにか健康に関するセミナーのようなものが行われていました。

２階のベランダは “みはらしデッキ” といって休憩できるコーナーになっています。
１階で買ったケーキやお弁当をここで食べることもできます。

下を見下ろすと、そこにもテーブルと椅子があるようです。
ここから見える１階部分は、手作りスイーツを味わえるカフェ “ストローベイルSANKANYA” です。

ところでこの道の駅の名前 “よって西土佐” の “よって” ですが、次の３つの意味だそうです。

①寄って！
②選って！
③酔って！

高知県の小さな町の小さな道の駅ですが、そのなかに知恵と工夫と独自のユニークさがいっぱい詰まっていて、みんなで応援してやりたい、と思わせる道の駅だったと思います。

さて、今回の旅の目的はすべて終了しました。
ここから、来た道を一気に戻り、佐田岬のほぼ先端にある “三崎港” に向かいます。

２時間以上を一気に走って三崎港に到着したのが１６時２０分でした。
ここから大分県の佐賀関港まで “国道九四フェリー” に乗るのですが、ちょうど１６時３０分の便に乗船が始まっており、最後尾でなんとか間に合いました。

乗り込んでから、あれっ！いつもと違う！と思ったのですが、なんと６月に新造船が就航していました。

このフェリー、“国道” と名前がついているのは、“国道１９７号” の四国と九州を繋いでいるからです。
九州と四国を最短距離で結び、わずか７０分の所要時間で、しかも１時間ごとにシャトル運行し

ているので実に便利です。
そしてこの新造船、やはり新しいだけあって、とっても快適でした。

自宅には２０時半すぎに無事に到着しました。
この日の走行距離は５１６ｋｍ、２日間の合計は１０９２ｋｍでした。

中国・四国の旅シリーズ、最後までのお付き合い、有難うございました。

※２日目に走ったルート（google mapの自動記録）

大自然の創った造形美！“鳥取砂丘”

今回は道の駅ではありませんが、

鳥取砂丘　に観光で立ち寄りました。

県境を越えて鳥取県に入ると、ここは中国地方、山陰です。

鳥取砂丘には若い時に一度遊びに来た記憶がありますが、道の駅を回りだしてからは時間に縛られて素通りすることが多く、今回は是が非でも立ち寄ろうと決めていたのです。

駐車場も付近にはたくさんありますが、私は最初に見つけたお土産屋さんの駐車場に停めさせてもらいました。普通、こういうところの駐車場というと、帰りに何かお土産を買うことを条件に無料駐車させてくれることが多いですが、ここは特にそのような制限もなかったようです。

鳥取砂丘のＨＰから付近図をお借りしました。

この案内図にある「砂丘会館」の付近が正式な砂丘の入り口のようですが、私たちは道路を渡り、もう少し手前から砂丘に入りました。

ご覧のような通路が何カ所かあるようですが、道路から入ると早速さらさらの砂地を歩くことになります。

前回は兵庫県の“山陰海岸ジオパーク”という道の駅でしたが、この鳥取砂丘もそのジオパークの中の一部であり、“鳥取砂丘エリア”と呼ばれます。

海岸砂丘として日本最大級であり、“山陰海岸国立公園の特別保護地区”、“国の天然記念物”にも指定されています。
この砂地が南北２．４ｋｍ、東西１６ｋｍにもわたって広がっているのです。

砂漠（砂丘）にはやっぱりらくだが似合いますね。
砂丘の端の方では、ご覧のようにらくだ遊覧を子供たちが楽しんでいました。

ちなみに鳥取砂丘には “ファットバイク” という砂地を走れる自転車や、ハンググライダー、サンドボードなどのアクティビティもあります。

正面に見える小高い丘を ”馬の背” と呼び、その先に海岸があります。
手前はすり鉢状になっていて、最深部は 「オアシス」 といい、地下水が湧出していますが、そこ高低差は９０ｍにもなります。

この膨大な砂地は、元々中国山地の花崗岩質の岩盤が風化し、千代川によって日本海に流された後、潮流と内陸に向かって吹く強風によってこの場所に押し戻されて堆積したものです。

十万年に及ぶ歳月が、この大自然の造形美を創り上げたものです。

たくさんの人々が馬の背に上っています。
この砂地の急斜面は、砂に足を取られてすごく上り難いのです。

大自然が創りあげた壮大な砂丘の中で蟻のように見える人々、じっと見てると不思議な感覚に捕らわれるものです。

八上姫伝説！“清流茶屋かわはら”

鳥取砂丘を出て次にやってきたのは
道の駅清流茶屋かわはら　です。

道の駅の所在地は “鳥取市河原町” で、鳥取自動車道の河原ＩＣを下りてすぐのところにあります。
前回来たのは２００９年ですが、その時はまだ鳥取自動車道は工事中で繋がっていませんでした。

前回とても印象が強かった道の駅なので、もう一度立ち寄ってみようと思ったのです。

入口にある看板に、お城の絵が描かれています。
ここには、かつて戦国時代には中国攻めの拠点として羽柴秀吉も陣を築いたことのある “河城原” があります。

そのお城は、この道の駅から見える位置にあります。

道の駅のすぐ裏手は “千代川” が流れていますが、それを挟んだ正面高台に河原城はあります。

現在ここは “お城山展望台河原城” として、１階が町のインフォメーションセンター、２階が手作り文化と自然を学ぶコーナー、３階が伝説と歴史のコーナー、そして４階が町を見下ろす展望台になっています。

ご覧の川が “千代川” で、“清流茶屋” という名前はこれに因んでいます。
千代川は、鮎の里としても知られています。

これが道の駅で、大きな “Ｌ字型” に建物は並んでいますが、大きすぎて１枚の写真には納まりません。
中国地方らしい、赤瓦の屋根が特徴です。

ガラスが反射して見にくいと思いますが、中央に情報コーナーがあり、その右手に “和洋食レストラン”　左手に、“物産館” と、 “ビュッフェレストラン” があります。

これが和洋食レストラン “ごきげん食堂” です。
入ってみたら、順番待ちをしている人たちでぎっしり！

ここでの昼食は諦めました。
そして、情報コーナーに入ってみます。

情報コーナーには、休憩用のテーブルや椅子がたくさんあってかなりの広さです。
この日は日曜日とあって、随分と人が多いです。

最後の写真の左端に、白髪の方が楽器を弾かれているのがおわかりでしょうか？

なんという楽器なのか私は知りませんが、ハワイアン風の音色で昭和歌謡を生演奏されていました。
その音色が私の世代にはとても心に染みました。

１曲ごとに拍手をしたけど、これだけ人がいるのに拍手はまばらで気の毒な気がしました。

情報コーナーの奥が物産館ですが、その入り口付近にはこんなものも！

墨で絵を描く “習画展” です。
定期的にいろんなイベントがあっているようです。

これが物産館の中です。
これだけしか撮れませんでしたが、商品の配置やディスプレイにセンスがあると思いました。

再び外に出ると、この看板が目に入りました。
『因幡の白うさぎと八上姫伝説マップ』 と書かれています。

河原町で忘れてはいけないのが、この “八上姫（やがみひめ）伝説” です。

八上姫はここ河原町の生まれで、他国にまで知られた絶世の美女だったそうです。
多くの神々から求婚されたのをすべて断り、因幡の白うさぎを助けたことで知られる“大国主命（おおくにぬしのみこと）”と結ばれます。

そのことから鳥取県では、平成１７年頃に、『日本でいちばんはじめの恋物語』というキャッチフレーズでポスターを作り、観光ＰＲを展開しました。

鳥取県というのは、『スタバは無いけど、スナバ（砂場）はある』など、キャッチフレーズを作ることが上手ですね！

で、これは“すなば珈琲”かと思ったら、“あなば珈琲”でした。（笑）

ちなみにスターバックスは既に鳥取県に出店していますから、“スナバ、スタバの次は「あなば珈琲」”というのが、このお店のキャッチフレーズだそうです。(＾～＾)

白兎海岸を望む！“神話の里白うさぎ”

次にやってきたのは、因幡の白うさぎの舞台である
道の駅神話の里白うさぎ　です。

ここの所在地は “鳥取市白兎” といいます。

道の駅から国道を挟んだ先が “白兎（はくと）海岸” といい、“因幡の白うさぎ” の神話の中で、だましたワニ（ワニ鮫）から皮をはがれ赤裸にされた白うさぎを、大黒様（大国主命）が助けた場所です。

それがこの像で、道の駅の駐車場への入口に建っています。
もう一つ、この場所に建っているのがこちらです。

先ほどの像のすぐ近くにこの鳥居はありますが、石段を上ったところにあるのが “白兎神社” で、神話に登場する、皮をはがれた白うさぎが真水で体を洗ったとされる “不増不滅の池” もここにあります。

従ってこの神社は皮膚病など医療の神様であり、また大国主命と八上姫の縁を取り持ったことで縁結びの神様とも言われています。

道の駅の２階から国道を跨ぐ陸橋に繋がっており、それを渡ると白兎海岸に出ることができます。

この白兎海岸は、“鳥取砂丘” の最も西の端にもなります。
鳥取砂丘は全長が16ｋｍにもなりますから、こんな遠くまでがその一部になるのですね。

では、道の駅に戻ってみましょう。

これが駐車場付近からの道の駅です。

出雲大社を思わせる建物の造りになっています。

ここは1階が土産物などの店舗で、2階が活き魚料理を味わえる海鮮レストラン “ぎんりん亭” です。
レストランの店内には海水いけすも備わっているそうですが、行ってみると順番待ちをしている方が10名以上並んでおられました。

これは1階にある情報コーナーです。

この道の駅に前回来たのは2009年なのですが、この1階についてはがらりと中身が変わっていました。
以前は１階の大半を活きのいい鮮魚店が占めていたのですが、それは姿を消し、土産や喫茶などいくつものテナントで構成されています。

店舗の中に鳥居があって、そこに祀られているのが “道の駅登録証” でした。（笑）

２階レストランでの食事を諦め、私たちが昼食をとったのは “白うさぎの台所” という食事コーナーです。

私は 「わにラーメン」 というのを食べましたが、ワニが入っていたかどうかは分かりませんでした。(^_^;)

そしてこの店舗は、もうひとつコーヒーショップを兼ねていました。
それがこちらです。

『スタバは無いけどスナバ（砂場）はある』 のセリフで有名になった “すなば珈琲” でした。(^ε^)♪

山陰道のパーキングエリア！“琴の浦”

このシリーズもあと２か所になりましたが、次に向かった場所は

道の駅琴の浦　です。

この道の駅、“鳥取県東伯郡琴浦町” にあり、２０１７年４月にオープンしました。

新しい道の駅を訪問するとき、いつも困るのが “ナビ” にまだ登録がないことです。
今回も同じように、とりあえず住所で設定して向かったのですが、『目的地付近に到着しました！』とナビが教えてくれたのは、普通の住宅地の真ん中でした！(ﾉﾟoﾟ)ﾉｱﾁｬｰ

たまたま外に出ておられたおじさんを見つけて尋ねてみました。
すると　『琴の浦には道の駅が二つあるよ！』　とのこと！

鳥取県には全部で１６か所の道の駅があります。
おじさんが言われたのは、この地図の 「道の駅ポート赤碕」　と　「道の駅琴の浦」　の２か所のことで、どちらも琴浦町にあるのです。

ポート赤碕はたった今、前を通ってきたのですが、時間が足りないので立ち寄らなかったのです。
「新しい方の道の駅です」 というと、「それは山陰道のパーキングエリアだよ」 と言って、実に正確に道順を教えて頂きました。

おじさんに教えられた通り、右折、左折を繰り返すとやがて山陰道に入り、目的地に無事到着しました。
でも、事前に資料をよく見ておけば山陰道のＰＡであることは分かったはずで、猛反省です！

どうやら元々あったＰＡをリニューアルして道の駅になったようで、一般のＰＡと見た目は変わりません。
でも、建物は新しく、なかなか立派です。

正面の大きな建物の他に、もうひとつ、トイレと情報コーナーの建物があります。
それが、こちらです。

ここは観光案内のようになっていて、道の駅登録証やスタンプも置いてありました。
ここはトイレとも繋がっているので、頻繁に人の出入りがあります。

では、メインの建物の方を見てみましょう。

道の駅パンフレットにある配置図がご覧の通りです。

休憩コーナーも広く、土産物の “琴浦うまいもんや” もとても商品が充実しています。
いくつかの買い物をして、３０分ほどの滞在で、本日最後の目的地に向かいました。

夕陽を楽しむ！“キララ多伎”

今回の旅の最終地
道の駅キララ多伎　にやってきました。

ここは中国地方で特に私の好きな道の駅のひとつで、訪れるのは今回が３度目です。

前回の “道の駅琴の浦” からは１０９ｋｍあり、かなりの区間を高速道路で走ったのだけど、それでも１時間３５分ほどかかりました。

この道の駅へ前回来たのは、２年前の２０１６年４月です。
今回、３たびやってきたのは理由があり、それは “夕陽” を見たかったからです。

そこで今回の計画を立てる時、最終日の宿泊をこの道の駅のすぐそばにある「マリンタラソ出雲」とし、丁度夕暮れ時にこの道の駅に到着できるように調整したのです。

到着時間は１７時２０分、この日の日の入りは１８時２６分ですから、１時間ほど余裕があります。
スマホのアプリで日の出や日の入りの時間と方向が瞬時にわかるので便利です。

ここはすぐ裏手が日本海に面しており、“キララビーチ” という美しい海水浴場があります。

前回の記事で、道の駅自体の店舗などについてはご紹介しているので、今回はこのキララビーチを中心とした、外からの写真しか撮っておりません。

道の駅の詳しい内容については前回の記事をご覧ください
→　『中国地方一周の旅：お洒落なリゾート地！“キララ多伎”』

道の駅の裏手にまわり、階段を下りてゆくとキララビーチに出られます。
そこには広大なビーチが広がっており、そこから見上げた道の駅がこの写真です。

キララ多伎はお洒落でメルヘンチックな建物が特徴です。
正面からはなかなか全体を１枚の写真に収めるのは難しかったのですが、こうしてビーチから見上げると全体を写すことができます。

それに夕陽が当たっていますから、くっきりと見えます。
中央のガラス張りの部分が、道の駅のロビーです。

斜め右から写した写真には、２基の風力発電風車が見えますね。

これが道の駅のシンボルでもあり、その風車の付近には、“キララコテージ” といって、ログハウスやコテージ、それにオートキャンプ場などがあります。

私たちがこの日泊まるのはここではなく、反対の方向５００ｍほどにある “マリンタラソ出雲” ですが、すべて同じグループの経営です。

今回の旅では “鳥取砂丘” を始めとしていろんな砂地を見てきました。
ここキララビーチも、風紋がとっても美しく、その上に足跡を残しながら歩くのが快感です。

おそらく近所の方たちでしょうが、砂遊びを楽しむ親子連れや犬の散歩をされるご家族が見られます。

ビーチの全体図がありました。

丁度道の駅の真下にある、幅３００ｍほどが遊泳場所になっていて、その両サイドには大型テントも張れるようになっているようです。

そしてこの日の本来の目的である夕陽です。

これが１７時４０分頃の写真で、まだまだ太陽は高い位置にあります。

これが１７時５０分です。

まだしばらく沈みそうにないので、先にホテルにチェックインし、ホテルの裏の海岸で沈むのを待つことにしました。

ホテルには２～３分で到着です。
そのホテルから、１８時２０分に写した写真がこれ・・・・・・・

ぼんやり・・・・・・・(_ _。)ｶﾞｯｸﾘ!

厚い雲が現れて、このあと、水平線に達する前に太陽の姿は消えてしまいました。（涙）
また出直してこい！　ということでしょう。

この日の夕食はバイキング、そして翌日は和食の朝食が用意されていました。
３日目の最終日は、全行程４３２ｋｍをひたすら帰るだけです。

途中、車のトラブルでＳＡに足止めされたことは、（速報）でお伝えした通りです。
帰宅後ディーラーで調べてもらった結果は、警告灯の表示がおかしかっただけで、どこも異常はありませんでした。(^_^;)

２日目に走ったルート（**google map**　による自動記録）

３日目に走ったルート（**google map**　による自動記録）

奥付

全国の“道の駅”完全制覇の旅　［中国編］

http://p.booklog.jp/book/18609

著者：よしだやすお
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/rs-trip/profile

発行所：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/18609

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/18609